

医 学 科

授 業 要 項

(シラバス)

令和 7 年度



京都府立医科大学
医 学 部 医 学 科

目 次

※令和7年度 医学科学事予定表	3
I はしがき	4
II 履修要項	1 3
III 医学基盤教育要項	1 9
1 医学基盤教育科目の履修（第1学年）	2 0
2 医学基盤教育授業時間割表（第1学年）	3 0
3 医学基盤教育科目の履修（第2学年～第5学年）	3 3
4 医学基盤教育科目の内容紹介	3 4
IV 専門教育要項【第1学年後期～第6学年】	1 6 2
1 専門科目の履修	1 6 3
※令和7年度専門教育授業時間割表（学年別）	1 7 0
2 専門科目の内容紹介	1 8 0
<その他>	
V 学術情報の活用講座	3 4 8

令和7年度医学科学事予定表

[illegible]

(注) 〓 授業期間 〓 補講期間 〓 定期試験等期間 〓 休業期間中の授業等

序文

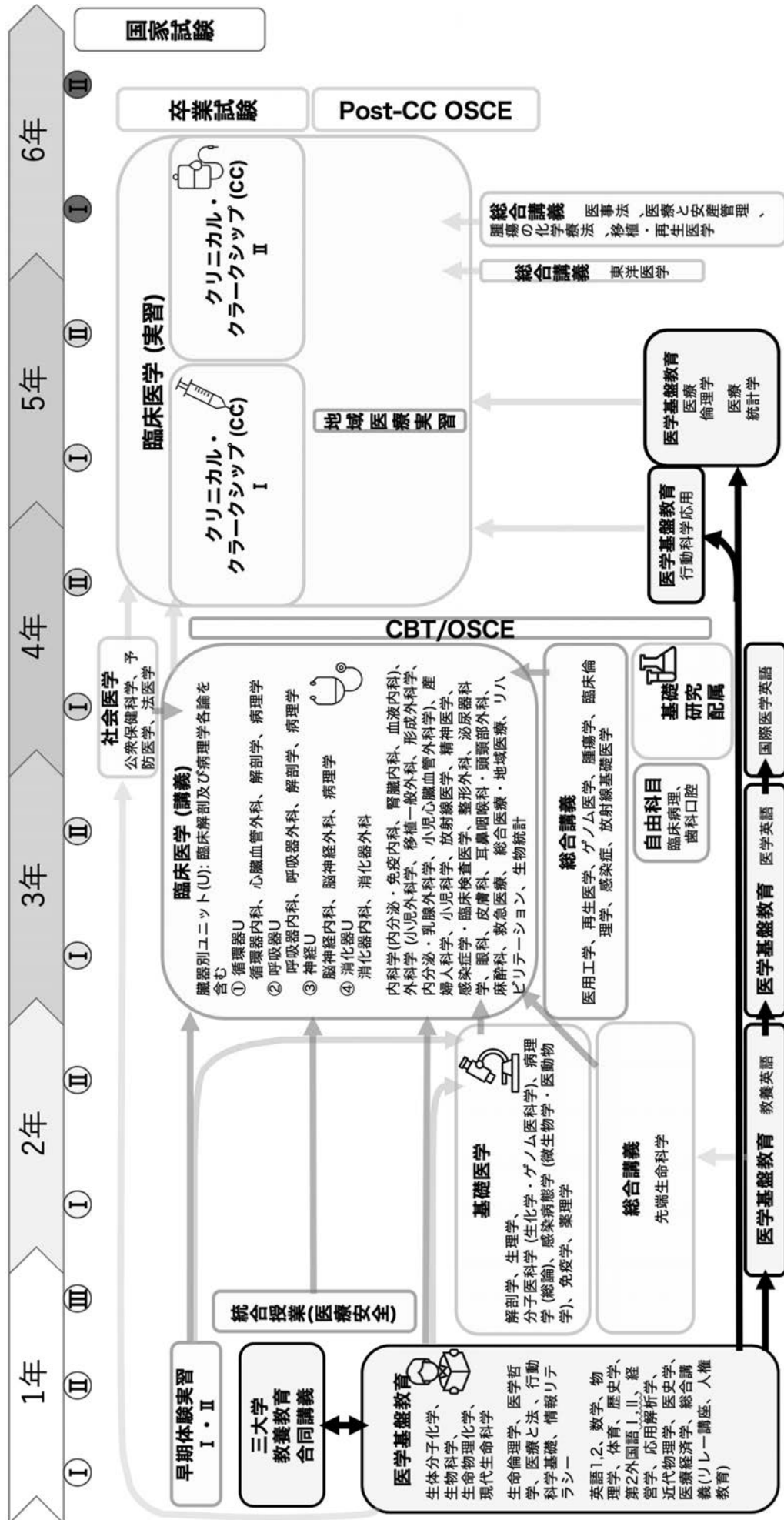
本学は1872年の創立以来、12,000人を超える医師・医学研究者を輩出して医学の進歩に貢献するとともに、「世界トップレベルの医学を地域に」の理念のもとに地域医療と保健を支え続けてきた。学則に明示しているように、この理念に基づき医学および看護学に関する知識および技能を授け、有能な医師、看護師、保健師および助産師となるのに必要な教育を施すことを目的とし、医学及び看護学の深奥を極めることを通じ、学術・文化の進展と人類の福祉とに寄与することを使命としている。2021年に大學昇格100周年を、そして2022年には創立150周年の節目を迎えた。本学は医学教育の方針について3つのポリシー「ディプロマ・ポリシー」「カリキュラム・ポリシー」「アドミSSION・ポリシー」を掲げている。本学の理念と目的・使命を達成するために、教育課程では学生諸君に「医学知識と問題解決能力」を涵養してもらうことは当然のこととして、「診療技能と医の心」、「コミュニケーション能力」、「科学的探究心」、「プロフェッショナルリズム」、「社会における医療の実践」、「国際的視野」、「生涯にわたって学ぶ姿勢」を修得してもらうことを、卒業時の学位授与の要件として策定している。（ディプロマ・ポリシー、p9-p10参照）

この医学科授業要項（シラバス：syllabus）には授業日程とともに、各科目を履修する上で重要となる項目、すなわち「教育の目的と方針」「到達目標」「成績評価方法及び基準」が記載されている。さらに「自ら学ぶ」ための「事前・事後学習」「教科書・参考文献」に加え、教員へのアクセスのための「オフィスアワー」、科目責任者からの「学生へのメッセージ」が記されている。履修前に目を通し、より充実した学修への準備として存分に活用してほしい。

医学科教育課程は医学教育モデル・コア・カリキュラム（最新は令和4年版）と大学の独自プログラムを組み合わせで構成される。本学では「医学教育モデル・コア・カリキュラム」を基盤にして、1年次の「統合授業」、4年次の「研究配属」、5年次の「地域医療実習」をはじめとする特長的な授業シリーズがあり、その一部は本学の歴史や国際交流の背景について学ぶ「KPUM学」としてまとめている（p349参照）。このような教育課程の概要は次ページのカリキュラムマップに示されており、ここではカリキュラムマップの概要を説明することで、シラバス全体の理解の一助にいただくこととする。

なお、本学医学科の教育カリキュラムは日本医学教育評価機構（JACME）による医学教育分野別評価と、大学改革支援・学位授与機構による大学機関別認証評価の両審査共に認証を受けている。

医学部医学科 カリキュラム・ツリー



● 医学基盤教育(教養)と三大学共同教養教育

本学では6年間の医学一貫教育の端緒として、1年次に集中的に医学基盤教育(教養)のカリキュラムをおいている。教養とは、知的に独立した魅力ある人間になるために身に付けなくてはならない素養のことであり、多様な価値観に共感できる人間性は医師・医学者にとって重要な資質である。この教養教育は高学年でも継続され、基盤的教養を身につけ、自分自身の興味や得意科目を伸ばすかたちで磨き続けることが出来る能力を涵養する。

本学では、京都府立大学と京都工芸繊維大学との三大学教養教育共同化の実施によって、各大学における特長ある教養教育科目の授業を選択することができるため、ぜひ受講を勧めたい。専攻科目や学修目標の異なるさまざまな学生たちと交流することも可能であり、このような仕組みを生かして豊かな人間性を築くことができる。

これらの教養に主眼を置いた科目のほか、特に理系科目や語学科目などの医学基盤教育科目は、高学年における専門教育への「医学準備教育」としての役割をも担う。2019年度からは理科系授業に専門課程教員が参加する形で、基礎医学科目のシームレスな導入(垂直統合授業)を図っている。

● 基礎医学・社会医学と研究配属

1年次の2月からは基礎医学科目の授業が始まり、解剖学・生理学・生化学/ゲノム医科学などの科目でヒトの正常機能を学び、引き続き病理学・薬理学・免疫学・感染病態学などを通じて、ヒトの病気のなりたちや病態の制御についての学修へと進む。医学基盤教育からの縦断的プログラムを配置し、基礎医学・社会医学の理解に立脚して臨床医学の学びへと統合的に進める構成である。生命科学の進歩は加速しており学修する事柄は多いが、記憶する・知識量を増やすだけではなく、生命の営みや疾病構造の原理・原則を理解し、そのメカニズムを統合的に把握することが重要である。臨床医学の講義をはさんで4年次には、医療と社会との関係性を学ぶ法医学、保健・予防医学の社会医学を配置し、これらの授業を通じて法律・司法や行政との関わり、公衆衛生学的アプローチについて学ぶ。

4年次の前期には約6週間の基礎・社会医学教室への研究配属の期間を設けている。この期間には基礎・社会医学の教室に所属して実際の実験手技を修得したり、医学研究の進め方を学んだり、さらに教員・研究者の姿に触れる体験を積むことになる。「科学する心(リサーチマインド)」を涵養し、医学が基礎研究によって発展し支えられてきたことを理解してくれるものと期待する。この機会を利用して、学会発表や論文執筆を行い、国内・海外の研究室への留学した学生が多数存在する。(なお、海外の医学部での実習はウイルス感染状況やワクチン接種履歴などによって状況が大きく左右されるため、希望する者は早いうちに教員に相談することが望ましい。)

● 臨床医学・ユニット型授業とCBT/OSCE

3年次から臨床医学の講義が開始され、内科学・外科学に始まり多くの臨床医学科目を履修する。循環器・消化器・神経・呼吸器の4領域については内科と外科を「水平統合」し、さらに病理学を主とする関連科目の授業を「垂直統合」した「ユニット型授業」を開講している。

4年次の前期までに全ての臨床科目を履修して受験資格を得たのち、医療系大学間共用試験実施評価機構が行う全国の統一テストであるCBT(Computer-Based Testing)とOSCE(Objective Structured Clinical Examination)を受験する。これらは2023

年度から公的化され、CBT と臨床実習前 OSCE (Pre-CC OSCE)の両者に合格すると “ 臨床実習生 (医学) Clinical Clerkship Student ”の称号が与えられ、臨床実習への参加が許可される。2023 年度からは医師法改正により学生の医行為が法的に認められ、今後は診療参加型臨床実習がますます充実していくこととなる。臨床実習生 (医学) Clinical Clerkship Student には全国共通の認定証が発行され、病院内では Clinical Clerkship Student を示す青色の名札 (ID) をつけることになっている。臨床実習前には、本学学友会から大学ロゴが刺繍された白衣がご厚意で授与される (白衣授与式を 11 月 25 日 (火)に実施予定)。

- **診療参加型臨床実習 (クリニカルクラークシップ、CC I と CC II)**

4 年次の後半には臨床実習が始まる。2014 年度以降の入学生からは国際認証を受けた 72 週の診療参加型臨床実習であるクリニカル・クラークシップ (Clinical Clerkship; CC) を履修する。前半の CC I では主として大学附属病院内での実習となり、グループ分けの上 36 週をかけて各診療科をローテートする。後半の CC II では学外関係病院や海外協定大学などの学外での実習も含まれる。臨床実習については「臨床実習実施要領」を作成しているので、かならず実習前に熟読しておく。

5 年次においては CCI の修了と進級試験が進級要件の一部となっている。また、CC II の単位を修得後に、共用試験実施評価機構が行う臨床実習後 OSCE (Post-CC OSCE) と卒業試験に合格し、ディプロマポリシーを満たすことが卒業要件になっている。本学の卒業をもって医師国家試験の受験資格が与えられる。

- **地域医療実習**

5 年次の夏季に行われる「地域医療実習」は、京都府北部の中核的医療施設に一週間滞在し、地域で医療実習することに加えて、メディカルスタッフや地域ボランティア・介護に携わる方々、行政の方々と膝を交えて多職種連携を実地に学ぶことを目的としている。医療過疎の現実や地域医療のあり方について、さらに医療実務における多職種連携のあり方などについて実際に体験し思考を深める本学独自の教育課程である。

- **海外臨床実習派遣と国際医学英語**

5 年次または 6 年次には、限られた人数ではあるが、海外でのクリニカル・クラークシップのための派遣を行う。古くからの協定校である米国のオクラホマ大学と英国のリーズ大学にくわえ、2018 年度からは英国 (スコットランド) のエジンバラ大学、2019 年度にはタイのチュラロンコン大学、さらに 2020 年にはシンガポール国立大学とオランダのマーストリヒト大学と協定を結び、この 6 大学に若干名ずつを派遣している。2025 年度からはさらに 3 大学 (ハリム大学、シドニー大学、ロス・アンデス大学) との協定がすすみ、派遣が開始される。これらは各大学で原則 4 週間の臨床実習を行うものであるが、正式な選択教程として単位認定しているものである。修学上必要となるレベルの英語力を、公式の検定を受けたかたちで派遣先大学宛に示すことが要求される。したがって臨床実習派遣を希望する学生は、学内の選考面接試験の前に、TOEFL や IELTS を受験し、それぞれの大学から要求される得点やレベルを得ておく必要がある。2022 年度から 4 年次に開講された国際医学英語では、医療場面での会話に重点をおいた授業が行われ、これらの機会を積極的に活用することが望まれる。

- **学生の評価と卒業までの要件**

ここまで、医学科カリキュラムツリーに沿って、モデル・コア・カリキュラムにおいて基幹となる教育課程及び本学独自の特色ある課程を説明した。基幹の教育課程は、医学基盤教育―基礎・社会医学―臨床医学―臨床実習の積み重ね型であることを十分理解した上で、本学の特色ある教育課程においても、卒業時にディプロマポリシーを満たすよう自ら学修することを願うものである。

学生の評価については、各科目のシラバスに「教育の目的と方針」「到達目標」「成績評価方法及び基準」が記載されている。これに加えて、次ページ以降の「医学科授業科目履修規程」において、定期試験の受験資格、試験成績の評価、進級及び卒業要件などが詳細に記されているので、必ずよく読んで理解しておく。

おわりに

教育カリキュラムの概要を説明した。学生生活についての留意点や災害時の・緊急時の対応等については別途用意した「学生便覧」をあわせて活用して欲しい。「シラバス」と「学生便覧」はホームページから閲覧できる。また、就学上の疑問や相談事があれば遠慮なく、クラス担任などの教員、教育センター、保健管理センター、教育支援課職員あて問い合わせていただきたい。

本シラバスを有効活用し、有意義で実り多い学生生活となることを期待する。

京都府立医科大学医学部医学科ディプロマポリシー（学位授与方針）

本学では、「世界トップレベルの医学を地域へ」の理念に則り、有能な医学者・医師となるために必要な医学に関する基本的知識・技能と医の心とを教授し、医学の深奥を究め科学・文化の発展と人類の福祉に寄与する医療人を育成することを教育理念として実践している。

医学科では、当該理念を熟知し、所定の年限に必要な単位を修得した上で、次の学修要件を満たした者に対して学士（医学）の学位を授与する。

1 医学知識と問題対応能力

基本的な医学の知識を習得するとともに、常に問題意識をもって医学を探究する姿勢を有し、症候・疾患・病態を深く理解し幅広く対応できる能力を身につけていること。

2 診療技能と医の心

基本的な臨床技能を習得するとともに、患者の肉体的な痛みや心の状態に配慮しながら、適切な態度で診療できる能力を身につけていること。さらに地域保健・医療の重要性と地域医療におけるチーム医療の実践を理解し、多職種間連携を通して医療人としての高い意識・使命感を持っていること。

3 コミュニケーション能力

患者と医師とがお互いに理解し合い問題を共有しながら解決することを目指し、医療内容を分かりやすく説明するなど、患者とその家族との良好な関係を築くことができるコミュニケーション能力を身につけていること。

4 科学的探究心

医学・医療を科学的にとらえることができ、その問題点を見出し解決するための研究の重要性を十分に理解するとともに、将来的に研究倫理をふまえ世界的視野に立った研究を遂行する素養と高い意欲を有していること。

5 プロフェッショナリズム

生命及び人間の尊厳を重んじ、豊かな人間性と創造性を培いながら、人の命に深く関わり健康を守るという医師・医学者の職責を十分に自覚し、信頼される安全な医療を実践できる高い倫理観と問題解決能力を有し、チームの中での役割を見出し医療に取り組める能力を身につけていること。

6 社会における医療の実践

地域社会はもとより、日本の医療のあり方や現状・課題を理解するとともに、これらを

実践するための基礎的素養を身につけていること。

7 国際的視野

国際社会における医療・健康についてその現状や課題を理解し、将来的に世界的な視野で医学・医療を実践できる能力を身につけていること。

8 生涯にわたって学ぶ姿勢

医療の質の向上と医学の進歩のために絶えず省察し、他の医師・医療者・研究者とともに研鑽しながら、生涯にわたって向上を続ける意欲と態度を有していること。

京都府立医科大学医学部医学科カリキュラムポリシー (教育課程の編成・実施方針)

本学では「世界トップレベルの医学を地域へ」の理念に則り、有能な医学者・医師となるために必要な医学に関する基本的知識・技能と医の心とを教授し、医学の深奥を究め人類の福祉に寄与する医療人を育成することを教育理念として、これを実現するために次のとおりカリキュラムを策定する。

1 医学知識の教授と問題対応能力の育成

基礎医学では生命現象と人体の構造・機能、疾患の成り立ちや薬物療法の基礎を修得させるために系統講義を行い、さらに自ら学ぶ中で課題を探索し解決する能力を育むために演習や実習を行う。臨床医学では症候・疾患・病態を修得させるために、修得した基礎医学に立脚した系統講義や演習を行い、さらに臨床的課題に適切に対応し根拠に基づいた医療を実践する能力を育成するために、診療参加型臨床実習を行う。

2 診療技能と医の心の育成

患者の肉体的な痛みや心の状態に配慮した対応能力を身につけさせるために、総合診療学などのプライマリケア教育を実施する。

3 コミュニケーション能力の育成

患者とその家族はもとより、チーム医療従事者との良好な信頼関係を築く上で不可欠なコミュニケーション能力を身につけさせるために、医学概論や人権教育などの講義を行い、さらにロールプレイなどによるグループ学習や臨床実習を取り入れる。

4 科学的探究心の育成

医学・医療に問題意識を持って向き合い、その課題を科学的に解決する上で必要な実験的研究や調査研究の重要性を認識させ、高い倫理観をもった研究マインドを涵養するために、基礎・社会医学教室への研究配属等を実施する。

5 プロフェッショナリズムの育成

幅広い教養や豊かな人間性を養うために、人文社会科学や自然科学等を履修させるとともに、学生の多様な学習意欲に応えるべく京都三大学教養教育共同化科目の受講を推進するなど充実した教養教育を実施する。また、自ら課題を探究し解決する能力や、高い倫理観を持ち安全で信頼される医療を実践する能力を育成するために、課題発見型教育や医療倫理教育を充実させるとともに、グループ学習等を用いたアクティブ・ラーニングによる学修を実施する。

6 社会における医療の実践

地域の保健・医療の重要性や日本及び世界の医学・医療の現状や課題を理解させ、チーム医療に貢献できる高い素養を持つ人材を育成するために、社会医学の系統講義を行う。さらに、学習した社会医学の知識を基盤とし、地域保健実習や京都府北部地域での臨床実習を含む重層的な実地教育を通して現代の医療の課題を体験・理解させる。

7 国際的視野の涵養

国際的な視野で医学・医療を実践できる能力を身につけられるよう、低学年から高学年次にわたる継続的な英語教育を実施する。また、国際社会における医学・医療の現状を理解させるために、交換留学等の国際交流を積極的に推進する。

8 生涯にわたって共に学ぶ姿勢の涵養

医師・医学者に必要な知識・技能を生涯にわたって修得し続ける向上心や科学する心・所作を身につけさせるため、医学基盤教育分野と専門医学分野の枠を超えた横断的な総合講義・実習を行うとともに、学年縦断的な講義・実習も実施する。

9 成績評価

各科目において掲げられた到達目標と成績評価基準に従って、公正で透明性の高い成績評価を行うとともに、修学成果を組織的に評価することにより教育の質保証に向けた取り組みを行う。

Ⅱ 履 修 要 項

1 授業の期間

年間の授業は、原則として、下記の期間に行われる。

前期：4月1日～9月30日 後期：10月1日～翌年3月31日

2 授業時間

授業時間は、次のとおりとする。

1 時限	8 時 5 0 分～1 0 時 2 0 分	2 時限	1 0 時 3 0 分～1 2 時
3 時限	1 2 時 5 0 分～1 4 時 2 0 分	4 時限	1 4 時 3 0 分～1 6 時
5 時限	1 6 時 1 0 分～1 7 時 4 0 分		

但し、ユニット講義等については60分授業とし、開始・終了時間が異なる場合がある。

(変更の可能性あり)

3 授業の出席・欠席等について

授業に出席することは学生の本分であり、全出席を原則とする。学則第42条に規定されている通り、出席不良者は、注意、指導の後、改善されない場合は、訓告、停学又は退学のいずれかの処分の対象になる可能性がある。

履修規程第8条（p351ページ）に定めているように

- ・講義の場合には、原則、講義時間数の60%以上出席しなければ、
- ・実習の場合には、原則、全てに出席しなければ、当該授業科目について試験を受けることができない。

なお、講義における「60%以上出席」の趣旨は、例えば傷病によりやむを得ず欠席した場合等を考慮し、定期試験を受けることができる下限を定めているものである。

ただし、実習については、以下に該当する場合は欠席届の提出をもって出席と認める場合があるので、欠席の事由を客観的に証明し得る書類等を添付して、各科目の担当教員が指定した日までに、教育支援課（1年生は下鴨事務室）に届け出ること。

- ・学校保健安全法施行規則第18条に規定する感染症に罹患したことにより出席停止措置を受けた場合、又は、保健管理センター長が学生の出席停止措置が必要と認めた場合
- ・2親等以内の親族の忌引き
- ・自然災害や事故により交通機関が運休し、通学が著しく困難であると認められる場合
- ・居住区に気象警報が発令されるなどし、危険を伴い通学が困難な場合
- ・学生が裁判員制度による裁判員又は裁判員候補者に選任された場合
- ・その他授業を欠席することをやむを得ないと学長が認めた場合

4 修業年限

本学に6年以上在学し、所定の単位を修得して卒業の要件を満たした学生には学士（医学）の学位が与えられる。

5 在学期間

在学期間は10年を超えることはできない。ただし、各学年について、それぞれ3年を超えることができない。

6 選択科目及び自由科目履修の届出

選択科目及び自由科目については、それぞれ履修しようとする授業科目を届け出なければならない。履修届提出後に授業科目の変更又は取り消しをしたい場合には、授業担当者の許可を受けなければならない。

7 定期健康診断の受診及び予防接種

各学年のはじめに行う定期健康診断を受診しなければ、その年の各実習を受けることがで

きない。また、麻疹、水痘、流行性耳下腺炎、風疹、B型肝炎の各ウイルスに対して抗体陽性、又はワクチン接種を受けていなければ、各実習に参加できない。新型コロナワクチン及びインフルエンザワクチン接種を受けていなければ、臨床実習に参加できない場合もある。

8 試験の種類

試験には、定期試験、追試験及び再試験があり、定期試験を受けられなかった者に行う試験を追試験、定期試験に不合格となった者に行う試験を再試験とし、それぞれ筆答及び口答又はそのいずれかで行う。なお、他に授業科目担当者が中間試験を行うことがある。

また、総合講義等の科目で定期試験を実施しない科目については、授業ごとの小テスト等をもって試験とすることがある。

9 試験成績の評価

成績は、以下の表に示す評価の基準により認定し、優、良、可又は不可をもって表示する。

評点	評語	認定	評価の基準
80 点以上	優	合格	<u>優れている。学修した事象や事柄のかなりについて理解し、十分かつ必要な知識を持ち、概念や方法を適切に使って課題を遂行できる。その理解を適切に類似または発展した事象に応用する力がある。</u>
70 点以上	良		<u>良好である。学修した事象や事柄を十分理解し、問題・題材を扱うことができる。</u>
60 点以上	可		<u>最低限の基準に達している。学修した事象や事柄をかなり限定的に理解し、問題を基本的なレベルで扱うことはできるが、より高度な学修へと進むには更に努力が必要である。</u>
59 点以下	不可	不合格	<u>最低限の基準に達していない。学修した事象や事柄の理解が不足している。</u>

10 成績に対する不服申立てについて

成績評価の客観性、厳格性を確保するため、平成30年度から成績に対する不服申立て制度を導入した。自身の成績評価（優・良・可・不可）に疑義があるときは、成績に対する確認・開示を請求（原則として成績開示日から7日以内）することができ、その確認結果に不服があるときは不服申立てをすることができる。

11 試験欠席の手続

- (1) 試験に欠席する学生は、試験欠席願に病気による場合は診断書を、やむを得ないと認められる事故による場合は理由書を添えて学長に願い出て、その許可を受けなければならない。
- (2) 試験欠席願は、原則として当該授業科目の試験日の前日までに提出するものとし、やむを得ない理由により前日までに提出することができない場合は試験日以後一週間以内に提出しなければならない。

12 試験等での不正行為

- (1) 試験中に不正行為を行った者に対しては、京都府立医科大学医学部医学科授業科目履修規程第13条の規定により、当該学年におけるすべての試験を無効とし、受験資格を停止するとともに、当該不正行為を行った学年にとどめるものとする。
- (2) 当該不正行為を行った者は、当該不正行為を行った年度の翌年度、無効とされた試験及び受験資格が停止された試験の定期試験を再び受験しなければならない。
- (3) 授業中に課される小テストやレポート課題等においても、不正行為を行わないことが当然に求められる。授業中に課される小テストやレポート課題等でも不適切な行為があれ

ば、厳格に対処する。

(4) 不正行為の例

ア 定期試験等における不正行為には、以下のようなものがある。

- 1) カンニング（持ちこみを許可されたもの以外を使用すること、他の受験者の答案等を見ること、他の者から答えを教わることなど）をすること。
- 2) 試験時間中に、答えを教えるなど他の者を利するような行為をすること。
- 3) 受験者以外の者が受験者本人になりすまして試験を受けること。
また、試験場における以下のような行為は、不正行為とみなされることがある。
- 4) 答案用紙を試験場外に持ち出すこと。
- 5) 試験場において他の受験者の迷惑となる行為をすること。
- 6) 試験場において試験監督者等の指示に従わないこと。
- 7) その他、試験の公平性を損ない、試験の適正な実施を妨げる行為をすること。
- 8) 答案に解答とは無関係な事柄を書くこと。

イ レポート試験で不正行為とみなされる行為には以下のようなものがある。

- 1) 他人の文章や着想などをあたかも自分のものであるかのように用いた場合、このような行為は剽窃という社会的倫理に違反する行為である。
- 2) 他人の著作物を引用する際に、引用箇所を明示しない、出典を記載しないなど引用が不適切に行われた場合。1) の剽窃と重なる面もあるが、不適切な引用はそれ自体が著作権法に違反する行為となる。
- 3) 自分が作成したレポートを、流用されると知りながら他の人に見せ、それが他の人によって流用された場合（レポートを見せた者および流用した者の双方とも不正行為として取り扱われる）。
- 4) 他人のレポートを代筆すること（代筆を依頼した者および代筆した者の双方とも不正行為として取り扱われる）。
- 5) 特に指示がないにもかかわらず、共同でレポート作成し、そのレポートが酷似していた場合（学生同士で授業で学んだ内容について意見交換をすることは良いが、担当教員による明確な指示がない場合は各自でレポートの作成を行うこと）。
- 6) 担当教員の指示に意図的に従わない行為。
- 7) 課題とは無関係な事柄を書くこと。
- 8) 過去に提出したレポートを、そのことを明示することなく意図的に他の科目においても提出すること。

13 試験受験上の注意

- (1) 試験開始後30分を越えて遅刻した場合は、その試験を受験できない。
- (2) 試験開始後30分を経過しなければ、退出を許可しない。
- (3) 携帯電話、スマートフォン等の電子機器類を使用した場合、又は身につけていたり、手元にあった場合は不正行為となるので、必ず電源を切り鞆等にしまうこと。

14 交通機関の運行停止又は暴風等に伴う授業の休講について

- (1) 京都市市営交通（バス、地下鉄）、ＪＲ西日本（京都駅発着の在来線）、阪急電鉄（大阪梅田－京都河原町間）、京阪電鉄（淀屋橋又は中之島－出町柳間）、近鉄（西大寺－京都間）のうち、2以上の交通機関が停止している場合は、
ア 午前7時までに運行を開始したときは、平常どおり授業を行う。
イ 午前7時現在で停止しているときは、午前の授業を休講とする。
ウ 午前10時までに運行を開始したときは、午後の授業を行う。
エ 午前10時を過ぎても停止しているときは、午後の授業も休講とする。
- (2) 京都市又は京都市を含む地域に気象等に関する特別警報又は暴風警報が発令中は、休講

とする。

ア 午前7時までに解除されたときは、平常どおり授業を行う。

イ 午前7時現在で発令されているときは、午前の授業を休講とする。

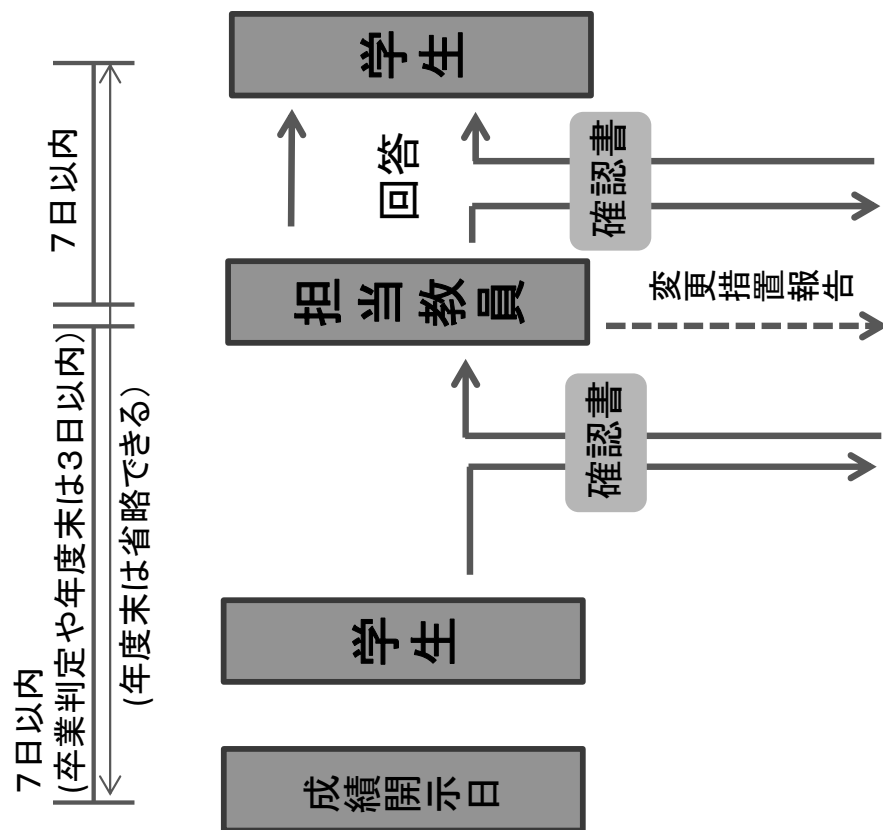
ウ 午前10時までに解除されたときは、午後の授業を行う。

エ 午前10時現在で発令されているときは、午後の授業も休講とする。

(3) 授業には、講義、実習及び試験を含むものとする。

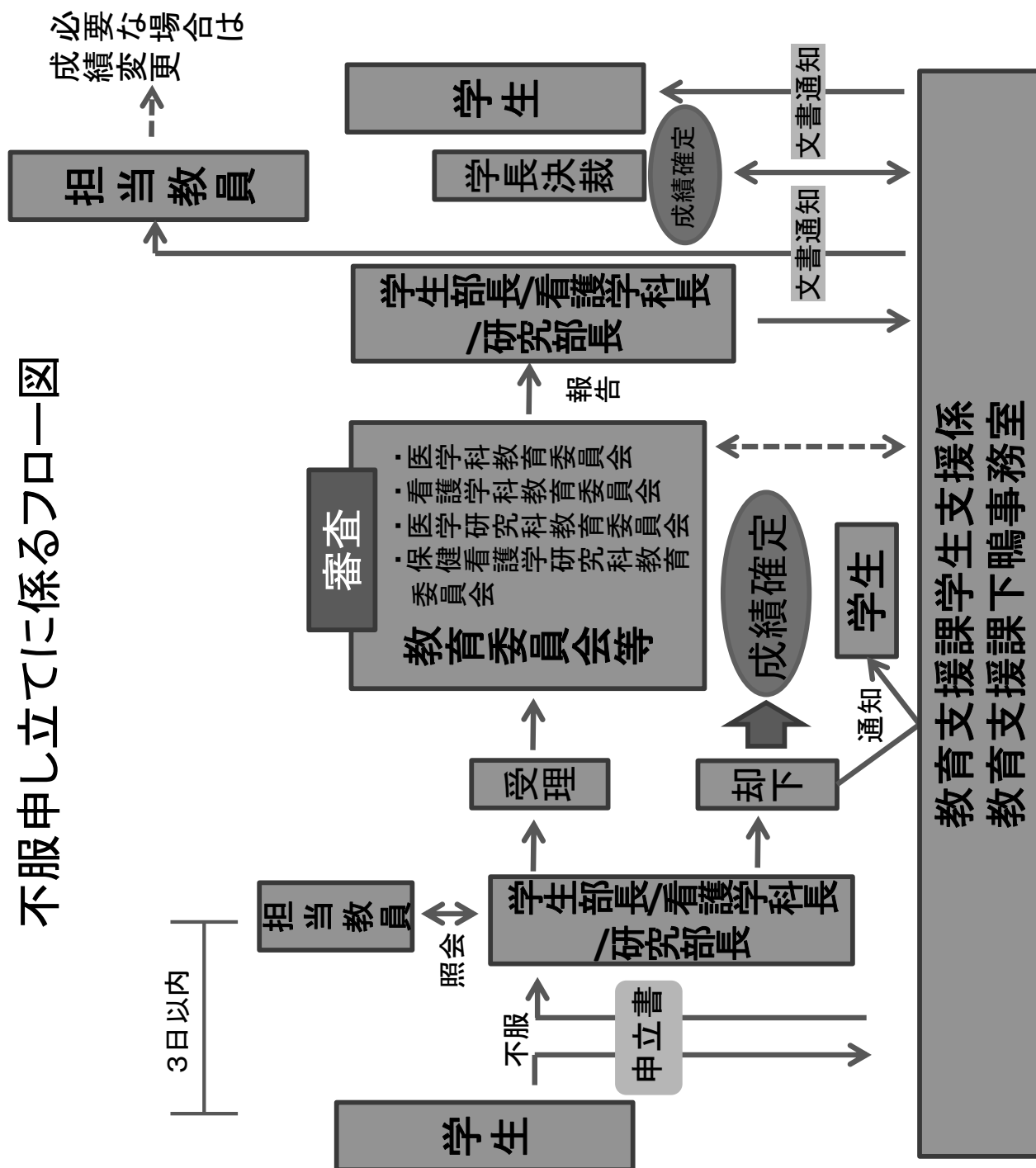
※ なお、三大学教養教育共同化に伴う共同化科目については、共同化に伴う申し合わせによるものとする。(p28 ページ参照)

成績確認に係るフロー図



教育支援課学生支援係
教育支援課下鴨事務室

不服申し立てに係るフロー図



IV 医学基盤教育要項

1	医学基盤教育科目の履修（第1学年）	-----	2 0
2	医学基盤教育 授業時間割表（第1学年）	-----	3 0
3	医学基盤教育科目の履修（第2学年～第5学年）	-----	3 3
4	医学基盤教育科目の内容紹介	-----	3 4
	人文科学		
	生命倫理学	-----	3 4
	医学哲学	-----	3 8
	行動科学基礎	-----	4 1
	認知心理学（三大学共同化科目）	-----	4 4
	医療人類学（三大学共同化科目）	-----	4 6
	現代正義論（三大学共同化科目）	-----	4 8
	行動科学応用【第4学年】	-----	5 1
	医療倫理学【第5学年】	-----	5 4
	社会科学		
	医史学	-----	5 8
	医療経済学	-----	6 0
	経営学	-----	6 3
	医療と法	-----	6 5
	医療と社会（三大学共同化科目）	-----	6 7
	現代医療の人間観（三大学共同化科目）	-----	6 9
	自然科学		
	数学	-----	7 2
	応用解析学	-----	7 4
	情報リテラシー	-----	7 6
	物理学	-----	7 8
	近代物理学	-----	8 0
	物理学実習	-----	8 2
	生体分子化学	-----	8 4
	生命物理化学	-----	8 7
	化学実習	-----	8 9
	生物科学	-----	9 2
	現代生命科学	-----	9 5
	生物学実習	-----	9 7
	医学概論Ⅰ・Ⅱ（三大学共同化科目）	-----	9 9
	医療統計学【第5学年】	-----	1 0 3
	外国語		
	第1外国語		
	英語1	-----	1 0 6
	英語2	-----	1 1 0
	教養英語（Advanced Presentation & Academic Writing）【第2学年】	-----	1 1 5
	医学英語（Basic Medical English）【第3学年】	-----	1 2 1
	第2外国語		
	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ	-----	1 2 5
	フランス語Ⅰ・Ⅱ	-----	1 2 9
	スペイン語Ⅰ・Ⅱ	-----	1 3 3
	中国語Ⅰ・Ⅱ	-----	1 3 7
	朝鮮韓国語Ⅰ・Ⅱ	-----	1 4 1
	ラテン語（三大学共同化科目）	-----	1 4 5
	その他		
	体育	-----	1 4 7
	総合講義（リレー講座、人権教育）	-----	1 5 1
	総合講義（早期体験実習Ⅰ）	-----	1 5 6
	総合講義（早期体験実習Ⅱ）	-----	1 5 8
	総合講義（統合授業）	-----	1 6 0

1 医学基盤教育科目の履修（第1学年）

1 科目及び履修条件

医学基盤教育の科目及び履修条件は、別表Ⅰ「医学基盤教育授業科目一覧表」のとおりである。

同表に掲げる必要最低単位数（35.4単位）を修得すれば、第2学年へ進級できる。

ただし、最小限の単位修得に甘んじることなく、三大学共同化科目を含めてできるだけ多くの授業科目を履修することが望ましい。

別表Ⅰについて、主な注意点を以下に掲げる。

（1）第1学年で受講すべき授業科目を記載している。

（2）必修と記載された科目は、必ず受講し単位を修得すること。

（3）人文科学及び社会科学区分では、必修科目以外の科目で2.6単位以上修得しなければならない。なお、三大学共同化科目の「共同化科目一覧」別表Ⅲ（人間と文化）及び別表Ⅳ（人間と社会）の科目との合算で合計2.6単位以上でもよい。

（4）第2外国語は2.6単位以上修得しなければならない。また、入学当初にドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、朝鮮韓国語のいずれを受講するかを決めなければならない。ただし、前期と後期で同じ語学のⅠとⅡを受講する。

なお、前期で単位を修得できなかった場合は、後期はラテン語（三大学共同化科目）と修得できなかった語学科目のⅡを受講すること。

（5）第1学年修了には、区分別に定める必要単位数合計33.4単位に加え、別途「共同化科目一覧（別表Ⅲ～Ⅴ）」の科目から2単位以上修得して全体で35.4単位以上修得しなければならない。

2 定期試験及び追再試験

（1）学生は、当該授業科目の講義時間数の60%以上出席しなければ試験を受けることができない。なお、欠席は傷病等によりやむを得ず欠席した場合なども含まれるので注意を要する。

実習（演習、体育を含む。以下同じ）については全て出席しなければ試験を受けることや単位を修得することができない。ただし、実習については病気や忌引き等のやむをえない理由があると認められる場合には欠席届をもって出席と認める場合がある。

（2）定期試験は、別表Ⅱに掲げる試験実施日程で行う。追再試験も特別の事情がある場合を除き、別表Ⅱに定める追再試験実施日程で行う。7月に行われる中間試験以外にも、教科によりその他の中間試験は随時行われる。

3 進級の条件

第1学年末までに医学基盤教育科目の必要最低単位数（35.4単位）を修得できないと第2学年へ進級できない。第1学年にとどまった学生は、必修科目については単位修得を認められなかった授業科目を再履修しなければならない。ただし、人文科学、社会科学、自然科学及び第2外国語の選択必修科目並びに自由選択科目については、進級条件を満たせば、別の科目へ変更することも可とする。

4 三大学教養教育共同化について

平成26年度より、京都府立医科大学、京都府立大学、京都工芸繊維大学は、以下のとおり

医学基盤教育の一部の科目の共同化を行った。

- (1) 第1学年の共同化科目の授業は、月曜日午後の3、4、5時限目に行う。授業科目は、「科目一覧(別表Ⅲ～Ⅴ)」に示しており、「時間割表」にしたがって行われる。これらから選んで受講する。
- (2) 各科目は半期ごと(前期、後期)であり、とくに指示のない限り原則各科目2単位とする。
- (3) これらの科目を修得した単位は、原則として卒業及び2学年への進級要件の単位として認められる。
- (4) 講義は、京都府立大学キャンパス内にある三大学教養教育共同化施設(稲盛記念会館)の共同化講義室で行う。
- (5) 共同化科目は「履修について」に従うため、授業の開始、終了、振替日、試験日程、休講の取扱基準は、本学独自の講義のそれらとは異なることがあるので注意すること。

別表 I

医学基盤教育授業科目一覧表

区分	授業科目	授業期間	必修・ 選択の別	授業回数		単位数	必要単位数		
				週	計		区分別	全体	
人文科学	生命倫理学	前期	必修	1	11	1.4	1.4単位	35.4単位 以上 (注8)	
	行動科学基礎	後期	必修	1	10	1.3	1.3単位		
	医学哲学	前期	必修	1	10	1.3	1.3単位		
	認知心理学(三大学共同化科目)	前期	選択	1	15	2	2.6単位 以上 (注4)		
	医療人類学(三大学共同化科目)	前期	選択	1	15	2			
	現代正義論(三大学共同化科目)	後期	選択	1	15	2			
	共同化科目一覧の別表Ⅲ(人間と文化)から選択<科目によって、授業期間、授業回数、単位数が異なるので注意>								
社会科学	医史学	前期	選択	1	10	1.3	2.6単位 以上 (注4)		
	医療経済学	前期	選択	1	10	1.3			
	経営学	前期	選択	1	10	1.3			
	医療と法	前期	選択	1	10	1.3			
	医療と社会(三大学共同化科目)	前期	選択	1	15	2			
	現代医療の人間観(三大学共同化科目)	後期	選択	1	15	2			
	共同化科目一覧の別表Ⅳ(人間と社会)から選択<科目によって、授業期間、授業回数、単位数が異なるので注意>								
自然科学	数学	通年	必修	1	17	2.2	14.7単位 以上	35.4単位 以上 (注8)	
	物理学	通年	必修	1	16	2.1			
	生体分子化学	通年	必修	1	17	2.2			
	生物科学	通年	必修	1	17	2.2			
	実習	物理学実習	前期	必修	2	5			1.8 (注2)
		化学実習	前期	必修		5			
		生物学実習	前期	必修		5			
	情報リテラシー	前期	必修	1	4	0.5			
	生命物理化学	前期	必修	1	9	1.2			
	現代生命科学	後期	必修	1	9	1.2			
	応用解析学	後期	選択必修	2	10	1.3	いずれか 1.3単位		
	近代物理学	後期		2	10	1.3			
	医学概論Ⅰ(三大学共同化科目)(注6)	後期(3Q)	選択	1	8	1			
医学概論Ⅱ(三大学共同化科目)(注6)	後期(4Q)	選択	1	8	1				
共同化科目一覧の別表Ⅴ(人間と自然)から選択<科目によって、授業期間、授業回数、単位数が異なるので注意>									
外国語	第1 外国語	英語 1	通年	必修	1	20	2.6	5.2単位	
	英語 2	通年	必修	1	20	2.6			
	第2 外国語	ドイツ語Ⅰ	前期	選択必修 (注1)	1	10	1.3	2.6単位 以上 (注5)	
		ドイツ語Ⅱ	後期		1	10	1.3		
		フランス語Ⅰ	前期		1	10	1.3		
		フランス語Ⅱ	後期		1	10	1.3		
		スペイン語Ⅰ	前期		1	10	1.3		
		スペイン語Ⅱ	後期		1	10	1.3		
		中国語Ⅰ	前期		1	10	1.3		
		中国語Ⅱ	後期		1	10	1.3		
		朝鮮韓国語Ⅰ	前期		1	10	1.3		
		朝鮮韓国語Ⅱ	後期		1	10	1.3		
		ラテン語(三大学共同化科目)	後期		1	15	2		
その他	体育	通年	必修	1	20	1.3	1.3単位		
	総合講義(早期体験実習Ⅰ)	通年	必修	1	4	2.7 (注3)	2.7単位		
	総合講義(早期体験実習Ⅱ)	通年	必修	1	5				
	総合講義(統合授業)	通年	必修	1	4				
	総合講義(リレー講座)	通年	必修	1	17				
	総合講義(人権教育)	通年	必修	1	3	0.3(注3)	0.3単位		
小 計							33.4単位 以上 (注7)		

- (注1) I と II は同一言語を履修する。
- (注2) 3科目とも単位認定されて1.8単位修得とする。ただし、単位認定は各実習毎に行う。したがって、出席数も各実習毎にカウントする。
再履修は、単位認定されなかった実習科目のみ行う。
- (注3) 評価及び単位認定は4科目合計で行う。再履修は実習を除く。人権教育は別途評価及び単位認定するので留意すること。
- (注4) 共同化科目一覧の別表Ⅲ（人間と文化）群及び別表Ⅳ（人間と社会）群の科目との合算で合計2.6単位以上でもよい。
- (注5) ラテン語はIに相当し、他の言語Iを修得できなかった場合のみ、その言語Iと読み替える。
- (注6) 三大学共同化科目のクォータ制科目として、後期3クォーター(3Q)、4クォーター(4Q)に開講する。
- (注7、8) 第1学年修了には、区分別に定める必要単位数合計33.4単位に加え、別途共同化科目を2単位以上修得して全体で35.4単位以上修得しなければならない。

試験日程（医学科 第1学年）

【前期】

月日	試験		科 目	授業	
	曜日	時限		曜日	時限
7月7日	月	2	英語2（A組）	月	2
7月9日	水	2	ドイツ語Ⅰ	水	2
			フランス語Ⅰ		
			スペイン語Ⅰ		
			中国語Ⅰ		
			朝鮮韓国語Ⅰ		
		3	医史学	水	1
		4	生体分子化学	木	2
7月10日	木	3	英語1	木	3
		4	体育		4
7月11日	金	2	医療経済学 経営学	金	1
		3	物理学		3
		4	生命物理化学	木	1
7月15日	火	2	数学	火	2
		3	医学哲学	火	1
		4	生命倫理学	月	1
7月17日	木	3	生物科学	金	2
		4	医療と法	水	1

追・再試験日程【前期】

月日	試験		科 目	授業	
	曜日	時限		曜日	時限
7月30日	水	2	ドイツ語Ⅰ	水	2
			フランス語Ⅰ		
			スペイン語Ⅰ		
			中国語Ⅰ		
			朝鮮韓国語Ⅰ		
		3	医史学	水	1
		3	生命物理化学	木	1

9月2日	火	3	医学哲学	火	1
		4	生命倫理学	月	1

<注>

医療と法は再試験はレポート（追試験は別途調整）

医療経済学は追再試験はレポート

経営学は追再試験はレポート

【後期・理系】

月日	試験		科 目	授業	
	曜日	時限		曜日	時限
11月25日	火	3	数学	火	2
		4	現代生命科学		3
11月26日	水	3	応用解析学	水	3
			近代物理学		
		4	生体分子化学	木	2
12月10日	水	3	生物科学	金	2
12月12日	金	3	物理学	金	3

【後期・人文社会／外国語】

月日	試験		科 目	授業	
	曜日	時限		曜日	時限
12月15日	月	2	英語2（B組）	月	2
12月17日	水	2	ドイツ語Ⅱ	水	2
			フランス語Ⅱ		
			スペイン語Ⅱ		
			中国語Ⅱ		
			朝鮮韓国語Ⅱ		
12月18日	木	3	英語1	木	3
		4	体育		4
12月19日	金	3	行動科学基礎	金	1

追・再試験日程【学年末】

月日	試験		科 目	授業	
	曜日	時限		曜日	時限
1月15日	木	3	生物科学	金	2
1月16日	金	3	生体分子化学	木	2
		4	数学	火	2
1月19日	月	2	英語2（B組）	月	2
		3			3
		4	（参考：共同化科目「講義」）		4
		5			5
1月20日	火	3	行動科学基礎	金	1
		4	現代生命科学	火	3
1月21日	水	2	ドイツ語Ⅱ	水	2
			フランス語Ⅱ		
			スペイン語Ⅱ		
			中国語Ⅱ		
			朝鮮韓国語Ⅱ		
		3	応用解析学 近代物理学		3
1月22日	木	3	英語1	木	3
		4	体育		4
		5	物理学	金	3

共同化科目一覧（別表Ⅲ～Ⅴ）

別表Ⅲ（人間と文化）

授業科目	授業期間	必修・選択 の別	授業回数		単位数	担当教員
			週	計		
比較宗教学	前期	選択	1	15	2	工・樽田
アジアの歴史と文化	前期		1	15	2	府・井上
西洋文学論	前期		1	15	2	工・山下大
美と芸術	前期		1	15	2	工・船木
日本近代精神史	前期		1	15	2	工・藤田
医療人類学	前期		1	15	2	医・竹田
認知心理学	前期		1	15	2	医・村上
京都の歴史Ⅰ	前期		1	15	2	府・横内 ほか
京都の文学Ⅰ	前期		1	15	2	府・大塚
現代イスラーム世界の文化と社会(リベラルアーツ・ゼミナール)	集中・夏		－	8	1	機・黒田
感性の実践哲学(リベラルアーツ・ゼミナール)	集中・夏		－	8	1	機・桑子
資料で京都（リベラルアーツ・ゼミナール）	集中・夏		－	8	1	機・藤本 ほか
哲学	後期		1	15	2	工・藤田
宗教と文化	後期		1	15	2	医・竹貫
日本史	後期		1	15	2	工・浅井
東西文化交流史	後期		1	15	2	工・旗手
ヨーロッパの歴史と文化	後期		1	15	2	府・阿部 ほか
科学技術の人間学	後期		1	15	2	工・秋富
ラテン語	後期		1	15	2	医・松本
西洋文化論	後期		1	15	2	工・山下太
日本近現代文学	後期		1	15	2	工・高木
京都の歴史Ⅱ	後期		1	15	2	府・藤本 ほか
京都の文学Ⅱ	後期		1	15	2	府・本井
京の意匠	後期		1	15	2	工・山本 ほか
京都の文化と文化財	後期		1	15	2	機・宗田 ほか
現代正義論(リベラルアーツ・ゼミナール)	後期		1	15	2	医・瀬戸山 ほか

別表Ⅳ（人間と社会）

授業科目	授業期間	必修・選択 の別	授業回数		単位数	担当教員
			週	計		
社会学Ⅰ	前期	選択	1	15	2	府・田島
国際政治	前期		1	15	2	府・宮脇 ほか
医療と社会	前期		1	15	2	医・笠井
法学	前期		1	15	2	工・上本
こころの科学	前期		1	15	2	工・西崎 ほか
現代社会とジェンダー	前期		1	15	2	府・瀧本 ほか
現代教育論	前期		1	15	2	工・末岡
食ブランディング論	前期		1	15	2	府・平本
京の産業技術史	前期		1	15	2	工・畑
現代京都論	前期		1	15	2	府・大島
京都学講座（人間と社会）	前期		1	15	2	機・小沢 ほか
現代社会に学ぶ問う力・書く力(リベラルアーツ・ゼミナール)	前期		1	15	2	機・杉山
発達心理学	集中・夏		－	15	2	医・上條
世界はいま(リベラルアーツ・ゼミナール)	集中・夏		－	8	1	機・榎原
時事問題で学ぶファシリテーション(リベラルアーツ・ゼミナール)	集中・夏		－	15	2	機・居神
社会学Ⅱ	後期		1	15	2	府・中谷
政治学	後期		1	15	2	工・西村
経済学入門	後期		1	15	2	工・人見
生活と経済	後期		1	15	2	府・小沢
現代社会と心	後期		1	15	2	府・石田正
環境と法	後期		1	15	2	工・吉川
現代医療の人間観	後期		1	15	2	医・杉岡
社会科学の学び方(リベラルアーツ・ゼミナール)	後期		1	15	2	機・杉山
プレゼンテーション力とは(リベラルアーツ・ゼミナール)	後期		1	15	2	機・榎原

別表Ⅴ（人間と自然）

授業科目	授業期間	必修・選択 の別	授業回数		単位数	担当教員
			週	計		
物理学Ⅰ	前期	選択	1	15	2	府・安田
化学概論Ⅰ	前期		1	15	2	工・田嶋
生物学概論Ⅰ	前期		1	15	2	工・足田
人と自然と数学αⅠ（1Q）	前期（1Q）		1	8	1	工・峯
人と自然と数学αⅡ（2Q）	前期（2Q）		1	8	1	工・峯
生物学的人間学	前期		1	15	2	医・後藤 ほか
科学史Ⅰ（1Q）	前期（1Q）		1	8	1	工・中条
科学史Ⅱ（2Q）	前期（2Q）		1	8	1	工・中条
環境問題と持続可能な社会	前期		1	15	2	工・山田
食と健康の科学	前期		1	15	2	府・小林 ほか
キャンパスヘルス概論	前期		1	15	2	工・牛込
エネルギー科学	前期		1	15	2	工・林
現代科学と倫理	前期		1	15	2	府・岩崎
光と色彩のサイエンス	前期		1	15	2	機・石田昭
京都の自然	前期		1	15	2	府・平山 ほか
製品の機能から科学を学ぶ（リベラルアーツ・ゼミナール）	前期		1	15	2	機・石田昭
レーザーで測る、創る、楽しむ（リベラルアーツ・ゼミナール）	前期		1	15	2	機・播磨
生命科学講話	集中・夏		－	15	2	府・塚本 ほか
化学概論Ⅱ	後期		1	15	2	工・角野
生物学概論Ⅱ	後期		1	15	2	工・足田
医学概論Ⅰ（3Q）	後期（3Q）		1	8	1	医・橋本 ほか
医学概論Ⅱ（4Q）	後期（4Q）		1	8	1	医・橋本 ほか
京都の農林業	後期		1	15	2	府・中村 ほか
人と自然と数学β（リベラルアーツ・ゼミナール）	後期		1	15	2	工・磯崎
京都の防災と府民	後期		1	15	2	機・田淵 ほか
意外と知らない植物の世界（リベラルアーツ・ゼミナール）	後期		1	15	2	機・松谷 ほか

（参 考）

（再掲）リベラルアーツ・ゼミナール

授業科目	授業期間	必修・選択 の別	授業回数		単位数	担当教員
			週	計		
現代社会に学ぶ問う力・書く力（リベラルアーツ・ゼミナール）	前期	選択	1	15	2	機・杉山
製品の機能から科学を学ぶ（リベラルアーツ・ゼミナール）	前期		1	15	2	機・石田昭
レーザーで測る、創る、楽しむ（リベラルアーツ・ゼミナール）	前期		1	15	2	機・播磨
現代イスラーム世界の文化と社会（リベラルアーツ・ゼミナール）	集中・夏		－	8	1	機・黒田
感性の実践哲学（リベラルアーツ・ゼミナール）	集中・夏		－	8	1	機・桑子
資料で京都（リベラルアーツ・ゼミナール）	集中・夏		－	8	1	機・藤本 ほか
世界はいま（リベラルアーツ・ゼミナール）	集中・夏		－	8	1	機・榎原
時事問題で学ぶファシリテーション（リベラルアーツ・ゼミナール）	集中・夏		1	15	2	機・居神
現代正義論（リベラルアーツ・ゼミナール）	後期		1	15	2	医・瀬戸山 ほか
社会科学の学び方（リベラルアーツ・ゼミナール）	後期		1	15	2	機・杉山
プレゼンテーション力とは（リベラルアーツ・ゼミナール）	後期		1	15	2	機・榎原
人と自然と数学β（リベラルアーツ・ゼミナール）	後期		1	15	2	工・磯崎
意外と知らない植物の世界（リベラルアーツ・ゼミナール）	後期		1	15	2	機・松谷 ほか

（再掲）京都学

授業科目	授業期間	必修・選択 の別	授業回数		単位数	担当教員
			週	計		
京都の歴史Ⅰ	前期	選択	1	15	2	府・横内 ほか
京都の歴史Ⅱ	後期		1	15	2	府・藤本 ほか
京都の文学Ⅰ	前期		1	15	2	府・大塚
京都の文学Ⅱ	後期		1	15	2	府・本井
京の意匠	後期		1	15	2	工・山本 ほか
資料で京都（リベラルアーツ・ゼミナール）	集中・夏		－	8	1	機・藤本 ほか
京都の文化と文化財	後期		1	15	2	機・宗田 ほか
京の産業技術史	前期		1	15	2	工・畑
現代京都論	前期		1	15	2	府・大島
京都学講座（人間と社会）	前期		1	15	2	機・小沢 ほか
京都の農林業	後期		1	15	2	府・中村 ほか
京都の防災と府民	後期		1	15	2	機・田淵 ほか
京都の自然	前期		1	15	2	府・平山 ほか

担当教員欄は、工：工芸繊維大学、府：府立大学、医：府立医科大学、機：京都三大学教養教育研究・推進機構

前期

後 期

集中開講

– 27 –

共同化科目の履修について

共同化科目とは

京都工芸繊維大学、京都府立大学、京都府立医科大学の各大学が教養科目を相互に提供し、提供されたすべての科目を各大学が自大学の科目としている科目群です。

1 単 位

共同化科目は、各大学の正規科目であり、修得した場合の単位は、各大学の規定に則り付与されます。

2 セメスター制(※)の授業日(※ 前期・後期各15回の授業と1回の試験を実施する科目)

- ① 下表のとおり、原則として月曜日に開講されます。前後期とも最終週が試験日となります。
- ② 令和7年度は、前期はオンデマンド授業2回、後期はオンデマンド授業4回を含む15回、試験は1回です。
なお、オンデマンド授業については各科目担当教員の指示に従って受講してください。
- ③ 2年次以降は、共同化科目が開講される月曜日に、各大学で共同化科目以外の科目も開講されるため、所属する大学の学部・学科・課程によっては、共同化科目の履修が難しくなる場合もありますので、計画的な履修を行ってください。
- ④ クォーター制については次頁「9」を参考にしてください。

前 期	令和7年 4月：14日(オデマド)、21日、28日 5月：12日、19日、26日 6月：2日、9日、16日、23日、30日 7月：7日、14日、28日 ※4月14日以外にオンデマンド授業が1回あります。 試験日：8月4日	後 期	9月：29日(オデマド) 10月：6日、20日、27日 11月：10日、17日 12月：1日、8日、15日、22日 令和8年 1月：13日(火)、19日 ※9月29日以外にオンデマンド授業が3回あります。 試験日：1月26日

3 授業時間

以下の開講時限(コース)により行われます。(各授業科目の開講時限(コース)は、巻末の時間割を参照のこと。)

時限(コース)	1	2	3	4	5
時間	8:50~10:20	10:30~12:00	12:50~14:20	14:30~16:00	16:10~17:40

4 開講場所について

共同化科目は、原則として府立大学下鴨キャンパス敷地内の教養教育共同化施設「稲盛記念会館」にて開講されます。
※科目によってはオンライン授業となることがあります。

5 履修の手続き

8~9頁の「令和7年度 授業科目の履修定員」などを参照の上、各大学において必要な履修登録の手続きを行ってください。

6 試 験

定期試験は、「試験日」に、以下の時間割どおり実施します。試験に関して必要なことは、試験の前に別途お知らせします。

時限(コース)	1	2	3	4	5
時間	9:00~10:20	10:35~11:55	12:50~14:10	14:30~15:50	16:10~17:30

7 休講基準(対面授業時)

共同化科目の授業について、暴風警報等が発令された場合など次のいずれかの一つに該当する場合は授業を休講とします。

- ① 京都市又は京都市を含む地域に気象等に関する特別警報又は暴風警報が発令された場合
- ② 京都市営バス及び地下鉄が全面停止の場合
- ③ J R西日本(京都駅発着の在来線(※))、阪急電鉄(大阪梅田駅~京都河原町駅間)、京阪電気鉄道(淀屋橋駅又は中之島駅~出町柳駅間)及び近畿日本鉄道(大和西大寺駅~京都駅間)の4交通機関のうち3以上の運行が停止の場合

- ④ その他京大三大教養教育研究・推進機構運営委員長が必要と認めた場合

※ 京都駅発着の在来線とは、京都線及び神戸線の一部（神戸駅－京都駅間）、琵琶湖線（米原駅－京都駅間）、湖西線の一部（近江今津駅－京都駅間）、嵯峨野線（園部駅－京都駅間）並びに奈良線及び関西本線の一部（奈良駅－京都駅間）のいずれかをいいます。

警報の解除又は交通機関の運行再開（以下「解除等」という。）に伴う授業の取扱いは次のとおりです。

- ① 午前 6 時 0 0 分までに解除等となった場合・・・平常どおり授業を実施
② 午前 1 0 時 0 0 分までに解除等となった場合・・・午後の授業を実施

休講及び授業実施のお知らせは、各大学からそれぞれの連絡方法によりお知らせします。

上記の基準は、共同化科目に適用されるものであり、各大学で開講される授業の休講基準は、大学ごとに異なる点がありますので、各大学の基準に従ってください。

8 三大学の学生が利用出来る施設について

- ① 「稲盛記念会館」自習室

1 階と 2 階にある自習室を利用出来ます。利用可能時間は、月曜日から金曜日（祝日を除く）の 7:30～18:00 です。

- ② 京都府立植物園

無料で入園できます。植物園入り口で学生証を提示してください。

9 クォーター制について ※

三大学共同化科目のうち、下記の科目についてはクォーター制で開講します。

前期		後期	
第 1 クォーター	第 2 クォーター	第 3 クォーター	第 4 クォーター
人と自然と数学 α I (1Q)	人と自然と数学 α II (2Q)	医学概論 I (3Q)	医学概論 II (4Q)
科学史 I (1Q)	科学史 II (2Q)		

※府大ではクォーター制の取扱がないため、「I 又は II」及び「『1Q、2Q、3Q 及び 4Q』のいずれか」の表記を除いた科目名で履修登録します。

前期	第 1 クォーター	後期	第 3 クォーター
	第 2 クォーター		第 4 クォーター
	令和 7 年 4 月：14 日(水)、21 日、28 日 5 月：12 日、19 日、26 日 6 月：2 日 試験日：6 月 9 日 ※4 月 14 日以外にオンデマンド授業が 1 回 あります		9 月：29 日(水) 10 月：6 日、20 日、27 日 11 月：10 日、17 日 試験日：12 月 1 日 ※9 月 29 日以外にオンデマンド授業が 2 回 あります。
	6 月：16 日、23 日、30 日 7 月：7 日、14 日、28 日 試験日：8 月 4 日 ※上記の期間内にオンデマンド授業が 2 回 あります。		12 月：8 日、15 日、22 日 令和 8 年 1 月： 13 日(火) 、19 日 試験日：1 月 26 日 ※上記の期間内にオンデマンド授業が 3 回 あります。

- ① 受講登録は、第 1・第 2 クォーターは前学期登録時に、第 3・第 4 クォーターは後学期登録時に行います。
② クォーター科目の授業日と試験日
○各クォーターには 8 回の授業と 1 回の試験があります。8 回の授業には 1 回～3 回のオンデマンド授業が含まれます。
○第 1 クォーターと第 3 クォーターの初回授業はオンデマンド授業となります。
○試験の代わりにレポート課題などが実施される場合、試験日が授業日となることがあります。その場合はオンデマンド授業が 1 回減ります。

2 医学基盤教育 授業時間割表（第1学年）

			前期	後期	医大(医学科)提供科目を選択の場合
月	1		生命倫理学（瀬戸山）	応用解析学（長崎、吉井）／近代物理学（川野、酒谷）	
	2		英語 2 （A組木塚・B組ジェンセン）	英語 2 （A組ジェンセン・B組木塚）	
	3	三大学共同化科目	認知心理学（村上）	ラテン語（松本）／医学概論Ⅰ・Ⅱ（橋本他）	
	4		医療と社会（笠井）/医療人類学（竹田）	現代医療の人間観（杉岡）／ 現代正義論（瀬戸山、立場）	
	5				
火	1		医学哲学（杉岡）		
	2		数学（長崎）		
	3	物理学実習／生物学実習／化学実習	現代生命科学（吉澤、山田、後藤）		
	4				
	5				
水	1		医史学（八木）／医療と法（鶴飼）		
	2		第2外国語Ⅰ	第2外国語Ⅱ	
	3	物理学実習／生物学実習／化学実習／ 情報リテラシー（吉井）	応用解析学（長崎、吉井）／ 近代物理学（川野、酒谷）		
	4				
	5				
木	1		生命物理化学（武元）	現代生命科学（吉澤、山田、後藤）	
	2		生体分子化学（大庭）		
	3		体育（A組・屋）／英語1（B組・三宅）		
	4		英語1（A組・三宅）／体育（B組・屋）		
	5				
金	1		医療経済学（高山）／経営学（大竹）	行動科学基礎（村上）	
	2		生物科学（吉澤、山田、後藤）		
	3		物理学（高西）		
	4		総合講義		
	5				

注1)：物理学実習／化学実習／生物学実習／情報リテラシーの日程については別途指示

実習は各実習室にて行う。情報リテラシーは広小路キャンパス地階情報科学実習室で、13:20から行う。

注2)：第2外国語

ドイツ語Ⅰ・Ⅱ（熊谷）

フランス語Ⅰ・Ⅱ（モクタリ）

スペイン語Ⅰ・Ⅱ（小川）

中国語Ⅰ・Ⅱ（陳）

朝鮮韓国語Ⅰ・Ⅱ（由村）

授業時間

1	8:50～10:20
2	10:30～12:00
3	12:50～14:20
4	14:30～16:00
5	16:10～17:40

第1学年 授業時間割

	月					火					水					木					金				
	I	II	III	IV	V	I	II	III	IV	V	I	II	III	IV	V	I	II	III	IV	V	I	II	III	IV	V
3/31(月) ~ 4/4(金)	3/31(月)					4/1(火)					4/2(水)					4/3(木)					4/4(金)				4/5(土) 入学式
4/7(月) ~ 4/11(金)	4/7(月)	履修ガイダンス (下鴨キャンパス)	4/8(月)	4/9(月)	4/10(月)	4/11(火)	4/12(水)	4/13(木)	4/14(金)	4/15(土)	4/16(日)	4/17(月)	4/18(火)	4/19(水)	4/20(木)	4/21(金)	4/22(土)	4/23(日)	4/24(月)	4/25(火)	4/26(水)	4/27(木)	4/28(金)	4/29(土)	4/30(日)
4/14(月) ~ 4/18(金)	4/14(月)	生倫	英2	共同化科目 (オンデマンド)	4/15(火)	4/16(水)	4/17(木)	4/18(金)	4/19(土)	4/20(日)	4/21(月)	4/22(火)	4/23(水)	4/24(木)	4/25(金)	4/26(土)	4/27(日)	4/28(月)	4/29(火)	4/30(水)	5/1(木)	5/2(金)	5/3(土)	5/4(日)	5/5(月)
4/21(月) ~ 4/25(金)	4/21(月)	生倫	英2	共同化科目	4/22(火)	4/23(水)	4/24(木)	4/25(金)	4/26(土)	4/27(日)	4/28(月)	4/29(火)	4/30(水)	5/1(木)	5/2(金)	5/3(土)	5/4(日)	5/5(月)	5/6(火)	5/7(水)	5/8(木)	5/9(金)	5/10(土)	5/11(日)	5/12(月)
4/28(月) ~ 5/2(金)	4/28(月)	生倫	英2	共同化科目	4/29(火)	4/30(水)	5/1(木)	5/2(金)	5/3(土)	5/4(日)	5/5(月)	5/6(火)	5/7(水)	5/8(木)	5/9(金)	5/10(土)	5/11(日)	5/12(月)	5/13(火)	5/14(水)	5/15(木)	5/16(金)	5/17(土)	5/18(日)	5/19(月)
5/5(月) ~ 5/9(金)	5/5(月)	生倫	英2	共同化科目	5/6(火)	5/7(水)	5/8(木)	5/9(金)	5/10(土)	5/11(日)	5/12(月)	5/13(火)	5/14(水)	5/15(木)	5/16(金)	5/17(土)	5/18(日)	5/19(月)	5/20(火)	5/21(水)	5/22(木)	5/23(金)	5/24(土)	5/25(日)	5/26(月)
5/12(月) ~ 5/16(金)	5/12(月)	生倫	英2	共同化科目	5/13(火)	5/14(水)	5/15(木)	5/16(金)	5/17(土)	5/18(日)	5/19(月)	5/20(火)	5/21(水)	5/22(木)	5/23(金)	5/24(土)	5/25(日)	5/26(月)	5/27(火)	5/28(水)	5/29(木)	5/30(金)	5/31(土)	6/1(日)	6/2(月)
5/19(月) ~ 5/23(金)	5/19(月)	生倫	英2	共同化科目	5/20(火)	5/21(水)	5/22(木)	5/23(金)	5/24(土)	5/25(日)	5/26(月)	5/27(火)	5/28(水)	5/29(木)	5/30(金)	5/31(土)	6/1(日)	6/2(月)	6/3(火)	6/4(水)	6/5(木)	6/6(金)	6/7(土)	6/8(日)	6/9(月)
5/26(月) ~ 5/30(金)	5/26(月)	生倫	英2	共同化科目	5/27(火)	5/28(水)	5/29(木)	5/30(金)	5/31(土)	6/1(日)	6/2(月)	6/3(火)	6/4(水)	6/5(木)	6/6(金)	6/7(土)	6/8(日)	6/9(月)	6/10(火)	6/11(水)	6/12(木)	6/13(金)	6/14(土)	6/15(日)	6/16(月)
6/2(月) ~ 6/6(金)	6/2(月)	生倫	英2	共同化科目	6/3(火)	6/4(水)	6/5(木)	6/6(金)	6/7(土)	6/8(日)	6/9(月)	6/10(火)	6/11(水)	6/12(木)	6/13(金)	6/14(土)	6/15(日)	6/16(月)	6/17(火)	6/18(水)	6/19(木)	6/20(金)	6/21(土)	6/22(日)	6/23(月)
6/9(月) ~ 6/13(金)	6/9(月)	生倫	英2	共同化科目	6/10(火)	6/11(水)	6/12(木)	6/13(金)	6/14(土)	6/15(日)	6/16(月)	6/17(火)	6/18(水)	6/19(木)	6/20(金)	6/21(土)	6/22(日)	6/23(月)	6/24(火)	6/25(水)	6/26(木)	6/27(金)	6/28(土)	6/29(日)	6/30(月)
6/16(月) ~ 6/20(金)	6/16(月)	生倫	英2	共同化科目	6/17(火)	6/18(水)	6/19(木)	6/20(金)	6/21(土)	6/22(日)	6/23(月)	6/24(火)	6/25(水)	6/26(木)	6/27(金)	6/28(土)	6/29(日)	6/30(月)	7/1(火)	7/2(水)	7/3(木)	7/4(金)	7/5(土)	7/6(日)	7/7(月)
6/23(月) ~ 6/27(金)	6/23(月)	生倫	英2	共同化科目	6/24(火)	6/25(水)	6/26(木)	6/27(金)	6/28(土)	6/29(日)	6/30(月)	7/1(火)	7/2(水)	7/3(木)	7/4(金)	7/5(土)	7/6(日)	7/7(月)	7/8(火)	7/9(水)	7/10(木)	7/11(金)	7/12(土)	7/13(日)	7/14(月)
6/30(月) ~ 7/4(金)	6/30(月)	生倫	英2	共同化科目	7/1(火)	7/2(水)	7/3(木)	7/4(金)	7/5(土)	7/6(日)	7/7(月)	7/8(火)	7/9(水)	7/10(木)	7/11(金)	7/12(土)	7/13(日)	7/14(月)	7/15(火)	7/16(水)	7/17(木)	7/18(金)	7/19(土)	7/20(日)	7/21(月)
7/7(月) ~ 7/11(金)	7/7(月)	生倫	英2	共同化科目	7/8(火)	7/9(水)	7/10(木)	7/11(金)	7/12(土)	7/13(日)	7/14(月)	7/15(火)	7/16(水)	7/17(木)	7/18(金)	7/19(土)	7/20(日)	7/21(月)	7/22(火)	7/23(水)	7/24(木)	7/25(金)	7/26(土)	7/27(日)	7/28(月)
7/14(月) ~ 7/18(金)	7/14(月)	生倫	英2	共同化科目	7/15(火)	7/16(水)	7/17(木)	7/18(金)	7/19(土)	7/20(日)	7/21(月)	7/22(火)	7/23(水)	7/24(木)	7/25(金)	7/26(土)	7/27(日)	7/28(月)	7/29(火)	7/30(水)	7/31(木)	8/1(金)	8/2(土)	8/3(日)	8/4(月)
7/21(月) ~ 7/25(金)	7/21(月)	生倫	英2	共同化科目	7/22(火)	7/23(水)	7/24(木)	7/25(金)	7/26(土)	7/27(日)	7/28(月)	7/29(火)	7/30(水)	7/31(木)	8/1(金)	8/2(土)	8/3(日)	8/4(月)	8/5(火)	8/6(水)	8/7(木)	8/8(金)	8/9(土)	8/10(日)	8/11(月)
7/28(月) ~ 8/1(金)	7/28(月)	生倫	英2	共同化科目	7/29(火)	7/30(水)	7/31(木)	8/1(金)	8/2(土)	8/3(日)	8/4(月)	8/5(火)	8/6(水)	8/7(木)	8/8(金)	8/9(土)	8/10(日)	8/11(月)	8/12(火)	8/13(水)	8/14(木)	8/15(金)	8/16(土)	8/17(日)	8/18(月)
8/4(月) ~ 8/8(金)	8/4(月)	生倫	英2	共同化科目	8/5(火)	8/6(水)	8/7(木)	8/8(金)	8/9(土)	8/10(日)	8/11(月)	8/12(火)	8/13(水)	8/14(木)	8/15(金)	8/16(土)	8/17(日)	8/18(月)	8/19(火)	8/20(水)	8/21(木)	8/22(金)	8/23(土)	8/24(日)	8/25(月)
8/11(月) ~ 8/15(金)	8/11(月)	生倫	英2	共同化科目	8/12(火)	8/13(水)	8/14(木)	8/15(金)	8/16(土)	8/17(日)	8/18(月)	8/19(火)	8/20(水)	8/21(木)	8/22(金)	8/23(土)	8/24(日)	8/25(月)	8/26(火)	8/27(水)	8/28(木)	8/29(金)	8/30(土)	8/31(日)	9/1(月)
8/18(月) ~ 8/22(金)	8/18(月)	生倫	英2	共同化科目	8/19(火)	8/20(水)	8/21(木)	8/22(金)	8/23(土)	8/24(日)	8/25(月)	8/26(火)	8/27(水)	8/28(木)	8/29(金)	8/30(土)	8/31(日)	9/1(月)	9/2(火)	9/3(水)	9/4(木)	9/5(金)	9/6(土)	9/7(日)	9/8(月)
8/25(月) ~ 8/29(金)	8/25(月)	生倫	英2	共同化科目	8/26(火)	8/27(水)	8/28(木)	8/29(金)	8/30(土)	8/31(日)	9/1(月)	9/2(火)	9/3(水)	9/4(木)	9/5(金)	9/6(土)	9/7(日)	9/8(月)	9/9(火)	9/10(水)	9/11(木)	9/12(金)	9/13(土)	9/14(日)	9/15(月)
9/1(月) ~ 9/5(金)	9/1(月)	生倫	英2	共同化科目	9/2(火)	9/3(水)	9/4(木)	9/5(金)	9/6(土)	9/7(日)	9/8(月)	9/9(火)	9/10(水)	9/11(木)	9/12(金)	9/13(土)	9/14(日)	9/15(月)	9/16(火)	9/17(水)	9/18(木)	9/19(金)	9/20(土)	9/21(日)	9/22(月)
9/8(月) ~ 9/12(金)	9/8(月)	生倫	英2	共同化科目	9/9(火)	9/10(水)	9/11(木)	9/12(金)	9/13(土)	9/14(日)	9/15(月)	9/16(火)	9/17(水)	9/18(木)	9/19(金)	9/20(土)	9/21(日)	9/22(月)	9/23(火)	9/24(水)	9/25(木)	9/26(金)	9/27(土)	9/28(日)	9/29(月)
9/15(月) ~ 9/19(金)	9/15(月)	生倫	英2	共同化科目	9/16(火)	9/17(水)	9/18(木)	9/19(金)	9/20(土)	9/21(日)	9/22(月)	9/23(火)	9/24(水)	9/25(木)	9/26(金)	9/27(土)	9/28(日)	9/29(月)	9/30(火)	10/1(水)	10/2(木)	10/3(金)	10/4(土)	10/5(日)	10/6(月)
9/22(月) ~ 9/26(金)	9/22(月)	生倫	英2	共同化科目	9/23(火)	9/24(水)	9/25(木)	9/26(金)	9/27(土)	9/28(日)	9/29(月)	9/30(火)	10/1(水)	10/2(木)	10/3(金)	10/4(土)	10/5(日)	10/6(月)	10/7(火)	10/8(水)	10/9(木)	10/10(金)	10/11(土)	10/12(日)	10/13(月)

第1学年 授業時間割

	月					火					水					木					金				
	I	II	III	IV	V	I	II	III	IV	V	I	II	III	IV	V	I	II	III	IV	V	I	II	III	IV	V
9/25(月) ~ 10/3(金)	9/25(月)	必修 /近物		英2 共同化科目 (オンデマンド)		9/28(火)					10/1(水)		必修 /近物			10/2(木)	現生	分化	体育 /英1		10/5(日)	行動	生物	物理	10/6(月)
10/4(月) ~ 10/10(金)	10/4(月)	必修 /近物		英2 共同化科目		10/7(火)					10/8(水)		必修 /近物			10/9(木)	現生	分化	体育 /英1		10/10(金)	行動	生物	物理	10/11(土)
10/11(土) ~ 10/17(金)	10/11(土)					10/14(火)					10/15(水)		必修 /近物			10/16(木)	現生	分化	体育 /英1		10/17(金)	行動	生物	物理	10/18(土)
				(スポーツの日)																					
10/20(月) ~ 10/24(金)	10/20(月)	必修 /近物		英2 共同化科目		10/21(火)					10/22(水)		必修 /近物			10/23(木)	現生	分化	体育 /英1		10/24(金)	行動	生物	物理	10/25(土)
10/27(月) ~ 10/31(金)	10/27(月)	必修 /近物		英2 共同化科目		10/28(火)					10/29(水)		必修 /近物			10/30(木)	現生	分化	体育 /英1		10/31(金)	行動	生物	物理	10/32(土)
11/3(月) ~ 11/7(金)	11/3(月)			文化の日		11/4(火)					11/5(水)					11/6(木)					11/7(金)				
11/10(月) ~ 11/14(金)	11/10(月)	必修 /近物		英2 共同化科目		11/11(火)					11/12(水)					11/13(木)		分化	体育 /英1		11/14(金)	行動	生物	物理	11/15(土)
11/17(月) ~ 11/21(金)	11/17(月)	補講又は 自由学習		英2 共同化科目		11/18(火)					11/19(水)					11/20(木)	補講又は 自由学習	体育 /英1			11/21(金)	行動	補講又は 自由学習	物理	11/22(土)
11/24(月) ~ 11/28(金)	11/24(月)			(振替休日)		11/25(火)					11/26(水)					11/27(木)		体育 /英1			11/28(金)	行動			11/29(土)
12/1(月) ~ 12/5(金)	12/1(月)			英2 共同化科目 (オンデマンド) (オンデマンド)		12/2(火)					12/3(水)					12/4(木)		総合講義 (実習科生会館講義ホール)			12/5(金)	行動			12/6(土)
12/8(月) ~ 12/12(金)	12/8(月)			英2 共同化科目		12/9(火)					12/10(水)					12/11(木)	補講又は 自由学習	体育 /英1			12/12(金)	補講又は 自由学習			12/13(土)
12/15(月) ~ 12/19(金)	12/15(月)	英2 共同化科目		英2 共同化科目		12/16(火)					12/17(水)					12/18(木)	補講又は 自由学習	体育 /英1			12/19(金)	補講又は 自由学習			12/20(土)
12/22(月) ~ 12/26(金)	12/22(月)	英2 共同化科目		英2 共同化科目		12/23(火)					12/24(水)					12/25(木)	補講又は 自由学習	体育 /英1			12/26(金)	補講又は 自由学習			12/27(土)
12/29(月) ~ 1/2(金)	12/29(月)			英2 共同化科目		12/30(火)					12/31(水)					1/1(木)					1/2(金)				1/3(土)
1/5(月) ~ 1/9(金)	1/5(月)					1/6(火)					1/7(水)					1/8(木)					1/9(金)				1/10(土)
1/12(月) ~ 1/16(金)	1/12(月)					1/13(火)					1/14(水)					1/15(木)					1/16(金)				1/17(土)
1/19(月) ~ 1/23(金)	1/19(月)					1/20(火)					1/21(水)					1/22(木)					1/23(金)				1/24(土)
1/26(月) ~ 1/30(金)	1/26(月)			共同化科目 (オンデマンド) (オンデマンド)		1/27(火)					1/28(水)					1/29(木)					1/30(金)				1/31(土)
2/2(月) ~ 2/6(金)	2/2(月)			共同化科目 (オンデマンド) (オンデマンド)		2/3(火)					2/4(水)					2/5(木)					2/6(金)				2/7(土)
2/9(月) ~ 2/13(金)	2/9(月)					2/10(火)					2/11(水)					2/12(木)					2/13(金)				2/14(土)

※共同化科目は後期中に別添3回(クォーター科目は、別添5回)オンデマンド授業あり。但し、クォーター科目は試験日に授業を行う場合、オンデマンド授業の回数が1回減る。

前期の「物理」は後期の「数学/物理」と回数を含わせるため1回少ない

月					火					水					木					金				
I	II	III	IV	V	I	II	III	IV	V	I	II	III	IV	V	I	II	III	IV	V	I	II	III	IV	V
2/16(月) ~ 2/20(金)	2/16(月)	解題	解題△		2/17(火)	解題	解題	生理	分選	2/18(水)	解題	解題△			2/19(木)	解題	分選	解題△		2/20(金)	解題	分選	解題△	2/21(土)
2/23(月) ~ 2/27(金)	2/23(月)				2/24(火)	解題	分選	生理		2/25(水)					2/26(木)					2/27(金)				2/28(土)
3/2(月) ~ 3/6(金)	3/2(月)	解題	分選	解題△	3/3(火)	解題	分選	生理		3/4(水)					3/5(木)					3/6(金)				3/7(土)
3/9(月) ~ 3/13(金)	3/9(月)				3/10(火)	解題	分選	生理	分選	3/11(水)					3/12(木)					3/13(金)				3/14(土)
3/16(月) ~ 3/20(金)	3/16(月)				3/17(火)	解題	分選	生理		3/18(水)					3/19(木)					3/20(金)				3/21(土)
3/23(月) ~ 3/27(金)	3/23(月)				3/24(火)					3/25(水)					3/26(木)					3/27(金)				3/28(土)

3 医学基盤教育科目の履修（第2学年～第5学年）

1. 授業科目

科目名	学年	授業期間	必修・ 選択の別	開講時限	授業 回数	単位	場 所
教養英語 ※1	2 年生	通年	必修	火曜日 5 限 または 水曜日 5 限 または 金曜日 4 限 または 5 限 (指定クラスによる)	22	2.5	河原町
医学英語 ※2	3 年生	通年	必修	木曜日 1 限 または 2 限 (指定クラスによる)	24	2.5	河原町
行動科学応用	4 年生	4～5 月	必修	木曜 4・5 限	8	1	河原町
医療倫理学	5 年生	10～11 月	必修	集中講義	12	1.5	下鴨 Z o o m
医療統計学	5 年生	6～10 月	必修	水曜日 3・4(・5)限	22	2.5	広小路/ 河原町 (情報科学 実習室/北臨 床講義室)

※1 Advanced Presentation & Academic Writing

※2 Basic Medical English

2. 進級

学年末において必要な単位を修得していない学生は、当該学年にとどまり、次年度、原則として単位修得を認定されなかった授業科目を再履修しなければならない。

3. 試験実施時期等

科目名	中間試験	追再試験	定期試験	追再試験	試験の形式
教養英語	—	—	—	—	授業内プレゼンテーション及び小論文作成
医学英語	—	—	—	—	教科書各章終了時の筆記試験（合計 4 回）及び授業内プレゼンテーション
行動科学応用	—	—	6 月 5 日	7 月 25 日	筆記試験
医療倫理学	—	—	11 月 14 日 4 限	12 月 23 日 4 限	筆記試験
医療統計学	—	—	—	—	実習時の課題、確認テストの提出課題

※1 時間指定をしていないものは、普段の開講時間に試験を実施

4 医学基盤教育科目の内容紹介

科目名	生命倫理学 (100017)			
科目責任者	瀬戸山 晃一			
単位数	1. 4	必修・選択区分	必修	
開講時期・学年	前期・1 学年	授業形態	講義	

教育の目的と方針

本科目は、医学教育モデルコアカリキュラム及び本学のディプロマポリシー並びにカリキュラムポリシーにある「プロフェッショナリズム」すなわち生命及び人間の尊厳を重んじ、豊かな人間性と創造性を培いながら(中略)高い倫理観と問題解決能力を有し、チームの中での役割を見出し医療に取り組める能力を身につける教育の根幹と基盤となる必修科目です。

本授業では、受講生は具体的な現代医療や医学研究をめぐる倫理的法的社会的問題(ELSI)を生命倫理学の基本原則と方法論から学びます。そもそも倫理学とは一体どのような学問分野であり、医歯薬学や理工学などの自然科学とどこか異なるのか、そして人文社会科学の中では、どのような位置づけになり、いかなる学術的意義や方法論を有しているのかについて理解します。生命倫理学は、文理融合的で学際的な学問領域であり、知識の獲得に講義の主眼を置くのではなく、有識者間においても意見が対立し唯一の正しい解答のない現代医療の倫理的諸問題を受講生が多角的でグローバルな視座から捉え、時間をかけて考え抜く知的枠組みと知的忍耐力を養うことを本講義の目的と方針とします。

なお、授業は講義とグループワークを組み合わせた形式で行います。取り上げる現代医療のテーマに関する様々なドキュメンタリー映像を視聴します。看護学科と合同のグループで意見交換やディスカッションを行います。毎回提出が義務づけられるフィードバック・コメントを活用し双方向的で主体的な学びをします。

到達目標

この授業では、将来、医療や医学研究に携わる皆さんが、なぜ今、医療や研究において生命倫理が問われているのか、患者の人権や自律の尊重がなぜ大切であるのかについて真剣に考え理解できる知的基盤づくりを行います。生命倫理の諸問題を取り上げ考察することで、異なる価値観を有する他者である患者さんやご家族などの当事者の気持ちを推論できる「共感性」を養い個人的な価値観を患者さんに押し付けることなく全人的医療を提供できる柔軟な思考と知的態度を養成することを教育の到達目標とします。具体的には、以下の知的能力を養うことを到達目標とします。

1. 医師や医学研究者になるものとして生命倫理を学ぶ意義(重要性)を理解し、それを言語化して説明できる。
2. 医療人としてのプロフェッショナリズムの意味を理解し、全人的な医療を実践する意義を説明できる。
3. 医療や臨床倫理における問題に気づき、倫理的感受性や患者や家族への共感性の必要性を理解し説明できる。
4. 現代医療の倫理的問題性について、生命倫理の基本原則の観点から理解し説明できる。
5. 患者の自己決定権を尊重しなければならない理由を具体的な例を挙げながら説明できる。

6. 医療情報を知る権利と知らないでいる権利の重要性を理解し説明できる。
7. パターナリズムの概念定義を正確に理解し、自律とパターナリズムの関係を適切に理解し説明できる。
8. 患者やご家族の意思決定支援のためにリバタリアン・パターナリズムとナッジの医療における重要性を理解し説明できる。
9. 国際的でグローバルな視点から多角的に現代医療における様々な生命倫理の諸問題（倫理的・法的社会的諸課題（ELSI））を捉え、その考察を論理的に述べることができる。
10. アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の重要性と意義を理解し説明できる。
11. 多様な価値観を有する個々の患者さんやご家族等へのケアや意思決定支援の在り方を主体的に考え説明できる。
12. 生命倫理の具体的諸問題の是非や諸論点について他の医学科生や看護学生とともに意見交換し、自分の意見を述べるができる。
13. 授業で扱う生命倫理の諸問題に対する問題意識を深め、得られた知的洞察を医療実践に活用できる柔軟な思考とそれを反映させた態度や行動を示すことができる。
14. 研究不正や不適切な研究活動が生じる諸要因（原因）を理解し、それらが生じないようにするための制度や方法について説明できる。
15. 予防倫理の限界と志向倫理の重要性について理解し説明できる。
16. 医学研究における利益相反（COI）の概念を理解し、そのマネジメントの意義（必要性）と限界を理解し説明できる。
17. ガイドライン（指針）と法的規制の違いを理解し、法規制の意義と限界や副作用について理解し説明できる。
18. 遺伝情報の非医学的利用の場面と遺伝情報のプライバシー保護の必要性について理解し説明できる。
19. 差別が生じる発生機序について説明できる。
20. 遺伝子差別禁止法の副作用（問題性）について理解し説明できる。

成績評価方法および基準

1 平常点（50％）

毎回、授業フィードバック・コメントの提出により出席確認を行う。遅刻時間数の合計が 45 分以上の場合には 1 回分の欠席としてカウントする。遅刻の合計が 90 分以上の場合には出席回数を 2 回分がマイナスされる。病気その他のやむをえない事情は、個別に相談すること。公共交通機関の遅延証明提出等がなく、授業開始時間から 10 分以上遅刻の場合や終了時刻 10 分以前の退出は出席と見なされない。平常点評価は、出席自体で点数は付与されず、毎回提出のフィードバック・コメントの内容を点数化し、それに授業態度を合わせて合計 50％を平常点とする。なお、授業中の私語や内職や居眠りなどは減点の対象とする。

2 筆記試験（50％）

筆記試験は、論述試験で全て参照物不可とし、毎回の授業をしっかりと聞いて考えていないと論述が難しい設問とする。

3 単位取得のために必要な 60 点以上の合格基準は、平常点と筆記試験を合算し、上記の到達目標での各項目の知識や知的洞察や能力を最低限必要なレベルまで理解し説明（言語化）できることを要する。

事前・事後学習について
初回授業には、必ずシラバスをしっかりと読んで授業に臨んでください。次回の授業内容に該当するテキストの章や配布資料に目を通してくること。フィードバック・コメントシートに毎回授業の出席を通し新たに得た知見や洞察を記入し、質問事項があれば記入して提出すること。次回授業では、はじめにそれらの質問の主なものに答えるとともに、必要に応じて補足のコメント等を行う。
教科書・参考文献等
必携教科書：霜田求（編）『テキストブック生命倫理』第2版（法律文化社 2022 年、ISBN978-4-589-04189-0 ￥2,530 円（税込）） その他の参考文献等については講義中に紹介し参考資料は適宜配布する。
オフィス・アワー
授業に関する質問などは、毎回提出するフィードバック・コメントシートに記入し提出すること。また個別に授業関連の指導を受けたい場合には、授業後か教員のメールアドレス（授業の際に周知する）にアポイントメントの予約のメールを送り調整の上で個別に対応する。大学管理職で会議や委員会が多いため、特定の曜日・時間帯の設定はできない。
学生へのメッセージ
大学での学習は、大学入試勉強と異なり、自ら主体的に学ぶ姿勢が重要です。また前提を疑ったり、他の角度（視点）から考える知的能力や直ぐに答えの出ない意見の分かれる問題を忍耐強く考え続ける忍耐力が必要です。 本授業では、将来医療現場で協働することになる看護学生と一緒にグループディスカッションや意見交換を行います。それを通して多様な意見をしることで自らの意見に新たな気づきを持ってもらいます。 障がいや持病など、健康上の理由などにより授業において配慮が必要な場合には、必ず担当教員に連絡を取り相談して下さい。

授業日程					
回数	日付	曜日	時限	内容	担当教員
1	2025/4/14	月	1	授業ガイダンス（受講上の注意や留意点） 受験勉強と大学での学習の違い 大学での授業に臨むにあたって必要な姿勢 生命科学と人文社会科学の違い 生命倫理の4つの基本原則 自己決定（自由）制約の4原理	瀬戸山 晃一
2	2025/4/21	月	1	癌の告知の裁判事例 インフォームド・コンセントとパターナリズム 自己決定と知る権利の重要性	瀬戸山 晃一
3	2025/4/28	月	1	遺伝子診断と遺伝学的情報の開示 「知る権利」と「知らないでいる権利」	瀬戸山 晃一
4	2025/5/12	月	1	民間の体質遺伝子検査ビジネス(DTC)と遺伝学的情報のプライバシー	瀬戸山 晃一

5	2025/5/19	月	1	ゲノム医療推進法 遺伝情報の非医学的利用と雇用や生命保険における遺伝子差別 遺伝子格差社会と生物的不平等	瀬戸山 晃一
6	2025/5/26	月	1	着床前診断と胚選別 デザイナーベビー（救世主兄弟） 耳の不自由なカップルの事例	瀬戸山 晃一
7	2025/6/2	月	1	新型出生前診断と選択的堕胎 障害者と優生思想 強制的不妊問題	瀬戸山 晃一
8	2025/6/9	月	1	臨床倫理の方法論、 人工生命維持装置停止・治療中止、胃ろう：消極的安楽死、 アドバンスケアプランニング（ACP）	瀬戸山 晃一
9	2025/6/16	月	1	自殺幇助と積極的安楽死、 裁判事例 尊厳死：尊厳ある死を選ぶ権利	瀬戸山 晃一
10	2025/6/23	月	1	臓器移植と臓器売買：医療ツーリズムと闇市場	瀬戸山 晃一
11	2025/6/30	月	1	研究不正と研究倫理 隠れたカリキュラムと逸脱の標準化（ゆでがえる理論） 予防倫理と志向倫理 利益相反（COI）	瀬戸山 晃一
12 補 講	2025/7/7	月	1	補講：精子や卵子や凍結受精卵売買 代理出産をめぐる問題 子の福祉と出自を知る権利	瀬戸山 晃一
13 補 講	2025/7/14	月	1	補講：重度障害新生児の治療停止	瀬戸山 晃一

科目名	医学哲学（100022）		
科目責任者	杉岡 良彦		
単位数	1. 3	必修・選択区分	必修
開講時期・学年	前期・1 学年	授業形態	講義

教育の目的と方針

医学部に入学し、これから皆さんは、基礎医学・社会医学・臨床医学の様々な医学分野を学ぶ。医学は人の生死に関わる魅力的な学問であると同時に、医師には責任と実践が伴う。今後、多くの医学の専門分野を学習する一方で、そもそも「医学とはどのような学問であるのか」「その他の学問と何が異なるのか」「医学という学問の本質やその全体像がどのようなものか」という問題を体系的に考える学問が医学哲学（philosophy of medicine）である。医学哲学は医学を反省し、医学そのものの本質を問う学問である。よって医学哲学はこれから学ぶ医学の基礎となる科目である。

この講義を通じて、皆さんが医学という学問の本質や全体像を理解し、医学基盤教育科目と専門科目の両者を生涯にわたり学ぶ必要性を理解し、さらに深い人間理解と倫理観を備えつつ、医学を批判的かつ創造的に理解・実践する態度を養うことを目的とする。

医学哲学を学ぶためには、本来はまず医学そのものを理解しておくことが必要となる。よって本講義では現代医学の基礎や臨床分野のエッセンスも紹介する。そして、医学の魅力と限界を批判的に考えると同時に、今後の医学はどのようなものであるべきかをともに考える。

なお、講義はテキストやスライドを用いながら講義形式で行う。積極的な質問を歓迎し、毎回記入して提出する受講生のレポートにも応えながら、双方向的な講義により、医学の本質に関する理解を深めていく。

到達目標

1. 医学という学問の「全体像」を説明できる。
2. 医学における「科学」の重要性とその限界を説明できる。
3. 医学における「人間観」の変遷とそれぞれの特徴を説明できる。
4. 医学における「医療倫理」や「医療制度」の重要性を説明できる。
5. 医学が目指す「目標」とその問題点について説明できる。

成績評価方法および基準

平常点（30%）、定期試験（70%）とし、これらの評価の合計得点が 60 点に満たない者を不可とする。平常点（30%）は、毎回のレポートにおいて、内容の正しい理解と自らの問題意識を明確にした内容に 3 点（満点）とし、的外れな内容は 0 点として評価する。定期試験は記述式であり、上記到達目標に沿った問題が出される。筆記試験は、毎回の講義をしっかりと理解し、テキストや配布資料を読みこんでいなければ回答は困難である。また、論理展開の明快さや内容の独創性を特に評価する。筆記試験に関する注意点やポイントなどは講義中にも説明する。

遅刻 10 分以上あるいは早退 10 分以上は特別な理由がない限り欠席とみなすが、病気による場合などは、レポートの提出により平常点が付与されるのでその場合には個別に相談すること。

再試験および追試験は、定期試験と同様の様式で出題する。なお、再試験に関してのみ、平常点の 1/2 を満たさない者は、再試験の 2/3 以上の得点に達することを到達目標の達成とみなし、可とする。

事前・事後学習について
講義は基本的にテキストや講義スライドに沿って行うため、あらかじめテキストや講義スライドを熟読し、内容が不明な点を明確にして講義に臨むことが必要である。この態度がこの講義の理解を深めていく。また、常に「なぜか」と問いながら、自分自身の疑問を講義中に質問したり、レポートに記載すること。次回講義の中で、そのうちのいくつかの疑問に応えながら、医学の諸問題を共に考えていく。講義前後や昼休みなどの質問にも時間が許す限り応じるので、常に問題意識を持ち、疑問点を明らかにする態度で講義に臨むこと。事後学習もできるだけその日の内に内容を確認し、疑問点があれば要点をまとめた上でオフィス・アワー内に担当教員に質問することを推奨する。
教科書・参考文献等
【教科書】杉岡良彦『医学とはどのような学問か：医学概論・医学哲学講義』（春秋社 2019 年 2420 円〈税込み〉） 【主な参考文献】澤瀉久敬『医学の哲学』（誠信書房 1981 年）。フランクフル『制約されざる人間』（春秋社 2000 年）。フランクフル『苦悩する人間』（春秋社 2000 年）。哲学の基本中の基本としては岩田靖夫『ヨーロッパ思想入門』（岩波ジュニア新書 2003 年）がある。わかりやすい科学哲学入門書としては、村上陽一郎『科学史・科学哲学入門』（講談社学術文庫 2021 年）や野家啓一『科学哲学への招待』（ちくま学術文庫 2015 年）がある。 その他、必要な文献や参考図書は講義中に紹介する。
オフィス・アワー
杉岡良彦（すぎおか よしひこ） アポイントを取るための連絡メールアドレスは講義内で周知する。 所属・職位：人文社会科学教室（稲盛記念会館 3 階）・准教授 曜日・時間帯：特定の曜日・時間帯に限定しない 備考：個別指導または相談の際には事前にメールあるいは講義前後に直接アポイントをとること。質問や議論は大歓迎である。日程調整のうえで、個別に対応する。
学生へのメッセージ
医学哲学はこれから学ぶ医学の根底を問う学問である。医師になる皆さんがぜひ理解すべき内容であることを再度強調したい。そしてこの講義を通じて医学の面白さ医師になる責任感や使命感をしっかりと身に付けてほしい。

授業日程					
回数	日付	曜日	時限	内容	担当教員
1	4/8	火	1	医学哲学とは：医学における科学と哲学の関係と医学の全体像	杉岡 良彦
2	4/15	火	1	医学の科学論 1：生物医学と分子生物学	杉岡 良彦
3	4/22	火	1	医学の科学論 2：EBM の意義とその限界を考える①	杉岡 良彦
4	5/13	火	1	医学の科学論 3：EBM の意義とその限界を考える②	杉岡 良彦
5	5/20	火	1	医学の人間観 1：生物医学の人間観とエンゲルの生物心理社会モデル	杉岡 良彦

6	5/27	火	1	医学の人間観 2 : フランクルの人間観と biopsychosocial-spiritual model	杉岡 良彦
7	6/10	火	1	医療倫理・医療制度	杉岡 良彦
8	6/17	火	1	医学における価値の問題 1 : 医学は何をめざしてきたのか	杉岡 良彦
9	6/24	火	1	医学における価値の問題 2 : 医学は苦悩にどのように 向き合うのか	杉岡 良彦
10	7/1	火	1	疑似科学と代替医療の問題を通じて医学を考える	杉岡 良彦

注) 10 回の講義は上記のように予定をしているが、受講生の理解の深まりに考慮し、若干の変更を行う可能性もある。

科目名	行動科学基礎（100020）		
科目責任者	村上 高至		
単位数	1. 3	必修・選択区分	必修
開講時期・学年	後期・1 学年	授業形態	講義

教育の目的と方針

行動科学の教育では、医療における実践的な人間理解を深めることを目的とする。医療従事者は、患者の行動や心理、社会的背景を的確に理解し、適切なコミュニケーションを通じて信頼関係を構築することが求められる。また、健康行動や治療への動機づけに関する知識を活用し、患者や集団の行動変容を支援できる能力を養う。さらに、自己の行動を振り返りながらプロフェッショナルリズムを実践し、他者と協働して医療の質を向上させる姿勢を培うことを目指す。

講義の方針は以下の通りである。行動科学の基礎となる諸理論を学び、人間の行動がどのように形成され、変化するのかを理解する。患者や医療チームメンバーの心理的・行動的特徴を捉える視点を養い、行動変容の支援、健康行動や不健康行動のメカニズムを学び、それらに影響を与える因子（環境・社会）を分析できる能力を磨く。行動変容を促すコミュニケーション技術や介入法についても、実践に結び付けるための基礎を身につける。

到達目標

1. 行動形成における学習の基本メカニズムである「条件づけ」について具体的な事例や実験例を通して理解し、人間の日常的な行動形成について説明できる。
2. 行動生起に関わる「動機づけ」の理論について具体的な事例や実験例を通して理解し、人間の行動生起過程における動機づけの性質について説明できる。
3. 人間の判断や意思決定に錯誤をもたらす様々な認知バイアスの影響について行動経済学の知見を活かして説明できる。
4. 人間の生涯を成長の過程とみなす考え方にに基づき、各発達段階で達成すべき心理的課題を理解し、行動科学の観点からパーソナリティを含む人間の心理社会的発達を説明できる。
5. 人間の態度や行動に及ぼす社会的影響について具体的な事例や実験例を通して理解し、実生活における態度変化や行動変容について説明できる。

成績評価方法および基準

平常点（40%）、定期試験（60%）とし、これらの評価の合計が全体の 60%に満たない者を上記到達目標の最低基準に達していないと判断し、不可とする。

平常点は、授業内で提出を求める課題の合計得点とする。ただし、毎回の授業で課題を実施するとは限らない。課題は、よく考えられていると判断できる場合を基準として、内容が優れている場合には加点し、課題内容と異なる回答の場合や理解できない回答の場合、与えられた時間内での回答として不適切であると判断できるものは評価対象外とする。なお、特に優れた内容の場合には配点の上限を超えて加点する。また、授業において積極的に発言するなど、授業に対する貢献があった者にも加点する場合がある。ただし、どれだけ加点されたとしても、それらの合計得点が平常点の上限（40 点）を超えることはない。

定期試験では、到達目標の達成程度を測定するために 6 から 10 問を出題する。問題は全て論述式の「説明」を求める内容であり、行動科学の用語や現象についての知識を有した上で、それを他者に対して分かりやすく説明できているかを評価する。なお、参照物等の持ち込みは不可とする。

再試験および追試験は、定期試験と同様の様式で出題する。なお、再試験に関してのみ、平常点が 20 点未満の者は、再試験で 40 点以上に達することを到達目標の達成とみなし、合格とする。平常点が 20 点以上の者は、平常点と再試験の評価の合計得点が 60 点以上に達することを到達目標の達成とみなし、合格とする。

事前・事後学習について

授業内で初めて知った現象、理論、用語などについては、授業後に自分で調べて意味や内容を確認すること。これは、単に授業内で学修した情報を繰り返し経験するだけでなく、何度も見直すことで新しい知見や関連する情報を発見し、情報間の結びつきを強め、知識の統合を促すためのものである。授業内容を十分に理解してから次の授業に出席されることを推奨する。

なお、その復習方法の詳細については、授業内で紹介する。こうした事後学習の目標は、それらについて暗記した内容を記述できるという水準を超えて、自らの知識となった内容を言葉にして表現できるという水準に達することである。

教科書・参考文献等

特定の文献を教科書としては使用しない。各授業で用いるスライド資料は、授業前にポータルを通じて配布する。各回の参考文献として推奨できるものがあれば、授業の中で紹介する。

なお、教科書ではなく、履修生の興味を深めるための行動科学に関連する図書として以下を紹介する。

- 1) 日本行動医学会（編）（2023）. 行動医学テキスト 第2版 中外医学社
（ISBN978-4-498-04829-4）
- 2) 島宗 理（2019）. 応用行動分析学 ヒューマンサービスを改善する行動科学 新曜社
（ISBN978-4-7885-1622-9）
- 3) 松野 航大・嶋 大樹・原 真太郎（2024）. すいすい学べる認知行動療法 行動療法の基本と認知療法、マインドフルネス ナカニシヤ出版 （ISBN978-4-7795-1785-3）
- 4) 山口 裕幸（編著）（2024）. チーム・ダイナミックスの行動科学 組織の生産性・安全性・創造性を高める鍵はどこにあるのか ナカニシヤ出版 （ISBN978-4-7795-7159-4）
- 5) 畑 栄一・土井 由利子（編）（2009）. 行動科学 健康づくりのための理論と応用 改訂第2版 南江堂 （ISBN978-4-524-25311-1）
- 6) Fadem, B. (2012). Behavioral science in medicine 2nd edition. Lippincott Williams & Wilkins. （ISBN978-1-6091-3664-2）

オフィス・アワー

村上 嵩至（むらかみ たかし）

メールアドレス：takashim(at)koto.kpu-m.ac.jp

所属：教育センター（河原町キャンパス 臨床医学学舎7階）

曜日・時間帯：金曜日・9:30～17:00

備考：別の時間帯を希望される場合、個別指導または面談を希望される場合には事前にメールでご連絡ください。

学生へのメッセージ

講義中心の授業にはなりますが、状況により可能であればアクティブ・ラーニングやグループ・ディスカッションを取り入れたいと考えています。授業への積極的参加として、皆さんには積極的に交流し、議論してほしいと思います（なかなか難しいのですが）。ただし、授業内のアンプロフェッショナル行為については、厳しく対応します（退室を命じる場合もある）。

行動科学を学びつつ、普段の生活の中でも「その行動は、なぜ、どのようにして生じたのか？」という疑問を抱きながら自分や他者の行動を観察し、様々な答えを見つけてみてください。

授業日程

回数	日付	曜日	時限	内容	担当教員
1	2025/09/19	金	1	行動科学とは	村上 嵩至
2	2025/09/26	金	1	レスポナデント条件づけ	村上 嵩至
3	2025/10/03	金	1	オペラント条件づけ	村上 嵩至
4	2025/10/17	金	1	感情と欲求	村上 嵩至
5	2025/10/24	金	1	原因帰属と学習性無力感	村上 嵩至
6	2025/11/14	金	1	内発的動機づけと外発的動機づけ	村上 嵩至
7	2025/11/21	金	1	期待効用とプロスペクト理論	村上 嵩至
8	2025/11/28	金	1	パーソナリティ、愛着、生涯発達	村上 嵩至
9	2025/12/05	金	1	態度変化と認知的不協和	村上 嵩至
10	2025/12/12	金	1	集団と同調	村上 嵩至

科目名	認知心理学(三大学共同化科目) (100014)		
科目責任者	村上 高至		
単位数	2	必修・選択区分	選択
開講時期・学年	前期・1 学年	授業形態	講義

教育の目的と方針

私たちは一般に、目を開けてさえいれば外の世界が見える。その後に目を閉じて、心の中でその光景を思い浮かべることができるし、その光景の中に何があったか等を言葉にして表現することができる。あるいは、日中に見た光景の夜の姿を想像することさえできる。認知心理学は、このような心の働き、すなわち知的機能について研究する学問である。

本講義では、人の知的機能のそれぞれにおいて、どのような情報がどのように扱われているかについて概観し、これらを通して人の認知の仕組みと性質について理解することを目的とする。そのため、外界からの情報の入力（感覚、知覚、注意）といった低次認知処理から、情報の貯蔵（記憶、知識）と情報の活用（問題解決、推論、判断）という高次認知処理まで、幅広い内容を紹介する。また、これにより、人の認知傾向や合理性について考えるための知識習得を目指す。

到達目標

1. 人の感覚や知覚の機序について理解し、日常的に体験される心理現象について説明できる。
2. 人の記憶や知識の仕組みについて理解し、それらの特徴や性質について説明できる。
3. 人の高次認知処理について理解し、その特性や傾向について説明できる。
4. 認知心理学の研究法について理解し、具体的な実験について内容を説明できる。

成績評価方法および基準

平常点（30％）、定期試験（70％）とし、これらの評価の合計が全体の 60％に満たない者を上記到達目標の最低基準に達していないと判断し、不可とする。

平常点は、毎回の授業で提示する課題（各 2 点）の合計得点とする。課題では、適切に回答できていると判断できる場合には 1 点、よく考えられていると判断できる場合には 2 点とする。なお、特に優れた内容のものについてはさらに加点する場合がある。また、授業において積極的に発言するなど、授業に対する貢献があった者には 1 点を付与する。ただし、どれだけ加点されたとしても、その合計得点が平常点の上限（30 点）を超えることはない。

定期試験では、到達目標の達成程度を確認するために、授業で紹介した概念、用語、理論についての理解と、それを他者に分かりやすく説明できているかどうかを評価するために、論述式の問題を課す。なお、参照物等の持ち込みは不可とする。

事前・事後学習について

毎回の授業内で課された課題に取り組み、期日までに提出する必要がある。

授業内で初めて知った現象、理論、用語などについては、授業後に自分で調べて意味や内容を確認すること。これは、単に授業内で学修した情報を繰り返し経験するだけでなく、何度も見直すことで新しい知見や関連する情報を発見し、情報間の結びつきを強め、知識の統合を促すためのものである。次の授業回のテーマに関連した内容について予め調べるなどの予習をすることも重要ではあるが、どちらかといえば予習よりも復習に注力し、授業内容を十分に理解してから次の授業に出席されることを推奨する。

教科書・参考文献等
教科書は使用しない。各回の参考文献として推奨できるものがあれば、授業の中で紹介する。
オフィス・アワー
村上 嵩至 (むらかみ たかし) メールアドレス：takashim(at)koto.kpu-m.ac.jp 所属：教育センター（河原町キャンパス 臨床医学学舎 7 階） 曜日・時間帯：金曜日・9：30～17：00 備考：別の時間帯を希望される場合、個別指導または面談を希望される場合には事前にメールでご連絡ください。
学生へのメッセージ
講義中心の授業となります、なるべく多くの研究事例や実験等を紹介しながら説明したいと思います。また可能であれば、各大学の特色や皆さんの個性が引き出されるような課題や内容を扱ったり、学生間で交流できるようなグループワーク等を実施したりできれば良いと考えていますので、そうした際には積極的に取り組んでほしいと期待しています。

授業日程					
回数	日付	曜日	時限	内容	担当教員
1	2025/4/14 オンデマンド	月	3	認知心理学：歴史と隣接領域との関係	村上 嵩至
2	2025/4/21	月	3	感覚と知覚（1）：感じること	村上 嵩至
3	2025/4/28	月	3	感覚と知覚（2）：捉えること	村上 嵩至
4	2025/5/12	月	3	感覚と知覚（3）：知覚の誤り	村上 嵩至
5	2025/5/19	月	3	感覚と知覚（4）；注意と選択	村上 嵩至
6	2025/5/26	月	3	記憶（1）：覚えること、思い出すこと	村上 嵩至
7	2025/6/2	月	3	記憶（2）：思い浮かべること	村上 嵩至
8	2025/6/9	月	3	記憶（3）：忘れること	村上 嵩至
9	2025/6/16	月	3	概念と知識（1）：何かが分かるということ	村上 嵩至
10	2025/6/23	月	3	概念と知識（2）：言語の理解	村上 嵩至
11	2025/6/30	月	3	問題解決と推論（1）：考えること	村上 嵩至
12	2025/7/7	月	3	問題解決と推論（2）：思考の偏り	村上 嵩至
13	2025/7/14	月	3	判断と意思決定（1）：可能性を決めること	村上 嵩至
14	2025/7/28	月	3	判断と意思決定（2）：好みを選ぶこと	村上 嵩至
15	オンデマンド			感情：ホットな認知	村上 嵩至

科目名	医療人類学（三大学共同化科目）（100113）		
科目責任者	竹田 響		
単位数	2	必修・選択区分	選択
開講時期・学年	前期・1 学年	授業形態	講義

教育の目的と方針

本講義は、人間が生まれ、そして死ぬという一連のプロセスの中で、各々が自己ならびに他者の身体をどのように気遣い、また考えるのかについて、受講生が「医療人類学」ならびにその大元にある「文化人類学」という学問領域から考察することを目的とする。

文化人類学の一領域とされる医療人類学では、異なる文化や社会的背景を有する人びとが、病気の原因や治療、看護、ケアといった事象についてどのように考え、また向き合っているのかについて、事例を基に考察してきた。人はいかに「病」に向き合い、生活しているのでしょうか。また、自らが属する文化圏とは異なる背景を持つ人びとが考え、日常の生活の中で行っている実践について、私たちはどのように応答することができるのだろうか。

本講義で受講生は、これまで議論されてきた文化人類学、また医療人類学的観点を紹介しながら、「医学的」正しさだけでは時に捉えきれない、人間の生と葛藤、そしてその捉え方について、事例を通して学習していく。

なお、授業は主として講義形式で行なう。取り扱うテーマに応じてドキュメンタリー映像を視聴したり、講義の中でグループディスカッションを行うこともある。

授業を受講する皆さんが将来直面する諸問題は、倫理的な問題に加えて、個々の人びとやその家族、友人など、様々な「人」が介入することによって、医療的な諸原則だけでは解決することができないジレンマを抱えている場合が多々存在する。本講義を通して、受講生は人びとの日々の暮らしや感情に着目する「文化人類学」の視点を取り入れながら、人びとの暮らしと医療やケア、看護といった実践をいかに行っていくのか、講師と共に考えていく。

到達目標

- 1 文化人類学ならびに医療人類学における基本的概念と考え方を説明できる。
- 2 授業で学んだ多様性を尊重する思考法によって、現代医療における諸課題について考察・分析することができる。
- 3 患者の生き方や生きる意味を想像し、同じ社会の一員として共に在ることを目指そうとする知的考察を実践できる。

成績評価方法および基準

1 平常点（30%）

毎回行う授業のコメントシートによって出席確認を行う。（全 15 回の内、6 回以上欠席した場合には単位は付与できません。）遅刻時間数の合計が 60 分以上の場合には 1 回分の欠席としてカウントする。遅刻の合計が 120 分以上の場合には出席回数を 2 回分がマイナスされる。病気その他のやむをえない事情は、個別に相談すること。授業開始時間から 30 分以上遅刻の場合や終了時刻 20 分以前の退出は出席と見なされない。毎回のコメントシートの点数を合わせて合計 30%を平常点とする。なお授業中の私語は減点の対象とします。

2 筆記試験（70％） 筆記試験は、各回の授業を通して思考を深めていかないと論述することが難しい課題とする予定である。 評価の合計が60％に満たない（上記の到達目標の最低限に達していない）者は不可とする。
事前・事後学習について コメントペーパーに毎回授業で新たに得た知見や洞察を記入し、質問事項があれば記入して提出すること。次回授業では、はじめにそれらの質問の主なものに答えるとともに、必要に応じて補足のコメント等を行う。講義を通して思考を深めていくこと。
教科書・参考文献等 教科書は特に指定しない。参考文献等については講義中に紹介し、参考資料は適宜配布する。
オフィス・アワー 授業に関する質問などは、毎回提出するコメントペーパーに記入すること。個別に授業関連の指導を受けたい場合には、授業後、もしくは教員のメールアドレス（初回の授業において通知する）にアポイントメントの予約のメールを送り、調整の上対応する。
学生へのメッセージ ・障がいや健康上の理由などにより授業において配慮が必要な場合には、事前に連絡を取り相談すること。 ・授業中の私語は厳禁とする。他の履修者の集中を妨げる行為があった場合、退室を命じることがあります。

授業日程					
回数	日付	曜日	時限	内容	担当教員
1	オンデマンド	月	4	授業の概要説明、「異文化」と接するということ	竹田 響
2	2025/4/21	月	4	「文化人類学」とは一人類学を通して考える意味	竹田 響
3	2025/4/28	月	4	人間の生と「境界」、けがれ①	竹田 響
4	2025/5/12	月	4	人間の生と「境界」、けがれ②	竹田 響
5	2025/5/19	月	4	親族・結婚	竹田 響
6	2025/5/26	月	4	人間が「死ぬ」ということ、宗教、葬祭	竹田 響
7	2025/6/2	月	4	医療と人類学、呪術	竹田 響
8	2025/6/9	月	4	医療とジェンダー	竹田 響
9	2025/6/16	月	4	医療と出自、「国籍」	竹田 響
10	2025/6/23	月	4	ゲスト講義① 日本で暮らす「在日朝鮮人」	竹田 響
11	2025/6/30	月	4	医療と「ケア」	竹田 響
12	2025/7/7	月	4	ゲスト講義② 「在日朝鮮人」の福祉施設	竹田 響
13	オンデマンド	月	4	医療と精神疾患	竹田 響
14	オンデマンド	月	4	医療と食	竹田 響
15	2025/7/28	月	4	まとめ	竹田 響

科目名	現代正義論 (100009)			
科目責任者	瀬戸山 晃一 立場 貴文			
単位数	2	必修・選択区分	選択	
開講時期・学年	後期・1 学年	授業形態	授業・演習ゼミナール	

教育の目的と方針

本科目は、看護学科および京都府立大学並びに京都工芸繊維大学との三大学教養教育共同化科目として開講されるリベラルアーツ・ゼミナールである。本ゼミナールの目的は、現代社会の実際教育格差、医療格差、環境問題などの具体的な問題や事例を題材に、その政策の是非をめぐって対立する意見や議論が、いかなる主義や理論に基づいて主張が展開されているのかを理解するとともに、それらの知的洞察に基づいて、処方箋（制度改革や政策変更）のあり方を主体的に考えることができる知的能力を受講生が修得することにある。教育方針としては、受講生のアクティブラーニングを促進し、いろいろな問題考察に役立つ「生きた教養」リベラルアーツの涵養を目指す。

現代社会では、法により一定の自由や権利が保障されているが、現実には様々な不平等や格差、差別や不正義がみられる。それらをどの程度どのような法政治制度的な手段や方法で是正し、平等を実現すべきなのか？現実には自由を追求すると格差が広がっていくことが少なくない。また「平等」といってもスタートの平等なのかゴールの平等なのか、あるいは機会の平等や運の平等など、何の平等を追求するべきかによって意見は異なり、政策の是非に対する判断も変わる。

「正義(Justice)」とは、公正 (Fairness) の意味であり、正義論とは自由と平等・不平等（格差）や差別をめぐる議論と論争のことである。法の象徴とされる正義の女神は、目隠しをして剣と天秤を手に行っていることが少なくない。そのことが示しているように正義（公正）を実現することは現実には容易ではない。「何が正義か」をめぐる様々な構想が企てられ、功利主義、リベリズム、リバタリアニズム、共同体主義、優先主義、十分主義など、主義主張の異なる多様な理論アプローチが具体的な問題をめぐって激しい論争を繰り広げてきている。現代社会では多様な価値観を有する人々が共存しており、様々な議論や論争の背後には、多様な当事者（利害関係者・ステークホルダー）の利益相反（りえきそうはん）や価値観の対立がある。正義論では、その法政治的調整と多様な者との共生が求められている。

本ゼミナールでは、講義と受講生のグループ・ディスカッションとプレゼンから構成される。テキストや映像を活用し、様々な現実の課題や事例問題を取り上げて、問題を解決・是正する処方箋について現代正義論に登場する多様な主義・理論の知的洞察に基づいて受講生は主体的に考える。

立場担当回では、テキストの該当章を読んできていることを前提に授業前半は具体的な問題に関する講義を、授業後半は質疑・討論を行う。

瀬戸山担当回では、多様な学部学科の受講生からなるグループによるディスカッションを取り入れた文理融合的な参加型授業を実践する。

なお、本科目は看護学科を含む府立医科大学、府立大学及び工芸繊維大学の受講生がともに混ざりグループでのディスカッションを行う参加型の授業形式を採用する。各グループは、ジェンダーや大学・学科を考慮して5～6名で構成し、何度かメンバーを組みなおす予定である。

到達目標

本ゼミナールでは、様々な理論や主義を、いわば手術台に乗せて解剖し、その中身、特に様々な理論間の緊張関係や対立とその論拠を可視化する。そして、受講生はそれらの考察過程を通して、

自由の意義とその限界、道徳（哲学）理論間や自由と平等をめぐる対立構造などの動的な相互関係を捉えることで、多様な価値観を有する他者への寛容な態度や、マイノリティである当事者の声に耳を傾け、気持ちを推論する能力を受講生が養うことを教育の最終的な到達目標とする。具体的には以下の到達目標を設定する。

1. 正義論を展開する対立する各主義や理論アプローチが拠りどころにする世界観や事実認識、そして理論前提および知的死角（ブラインドスポット）について理解し、その知識をもとに議論できる。
2. それぞれの理論の立場が、何の平等を重視し、何の不平等（格差）を軽視あるいは無視する傾向にあるのかを理解し指摘できる。
3. 上記の知的営みを通して、受講生が自らの考え（価値観）を相対化するとともに、自省的に見つめなおし、異なる価値観を有する他者に対する寛容な知的態度の養成し、及びそれを日常生活や将来のキャリア実践に活用できる。
4. 特定の道徳を啓蒙し教育するのとは正反対に、現在流布している様々な道徳や主義を批判的に考察し、自らの意見を論理的に表明できる。
5. 各理論や主義に基づいて具体的な問題を分析しその結果を説明できる。

成績評価方法および基準

成績評価は、本講義はゼミナールであり、筆記試験は実施せず、立場担当 40%と瀬戸山担当 40%並びに最終グループプレゼンテーション 20%の評価割合により行う。

立場担当回に関しては、授業後半の質疑・討論セッションでの発言に基づいて平常点評価を行い、質疑・討論における各履修者の発言を、質・量の両面から厳密に評価して記録し、授業参加点を算出する。そのため、欠席・遅刻・早退をすると、その分だけ評価の機会を失う（授業参加点が得られない）ので注意されたい。

瀬戸山担当回に関しては、グループ・ディスカッションへの能動的参加および授業フィードバック・コメントシートの内容とプレゼンに基づいて評価をおこなう。

またプレゼンテーションと他のグループのピアレビュー評価シートの内容自体をそれぞれの教員が評価を 20 点満点で行う。

合計が 60%以上の場合に合格とし、その得点をこの科目の評価とする。

単位取得のための合格の最低基準は、上記到達目標を最低限習得していることとする。

なお遅刻時間数の合計が 45 分以上の場合には 1 回分の欠席としてカウントする。病気その他のやむをえない事情は、個別に相談すること。授業開始時刻 10 分以上遅刻の場合や終了時刻 10 分以前の退出は出席と見なされない。

事前・事後学習について

各回の前に、必ず教科書の指定箇所を予習しておくこと。本講義はゼミナールであり、各自が事前学習で得た知識・知的洞察をもとにディスカッションを行う。授業内で質の高い議論を行い、自身の考えを洗練するために、事前学習は必須となる。

また、授業後にフィードバック・コメントに毎回の授業参加を通して新たに得た知見や洞察を記入し、質問事項があれば記入して提出すること。次回授業では、はじめにそれらの質問に答えるとともに、必要に応じて補足のコメント等を行う。

障がいや持病等により授業において配慮を希望する場合には事前に連絡を取り相談すること。

教科書・参考文献等

【必携教科書】

宇佐美誠他『正義論：ベーシックからフロンティアまで』（法律文化社 2019 年、3,080 円（税込）、

ISBN978-4-589-04028-2)。

【参考文献】

マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録上・下』（小林正弥・杉田晶子[訳]、早川文庫 2012 年、ISBN978-4-505-03789-2）

マイケル・サンデル『実力も運のうち 能力主義は正義か?』（早川書房 2021 年）、林芳紀・伊吹友秀『マンガで学ぶスポーツ倫理』（化学同人 2021 年、ISBN9784759820379）

※その他の参考文献等については講義中に紹介する。

オフィス・アワー

授業に関する質問などは、毎回提出するフィードバック・コメントに書くこと。また個別に授業関連の指導を受けたい場合には、連絡先メールアドレス等を授業の際に周知するので、教員のメールアドレスにアポイントの予約メールを送り日時を調整の上で個別に対応する。

学生へのメッセージ

本講義は現代社会における様々な社会問題を主題にしたディスカッションを中心とする授業であるため、受講生の積極的な発言・学習を大いに期待する。一方で、医療や教育、家族などセンシティブな問題を扱う回もあるので、議論の際の心理的安全性の確保にはくれぐれも注意されたい。

具体的な問題に対して、より高次の原理や概念を用いてアプローチする能力は、実社会でも必ず役にたつスキルである。加えてこれからの社会を担う受講生には、授業内に限らず社会問題に取り組む知的な好奇心や誠実さを身につけてほしい。

授業日程

回数	日付	曜日	時 限	内容	担当教員
1	2025/9/29 オンデマンド	月	4	授業目的とガイダンス	瀬戸山 晃一 / 立場 貴文
2	2025/10/6	月	4	能力主義・入試選抜の公平性と現代正義論の 様々な主義	瀬戸山 晃一
3	オンデマンド			授業と Moodle で指示（ビデオ視聴）	瀬戸山 晃一
4	2025/10/20	月	4	スポーツ競技の公平性とドーピングの是非（エ ンハンスメント）	瀬戸山 晃一
5	2025/10/27	月	4	グローバルな貧困への対応	立場 貴文
6	2025/11/10	月	4	家族による教育の是非	立場 貴文
7	2025/11/17	月	4	医療資源分配の基準としての QALY の長所と短所	立場 貴文
8	オンデマンド			食物の消費によって引き起こされる不正義	立場 貴文
9	2025/12/1	月	4	死刑制度の是非	立場 貴文
10	2025/12/8	月	4	「正しい戦争」という考え方	立場 貴文
11	2025/12/15	月	4	人口抑制の是非	立場 貴文
12	2025/12/22	月	4	気候変動の問題と世代間正義の考え方	立場 貴文
13	2025/1/13	火	4	振り返りとプレゼンテーションの準備	瀬戸山 晃一
14	2026/1/19	月	4	グループプレゼンテーションの説明	瀬戸山 晃一
15	2026/1/26	月	4	グループプレゼンテーション	瀬戸山 晃一 / 立場 貴文

科目名	行動科学応用（100021）		
科目責任者	村上 嵩至		
単位数	1	必修・選択区分	必修
開講時期・学年	4～5月・4学年	授業形態	講義

教育の目的と方針

医療は、患者やその家族、チームのスタッフなど、他者との関わりの中で実践される。そうした中で、自身を含む人間の心を理解することは重要であり、医師としての素養を十全に発揮するためにも必須である。行動科学は、観察可能かつ分析可能な「行動」を理解することによって人間理解を目指す学問であり、人間の行動の特性を理解することで、多様な状況への対応力を身に付け、他者との信頼関係の構築、患者に対する意思決定支援や健康行動の促進などを含む適切な医療を提供できることに繋がる。

本科目では、行動科学の基礎知識を踏まえた上で、それらを臨床の現場や日常生活における具体的な事例に応用していくことを目指す。とくに、行動変容とその支援方法、効果的なコミュニケーション技術、医療者としてのプロフェッショナリズムを涵養することを教育目的とし、医療現場における行動科学の意義についての理解を深める。

到達目標

1. 行動科学の基礎知識を修得し、各理論に基づいて行動の原因を説明できる。
2. 人間の行動特性を理解し、日常における人間の行動の原理を説明できる。
3. 行動変容を促すための理論を応用し、適切な支援方法を提案できる。
4. 対人場面やコミュニケーションの中で生じる心理的要因について分析できる。

成績評価方法および基準

平常点（40%）、定期試験（60%）とし、これらの評価の合計が全体の 60%に満たない者を上記到達目標の最低基準に達していないと判断し、不可とする。

平常点は、授業内に実施される課題によって評価する（10 点×4 回）。また、授業において積極的に発言するなど、授業に対する貢献があった者には上記の配点を超えて加点する場合がある。ただし、どれだけ加点されたとしても平常点の上限（40 点）を超えることはない。

定期試験では、到達目標の達成度を測定するために数問を出題する。問題は全て論述式であり、他者への「説明」であることを評価に含む。なお、参照物等の持ち込みは不可とする。

再試験および追試験も、定期試験と同様の様式で出題する。なお、再試験に関してのみ、平常点が 20 点未満である者は再試験で 40 点以上に達することを到達目標の達成とみなし、合格とする。平常点が 20 点以上である者は、平常点と再試験の評価の合計得点が 60 点以上に達することを到達目標の達成とみなし、合格とする。

事前・事後学習について

授業内で初めて知った現象、理論、用語などについては、授業後に自分で調べて意味や内容を確認すること。これは、単に授業内で学修した情報を繰り返し経験するだけでなく、何度も見直すことで新しい知見や関連する情報を発見し、情報間の結びつきを強め、知識の統合を促すためのものである。授業内容を十分に理解してから次の授業に出席されることを推奨する。

なお、その復習方法の詳細については、授業内で紹介する。こうした事後学習の目標は、それらについて暗記した内容を記述できるという水準を超えて、自らの知識となった内容を言葉にして表現できるという水準に達することである。

教科書・参考文献等

特定の文献を教科書としては使用しない。各授業で用いるスライド資料は、授業前にポータルを通じて配布する。各回の参考文献として推奨できるものがあれば、授業の中で紹介する。

なお、教科書ではなく、履修生の興味を深めるための行動科学に関連する図書として以下を紹介する。

- 1) 日本行動医学会（編）（2023）．行動医学テキスト 第2版 中外医学社
（ISBN978-4-498-04829-4）
- 2) 島宗 理（2019）．応用行動分析学 ヒューマンサービスを改善する行動科学 新曜社
（ISBN978-4-7885-1622-9）
- 3) 松野 航大・嶋 大樹・原 真太郎（2024）．すいすい学べる認知行動療法 行動療法の基本と認知療法、マインドフルネス ナカニシヤ出版 （ISBN978-4-7795-1785-3）
- 4) 山口 裕幸（編著）（2024）．チーム・ダイナミックスの行動科学 組織の生産性・安全性・創造性を高める鍵はどこにあるのか ナカニシヤ出版 （ISBN978-4-7795-7159-4）
- 5) 畑 栄一・土井 由利子（編）（2009）．行動科学 健康づくりのための理論と応用 改訂第2版 南江堂 （ISBN978-4-524-25311-1）
- 6) Fadem, B. (2012). Behavioral science in medicine 2nd edition. Lippincott Williams & Wilkins. （ISBN978-1-6091-3664-2）

オフィス・アワー

村上 嵩至（むらかみ たかし）

メールアドレス：takashim(at)koto.kpu-m.ac.jp

所属：教育センター（河原町キャンパス 臨床医学学舎7階）

曜日・時間帯：金曜日・9：30～17：00

備考：別の時間帯を希望される場合、個別指導または面談を希望される場合には事前にメールで予約してください。

学生へのメッセージ

1年生の頃に「行動科学」を履修されていた方もいらっしゃると思いますが、「行動科学」を初めて学ばれる方も多くいらっしゃいます。そのため、今年度の「行動科学応用」は、その実践を目指しつつも基礎的内容から授業を進めていきます。すでに学ばれた方にとっては一部退屈に思えてしまうかもしれませんが、復習だと思って学びを深めてほしいと思います。3年前には選択科目であった「行動科学」がなぜ必修科目となったのか。それを皆さんが学び取れるように努めます。

授業日程

回数	日付	曜日	時限	内容	担当教員
1	2025/4/10	木	4	行動分析の基礎理論	村上 嵩至
2	2025/4/10	木	5	応用行動分析	村上 嵩至
3	2025/4/17	木	4	行動変容の諸理論	村上 嵩至
4	2025/4/17	木	5	行動変容の支援法	村上 嵩至
5	2025/4/22	火	3	感情とストレスの理論	村上 嵩至

6	2025/4/22	火	4	認知行動療法	村上 嵩至
7	2025/5/22	木	4	説明と理解	村上 嵩至
8	2025/5/22	木	5	コミュニケーションの行動科学	村上 嵩至

科目名	医療倫理学 (100010)			
科目責任者	瀬戸山 晃一			
単位数	1. 5	必修・選択区分	必修	
開講時期・学年	集中講義・5 学年	授業形態	講義	

教育の目的と方針

本科目は、医学教育モデルコアカリキュラム及び本学のディプロマポリシー並びにカリキュラムポリシーにある「プロフェッショナリズム」すなわち生命及び人間の尊厳を重んじ、豊かな人間性と創造性を培いながら(中略)高い倫理観と問題解決能力を有し、チームの中での役割を見出し医療に取り組める能力を身につける教育の根幹と基盤となる必修科目である。

皆さんは将来医師として臨床の現場で様々な倫理的な諸問題に直面することが不可避である。現在の医療現場では、多職種による倫理カンファレンスが急速に普及しつつある。そのような現状を踏まえて臨床倫理学会が 2012 年に設立され、臨床現場の医師や看護師などの医療従事者を中心とした学会員は、現在 2000 名以上に急速に増えてきている。「臨床倫理」は、医療実践の本質的な要素であるとの認識が広まりつつある。臨床における医療倫理的諸問題は、医療倫理の諸原則が相互に対立する倫理的ジレンマをはらんでいる場合がほとんどである。そこでは、明確で唯一絶対正しい答えが存在しないことが通例である。目の前にある事例が有する倫理的ジレンマに気づくことから始まり、それらを多様な視点から同僚医師や看護師その他の医療スタッフと共に向き合い考え、個別事例において患者本人とご家族にとって望ましい意思決定支援の在り方を模索していかねばならない。そのためには、倫理的ジレンマを同定する感受性の感度を高めておくとともに、チームで対話(議論)しながら倫理的価値観の対立する問題に対して考えていく知的忍耐力と実践的コミュニケーション能力が求められる。すなわち、知識の暗記では対応できない倫理的認知能力(感受性)と実践的な対応能力を養っていく必要がある。このような観点から本授業では、受講生の皆さんが、倫理的感受性とそれを行動に移し実践できる知的態度を涵養する「生きた教養＝高度教養教育」を目的としている。

また、臨床医においても治験や臨床研究に将来携わることが多くなっている。研究指針改定と臨床研究法制定の主要要因となった研究不正事案であるディオバン事件の歴史を背負っている本学において、本学で学ぶ受講生は、研究不正が生じる原因や構造について理解し、不正を予防するための環境整備や、研究者個々人が有すべきプロフェッショナルな意識と規範遵守の態度の涵養が強く求められている。そのため本授業では、受講生は人を対象とした臨床研究における研究倫理の問題にも焦点を当て、研究公正における研究者マインドに必要な「志向倫理」的な態度の涵養の重要性について受講生に認識を深める。授業では受講生が臨床倫理の方法論などの臨床倫理の諸問題に向き合い取り組む上で必要になる知的枠組みについて理解し実践してもらう。

また学外の臨床倫理や研究倫理の専門家の先生を招聘し、講義と事例検討のワークを行います。臨床倫理で問題となる具体的な事例について、グループでの他の受講生との意見交換やディスカッションを行うことで、価値観が異なる他者の意見やその根拠に真剣に耳を傾け、自らの見解や考えを反省的に捉え相対化できる柔軟で多角的な思考マインドを養う。グループでの事例検討の発表も行ってもらおう。

到達目標

本授業では、将来、医師として医療に携わり、また医学研究者として臨床研究等に関わる諸君が本音と建前を分けることなく、なぜ今、医療現場や臨床研究において臨床倫理や研究倫理が問われているのか、そして患者さんやご家族、そして臨床研究の被験者の人権保護や自律の尊重ならびに倫理的配慮や意思決定支援がなぜ大切であるのかについて真剣に考え理解できる知的基盤の構築を目指します。これらの教育の狙いを達成するために、本授業では必要な背景的知識の提供や倫理的論点を明確にするための解説を行う。そして ZOOM のブレイクアウト機能を活用し、受講生をグループに分けて具体的な臨床倫理の事例について意見交換や議論をする参加型の授業形態を取入れる。受講生の積極的な授業参加とアクティブ・ラーニングが求められる。グループ・ディスカッションでは、臨床倫理や臨床研究の具体的な諸問題を取上げ、異なる価値観を有する他者である患者本人やご家族、被験者などの当事者の気持ちを推論し共感できる実践能力、個人的な価値観を押し付けることなく全人的医療をチームで提供できる能力の涵養、そして公正な研究に従事できる志向倫理的な態度を養成することを到達目標とします。具体的には、以下の知的能力を養うことを到達目標とします。具体的には、以下の知的能力を養うことを到達目標とします。

1. 医師や医学研究者として医療倫理や臨床倫理を学ぶ意義（重要性）を理解し、それを言語化して説明できる。
2. 医療人としてのプロフェッショナリズムの意味を理解し、倫理観をもって全人的な医療を実践できる。
3. 臨床倫理問題に気づき、倫理的感受性や患者や家族への共感性の必要性を理解し説明できる。
4. 現代医療の臨床上の倫理的問題について医療倫理の基本原則の観点から理解し説明できる。
5. 患者の自己決定権を尊重しなければならない理由を具体的な例を挙げながら説明できる。
6. 遺伝情報を知る権利と「知らないでいる権利」の重要性を理解し説明できる。
7. パターナリズムの概念定義を正確に理解し、医療における自律とパターナリズムの関係を適切に理解し説明できる。
8. 患者やご家族の意思決定支援のためにリバタリアン・パターナリズムが提唱するナッジの医療における重要性を理解し説明できる。
9. 国際的でグローバルな視点から多角的に現代医療における様々な生命医科学技術の発展に伴う倫理的法的社会的諸課題（ELSI）を捉え、それを考察し説明できる。
10. アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の重要性と意義を理解し説明できる。
11. 多様な価値観を有する個々の患者さんやご家族等へのケアや意思決定支援の在り方を主体的に考え説明できる。
12. 医療倫理の具体的諸問題の是非や諸論点について他の医学科生とともに意見交換し、自分の意見を述べるができる。
13. 授業で扱う臨床倫理の諸問題に対する問題意識を深めるのみならず臨床倫理の方法論である 4 分割法その他を使って事例を分析し活用できる。
14. 本学が当事者となったディオバン事案の概要とそれが生じた原因について理解し説明できるとともに研究不正や不適切な研究活動が生じる諸要因（原因）を理解し、その後に制定された臨床研究法の内容を理解し、それらが生じないようにするための制度や方法について説明できる。
15. 予防倫理の限界と志向倫理の重要性について理解し説明できる。
16. 医学研究における利益相反（COI）の概念を理解し、そのマネジメントの意義（必要性）と限界を理解し説明できる。
17. ガイドライン（指針）と法的規制の違いを理解し、法規制の意義と限界や副作用について理解し説明できる。
18. 遺伝情報の非医学的利用の場面と遺伝情報のプライバシー保護の必要性について理解し説明で

きる。

19. 差別、特に遺伝子差別が生じる発生機序について説明できる。

20. 遺伝子差別禁止法の副作用（問題性）について理解し説明できる。

成績評価方法および基準

成績評価は、平常点と筆記試験等を総合的に判断して行う。

1 平常点（50％）：毎回の出欠確認並びに課題である授業フィードバック・コメントの提出を合わせて出席確認とする。遅刻や早退の時間の合計が45分以上の場合には1回分の欠席としてカウントする。病気その他のやむをえない事情は、個別に相談すること。

授業開始時刻10分以上遅刻の場合や終了時刻10分以前の退出は出席と見なされない。

毎回提出フィードバック・コメントの内容は評価対象とし、授業中の私語や内職や居眠りや正当な理由なくZOOM画面のオフなどは減点の対象とする。

2 筆記試験（50％）：試験は、論述試験で全て参照物不可とし、毎回の授業に積極的に参加していなければ論述が難しい設問とする予定である。

3 単位取得のために必要な60点以上の合格基準は、平常点と筆記試験を合算し、上記の到達目標での各項目の知識や知的洞察や能力を最低限必要なレベルまで理解し説明（言語化）できることを要する。

事前・事後学習について

初回授業には、必ずシラバスをしっかりと読んで授業に臨んでください。次回の授業内容に該当するテキストの章や配布資料に目を通して頂くこと。フィードバック・コメントシートに毎回授業の出席を通し新たに得た知見や洞察を記入し、質問事項があれば記入して提出すること。次回授業では、はじめにそれらの質問の主なものに答えるとともに、必要に応じて補足のコメント等を行う。

教科書・参考文献等

【必携テキスト】宮坂道夫『原則と対話で解決に導く医療倫理学』（医学書院 2024 年 ISBN 978-4-260-05757-8、3,190 円（本体 2,900 円+税））

【参考文献】箕岡真子『臨床倫理入門～ケースから学ぶ臨床倫理～』（日本臨床倫理会編集、へるす出版 2017 年）、箕岡真子『エンド・オブ・ライフケアの臨床倫理』（日総研出版、2020 年）、宮坂道夫『医療倫理学の方法：原則・ナラティブ・手順（3 版）』（医学書院 2016 年）、清水哲郎・会田薫子・田代志門編『臨床倫理の考え方と実践』（東京大学出版会 2022 年）、その他の参考文献等は講義中に紹介し、参考資料は適宜配布する。

オフィス・アワー

授業に関する質問などは、毎回提出するフィードバック・コメントシートに記入し提出すること。また個別に授業関連の指導を受けたい場合には、授業の際に周知する教員のメールアドレスにアポイントメントの予約のメールを送り調整の上で個別に対応する。大学管理職で会議や委員会が多いため、特定の曜日・時間帯の設定はできない。

学生へのメッセージ

障害や持病など、健康上の理由などにより授業において配慮が必要な場合には、事前に連絡を取り相談すること。

ZOOM で授業参加中は、カメラをオンにして、マイクをミュートに設定し、出欠確認のためチャット機能で授業の初めと終わりに氏名と番号を入力し送信すること。移動中の授業参加は認めない。ネット環境の整備をしておくこと。

授業日程					
回数	日付	曜日	時限	内容	担当教員
1	2025/10/17	金	2	医療倫理の基本原則と自由制約の四原理（パターンナリズム）（対面下鴨）	瀬戸山 晃一
2	2025/10/17	金	3	事例検討：医療情報の開示と予後告知、胃瘻の事例（対面下鴨）	瀬戸山 晃一
3	2025/10/20	月	1	臨床倫理の方法論：4 分割法、ナラティブ・アプローチ他（zoom）	瀬戸山 晃一
4	2025/10/20	月	2	患者の意思決定支援とアドバンスケア・プランニング（ACP）（zoom）	瀬戸山 晃一
5	2025/10/21	火	3	臨床倫理と 4 分割法（zoom）（ゲスト教授①）	瀬戸山 晃一 / 平山陽示
6	2025/10/21	火	4	宗教上の信条による輸血拒否グループによる事例検討と発表（zoom）（ゲスト教授①）	瀬戸山 晃一 / 平山陽示
7	2025/10/23	木	1	遺伝情報のプライバシーと遺伝子差別（zoom）	瀬戸山 晃一
8	2025/10/23	木	2	医学研究不正と研究倫理：不正のトライアングル・利益相反（zoom）	瀬戸山 晃一
9	2025/10/24	金	1	グループでの事例検討と発表（ゲスト教授②）（zoom）	瀬戸山 晃一 / 片倉啓雄
10	2025/10/24	金	2	プロフェッショナリズムと研究倫理（ゲスト教授②）（zoom）	瀬戸山 晃一 / 片倉啓雄
11	2025/11/7	金	2	受講生の質問へのフィードバック（zoom）	瀬戸山 晃一
12	2025/11/7	金	3	授業全体の振り返りとまとめと筆記試験について（zoom）	瀬戸山 晃一
補講	2025/11/14	金	1	休講があった場合（zoom）	瀬戸山 晃一
補講	2025/11/14	金	2	休講があった場合（zoom）	瀬戸山 晃一

科目名	医史学（100126） 		
科目責任者	八木 聖弥		
単位数	1. 3	必修・選択区分	選択
開講時期・学年	前期・1 学年	授業形態	講義

教育の目的と方針

本講義では、日本古代～近代医学の歴史をテーマとする。各時代を特徴づける医学理論だけでなく、制度や思想などについても考察する。人々がどのように疾病と関わってきたかをたどることによって、受講生は医療の普遍的な理念や死生観・疾病観を学修する。また本学の前身・京都療病院に関する歴史についても理解を深め、医療人としてのアイデンティティを身につける。

到達目標

- 1 医学理論および思想の変遷を論理的に説明できる。
- 2 医療の普遍的な理念を説明できる。
- 3 日本人の死生観・疾病観を説明できる。
- 4 本学初代外国人医師ヨンケルの功績を説明できる。

成績評価方法および基準

定期試験（90％）および平常点（10％）をもとに評価する。定期試験は論述形式で出題し、講義内容の理解度および発展性、論理的思考力、文字の丁寧さなどで評価する。平常点は講義への参加態度で評価する。両者の合計が 60％以上で合格とする。単位取得のための基準は、上記到達目標を最低限度達成していることを要する。

事前・事後学習について

事前に配布資料を参照するとともに、参考文献も読んでおくこと。事後には講義内容を自分のことばでまとめ、さらに発展的課題に取り組む努力をすること。講義期間を通じて教科書を熟読し、内容の理解に努めること。

教科書・参考文献等

教科書：ヨンケル著『瑞穂草－京都療病院初代外国人医師の日本文化論－』（文理閣、2022 年、本体 3,500 円、ISBN：978-4-89259-929-3）

参考文献：別途資料を配布する。

オフィス・アワー

講義終了時に対応する。

学生へのメッセージ

歴史は単に過去を振り返るだけでなく、未来への指針ともなる。先人の功績に触れることによって、謙虚な姿勢を身につけ人格の涵養に努めてもらいたい。講義中、無断で出入することは禁止する。

授業日程					
回数	日付	曜日	時限	内容	担当教員
1	2025/4/9	水	1	医学史概観	八木 聖弥
2	2025/4/16	水	1	医療制度（典薬寮、医疾令など）	八木 聖弥
3	2025/4/23	水	1	医心方（系譜、内容など）	八木 聖弥
4	2025/5/7	水	1	医療の庶民化（頓医抄、宋医学、開業医など）	八木 聖弥
5	2025/5/14	水	1	李朱医学（金元医学、曲直瀬道三など）	八木 聖弥
6	2025/5/21	水	1	古方派（名古屋玄医、後藤艮山など）	八木 聖弥
7	2025/5/28	水	1	蘭学の受容（蘭書の輸入、山脇東洋など）	八木 聖弥
8	2025/6/11	水	1	蘭学の展開（解体新書など）	八木 聖弥
9	2025/6/18	水	1	栗田口解剖所（所在地、意義など）	八木 聖弥
10	2025/6/25	水	1	ヨンケルの日本文化論（診療、教育、研究など）	八木 聖弥

科目名	医療経済学		
科目責任者	高山 一夫		
単位数	1. 3	必修・選択区分	選択
開講時期・学年	前期・1 学年	授業形態	講義

教育の目的と方針

現代の医療は、人の健康と生命の質（QOL）に関わる不可欠の活動であるとともに、税・社会保険料に基づく財源調達と診療報酬体系を通じた資源配分を柱とする医療制度が重要な役割を担っています。また、限られた資源を有効に活用する観点から、医薬品をはじめとする医療分野の経済評価も注目されます。医療従事者は、経済社会と医療との関わりを十分に理解したうえで、医療制度を活用し、地域に貢献することが求められます。

この講義では受講生は、医療経済学の概念と知見を用いながら、経済社会との関わりで医療を理解し、議論する素地を培います。授業中にグループワークやディスカッションなどを適宜行い、受講生の積極的な学習を進めます。受講生は授業内容に関する最新の報道や統計についても、関心をもって情報収集します。

到達目標

1. 健康と医療に関わる問題について、医療経済学の基礎概念を用いて説明できる。
2. 医療の経済評価の考え方を理解し、適用する際の留意点について説明できる。
3. 国内外における最新の医療経済・政策動向に関心を持ち、討議することができる。

成績評価方法および基準

平常点評価（40%）、定期試験（60%）とし、これらの評価の合計得点が 60 点以上の場合に合格とし、その得点を本科目の評価とします。

平常点は、授業中の質疑応答や討論への参加、コメント・シートの作成、などに示される学習への積極的参加により、評価します。授業への参加については、担当教員が確認するとともに、グループワークを行った場合には、その内容をコメント・シートに記載してもらいます。各回の授業後に回収するコメント・シートは、授業内容をよく理解し、かつ独自に考察がなされているものを高く評価し、単なる感想や理解が伴わないものは低く評価します。授業内容と関連のないものは 0 点とする場合もあります。平常点の上限は 40% です。

定期試験は、医療経済学の基礎概念の理解を問う短答式の問題と、総合的な理解と論考力を問う論述形式の問題とにより、評価します。この試験において少なくとも 1/3 の得点（20 点）に達しない受講生は、到達目標を達成できていないと判断し不合格となります。

事前・事後学習について

授業内容に関わる教材を配布しますので、授業前後に読み、わからない個所などは自分で調べることが求められます。授業後にどうしてもわからない個所などがあれば、担当教員に質問してください。また、日常的に、医療経済や医療政策に関わる国内外の最新報道をチェックすることが望ましいです。

教科書・参考文献等

教科書は指定しませんが、授業中に配布する教材や資料をしっかりと活用してください。各回の

参考文献として推奨できるものがあれば、授業中に紹介します。

履修生の興味を深め、授業の理解を助けるための関連図書として、以下の文献を紹介します。

- B. マックペイク他『国際的視点から学ぶ医療経済学入門』東京大学出版会。
- 権丈善一・権丈英子『もっと気になる社会保障』勁草書房。
- 島崎謙治『日本の医療』東京大学出版会。
- 高山一夫『現代アメリカ医療政策の展開』法律文化社。
- 津川友介『世界一わかりやすい「医療政策」の教科書』医学書院。
- 二本立『医療経済・政策学の探求』勁草書房。
- The Commonwealth Fund、International Health Care System Profiles（英国、米国、ドイツなどの医療制度についての体系的な概観、以下のULRで閲覧可能）。

<https://www.commonwealthfund.org/international-health-policy-center/countries>

オフィス・アワー

高山 一夫（たかやま かずお）

連絡先メールアドレスは授業中に周知します。

所属・職位：京都橘大学経済学部・教授

連絡方法：質問等がある方は、まずは電子メールにて連絡してください。

学生へのメッセージ

講義を中心としつつ、各回の授業中にできるだけグループワークやディスカッションの時間を設けたいと思います。また、医療経済や医療政策の動向に日常的に関心を持つとともに、新しい報道や統計をチェックするために、PCやタブレットを持参することも推奨します。受講生相互で交流するなど、積極的な授業参加も期待します。

リラックスして受講していただいても構いませんが、大幅な遅刻や講義中の私語、授業とは無関係なPCやタブレットの操作等、授業中の規律を乱すような行為に対しては、厳しく注意し、なお態度が改まらない場合には退室を命じることもあります。

授業日程

回数	日付	曜日	時限	内容	担当教員
1	2025/4/11	金	1	経済学の基本概念と医療経済学の全体像(市場、市場の失敗、政府、効率と衡平、制度派経済学)	高山 一夫
2	2025/4/18	金	1	医療需要の経済理論①(効用と無差別曲線、需要曲線、弾力性)	高山 一夫
3	2025/4/25	金	1	医療需要の経済理論②(代理関係、供給者誘発需要)	高山 一夫
4	2025/5/9	金	1	医療保険の経済理論①(不確実性と医療保険、逆選択とモラルハザード、民間保険と社会保険)	高山 一夫
5	2025/5/16	金	1	医療保険の経済理論②(患者負担とランド研究、医療保険制度の国際比較、アメリカの医療改革)	高山 一夫
6	2025/5/23	金	1	医療供給の経済理論①(生産関数、費用関数、供給曲線、規模の経済と範囲の経済、技術進歩)	高山 一夫
7	2025/5/30	金	1	医療供給の経済理論②(独占と非営利モデル、病院の行動モデル、地域医療計画)	高山 一夫

8	2025/6/13	金	1	医療政策と経済理論(市場の失敗、政府規制とその根拠、新型コロナ・パンデミックへの政策対応)	高山 一夫
9	2025/6/20	金	1	医療の経済評価①(経済評価の理論的基礎と全体像、費用と成果の測定、政策適応をめぐる問題点)	高山 一夫
10	2025/6/27	金	1	医療の経済評価②(医薬品の経済評価、薬価制度への活用、アメリカの薬価交渉制度)	高山 一夫

科目名	経営学（100124）		
科目責任者	大竹 恵子		
単位数	1. 3	必修・選択区分	選択
開講時期・学年	前期・1 学年	授業形態	講義

教育の目的と方針

経営学とは、企業などの組織におけるマネジメントに関する学問である。現代社会は多くの組織によって成り立っており、ほとんどの人が組織の中で行動する機会を持つ。組織は、変動する社会の中で存続していくために、様々な特性や構造を備えて、環境への適応を行っている。近年では、医療組織においても、有効なマネジメントの必要性が強く認識されるようになってきている。組織を有効に経営していくためには、組織のそのような特徴を知り、外部環境に有効に適応するための戦略について学び、組織の中で人をマネジメントする際の理論的背景などについて理解することが必要である。

本科目では、経営学の分野の中でも、経営戦略論や経営組織論の内容を中心に、組織をマネジメントしていくための基礎的知識に関して、受講生が理解を深めることを目的とする。講義内容を応用的に理解するため、受講生のシンキング・タイムやディスカッション・タイムを設けて、意見交換などを行うこともある。

到達目標

- （１）組織の構造や特性、組織における戦略、組織の中の個人の行動などに関する基本的な概念や理論について理解した上で、自分の言葉で説明できる。
- （２）学んだ知識を応用して、実際の組織（医療組織や企業）に関する事象や問題について分析し、論理的に説明できる。

成績評価方法および基準

下記２項目の合計得点が 60 点以上（100 点満点中）の場合に合格とする。

- （１）授業中課題（40％）

■授業時間中に、講義内容の理解を必要とする課題に取り組む。

■毎回ではなく、ランダムな授業回に実施する。

- （２）定期試験（60％）

■授業全体の内容理解を問う筆記試験を実施する。

事前・事後学習について

【事前学習】

シラバスに目を通すこと。事前配布資料がある場合は、読んでおくこと。

【事後学習】

授業で配布したレジュメを基に、講義内容について整理すること。

教科書・参考文献等

■教科書は指定しない。授業時にレジュメを配布する。

■参考文献に関しては、授業中に適宜紹介する。

オフィス・アワー

質問等は、各授業回終了時に受け付ける。

学生へのメッセージ

【履修上の注意事項】

- 到達目標の達成には、毎回の授業の受講が不可欠である。
- 授業中は積極的にメモを取り、授業内容に関して自分の頭で考えながら受講すること。
- ディスカッション等以外での授業中の私語は厳禁とし、退室を求めることもある。

【学修上のアドバイス】

- 授業で学んだ概念や理論に関して、身近な事例や実際の組織における事象をどのようにあてはめることができるのか、意識的に考えること。
- 日頃から、「組織」に関連するニュースなどに目を向けること。

授業日程

回数	日付	曜日	時 限	内容	担当教員
1	2025/4/11	金	1	イントロダクション：経営学とは	大竹 恵子
2	2025/4/18	金	1	組織の定義と組織均衡論	大竹 恵子
3	2025/4/25	金	1	組織の戦略的選択，環境不確実性	大竹 恵子
4	2025/5/9	金	1	組織構造と組織デザイン①：組織構造，官僚制組織，組織サイズ	大竹 恵子
5	2025/5/16	金	1	組織構造と組織デザイン②：組織のライフサイクル	大竹 恵子
6	2025/5/23	金	1	組織風土と組織文化	大竹 恵子
7	2025/5/30	金	1	組織の中の「個人」①：ワーク・モチベーション	大竹 恵子
8	2025/6/13	金	1	組織の中の「個人」②：職務満足，組織コミットメント	大竹 恵子
9	2025/6/20	金	1	組織とリーダーシップ	大竹 恵子
10	2025/6/27	金	1	振り返りとまとめ：医療組織における経営学	大竹 恵子

科目名	医療と法（100125）		
科目責任者	鵜飼 万貴子		
単位数	1. 3	必修・選択区分	選択
開講時期・学年	前期・1 学年	授業形態	講義

教育の目的と方針

法律の条文を杓子定規に適用するのではなく、条文や法的解釈の基礎となる法的な思考方法を身につけ、将来の法的問題にも対応可能とすることを本講義の教育目的とする。

また法的紛争には必ず相手が存在するため、受講生はその相手の考え方、法的根拠の有無等を認識できるようになり、多角的な視点からの検討が可能になることを培う。

上記を踏まえ、受講生はまずは、基礎的な法律的知識により一般的な法の考え方を、更には医師特有の法的義務、医療制度における法的情報を把握できるようにする。また現実の医事紛争を元に、どのように患者の人権を保護していくか、また一言「患者の人権」といっても、何が当該患者にとって最もよい医療なのか、学生1人1人が問題を検討し、実践的に考えられる知識・技能を身につけるよう、発言もされたい。

授業は講師からの話が中心となるが、講義中又は質問票を用いて学生と対話・質疑応答しながら進める。

到達目標

- ・ 患者の自己決定権の意義を説明できる。
- ・ 医師の法的義務を列挙し、例示できる。
- ・ 患者のプライバシーに配慮できる。
- ・ 患者情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。
- ・ 医療現場における報告・連絡・相談と記録の重要性や、診療録（カルテ）改竄の違法性を説明できる。
- ・ 医療上の事故等（インシデントを含む）が発生したときの緊急処置や記録、報告を説明し、実践できる。
- ・ 医療過誤に関連した刑事・民事責任や医師法に基づく行政処分を説明できる。

成績評価方法および基準

原則として、平常点（約 20%）、定期試験（約 80%）とする。

平常点は、授業態度、授業の場での発言、授業後の回収用紙（授業ごとの感想、質問への回答等）等を参考にする。

定期試験は、授業で取り上げた法的用語、基本的な解釈の理解を問う問題を中心とする。また、それらを応用して、新規の裁判例についての基本的理解を問う問題を出す場合もある。

上記平常点と定期試験との割合は、定期試験の平均点に鑑み若干変更される可能性はあるので留意されたい。これら評価の合計が 60%に満たない者は不可とする。

定期試験が不可の者は再試験を受けることが可能である。再試験は基本的な法適用後及び法解釈を前提としたレポートを予定している。第三者の回答を見ながらのレポート作成（たとえば再試者間で協議し類似回答を提出すること）は不正とみなし不合格とするので厳に慎まれたい。

事前・事後学習について

現時点では特段の事前学習は予定していないが、その前の授業で、特に検討しておいて欲しいことを要請した場合は、その準備をすること。

また授業内で話したことは理解したものと考えるので、疑問があれば、授業終了毎に予定している授業アンケート内で質問等を行い、適宜解消に努められたい。アンケートに書かれた質問等

については、可能な限り次回授業で説明する予定である。
教科書・参考文献等
授業に用いるスライドは授業前にポータルを通じて配布予定である。なお授業の進行上、投影時には追加のスライドを付することがある（質問に対する回答のページや、時事的な報道等）。 教科書としては使用しないものの、以下、参考文献を上げる。 ・ 医事法判例百選 第3版 (別冊ジュリスト 258) (有斐閣) ・ 医療法学入門 第3版 単行本 大磯 義一郎 (著) (医学書院)
オフィス・アワー
メールをいただければ、授業後以外にも質問・相談は受け付ける。 メールアドレス 授業の際に周知する
学生へのメッセージ
法律は改正されたり、判例も新しい判決が出て今まで通用していた判例が変更となることもあり、その根底に流れる考え方には一貫するものがあります。 この講義では、実際の裁判例や昨今のニュース等を検討しながら、その根底に流れる法的なものの考え方、特に医師になった場合に注意すべき法解釈を学んでいただき、医師になったときにも活用できる力を付けていただきたいと思います。

授業日程					
回数	日付	曜日	時限	内容	担当教員
1	2025/4/9	水	1	イントロダクション（医療に法が関連する具体的な場面について）	鵜飼万貴子
2	2025/4/16	水	1	医療に法が関係する全体像	鵜飼万貴子
3	2025/4/23	水	1	医療に刑事事件・行政事件について	鵜飼万貴子
4	2025/5/7	水	1	医療に刑事事件・行政事件について	鵜飼万貴子
5	2025/5/14	水	1	医療に民事事件が関係する場合	鵜飼万貴子
6	2025/5/21	水	1	医療に民事事件が関係する場合	鵜飼万貴子
7	2025/5/28	水	1	医療に民事事件が関係する場合	鵜飼万貴子
8	2025/6/11	水	1	医療に民事事件が関係する場合	鵜飼万貴子
9	2025/6/18	水	1	医療に民事事件が関係する場合	鵜飼万貴子
10	2025/6/25	水	1	最終授業 全体の復習	鵜飼万貴子

・5/14～6/18の間に、医療過誤にあわれた被害者家族及び患者側代理人弁護士としてのお話（ゲストスピーカー）

*授業理解度等により、変更の可能性あり

科目名	医療と社会（三大学共同化科目）（900090）		
科目責任者	笠井 敬太		
単位数	2	必修・選択区分	選択
開講時期・学年	前期・1 学年	授業形態	講義

教育の目的と方針

本科目は三大学教養教育共同化科目として開講される。この講義では、受講生は医療社会学の概念や考え方を学ぶことを通して、医療や医療にまつわる問題を社会学の視点から捉えることを目的とする。前半の講義では、医療社会学の重要な概念を様々な事例とともに理解する。後半の講義では、受講生は前半の講義で身につけた医療社会学の視点を踏まえ、現代社会における医療にまつわる問題の構造や背景について学ぶ。

到達目標

1. 講義を通して身につけた医療社会学の知識をもとに自ら思考し、社会学の視点から医療にまつわる事柄を捉えることができる。
2. 受講者は、医療社会学の思考法を自らの直面する課題に取り組むことができる。
3. 医療社会学の視点や思考法を今後の社会生活に役立てることができる。
4. 医療行為の対象となる人間の社会生活について考えることができる。
5. 現代社会におけるさまざまな事象・現象を医療との関連から捉えることができる。

成績評価方法および基準

1. 平常点（30%）

毎回、出席表を用いて出席確認を行なう。出席票を通して講義の感想や質問を収集し、理解度を図る（各回 2 点）。障碍や健康上の理由など、やむをえない事情によって以上の条件を満たせない場合は個別に相談すること。授業開始から 20 分以上の遅刻、終了時刻 20 分以前の退席は出席とみなさない。なお、授業中の私語、居眠り、授業内容に関係のない作業は減点対象である。

2. ミニテスト（20%）

講義内容に基づいた質問をコメントシートにて回答してもらおう。詳細については、授業中に指定する。

3. 期末レポート（50%）

テーマについては授業中に指定するが、前もって報道等を通じて様々な医療問題に親しんでおいてほしい。

各項目の合計が 60%以上の場合に合格とし、その得点をこの科目の評価とする。

合格基準の 60 点は、上記到達目標を最低限度達成していることとする。

事前・事後学習について

授業で紹介する内容をよりよく理解するために、事前に配布する授業資料を熟読し、内容について疑問点などを調べておくこと。また授業中に生じた疑問点や関心を抱いた内容については、授業後

に各自で調べて解決しておく。独力で解決できない場合には要点をまとめたうえで担当教員にメールにて質問することを推奨する。

教科書・参考文献等

教科書は使用しない。参考文献等については適宜紹介する。

授業全体を通して理解を深めるための参考文献としては、中川輝彦・黒田浩一郎 編著『よくわかる医療社会学（やわらかアカデミズム・わかるシリーズ）』を推奨する。期末レポート作成にも役立つ内容となっている。

オフィス・アワー

質問などに対しては、メールで受け付ける（メールアドレスは授業中にこちらから指定する）。対面でのやりとりによって、授業に関連する内容の指導を希望する場合、授業時間の前後で対応する。

学生へのメッセージ

日常生活の中でも積極的に医療問題に対してのアンテナを立て、積極的に情報収集を行ってほしい。

期末レポート作成に向けて知見を深めるため、遅刻・欠席はなるべくしないこと。

障害や健康上の理由などにより授業において配慮が必要な場合には迅速に相談すること。

授業日程

回数	日付	曜日	時限	内容	担当教員
1	2025/4/14 オンデマンド	月	4	オリエンテーション	笠井 敬太
2	2025/4/21	月	4	意味付けとしての病	笠井 敬太
3	2025/4/28	月	4	病人役割・病気行動	笠井 敬太
4	2025/5/12	月	4	医療化論	笠井 敬太
5	2025/5/19	月	4	医療技術と倫理	笠井 敬太
6	2025/5/26	月	4	医師—患者関係	笠井 敬太
7	2025/6/2	月	4	患者会と患者運動	笠井 敬太
8	2025/6/9	月	4	マイノリティと代表性	笠井 敬太
9	2025/6/16	月	4	現代における健康	笠井 敬太
10	2025/6/23	月	4	若者のメンタルヘルスと生きづらさ	笠井 敬太
11	2025/6/30	月	4	家族の中での病の経験	笠井 敬太
12	2025/7/7	月	4	社会における障害	笠井 敬太
13	2025/7/14	月	4	死の社会学	笠井 敬太
14	2025/7/28	月	4	全体のまとめ	笠井 敬太
15	オンデマンド			感染症と社会	笠井 敬太

前半（1～7回）では、医療社会学の重要概念について、理論と具体例を交えながら講義を行う。

後半（8～15回）では、医療にまつわる様々な問題を、その背後にある社会構造を踏まえて考えることを試みる。

科目名	現代医療の人間観（三大学共同化科目）（900091）		
科目責任者	杉岡 良彦		
単位数	2	必修・選択区分	選択
開講時期・学年	後期・1 学年	授業形態	講義

教育の目的と方針

医学や医療というと、医師や看護師をはじめとする専門職だけの特別な学問や実践であると考えられる傾向がある。しかし、病院やクリニックを受診したことのない人は日本ではほぼいないように、医学や医療はすべての人に身近な学問であり、本来そうあるべきものである。

この講義では、医学・医療の根底にそれを支える人間観があり、それによって具体的に医学そのものが大きく変化することを理解することを目的とする。こうした理解は医学生や看護学生だけではなく、広くあらゆる学部の学生にも重要であり、医学の人間観については、さまざまな学問分野から批判的に考察すべき問題である。よって、医学科以外の学生が多く受講してくれることを期待している。本講義では、現代医学を生んだ西洋の哲学的思想背景についても論じながら、医学・医療の前提となる人間観に注目し、分子生物学や EBM という科学的方法との関係を考える。さらに、精神科医である V. フランクルの人間観を取り上げながら、病に苦しむ患者さんに医学・医療は何ができるのか、できないのかを考える。また、進化論的観点から人間とは何かを考え、共生や自立、生きる意味の問題なども論じる。特に、脳科学をはじめとする科学的観点に基づいた人間観を具体的に紹介し、それらの論文を取り上げながら、科学と哲学が交差する医学の面白さを伝え、現代医療の人間観について受講生がより幅広い観点から説明できることを目指す。医学という学問が、単なる科学の応用ではなく、哲学、倫理学、社会学など、様々な学問領域に開かれた学問であることを、人間観に注目しながら理解できることを目指す。

授業はテキストやスライドを用いながら講義形式で行うが、できるだけグループ・ディスカッションを取り入れ、受講生は他の学生の考えを理解すると同時に、自らの考えをわかりやすく伝える能力を養う。また毎回記入して提出する受講生のレポートにも応えながら、学生と教員間の双方向的なやり取りをふまえ、より深い講義内容の理解を目指す。

到達目標

1. 医学・医療の基礎には、さまざまな人間観があることを歴史的変遷を踏まえ説明できる。
2. S. フロイトの人間理解が医学と社会に与えた影響を説明できる。
3. V. フランクルの人間観と態度価値を説明できる。
4. 尊厳概念や「病むことの無い人格」という概念を説明できる。
5. biopsychosocial model と biopsychosocial-spiritual model を説明できる。
6. 進化論的観点から共生や自立の問題を説明できる（やまゆり園事件や安楽死問題という具体的な問題をとりあげながら）。
7. 現代医療が抱える問題点を人間観の立場から明確にし、文書で説明できる。

成績評価方法および基準

平常点（40%）、定期試験（60%）とし、これらの評価の合計得点が 60 点に満たない者を不可とする。平常点（40%）は、毎回のレポートにおいて、内容の正しい理解と自らの問題意識を明確にした内容に 2 点（満点）とし、的外れな内容は 0 点として評価する。またディスカッションの態度

や発表内容に対して、各自 0 点から 10 点を付与する。定期試験は記述式であり、上記到達目標に沿った問題が出題される。筆記試験は、毎回の講義をしっかりと理解し、テキストや配布資料などを読みこんでいなければ回答は困難である。また、論理展開の明快さや、説得力、内容の独創性を特に評価する。筆記試験に関する注意点やポイントなどは講義中にも説明する。

遅刻 10 分以上あるいは早退 10 分以上は特別な理由がない限り欠席とみなすが、病気による場合などは、レポートの提出により平常点が付与されるのでその場合には個別に相談すること。

再試験および追試験は、定期試験と同様の様式で出題する。なお、再試験に関してのみ、平常点の 1/2 を満たさない者は、再試験の 2/3 以上の得点に達することを到達目標の達成とみなし、可とする。

事前・事後学習について

講義は基本的にテキストと講義スライドに沿って行うため、あらかじめテキストや講義スライドを熟読し、内容が不明な点を明確にして講義に臨むことが必要である。この態度がこの講義の理解を深めていく。また、常に「なぜか」と問いながら、自分自身の疑問を講義中に質問したり、レポートに記載すること。次回講義の中で、そのうちのいくつかの疑問に答えながら、現代医療の人間観に関わる諸問題を共に考えていく。講義前後や昼休みなどの質問にも時間が許す限り応じるので、常に問題意識をもち、疑問点を明らかにする態度で講義に臨むこと。事後学習もできるだけその日の内に内容を確認し、疑問点があれば要点をまとめた上でオフィス・アワー内に担当教員に質問することを推奨する。

教科書・参考文献等

【教科書】杉岡良彦『医学とはどのような学問か：医学概論・医学哲学講義』（春秋社 2019 年、2420 円【税込み】）

【主な参考文献】杉岡良彦『共苦する人間』（春秋社 2023 年）、フランクフル『苦悩する人間』（春秋社 2000 年）、小松美彦『自己決定権は幻想である』（洋泉社 2004 年）、朴光駿ら『共生の哲学』（明石書店 2023 年）、神奈川新聞『やまゆり園事件』（幻冬文庫 2022 年）。宮下洋一『安楽死を遂げた日本人』（小学館文庫 2021 年）

その他、必要な文献や参考文献は講義中に紹介する。

オフィス・アワー

杉岡良彦（すぎおか よしひこ）

アポイントを取るための連絡メールアドレスは講義内で周知する。

所属・職位：人文社会科学教室（稲盛記念会館 3 階）・准教授

曜日・時間帯：特定の曜日・時間帯に限定しない。

備考：個別指導または相談の際には事前にメールあるいは講義前後に直接アポイントをとること。質問や議論は大歓迎である。日程調整のうえで、個別に対応する。

学生へのメッセージ

医学とはどのような学問か、医学では人間をどのように理解しているのか、人間とは何かなど、様々な問題を扱うこの講義では、参加者のディスカッションを通じて学びを深める。医学科以外のさまざまな学部・学科の皆さんとともに、医学とは何か、人間とは何か、現代医療の問題点は何かを考え理解を深め、自らの考えを問い直してくれることを期待している。そして将来のそれぞれの研究に役立ててくれることを期待している。

なお、前期で医学哲学を履修した医学科の学生がさらにこの講義をとる場合には、必ず事前に相談すること。

授業日程					
回数	日付	曜日	時限	内容	担当教員
1	2025/9/29 オンデマンド	月	4	なぜ医学・医療の中で人間観を考える必要があるのか	杉岡 良彦
2	2025/10/6	月	4	近代科学と哲学	杉岡 良彦
3	2025/10/20	月	4	生物学的人間観と医学	杉岡 良彦
4	2025/10/27	月	4	S.フロイトの人間理解が医学と社会に与えた影響	杉岡 良彦
5	2025/11/10	月	4	フランクフルトの人間観と biopsychosocial-spiritual model	杉岡 良彦
6	2025/11/17	月	4	病むことのない人格	杉岡 良彦
7	2025/12/1	月	4	苦悩に向き合う人間：態度価値の問題	杉岡 良彦
8	2025/12/8	月	4	やまゆり園事件と安楽死の問題	杉岡 良彦
9	2025/12/15	月	4	進化論と人間観	杉岡 良彦
10	2025/12/22	月	4	進化論から見た共感と共苦	杉岡 良彦
11	2025/1/13	火	4	共感・共苦と脳科学	杉岡 良彦
12	2026/1/19	月	4	現代医療の人間観：自己決定・理性・自立神話	杉岡 良彦
13	オンデマンド			近代科学と医学の発達	杉岡 良彦
14	オンデマンド			エンゲルの biopsychosocial mode	杉岡 良彦
15	オンデマンド			尊厳概念の変遷と人間観	杉岡 良彦

注) 15回の講義は上記のように予定をしているが、受講生の理解の深まりや関心に合わせて、若干の変更を行う可能性もある。オンデマンド予定講義は祝日などに相当するため、数日間閲覧可能である。

科目名	数学（100225）		
科目責任者	長崎 生光		
単位数	2. 2	必修・選択区分	必修
開講時期・学年	通年・1 学年	授業形態	講義

教育の目的と方針

数学は自然科学の基礎学問として、現代においても盛んに研究され医学を含めた様々な分野に応用されている。本講義では、高校までの数学の知識を基盤としながら、現代数学の基礎理論である微積分学、線形代数学（ベクトルと行列）を体系的に学習する。さらに数学の問題を解くことを通して、医学で必要となる数学の基礎知識や考え方を一つずつ積み上げ、身につけていく。また、身につけた知識を確認するための小テストや応用力をためす課題を解決することで、将来のあらゆる場で必要となる論理的な思考力や数理的な考察力を身につけることを目的とする。前半で微積分学を講義し、後半で線形代数学を講義する。

到達目標

- 1 微積分を理解し、自ら扱えるようになること。
 - (1) 微分，積分の定義を説明できる。
 - (2) 微分，積分の計算ができる。
 - (3) 偏微分，重積分の計算ができる。
 - (4) 極値問題が解くことができる。
 - (5) 重積分を用いて立体の体積の計算ができる。
- 2 線形代数を理解し、自ら扱えるようになること。
 - (1) 行列の和とスカラー倍，積の計算ができる。
 - (2) 行列式の定義が説明できる。
 - (3) 行列式の計算ができる。
 - (4) 行列の固有値と固有ベクトルが求められる。
 - (5) 行列の対角化ができる。

成績評価方法および基準

毎回の授業での小テストおよび課題の達成度を評価した平常点 (20%) 及び中間試験、定期試験の点数 (80%) で評価し、合計点が 60% に満たない者は不可とする。

事前・事後学習について

事前学習：事前に配布する授業スライドおよび教科書を予習する。

事後学習：授業内容に対応する教科書の問題を解く。

教科書・参考文献等

教科書：（前半用）三宅敏恒著『入門微分積分』培風館（¥1900 + 税）

（後半用）長崎生光監修，牛瀧文宏編『初歩からの線形代数』講談社（¥2200 + 税）

オフィス・アワー

担当 長崎 生光 メールアドレス：nagasaki@koto.kpu-m.ac.jp

授業終了後またはメールにて質問・相談を受け付ける。

学生へのメッセージ

古代ギリシャのユークリッドは「幾何学に王道なし」と当時のエジプトのプトレマイオス王に言ったと伝わっている。数学という学問は、近道はなく、地道に努力し習得していくほかはないということである。しかし、一旦理解し身につけた知識は古くなることはなく普遍性をもつ。現代ではあらゆる分野で数学の知識が陰に陽に必要とされている。講義中心の授業ではあるが、各自が自発的に勉学に取り組むことを期待する。

授業日程

回数	日付	曜日	時限	内容	担当教員
1	4/8	火	2	実数の集合と関数	長崎 生光
2	4/15	火	2	連続関数と微分可能関数	長崎 生光
3	4/22	火	2	高次導関数と平均値の定理	長崎 生光
4	5/13	火	2	不定積分の計算	長崎 生光
5	5/20	火	2	定積分の定義と広義積分	長崎 生光
6	5/27	火	2	2変数関数と偏微分	長崎 生光
7	6/3	火	2	全微分可能性と合成関数の偏微分	長崎 生光
8	6/10	火	2	2変数関数の極値問題	長崎 生光
9	6/17	火	2	重積分の定義と計算	長崎 生光
10	6/24	火	2	ヤコビアンと変数変換	長崎 生光
11	9/16	火	2	ベクトルと行列の演算	長崎 生光
12	9/17	水	3	正則行列とベクトルの1次独立性	長崎 生光
13	9/30	火	2	行列式の定義と性質	長崎 生光
14	10/7	火	2	行列式の計算と外積	長崎 生光
15	10/14	火	2	連立一次方程式の解法	長崎 生光
16	10/21	火	2	固有値と固有ベクトル	長崎 生光
17	11/11	火	2	行列の対角化	長崎 生光

科目名	応用解析学 (100234)		
科目責任者	長崎 生光		
単位数	1. 3	必修・選択区分	選択必修
開講時期・学年	後期・1 学年	授業形態	講義

教育の目的と方針

数学の理論は、医学も含めた様々な科学の分野で応用されている。特に種々の医学的な現象やデータを解析するためには、数理モデルや統計モデルなどを用いた数理的な考察が欠かせない。本講義では、医学を含む広範な分野で応用されている確率・統計や微分方程式の基礎理論と計算法を習得し、それらがどのように応用されているかを学ぶ。また、講義の理解度を確認するために、授業内の小テストや課題に取り組むことで数理的な手法・考察力を身につけることを目的とする。授業は2本立てで行われる。具体的には以下の通りである。

1 田代教授・吉井講師担当

教養と基礎医学の垂直統合で、医学で用いる解析方法を学ぶ。ゲノム解析においてコンピュータ上でアルゴリズムを組む場合の考え方を学ぶ。また、疾患遺伝子の「遺伝統計解析」や「ゲノムワイド関連解析」の原理や手法について学ぶ。

2 長崎教授担当

微積分の知識を活用し、関数のテイラー展開と基本的な常微分方程式の解法について学ぶ。応用として、生物の個体群のダイナミクス等を学ぶ。

到達目標

- 確率・統計を理解し自ら使えるようになること。
 - リスク比とオッズ比を計算できる。
 - 母平均の推定ができる。
 - 仮説検定の基本概念を理解し説明できる。
 - 遺伝情報と形質情報の関連を解析する手法を理解し説明できる。
- 級数と微分方程式の性質を理解し、自ら計算できること。
 - 関数のテイラー展開ができる。
 - 基本的な1階微分方程式を解くことができる。
 - 基本的な2階微分方程式を解くことができる。
 - 基本的な1階連立微分方程式を解くことができる。

成績評価方法および基準

毎回の授業で課される課題、レポートの提出状況や達成度による平常点(20%)、及び定期試験の点数(80%)で評価し、合計点が60%に満たない者は不可とする。

事前・事後学習について

事前学習：事前に配布する授業スライド、資料を予習する。

事後学習：授業内容のノート・資料を復習し、問題を解く。

教科書・参考文献等

教科書は特に指定しない。適宜資料を配布する。

参考書：三宅敏恒著『入門微分積分』裳華房（¥1900 + 税）	
オフィス・アワー	
オフィスアワー	メールアドレス
・長崎教授	nagasaki@koto.kpu-m.ac.jp
授業終了後またはメールにて質問・相談を受け付ける。	
・吉井講師	月・金曜日 12:00-12:50 yoshii-k@koto.kpu-m.ac.jp
場所 研究室(基礎統計学 2)	
学生へのメッセージ	
数学や統計が医学でどのように活かされているかを理解し、各自が自発的に勉学に取り組むことを期待する。	

授業日程					
回数	日付	曜日	時限	内容	担当教員
1	9/24	水	3	数学・ゲノム医科学垂直統合講義の意義	田代啓・吉井健悟
2	9/29	月	1	記述統計学と推測統計学	田代啓・吉井健悟
3	10/1	水	3	関数のテイラー展開とその応用	長崎生光
4	10/6	月	1	統計的推定	田代啓・吉井健悟
5	10/8	水	3	1 階微分方程式とその応用	長崎生光
6	10/15	水	3	2 階線形微分方程式とその応用	長崎生光
7	10/20	月	1	仮説検定	田代啓・吉井健悟
8	10/22	水	3	連立 1 階微分方程式とその応用	長崎生光
9	10/27	月	1	遺伝情報と形質情報の関連解析	田代啓・吉井健悟
10	11/10	月	3	大規模データの分析方法とその医療応用	田代啓・吉井健悟

科目名	情報リテラシー (100213)			
科目責任者	吉井 健悟			
単位数	0.5	必修・選択区分	必修	
開講時期・学年	前期・1学年	授業形態	実習	

教育の目的と方針

医学の実践の場において、情報を的確に活用する能力と、その背景になる考え方は、不可欠な基盤としてその重要性を増している。本講義では、安全で質の高い医学研究や医療の実践に必要な情報・科学技術の基本的な理論を理解し、それらを自身の学習や医学分野への応用に役立てる方法を学ぶ。

授業では、デジタル社会の基礎知識として位置づけられる数理・データサイエンス・AIの基礎的素養を身につけることを目指す。また、情報や科学技術を利用する上で欠かせない倫理観とルールについても学ぶ。さらに、数理・データサイエンス・AIが社会でどのように活用されているのかを解説し、医療分野におけるAI活用の具体的な事例も取り上げる。

到達目標

1. 授業、レポート作成、実験データの分析、発表など、今後の大学生活および将来の仕事に必須となるコンピューター操作ができる。
2. インターネットを利用する上でのモラルや危険性について理解し、自己学習や共同学習の場に適切なICTを活用できる。
3. データ駆動型社会とデータサイエンスについて理解し、説明できる。
4. 発展し続ける情報化社会の実態やAI等応用分野と社会との関わりを理解し、説明できる。

成績評価方法および基準

平常点(20%)と授業中に課される課題(80%)を総合的に評価する。

平常点は、授業でのコメントシートの作成やグループワークなどの学習への積極的な参加によって評価する。

事前・事後学習について

授業前に配布・指定された資料や教科書にしっかり目を通し、基本的な概念や用語を確認すること。また、事後学習では、授業で扱った内容を振り返り、指示された講義課題やレポート課題に取り組むこと。

教科書・参考文献等

各授業で用いる資料は、授業前にGoogle Classroomを通じて配布する。

参考書：

北川源四郎／竹村彰通編集、内田誠一他著『教養としてのデータサイエンス』講談社(税込 1980円)

北川源四郎／竹村彰通編集、赤穂昭太郎他著『応用基礎としてのデータサイエンス』講談社(税込 2860円)

オフィス・アワー

講師 吉井健悟 月・金曜日 12:00-12:50 下鴨キャンパス 稲盛記念館 3F (基礎統計2)

備考：授業に関する質問はメールや Google Classroom のコメントで受けつけます。
 研究での対面での質問や相談の際は事前にメールで予約してください。
 連絡先のメールアドレスは授業の際に周知する。

学生へのメッセージ

情報リテラシーは、すべての授業を該当日の 13 時 20 分から、広小路キャンパスの地下情報科学実習室で行います。

実習での課題配付や提出には、Google Classroom を利用します。そのため、課題配付や提出には、大学のメールアドレスでのログインが必要となります。授業では、大学のメールアドレスとパスワードを忘れずに準備してください。

情報科学実習室では授業中を含め、いかなる場合でも飲食を厳禁とします。機器の故障や衛生面での問題が生じる可能性があるため、各自が責任を持ってルールを守ってください。水分補給などは、実習室から一旦退出し、飲食可能なスペースで行うこと。

授業日程

回数	日付	曜日	時限	内容	担当教員
1	4/9	水	3・4	情報・科学技術に向き合うための倫理観とルール、 ソーシャルメディアの利用 クラウドコンピューティング：グーグルフォームの活用、情報セキュリティ	吉井 健悟
2	4/16	水	3・4	データ駆動型社会とデータサイエンスの活用事例 分析設計：データ分析の進め方、仮説検証サイクル	吉井 健悟
3	4/23	水	3・4	AI の応用分野と社会との関わり 機械学習の基礎と展望：機械学習の基本的な概念と手法	吉井 健悟
4	5/7	水	3・4	深層学習の基礎と展望：実世界で進む深層学習の応用と革新 AI の構築と運用：AI 技術を活用したサービスやシステム構築	吉井 健悟

科目名	物理学（100226）		
科目責任者	高西 陽一		
単位数	2. 1	必修・選択区分	必修
開講時期・学年	通年・1 学年	授業形態	講義

教育の目的と方針

物質は原子・分子からできており、それらの振る舞いを表す法則により自然現象を理解できるという考え方は、現代の自然観の基礎・よりどころであり、物事の合理的・理性的な考え方にも影響を与えている。さらに、複雑にみえる現象を簡単なモデルを用いることでその現象の本質を理解することができる。

本科目は本学生が

1. 最先端医療装置を使いこなすための関連する物理現象を理解する
2. 患者やチームを組む医師らへ説得力ある説明を行うための論理的に思考し説明できる力を修得する

ことを目的とする。

この目的を踏まえた上で、基盤となる力学・電磁気学を中心に物理学の基礎を修得する。講義では毎回演習問題を解くことなどで各回の理解を確実なものになることを目標とする。

到達目標

- 1 力学現象の基本であるニュートンの運動法則を用いて医学・医療や我々の身近にある様々な力学現象が説明できる。
- 2 保存力とポテンシャルとの関係、仕事やエネルギーの関係とそれらに関する重要な物理法則が説明できる。
- 3 質点のみならず人体にも関わる剛体の運動、変形を考慮した運動、流体の運動など、さまざまなレベルでのモデル化が有効であることを理解し応用できる。
- 4 マックスウェルの電磁気学の基礎方程式を理解するための必要な基礎数学を用いた計算を正しく行うことができる。
- 5 実験的に明らかにされた電磁気学の基本的な法則とマックスウェル方程式とを関係づけて説明できる。
- 6 人体に関わる電氣的性質を説明できる。
- 7 物質中の電場や磁場の振舞いの基本を理解し、説明できる。
- 8 光が電磁波であることを理解し、その性質を医学・医療へ応用できるようになる。
- 9 核磁気共鳴、音波、X 線などを利用した画像診断が体内の「透視」に有効である理由を説明できる。

成績評価方法および基準

前期・後期の定期試験の成績（各 50 点満点）により判定し、合計得点が 60 点に満たない者を不可とする。

事前・事後学習について

高校での数学的な知識を必要とする。高校で物理を学んでいない学生は以下の特に高校で物理を履修していない場合の参考文献で事前学習することを推奨する。事後学習については、各回の演習

問題を復習することで目標に到達できる可能性が高くなる。

教科書・参考文献等

一般的な参考図書：物理学（三訂版）小出昭一郎 裳華房、1997 年
コンパクトにまとめられているが、初めは難しく感じるかもしれない。難しいと感じるならば、力学、電磁気学それぞれを易しく解説した本（図書室の物理棚にある）を参考にするとよい。
特に高校で物理を履修していない場合、
大学入試 漆原晃の物理基礎・物理（中経出版）
完全版 大学入試 坂田アキラ物理基礎・物理の解法が面白いほどわかる本（KADOKAWA）
の様に自分にあった、直感的にわかりやすそうな参考書でまずは勉強するのがおすすめかと思う。

オフィス・アワー

特に定めず、講義の内容に関する質問は随時受け付けるが、必ずメールなどで予約をとること。

学生へのメッセージ

大学は教えられる場ではなく、自ら勉強する場です。我々はその手助けをするに過ぎませんので、主体的に勉強することを強く勧めます。物理に関して言えば、資料屋本を目で追ってわかった気になるのではなく、とにかく自分で手を動かして演習を解いてみるのが大事です。わからないことについては、遠慮なく積極的に質問して下さい。

授業日程

回数	日付	曜日	時限	内容	担当教員
1	4/11	金	4※	人と物理量	高西 陽一
2	4/18	金	4※	運動の法則	高西 陽一
3	4/25	金	3	いくつかの運動（単振り子、共振など）と関連医学	高西 陽一
4	5/16	金	3	運動量と力積、仕事とエネルギー	高西 陽一
5	5/23	金	3	静力学、モーメントと角運動量、人体との関連	高西 陽一
6	5/30	金	3	角運動、遠心力、相対運動	高西 陽一
7	6/13	金	3	質点と剛体、その運動	高西 陽一
8	6/20	金	3	熱と代謝、流体と医療現象 1	高西 陽一
9	6/27	金	3	流体と医療現象 2	高西 陽一
10	9/19	金	3	電磁気の基礎と人体に関わる電氣的性質	高西 陽一
11	9/26	金	3	電磁気に必要な数学	高西 陽一
12	10/3	金	3	Maxwell 方程式 1（微分形）	高西 陽一
13	10/10	金	3	Maxwell 方程式 2（積分形）	高西 陽一
14	10/17	金	3	Maxwell 方程式から導く各種電磁気の法則と医学応用	高西 陽一
15	11/14	金	3	医学に関わる電磁波、音波	高西 陽一
16	11/21	金	3	放射線	高西 陽一

<前期> 質点・剛体の運動と力学、流体の物理

<後期> 電磁気（マックスウェル方程式）に関連する医学・医療学

※【開講時間】 15：15～16：45

科目名	近代物理学：医療の物理学的基礎（100235）		
科目責任者	川野 輝彦 酒谷 雄峰		
単位数	1. 3	必修・選択区分	選択必修
開講時期・学年	後期・1 学年	授業形態	講義

教育の目的と方針

20 世紀には、量子力学、相対性理論、統計力学という全く新しい物理学が登場し、近代物理学は革命的な発展を遂げ、現代物理学の礎を築いた。これらの考え方は、時として日常生活での経験からは乖離した自然観を提示しているように思われるかもしれない。しかしながら、日常生活に今や欠かせない電子機器、あるいは、診断・治療で使われる医療機器などの原理は、これらの物理学の成果に基づいているものが少なくない。

この講義では、近代物理学のうち、特殊相対性理論と量子力学を学び、その応用に必要な基礎を修得する。特に、放射線を利用した診断・治療や核医学を理解する上で不可欠な放射線物理や原子核崩壊に関する知識を身につける。また、近代物理学は、ニュートン力学では説明できなかった新たな物理現象を科学的に解明する過程で発展してきた。これらの理論が形成された背景や過程を学ぶことで、自身の知識を基に新たな課題に取り組む力を育むとともに、主体的な科学的探究の姿勢を養成することを目指す。

講義を中心とした授業だが、講義の時間に例題などを解くことで講義内容の理解を深め、知識を様々な問題に応用できる力を養う。

到達目標

【特殊相対性理論】

1. 思考実験を用いて時間の遅れ、ローレンツ収縮、同時性の破れの内容を説明できる。
2. 特殊相対性理論の基本的な仮定からローレンツ変換および速度の合成則を導ける。
3. 時空図を用いて特殊相対性理論における諸現象を説明できる。
4. 光のドップラー効果を説明できる。
5. 相対論的エネルギー・運動量の定義を理解し、それらのローレンツ変換を説明できる。
6. 物理法則のローレンツ不変性を説明できる。
7. 質量とエネルギーの等価性を理解し、放射性崩壊などの現象に応用できる。

【量子力学】

1. 量子力学が発見されるきっかけとなった様々な物理現象を説明できる。
2. 光量子仮説などの仮定を用いて、上記の諸現象を理論的に説明できる。
3. 粒子と波動の二重性を理解し、電子などの粒子の波動的性質を説明できる。
4. 電子の運動が波動関数を用いた確率概念を使って表現されることを説明できる。
5. 簡単な例で 1 次元のシュレーディンガー方程式を解ける。
6. 放射線の基礎知識を説明できる。半減期、放射能などの基礎的な計算が行える。
7. 放射性崩壊の性質が量子力学から導けることを説明できる。

成績評価方法および基準

定期試験成績（100％）：試験の得点が 60 点以上である場合に本科目の単位を認定する。

定期試験は、特殊相対性理論と量子力学の範囲からそれぞれ約 50 点分ずつ出題される。
事前・事後学習について
授業で学習した内容を復習し、要点や疑問点を整理すること。また、演習問題や例題に積極的に取り組むこと。知識を暗記するのではなく、基本的な考え方を他の学生に説明できる程度に深く理解することを目標とすること。事前学習の必要はない。
教科書・参考文献等
特定の文献を教科書としては使用しないが、参考書として以下を紹介する。 1) 相対性理論入門 内山龍雄 岩波新書黄版 63 (第 I 章) 2) 物理学 (三訂版) 小出昭一郎 裳華房 (9 章)
オフィス・アワー
質問や疑問があれば、「物理学教室」に気軽に立ち寄ってください。 特に、講義のある日の午後には在室しています。
学生へのメッセージ
講義が中心となるため、理解を深めるためにも積極的に質問し、疑問点はその都度解消して下さい。また、講義後には学生同士で議論し互いに教え合うことも推奨します。他者との議論は、理解を深めるだけでなく、新たな気づきを得ることで自身の知識をさらに広げるきっかけとなります。

授業日程					
回数	日付	曜日	時限	内容	担当教員
1	2025/9/24	水	3	医療における近代物理学、思考実験(時間間隔・ローレンツ収縮)	川野 輝彦
2	2025/9/29	月	1	思考実験(同時性)、ローレンツ変換、速度の合成則	川野 輝彦
3	2025/10/1	水	3	時空図、光のドップラー効果	川野 輝彦
4	2025/10/6	月	1	静止エネルギーと慣性質量との関係	川野 輝彦
5	2025/10/8	水	3	エネルギーと運動量のローレンツ変換、ローレンツ不変性	川野 輝彦
6	2025/10/15	水	3	量子力学の概要、光電効果と光量子仮説	酒谷 雄峰
7	2025/10/20	月	1	コンプトン効果、粒子と波動の二重性、ボーアの原子模型	酒谷 雄峰
8	2025/10/22	水	3	シュレーディンガー方程式、波動関数と確率解釈	酒谷 雄峰
9	2025/10/27	月	1	1次元井戸型ポテンシャルにおける定常状態のエネルギースペクトル	酒谷 雄峰
10	2025/11/10	月	1	放射線の基礎、 α 崩壊の理論	酒谷 雄峰

前半 特殊相対性理論の基本 (担当：川野准教授)

後半 量子力学の基本 (担当：酒谷講師(学内))

科目名	物 理 学 実 習 (100229)		
科目責任者	高西 陽一 川野 輝彦 酒谷 雄峰 上原 正三		
単位数	物理学・化学・生物学の実習3科目で1.8。認定は実習毎に行う。出席数も実習毎にカウントする。	必修・選択区分	必修
開講時期・学年	前期・1学年	授業形態	実習

教育の目的と方針

自然科学では理論と実験は密接な関係にあり、実際に実験装置を操作して測定することによって自然科学の理解は深まる。物理学実習では、実験を通して他者と協力して物理学を理解し、また結果をレポートにまとめる力を身につけるとともに、測定値を整理する過程において、グラフの作成方法、平均や誤差などの評価の仕方を修得することを目的とする。

到達目標

- 1 さまざまな実験を通して物理学の基本的な考え方が説明できる。
(物理学の講義以外の内容も、基本として重要と考えられるものが実験課題に含まれている)
- 2 さまざまな測定機器を正しく使用し、適切に測定できる。
- 3 実験データをグラフに適切に記述できる。
- 4 データを統計的に処理できる。
- 5 他人が見て結果を評価できる適切なレポート作成をできる。

成績評価方法および基準

成績は毎回の実習の取り組み方の評価点(20点満点)と執筆した2通のレポートの評価点(1通あたり40点満点)の合計により判定し、合計得点が60点に満たない者を不可とする。実習の取り組み方については、シラバスに掲載されている評価方法に基づいて評価するので、それを参照すること。

なお、レポート提出が提出締切日を過ぎるとそのレポートの点は**半分**になる。さらに提出締切日を一週間過ぎた場合には、**レポートの提出を認めない(0点となる)**ので注意すること。

事前・事後学習について

・事前学習は特に必要ないが、実習後のレポート作成には各自実験に関連する原理などを調べて自分の言葉で表現し、考察を加えること。

教科書・参考文献等

実習項目毎に実習マニュアルが用意されているので、それを熟読した後、マニュアルに従って実習を進める。理科年表(丸善出版)が手元にあれば、レポート作成に便利であるが、必須ではない。

オフィス・アワー

実習に関する質問はメールや Google Classroom のコメントで受け付ける。また前日までにメールなどで予約確認を取れば研究室にて対面でも受け付ける。

学生へのメッセージ

- ・実習内容を正しく理解していないと測定ミスなどにより実習時間が長引く可能性がある。**アルバイトなどの理由での早退は認められない**ので、注意すること。
- ・実習室には、筆記用具と測定値を記録するノート、計算機、測定値記録用のパソコンやタブレット以外は持ち込まないこと。
- ・実習中、特に開始時には、必ずマニュアルを熟読すること。

(読まないとかえって時間を要するだけでなく、装置を壊したり怪我をします)

・教員によるグラフの作図などのチェックは**必ずグループメンバー全員で受ける**こと。パスするまで**無断で帰宅してはいけない**。たとえその回がレポート執筆者(責任者)の担当でなくても**無断で帰宅してはいけない**。(欠席とみなします)

・上述したように、レポートは基本的にどちらか1人がレポート執筆者(責任者)となり作成するが、グループの一方が偏ることなく、1人2回はレポート執筆者(責任者)として提出すること。

・バッグなどの他の荷物はロッカー室へ必ず置いておくこと。実習室は**飲食厳禁**。

・水分補給などは実習室から一旦退出し、ロッカー室など外部で行うこと。

授業日程

回数	日付	曜日	時限	内容	担当教員
1	5/13	火	Ⅲ,Ⅳ	1回目(A組B組合同) ガイダンス, 測定器具の使い方, 測定精度と有効数字, グラフの書き方	高西 陽一
2	5/20	火	Ⅲ,Ⅳ	B組2回目	高西,川野,酒谷,上原
3	5/21	水	Ⅲ,Ⅳ	A組2回目	高西,川野,酒谷,上原
4	5/28	水	Ⅲ,Ⅳ	B組3回目	高西,川野,酒谷,上原
5	6/10	火	Ⅲ,Ⅳ	A組3回目	高西,川野,酒谷,上原
6	6/17	火	Ⅲ,Ⅳ	B組4回目	高西,川野,酒谷,上原
7	6/18	水	Ⅲ,Ⅳ	A組4回目	高西,川野,酒谷,上原
8	6/24	火	Ⅲ,Ⅳ	B組5回目	高西,川野,酒谷,上原
9	6/25	水	Ⅲ,Ⅳ	A組5回目	高西,川野,酒谷,上原

A、Bクラス単位で決められた日程で実習を行う。

到達目標に基づいた実習項目から、毎回グループごとに割り振られた課題に取り組む。

なお、初回はA、Bクラス合同で実習の全般的な説明と実習で頻繁に使用する測定器具を実際に使用するとともに、測定精度とその有効数字に関する内容を講義形式で説明する予定である。

科目名	生体分子化学 (100227)		
科目責任者	大庭 誠 中田 慎一郎 吉田 達士		
単位数	2. 2	必修・選択区分	必修
開講時期・学年	通年・1 学年	授業形態	講義

教育の目的と方針

生体が恒常的に営んでいる反応や異物・薬物との接触により引き起こされる反応は、化合物を介して生じる。生体内反応の異常によって引き起こされる多くの疾患の原因も、そのほとんどが化合物間の反応に由来する。このような生体反応の多くにはタンパク質や核酸などの生体分子が関わっており、これらの生体分子の反応調節異常や薬物などの低分子化合物との反応がさまざまな疾患関連現象の原因となっている。本科目では、疾患の現象・原因や薬物作用機構を化合物の構造で理解することを目的とする。

まず、生体反応に関わる分子を構造のレベルで理解するために必要不可欠となる有機化学の基礎概念について学ぶ。出来る限り生体内反応に関連する反応を取り上げ、これらの反応機構を化合物の構造をもとに解説する。特に、代謝経路理解に必須となる二つの項目、i) 官能基変換の化学、および ii) 炭素-炭素結合形成に関する反応とその機構、に力点を置く。ついで、以上の基礎概念をもとに、生命現象を化合物に基づいて理解するために必要となる生体分子について学ぶ。ここでは主に、糖質、脂質、タンパク質、核酸を取り上げ、その構造と反応について解説する。最後に、これらの生体分子に関わる生体内反応（代謝反応）のいくつかについて、化合物変換の有機化学を理解する。あわせて、薬物作用機構に関わる化学反応についても簡単に触れる。

到達目標

1 有機化学の基礎概念を説明できる

(1) まず有機化学でどのような化合物を取り扱うかについて理解し、ついで、取り扱う化合物に含まれる結合の性質と官能基について説明できる。

(2) 有機化合物の構造について理解し、それぞれの化合物の構造を決定する因子について理解を深め、構造が反応に及ぼす影響を説明できる。

(3) 結合と構造に関する理解をもとに、有機化合物に含まれる官能基の性質とその反応を説明できる。

2 生体分子の構造とその反応を理解する

(1) まず有機化学の知識をもとに生体成分の構造と反応を理解し、代表的生体分子である、糖質、脂質、タンパク質、核酸、について、それぞれに特徴的な構造と反応を説明できる。

(2) 生体分子の構造と反応の理解に基づき、生体内化合物変換経路（代謝経路）における化合物変換の化学を説明できる。

成績評価方法および基準

1 平常点

毎回小テストを行い、小テスト答案には平常点を加算する。

2 試験

前期および後期に試験を記述式筆記試験形式で行う。必要な場合、追再試験を同様の記述式筆記試験形式で行う。

3 総合成績評価
平常点：10%、前期試験：45%、後期試験：45%とし、これらの評価の合計得点が60%に満たないものを不可とする。
事前・事後学習について
毎回行う小テストは、前回の授業内容についてである。授業前に前回の授業内容を復習し、十分に理解しておく。授業の予習として、事前に教科書を一読しておく。事前・事後学習については、1回の授業につき1時間程度を必要とする。
教科書・参考文献等
生命系の基礎有機化学（赤路健一・福田常彦著、化学同人出版）
オフィス・アワー
1 訪問先は医系化学教室（稲盛記念会館3階）
2 対応時間は、木曜日 12:10～12:50 を基本とする。ただし、在室時で対応可能な場合はいつでも対応するので、遠慮することなく訪ねてきてほしい。
3 研究室を訪問できない場合や特別な相談がある場合は、メールでも対応する。
メールアドレス：moba@koto.kpu-m.ac.jp
学生へのメッセージ
生体分子化学は、教養科目としてきわめて重要な位置を占めるとともに、医系基礎医学と密接な関連性を有する基幹的な学問でもある。教養化学から基礎医学（生化学）へのシームレスな受けわたしのため、当科目では基礎医学教員（中田、吉田）による連携講義も含める。
講義は上記の教科書を用いて行うが、必要な場合には補助プリントを使用する。それぞれの講義内容の理解を深めるため、小テストを適宜講義時間内に行う。講義内容は化学実習の内容とも密接にリンクしているため、実習内容に即した題材も取り上げる。

授業日程					
回数	日付	曜日	時限	内容	担当教員
1	2025/04/10	木	2	化学結合	大庭 誠
2	2025/04/17	木	2	軌道論	大庭 誠
3	2025/04/24	木	2	官能基と命名法	大庭 誠
4	2025/05/08	木	2	立体構造	大庭 誠
5	2025/05/15	木	2	アルカンとアルケン	大庭 誠
6	2025/05/22	木	2	芳香族化合物	大庭 誠
7	2025/05/29	木	2	有機ハロゲン化合物	大庭 誠
8	2025/06/12	木	2	アルコール・エーテル・アルデヒド・ケトン	大庭 誠
9	2025/06/19	木	2	カルボン酸とその誘導体	大庭 誠
10	2025/06/26	木	2	アルドール反応	大庭 誠
11	2025/09/18	木	2	垂直統合授業：総論	中田 慎一郎
12	2025/09/25	木	2	アミンとその誘導体	大庭 誠
13	2025/10/02	木	2	糖質	大庭 誠
14	2025/10/09	木	2	脂質	大庭 誠
15	2025/10/16	木	2	垂直統合授業：アミノ酸・ペプチド・タンパク質	吉田 達士

16	2025/10/23	木	2	核酸	大庭 誠
17	2025/11/13	木	2	代謝とエネルギー	大庭 誠

科目名	生命物理化学（100232）		
科目責任者	武元 宏泰		
単位数	1. 2	必修・選択区分	必修
開講時期・学年	前期・1 学年	授業形態	講義

教育の目的と方針

凡ゆる生命現象は物理化学的な法則に従う。物理化学が本質となる生命現象も多い。また、物理化学は、生物学や臨床の現場で用いられている試薬、薬剤、機器の原理を理解する上でも重要である。本科目では、医学生が、生物学、医学を物理化学的視点から捉えるために必要な基礎的な概念を身につけることを目的とする。本講義内容により、教養としての物理化学の基礎を習得できるだけでなく、今後学ぶ生物学、医学をより多角的に理解するための礎が築かれる。

到達目標

本科目は、熱力学・反応速度論・分光学の 3 つの分野からなる。それぞれの到達目標を以下に示す。

1 熱力学

①基礎医学を学ぶ上で、最低限必要な基礎知識に基づいて物理化学的概念を説明し、応用出来る。具体的には、まず熱力学第一法則（エネルギー保存の法則）と第二法則（エントロピーの法則）を適用することで、生命科学の基本的概念の自由エネルギー（ギブスエネルギー）を説明・応用出来る。

②基礎知識・概念を、生体エネルギー論に応用し、生命現象を物理化学的側面から説明出来る。例えば、生命維持に必要な ATP と生命現象の量的関係性や酸化的リン酸化にプロトン勾配などについて、量的に説明出来る。

2 反応速度論

①一般の化学反応や酵素反応を速度論的に扱うための基礎的概念を説明・応用出来る。

②医薬品などの薬物が代謝される過程における動的挙動や医薬品としてよく利用されている酵素阻害剤の阻害様式について説明出来る。

3 分光学

①分光学における基本的な現象（発光・吸光・蛍光など）の原理を説明・応用出来る。

②生化学研究や医療診断で使われている試薬・機器等への分光学の応用について説明出来る。

③分光学が、生化学研究や医療に応用されている例を分類化し、それらを分光学の側面から説明出来る。

成績評価方法および基準

1 定期試験 100%にて成績を判定し、得点が 60 点に満たない者を不可とする。

事前・事後学習について

1 講義は、スライドを基に進める。スライドに沿った資料を配布するため、これをノート代わりに使用して聴講することを勧める。

2 講義内容の理解度を図るため、小テストを講義時間内に適宜実施する。

3 当科目の性格上、予習には取り組みにくい。そのため、自主学習では講義で学んだことの復習に時間をかけてほしい。講義での学習時間 90 分に対して、90 分を目安に復習を行うと効果的で

ある。

4 講義では、購入可能な教科書・書籍を教材として使用することはない。ただし、講義内ですべての項目を丁寧に学ぶことはできないので、適宜、参考書を準備し、復習に努めてほしい。

教科書・参考文献等

・アトキンス 生命科学のための物理化学 第2版 東京化学同人
Peter Atkins Julio de Paula (著), 稲葉 章 (翻訳), 中川 敦史 (翻訳), 6,300 円 (税抜)
・しっかり学ぶ化学熱力学 裳華房
石原 顕光 (著) 2,600 円 (税抜)

オフィス・アワー

1 訪問先は医系化学(旧医薬品化学)教室(稲盛記念会館3階)
2 対応時間は、木曜日 12:10~12:50 を基本とする。在室時で対応可能な場合はいつでも対応するので、遠慮することなく訪ねてきてほしい。
3 研究室を訪問できない場合、特別な相談等がある場合は、メールでも対応する。
メールアドレス: htakemo@koto.kpu-m.ac.jp

学生へのメッセージ

医学の理解を深めるためには多くの科学を学ぶ必要がある。これに関し、物理化学は様々な生命現象について巨視的な理解を与える。本講義は、物理化学的な考え方を学んでもらうために、適宜例題を織り交ぜながら進行する。講義内容を復習するために毎回の小テストを実施するが、自主学習もあわせて行うことで、物理化学的な概念を身につけてほしい。当科目は系統的に学ぶことから、1度欠席するとその後の講義内容を理解することが難しくなる。欠席は極力避けること。

授業日程

回数	日付	曜日	時限	内容	担当教員
1	2025/04/10	木	1	熱力学第一法則	武元 宏泰
2	2025/04/17	木	1	熱力学第二法則①	武元 宏泰
3	2025/04/24	木	1	熱力学第二法則②、ギブスエネルギー	武元 宏泰
4	2025/05/08	木	1	電気化学	武元 宏泰
5	2025/05/15	木	1	生体エネルギー論	武元 宏泰
6	2025/05/22	木	1	反応速度論	武元 宏泰
7	2025/05/29	木	1	酵素反応速度論	武元 宏泰
8	2025/06/12	木	1	酵素阻害剤	武元 宏泰
9	2025/06/19	木	1	分光法	武元 宏泰

科目名	化 学 実 習 (100230)		
科目責任者	大庭 誠 武元 宏泰 梅野 智大		
単位数	物理学・化学・生物学の実習3科目で1.8。認定は実習毎に行う。出席数も実習毎にカウントする。	必修・選択区分	必修
開講時期・学年	前期・1学年	授業形態	実習

教育の目的と方針

本科目では、生命現象・病態の原因・薬物作用機構等を化学構造で理解するための基礎的な有機化学および疾患の診断・病理学的検査で利用されている分析法を理解するための基礎的な分析化学を、実際の生化学反応や有機化合物を利用して実習し、それぞれを修得することを目的とする。また、実習を通して、物質の形状に応じた測り方や実験ノートの書き方など、自然科学実験を行う上で必須となる操作や基本的な作法を修得する。さらに、データの取得とその考察を繰り返し行うことで、現象・事象に対する観察力や分析力も身につける。

到達目標

- 有機化学の基礎について説明できる。
 - 簡単な代謝経路を実際に追跡することにより、生体における化合物変換の化学を説明できる。
 - 分子模型を作ることによって有機化合物の構造について理解し、炭素骨格の構造を決定する因子について説明できる。
 - 実際の化合物を取り扱うことにより有機化合物の性質と官能基について説明できる。
 - 簡単な有機合成反応を実際に行うことにより、有機化合物に含まれる官能基の性質とその挙動について説明できる。
- 分析化学の基礎について説明できる。
 - 反応生成物を呈色反応にて分析し、その原理を説明できる。
 - 有機化合物をクロマトグラフィー（薄層クロマトグラフィー）にて分析し、その原理を説明できる。
 - 上述の分析法に触れ、分析結果に対する考察を実際に行うことで、分析サンプル・分析する現象を洞察できる。
- 実験操作・手技をはじめ、実験ノートの書き方・実験結果を考察するためのアプローチなど、科学実験一般に必要な事項を実施できる。

成績評価方法および基準

- 実習態度・実習への取り組み状況を点数化し、平常点とする。態度が悪い者（他人のノートを写す者・実習の説明を聞いていない者・自ら進んで実習に取り組んでいない者・危険な行為を行う者等）には、平常点を与えない。
- 最終回に提出する実験ノートの内容を点数化する。
- 総合成績評価については、上述1（40%）および2（60%）の両項目の合計が60%以上の場合を合格とする。

事前・事後学習について

当日行う実験については、前もって実習書を読んで十分予習し、計画を立てておくこと。実験ノ

ートには、実験経過・結果・その場でできる考察は実験日当日に記載するが、調べ物が必要な考察、問題の解答、感想は次回までに書いておくこと。事前・事後学習については、1 回の授業につき 1 時間程度を必要とする。

教科書・参考文献等

専用の実習書を使用するため、教科書は使用しない。ただし、実習を行う上で以下の教科書が参考となることがある。

- ・生命系の基礎有機化学（赤路健一・福田常彦著、化学同人出版）

オフィス・アワー

- 1 訪問先は医系化学教室（稲盛記念会館 3 階）
- 2 対応時間は、実習実施日の実習後を基本とする。ただし、教員の在室時で対応可能な場合はいつでも対応するので、遠慮することなく訪ねてきてほしい。
- 3 研究室を訪問できない場合や特別な相談がある場合は、メールでも対応する。
メールアドレス：moba@koto.kpu-m.ac.jp

学生へのメッセージ

- 1 専用の実習書に従って自主的に取り組む。
- 2 各回、実習前に実習内容の説明を行うので、遅刻することなく説明を良く聞くこと。なお、説明の理解を深めるために予習は必須である。
- 3 実習書ならびに各回の説明を基に、二人一組（場合によっては三人一組）で実験を行う。実験操作は各自がそれぞれ行うことを原則とする。
- 4 各自がそれぞれ実験ノートを作成する。実験ノートは必要事項を記述し、毎回の実験終了時に教員のチェックを受ける。実習後は、調査が必要な課題や演習問題に取り組み、各回の実験ノートを完成させる。なお、最終回に実験ノートを提出する。実験ノートに記述すべき事項の詳細や演習問題については、初回に説明する。

授業日程

回数	日付	曜日	時限	内容	担当教員
1	2025/04/15	火	3	<A 組> ガイダンス・ガラス細工	大庭 誠 武元 宏泰 梅野 智大
2	2025/05/14	水	3	<A 組> 分子模型	大庭 誠 武元 宏泰 梅野 智大
3	2025/05/27	火	3	<A 組> アゾベンゼン 1（分離）	大庭 誠 武元 宏泰 梅野 智大
4	2025/06/11	水	3	<A 組> アゾベンゼン 2（分離、TLC）	大庭 誠 武元 宏泰 梅野 智大
5	2025/06/24	火	3	<A 組> アセトアニリドの合成	大庭 誠 武元 宏泰 梅野 智大
6	2025/04/22	火	3	<B 組> ガイダンス・ガラス細工	大庭 誠 武元 宏泰 梅野 智大
7	2025/05/21	水	3	<B 組> 分子模型	大庭 誠 武元 宏泰 梅野 智大

8	2025/06/10	火	3	<B組>アゾベンゼン1（分離）	大庭 誠 武元 宏泰 梅野 智大
9	2025/06/18	水	3	<B組>アゾベンゼン2（分離、TLC）	大庭 誠 武元 宏泰 梅野 智大
10	2025/07/01	火	3	<B組>アセトアニリドの合成	大庭 誠 武元 宏泰 梅野 智大

上記の予定に従って進行するが、変更することもあるので掲示などに注意すること。

科目名	生物科学（100228）		
科目責任者	吉澤 達也		
単位数	2. 2	必修・選択区分	必修
開講時期・学年	通年・1 学年	授業形態	講義

教育の目的と方針

近年、基礎医学のみならず臨床医学の場においても疾患を分子レベルで理解し対処することが必須になり、生物科学の広範な知識なくしては、進歩し続ける高度な医療に対応できなくなっている。したがって、生物科学の講義では、ヒトの生命現象に重点を置き、様々な生命現象を分子レベルで統一的に理解することを目的とする。まずは、生命の基本単位である細胞の機能発現にどのような分子が関わるのかについての基礎的な知識を修得することを目指す。さらに、疾患との関わりや未解明の問題を考察する能力を養うため、生命現象の根本原理や科学的な考え方を身につけることを目指す。

講義の方針は以下の通りである。基礎医学を学習する前段階として、生命科学の基本的な知識を身につける。講義だけではなく書物などから積極的に生命科学に興味を持ち新しい知識を吸収することを推奨する。本講義と基礎医学との関連は、講義中の最新科学ニュースの紹介や基礎医学分野と連携した垂直統合講義などを通して理解する。

到達目標

< 必須到達目標 >

- ・動物細胞の構成成分と細胞小器官について説明できる。
- ・染色体の高次構造について理解し、その調節機構を説明できる。
- ・DNA の複製と修復について理解し、その分子機構を説明できる。
- ・DNA からタンパク質の産生に関わる各段階について、それぞれの分子機構を説明できる。
- ・多段階で調節される遺伝子発現について、その意義を理解し、分子調節機構を説明できる。
- ・細胞膜の構造と膜を利用した巨大分子の輸送について、その分子機構を説明できる。
- ・細胞膜を介した小分子の輸送について、その分子機構を説明できる。
- ・細胞外からのシグナル伝達の一般原理を理解し、その分子機構を説明できる。
- ・細胞骨格の機能とその分子機構を説明できる。
- ・遺伝子の構造と機能の解析法について、具体例を挙げて説明できる。
- ・細胞が食物からエネルギーを得るしくみについて、その分子機構を説明できる。
- ・細胞内エネルギー代謝が細胞の機能に影響を及ぼす仕組みについて、具体例を挙げて説明できる。
- ・細胞周期とその調節について理解し、その分子機構を説明できる。
- ・細胞外シグナルによる細胞の分裂、成長、生存の制御機構を説明できる。
- ・減数分裂のしくみと意義、メンデルの法則について説明できる。
- ・細胞外マトリクスの機能とその分子機構を説明できる。
- ・発生学の基礎として、初期胚と幹細胞について理解し説明できる。

< 努力到達目標 >

- ・未知の問題を解決するために、必須到達目標で取得した知識に基づいて物事の原理・本質・考え方を適切に応用できる。
- ・上記の各生命現象に起こる異常と、細胞・個体の表現型との因果関係を考察できる。

・細胞の機能を解析したり、疾患の原因を解析したりする手法を的確に選択できる。

成績評価方法および基準

前期試験(第1回～9回分; 45%配分)と後期試験(第10回～17回分; 45%配分)、およびミニテストや課題などの平常点(10%配分)の合計が60%以上の場合に合格とする。定期試験では、必須到達目標から「知識を問う問題」を6割程度、努力到達目標から「考察する問題」を4割程度出題する。形式は全て説明を要する記述式であり、理解度に合わせた部分点を与えるものとする。

年度末の再試験では、前・後期試験結果の低い方の学習範囲を受けることができ、1) 前期本試験もしくは再試験、2) 後期本試験もしくは再試験、3) 平常点、三つの合計が60%以上の場合に「可」を認定する。

出席の要件は、シラバス「II 履修要項 3 授業の出席・欠席等について」のとおり。正当な理由がない遅刻・早退は欠席と同等に扱う。

事前・事後学習について

講義はパワーポイントスライドを用いて行う。初めて聞く講義内容をきちんと理解するためにも、事前に学務システムを通じて配信した資料を予習し、概要を理解しておくことが必須である。講義後は疑問点を整理し、必ず次回講義までに解決しておくこと。独力で解決できない場合には、担当教員にアポイントを取り、質問することを推奨する。試験前の付け焼き刃的な学習では目標に到達することは困難であるため、日頃から講義ごとの予習と復習を繰り返す習慣を身につけることが極めて重要である。

前期試験で6割以上の点数を取れなかった学生に対する救済措置として、夏休みに補習や補講を開催するので積極的に参加することを強く推奨する。

教科書・参考文献等

教科書は指定しない。参考図書は以下のとおり。

Essential 細胞生物学 第5版(南江堂)

細胞の分子生物学 第6版(ニュートンプレス)

垂直統合講義の参考書(2回生講義の参考図書):

標準組織学 総論 各論 第6版(医学書院)

Ross 組織学 原著第7版(南江堂)

組織細胞生物学 原著第3版(南江堂)

オフィス・アワー

生物学の教員(下鴨キャンパス、稲森記念会館3階 生物学教室)

原則、前期は火曜日の5限、後期是水曜日の1限に対応しますが、可能な限りいつでも対応するので、まずはメールにて日時を相談して下さい。

各担当教官のメールアドレスは、以下の研究室ホームページを参照

<https://kpum-cellbiology.com/members/>

垂直統合講義の教員(河原町キャンパス、基礎医学学舎6階)

八代健太(生体機能形態科学): 発生学・幹細胞

メール: kyashiro@koto.kpu-m.ac.jp、電話: 075-251-5302

<https://www.kpu-m.ac.jp/doc/classes/igaku/seitai/36.html>

学生へのメッセージ

医学に生物学が必須であることは言を俟たないにも関わらず、敢えて高校時代に生物学を選択しない学生が増えています。生物未選択者は、このハンデを克服するために大変苦勞します。まずは苦手意識をなくし、興味を持って学ぶ方法を各自見つけて、覚悟を持って努力して下さい。努力を惜しまない学生に

は、いくらでもサポートします。生物は、分かったら楽しいものなのです。

授業日程					
回数	日付	曜日	時限	内容	担当教員
1	2025/04/11	金	2	細胞:生命の基本単位	吉澤 達也
2	2025/04/18	金	2	DNA と染色体	吉澤 達也
3	2025/04/25	金	2	DNA の複製と修復	吉澤 達也
4	2025/05/09	金	2	DNA からタンパク質へ	吉澤 達也
5	2025/05/16	金	2	遺伝子発現の調節	吉澤 達也
6	2025/05/23	金	2	膜の構造	吉澤 達也
7	2025/05/30	金	2	膜を横切る輸送	吉澤 達也
8	2025/06/13	金	2	細胞のシグナル伝達	吉澤 達也
9	2025/06/20	金	2	細胞骨格	吉澤 達也
10	2025/06/27	金	2	遺伝子の構造と機能の解析	吉澤 達也
11	2025/09/19	金	2	細胞が食物からエネルギーを得るしくみ-1	吉澤 達也
12	2025/09/26	金	2	細胞が食物からエネルギーを得るしくみ-2	吉澤 達也
13	2025/10/03	金	2	細胞周期	吉澤 達也
14	2025/10/10	金	2	細胞分裂と細胞がたどる運命	吉澤 達也
15	2025/10/17	金	2	細胞外マトリックスと細胞の社会	山田 大祐
16	2025/10/24	金	2	有性生殖と遺伝学	後藤 仁志
17	2025/11/14	金	2	初期胚と幹細胞(垂直統合)	八代 健太

科目名	現代生命科学（100233）		
科目責任者	吉澤 達也		
単位数	1. 2	必修・選択区分	必修
開講時期・学年	後期・1 学年	授業形態	講義

教育の目的と方針

本講義では、生物科学で受講する基礎生物学的知識を礎として、ヒト高次生命現象の基盤となる分子・細胞生物学的機構に関する最新の理論と知識の修得を目標とする。特に、分子遺伝学、幹細胞生物学、発生生物学、神経科学や免疫学の基本的概念、多細胞生物における複雑な情報伝達機構、遺伝子やゲノムの多様性と表現型などの基礎医学的知識を知り、さらに、基礎医学との連続性を垂直統合講義から理解する。本講義を通じ、ヒトの構造と生理機能の背景となる分子基盤とその破綻による疾患が理解できるようになることを目指す。

到達目標

1. 分子遺伝学の基礎概念や様々なゲノム解析技術を概説できる。
2. 胚発生における遺伝子発現や細胞運命決定機構について説明できる。
3. 幹細胞生物学の基本的概念について説明できる。
4. 受容体による情報伝達の機序、細胞内シグナル伝達の過程を説明できる。
5. 骨組織の基本構造と生理学的特性について説明できる。
6. 哺乳類の免疫の仕組みや特性について説明できる。
7. ゲノムの多様性やエピゲノムの機序と疾患との関連について説明できる。

成績評価方法および基準

1)定期試験80%、2)平常点 20%

両項目の合計が 60%以上の場合に合格とし、その得点を本科目の評価とする。

事前・事後学習について

講義では各テーマに沿ったスライドを毎回用意する。事前に学務システムを通じてスライド資料を配信するので、スライドに記載のある用語などで不明なものがある場合はあらかじめ調べておくことを推奨する。また、生物科学で履修する内容を補完・発展した講義内容となるため、Essential 細胞生物学は適宜参考にとすること。「細胞とは」、「タンパク質の構造と機能」、「DNA からタンパク質へ」、「染色体と遺伝子調節」、「細胞の情報伝達」、「細胞骨格」、「細胞分裂」、「細胞周期と細胞死」、「組織の成り立ちとがん」などは予習・復習しておくことを推奨する。

教科書・参考文献等

教科書は指定しない。学習の理解を深めるための参考書・参考図書を以下に記載する。

1. Essential 細胞生物学 第 5 版 (Alberts 他著、南江堂、8,000 円)
 2. 細胞の分子生物学 第 6 版 (Alberts 他著、ニュートンプレス、16,000 円)
 3. がん-4000 年の歴史- 上下 (シッダールタムカジー、ハヤカワ文庫 NF、各 1,012 円)
- この他授業において適時参考書を紹介する。

オフィス・アワー

原則、火・木曜日の 16～17 時に対応しますが、他の日時はメールにて相談して下さい。

e-mail: dyamada@koto.kpu-m.ac.jp (山田)/ hgotoh@koto.kpu-m.ac.jp (後藤)

学生へのメッセージ

本講義では、基礎生物学的知識を基盤として、現代的な最新の科学知見についても紹介する。基礎医学的な知識を学ぶとともに、最新の科学知識についても積極的に取り入れる学習態度を身に付けてほしい。

授業日程

回数	日付	曜日	時限	内容	担当教員
1	2025/9/25	木	1	分子遺伝学概論	後藤 仁志
2	2025/9/30	火	3	性決定と性分化の仕組み	後藤 仁志
3	2025/10/02	木	1	細胞間シグナル伝達	山田 大祐
4	2025/10/07	火	3	幹細胞と哺乳類の形態形成	後藤 仁志
5	2025/10/09	木	1	骨組織の発生と疾患	山田 大祐
6	2025/10/14	火	3	神経系の形成と働き	後藤 仁志
7	2025/10/16	木	1	免疫系による生体防御	山田 大祐
8	2025/10/21	火	3	環境適応と恒常性維持(垂直統合授業)	八木田 和弘
9	2025/10/23	木	1	腫瘍の分子生物学	山田 大祐

科目名	生物学実習（100231）		
科目責任者	吉澤 達也		
単位数	物理学・化学・生物学の実習3科目で1.8。認定は実習毎に行う。出席数も実習毎にカウントする。	必修・選択区分	必修
開講時期・学年	前期・1学年	授業形態	実習

教育の目的と方針

生物科学や現代生命科学で学習する内容を、実習を通して体験的に学ぶ。あわせて、生物学における基本的な技術として、顕微鏡の使用法、対象の観察とスケッチ、分子生物学的実験の方法とその器具の使い方を学ぶ。また、脊椎動物の体の構造や発生について実際の標本を用いて観察し、人体の構造と機能の学習のための基礎知識を得る。

生物学教室で作成した「実習の手引き」を元に、観察や実験を行う。観察や実験の成果は、スケッチブックに記載して毎回提出する。

到達目標

生物科学、生命科学の知識の多くは、生物の観察と様々な実験によって得られたものである。これらを実際に体験することを通して、実験手技の基本および生物学分野での考え方を修得する。

具体的な各到達目標は、以下のとおりである。

- ・顕微鏡を正しく使用することができる。
- ・生物をよく観察して、スケッチとして表現できる。
- ・細胞の基本構造、とりわけ核、細胞膜（細胞の境界）を図示してその機能を説明できる。
- ・生きた培養細胞を操作することにより、以下の能力を身につける。
 - 1) 培養細胞の基本的概念を説明できる。
 - 2) 実験器具を適正に使用できる。
 - 3) 実験手順と各手順の意味を説明できる。
- ・細胞や組織から DNA やタンパク質を単離しそれを扱うことを通して、以下を能力を身につける。
 - 1) DNA やたんぱく質の分子機能の概略を説明できる。
 - 2) 実験器具を適正に使用できる。
 - 3) 実験手順と各手順の意味を説明できる。
 - 4) 危険な試薬を使う際の注意点を理解し、安全に取り扱うことができる。
- ・実験結果や観察内容を通じて、生物科学に関する疑問を提起し、自発的に質問できる。
- ・実験や観察から得られたデータをもとに、生物科学の知識と関連付けて独自の考察を展開できる。

成績評価方法および基準

出席の要件は、シラバス「II 履修要項 3授業の出席・欠席等について」のとおり。実習課題を終えた学生から帰宅可能であるが、時間内(3、4限)に終われない場合は時間を延長して行う必要がありますので、5限以降に予定を入れないようにして下さい。実習は全出席が原則であり、遅刻・早退は欠席と同等に扱い、出席状況・実習態度に基づき実習に積極的に参加していない(例えば、実験を分担しない・居眠りしている・実習室を長く抜け出すなど)と一度でも判断された場合には、後日補習を受ける必要がある。

以上の要件を満たした上で、成績は毎回提出するレポート課題(80%)と実習態度(20%)で評価し、60%

未満であれば不可とする。レポートは、実習の手引きに書いてある各実習の評価項目が適切に記載されており、十分に理解しているかどうかに基づいて評価する。

事前・事後学習について

本実習の内容の多くは、2年次の基礎医学科目の講義や実習に発展するものである。例えば、顕微鏡の使い方は組織学や病理学での標本観察の基礎となる。マウスの体の構造の観察は、人体の構造や発生の理解につながる。DNA やタンパク質を扱う際に使う器具は、2年次以降の実習で使うものも多い。このように実習においても垂直統合の観点から、実習内容を十分理解し機器の使用方法について熟知しておくことが肝要である。

そのため、実習までに事前配布するマニュアルに目を通し、参考書などを利用して観察すべき対象と実験主義について十分に予習しておくこと。

教科書・参考文献等

生物学教室で作成した「実習の手引き」を配布し、この手引きに従って実習を行う。

オフィス・アワー

後藤、山田、吉澤（下鴨キャンパス 稲森記念会館3階 生物学教室）

対応時間は、火曜日の 16 時～17 時を基本とする。ただし、可能な限りいつでも対応しますので、メールにて日時を相談して下さい。

各担当教官のメールアドレスは、以下の研究室ホームページを参照

<https://kpum-cellbiology.com/members/>

学生へのメッセージ

実習は、「実習の手引き」に記された実習予定表に従って行います。スケッチやレポートは例外を除いてすべて A4 のスケッチブックに記載して、毎回提出して下さい。解剖セットに含まれる 4 種類のピンセット、大小 2 種類のハサミは実習に必須の器具です。解剖や様々な試薬を使う実習内容もあるため、白衣も必要です。したがって、スケッチブック、解剖セット、白衣は生協で購入して、初回の実習から持参すること。

生物科学の講義内容と対応している実習内容については、エッセンシャル細胞生物学や講義資料を持参することが望ましい。

授業日程

回数	日付	曜日	時限	内容	担当教員
1	2025/04/15	火	3, 4	(B 組) 顕微鏡の使い方と顕微鏡標本の観察	後藤 仁志 山田 大祐 吉澤 達也
2	2025/04/22	火	3, 4	(A 組) 顕微鏡の使い方と顕微鏡標本の観察	
3	2025/05/14	水	3, 4	(B 組) 脊椎動物の骨格および内部構造の観察	
4	2025/05/20	火	3, 4	(A 組) 脊椎動物の骨格および内部構造の観察	
5	2025/05/27	火	3, 4	(B 組) 培養細胞を用いた解析	
6	2025/05/28	水	3, 4	(A 組) 培養細胞を用いた解析	
7	2025/06/11	水	3, 4	(B 組) 核酸の電気泳動	
8	2025/06/17	火	3, 4	(A 組) 核酸の電気泳動	
9	2025/06/25	水	3, 4	(B 組) タンパク質の定量と活性の測定	
10	2025/07/01	火	3, 4	(A 組) タンパク質の定量と活性の測定	

科目名	医学概論 I (900106)		
科目責任者	橋本 直哉 ほか		
単位数	1	必修・選択区分	選択
開講時期・学年	後期(3Q)・1 学年	授業形態	講義

教育の目的と方針

わが国で西洋医学を導入し高等医学教育が開始されたのは、明治維新のころ東京帝国医科大学に加えて、京都府立医科大学の前身である京都府医学校（京都療病院）を含めた府県立の医学校が誕生して以降のことでした。現在では 82 校の大学医学部／医科大学が存在し、医学の進歩に貢献するとともに国民保健・地域医療を支えています。本講義は、現代の医学部教育について紹介する目的で、本学の基礎医学、社会医学、そして臨床医学の各医学科講義から抜粋した講義をシリーズ化し、歴史背景や最先端医学上の課題について概説します。これにより、医学系学生はもとより、医学系以外の学生諸君にも医学そのものや医学教育課程の理解を深めていただき、大学間の相互交流にも寄与することをその目的としています。

到達目標

- ・医学の全体像を把握し、その教育課程の基本を理解し、説明できる。
- ・医学と自分の将来進む専門分野との関わりを探り、それに対する意見を述べることができる。
- ・自分や家族との関わりの中で、医学・医療のあるべき姿について考え、自分の意見を述べることができる。

成績評価方法および基準

各講義後の小テスト結果（40%）、最終回講義で課す総合レポートの内容（60%）を合計した値を評点とし、60 点以上である場合に合格とします。

事前・事後学習について

各回の講義ごとに定められた資料閲覧の期間及び小テストの提出期限を十分確認するようにしてください。

教科書・参考文献等

- ・特になし。なお、講義において参考資料を紹介する場合があります。

オフィス・アワー

問い合わせ等がある場合は、本学教育支援課下鴨事務室(email:kyjim@koto.kpu-m.ac.jp、tel:075-703-4921)に連絡をお願いします。

学生へのメッセージ

医学は生命の仕組みの解明や疾病の理解と制御方法を探る「科学」と同時に、人々の幸せな生活を追求する文理融合、超複雑系の実学です。この授業では、「医学専門課程で取り扱われる重要な臨床課題や最先端医学」をテーマとし、診療・研究に従事する医学科教員がわかりやすく解説します。医学部学生には「医学の早期導入・医の心と将来像の確立」に最適の講義シリーズです。他学部の学生さんには「自分の専門領域と医学との関連・連携」を捉え、医学・医療のあるべき姿について考える重要な機会になります。幅広い専攻分野の学生諸君の聴講を期待します。

回数	日付	曜日	時 限	内容	担当教員
1	2025/9/29 オンデマンド	月	3	医学概論事始	橋本 直哉
2	2025/10/6	月	3	生理学～生命の法則～	八木田 和弘
3	オンデマンド			身近な公衆衛生と疫学	武藤 倫弘
4	2025/10/20	月	3	病原体と宿主の攻防～「生体防御機構」多彩な免疫システム～	扇谷 えり子
5	2025/10/27	月	3	診てもらいたい医師とは～21 世紀の命と健康を守る医療人の育成を目指して～	金子 美子
6	2025/11/10	月	3	細胞からヒトへ～解剖学・発生学が描く生命～	八代 健太
7	オンデマンド			消化器診療概論～臨床家の発想と発見～	吉田 直久
8	2025/11/17	月	3	私たちの周り、私たちの中にあるウイルスについて	中屋 隆明

科目名	医学概論Ⅱ（900107）		
科目責任者	橋本 直哉 ほか		
単位数	1	必修・選択区分	選択
開講時期・学年	後期(4Q)・1 学年	授業形態	講義

教育の目的と方針

わが国で西洋医学を導入し高等医学教育が開始されたのは、明治維新のころ東京帝国医科大学に加えて、京都府立医科大学の前身である京都府医学校（京都療病院）を含めた府県立の医学校が誕生して以降のことでした。現在では 82 校の大学医学部／医科大学が存在し、医学の進歩に貢献するとともに国民保健・地域医療を支えています。本講義は、現代の医学部教育について紹介する目的で、本学の基礎医学、社会医学、そして臨床医学の各医学科講義から抜粋した講義をシリーズ化し、歴史背景や最先端医学上の課題について概説します。これにより、医学系学生はもとより、医学系以外の学生諸君にも医学そのものや医学教育課程の理解を深めていただき、大学間の相互交流にも寄与することをその目的としています。

到達目標

- ・医学の全体像を把握し、その教育課程の基本を理解し、説明できる。
- ・医学と自分の将来進む専門分野との関わりを探り、それに対する意見を述べることができる。
- ・自分や家族との関わりの中で、医学・医療のあるべき姿について考え、自分の意見を述べることができる。

成績評価方法および基準

各講義後の小テスト結果（40%）、最終回講義で課す総合レポートの内容（60%）を合計した値を評点とし、60 点以上である場合に合格とします。

事前・事後学習について

各回の講義ごとに定められた資料閲覧の期間及び小テストの提出期限を十分確認するようにしてください。

教科書・参考文献等

- ・特になし。なお、講義において参考資料を紹介する場合があります。

オフィス・アワー

問い合わせ等がある場合は、本学教育支援課下鴨事務室(email:kyjim@koto.kpu-m.ac.jp、tel:075-703-4921)に連絡をお願いします。

学生へのメッセージ

医学は生命の仕組みの解明や疾病の理解と制御方法を探る「科学」であると同時に、人々の幸せな生活を追求する文理融合、超複雑系の実学です。この授業では、「医学専門課程で取り扱われる重要な臨床課題や最先端医学」をテーマとし、診療・研究に従事する医学科教員が わかりやすく解説します。医学部学生には「医学の早期導入・医の心と将来像の確立」に最適の講義シリーズです。他学部の学生さんには「自分の専門領域と医学との関連・連携」を捉え、医学・医療のあるべき姿について考える重要な機会になります。幅広い専攻分野の学生諸君の聴講を期待します。

回数	日付	曜日	時 限	内容	担当教員
1	2025/12/8	月	3	感染症との闘い～これまでとこれから～	貫井 陽子
2	2025/12/15	月	4	日本の医療はこうなっている～放射線科医の視点～	山田 恵
3	2025/12/22	月	4	循環器内科学総論～人は血管とともに老いるのか？心臓・血管を長持ちさせるにはどうすれば良いのか？～	的場 聖明
4	オンデマンド			医学の枠を超えよ～医工連携が支える呼吸器診療の未来～	高山 浩一
5	2026/1/13	火	4	小児科学～小児の成長、発達から学ぶこと～	家原 知子
6	オンデマンド			徐々に進化し Covid 禍で認知度があがった集中治療をふりかえる	小尾口 邦彦
7	2026/1/19	月	3	超高齢社会を支えるリハビリテーション医学	三上 靖夫
8	2026/1/26	月	3	手術で治せる脳の病気を見てみよう	橋本 直哉

科目名	医療統計学 (277350)			
科目責任者	長崎生光 吉井健悟 田代啓 手良向聡 中田美津子 堀口剛			
単位数	2. 5	必修・選択区分	必修	
開講時期・学年	5月～11月・5学年	授業形態	講義・実習	

教育の目的と方針

医療統計学は、統計学的推測等を用いて医学の問題を解決するための応用統計学である。そこには、研究をデザインし、医学データを適切に収集、入力、管理、解析し、得られた結果を解釈すること等が含まれている。

この講義と実習では、始めに3年次の生物統計学で理解した医学研究で広く使用されている各統計手法の基礎的原理の理解を深める。次に公表された臨床研究の具体的な実例を通して、結果の解釈、研究デザインなどについて学ぶ。また、これらの知識を踏まえて、実際の医学論文で最も広く実用されている医学統計ソフトウェアを使用し、目的に適合する統計解析手法を適切に選択して解析を実行する技術を演習して習得する。

講義、コンピューター実習（医学統計ソフトウェア SPSS ; IBM 社）

1 具体的な事例から観察研究・臨床試験について理解する

- (1) 観察研究・臨床試験論文を正しく読むことの重要性について理解する。
- (2) 研究目的に合ったデザインの選択について理解する。
- (3) 臨床試験におけるデザインの重要性およびデザインと統計解析の一貫性について理解する。
- (4) 観察研究における様々なバイアスとその対処法について理解する。
- (5) 医学研究における評価尺度の信頼性ならびに妥当性評価の概要について理解する。
- (6) 臨床研究結果の統合手法であるメタアナリシスの概要について理解する。
- (7) 医薬品等の費用と効果を統合的に評価する手法である費用効果分析の概要について理解する。
- (8) 診断法の統計的評価について理解する。

2 医学統計ソフトウェアを用いた統計解析手順について理解する。

- (1) 医学統計ソフトウェアの種類や解析手法についての概要を理解する。
- (2) データ入力、基本的な図示、記述統計量の処理操作を学ぶ。
- (3) データの分布と検定の処理操作を学ぶ。

なお、学生の理解度・進捗状況により、内容を一部変更することもあり得る。

到達目標

1. 学生は、医学統計ソフトウェア（SPSS ; IBM 社）を適切に利用して、目的に適合する統計解析手法を選択して解析を実行できる。
2. 学生は、公表された臨床研究の結果を批判的に評価できる。
3. 学生は、臨床研究（観察研究、臨床試験）のデザインと統計解析において考慮すべき点を理解し、説明できる。
4. 学生は、評価尺度の信頼性・妥当性について概要を説明できる。
5. 学生は、メタアナリシスについて概要を説明できる。

6. 学生は、費用効果分析について概要を説明できる。					
7. 学生は、診断法の統計的評価について概要を説明できる。					
成績評価方法および基準					
実習（長崎教授・吉井講師）は、平常点（20%）と実習課題（80%）を総合的に評価する。平常点は、授業中の演習への積極的な参加と取り組みに基づいて評価する。 講義（手良向教授・中田講師、堀口助教）は、最終講義で配付する確認テストの提出課題で評価する。 成績評価は、実習（長崎教授・吉井講師）70%、講義（手良向教授・中田講師、堀口助教）30%とし、総合点が60点に満たない者を不可とする。					
事前・事後学習について					
授業前に配布・指定された資料や教科書にしっかり目を通し、基本的な概念や用語を確認すること。また、事後学習では、授業で扱った内容を振り返り、指示された実習課題やレポート課題に取り組むこと。					
教科書・参考文献等					
Google Classroomにより、適宜資料を配布する。 参考文献：植田真一郎著『論文解釈のピットフォール(第1回)6/4/2009—(第26回) 5/16/2011 週刊医学界新聞』医学書院 マーチン・ブランド『EBM 実践のための統計学 Q&A』篠原出版新社 Keneeth J. Rothman『ロスマンの疫学』第2版、篠原出版新社					
オフィス・アワー					
講師 吉井健悟 月・金曜日 12:00-12:50 教授 手良向聡 月曜日 14:00-17:30 講師 中田美津子 水曜日 14:00-17:30 助教 堀口剛 月曜日 14:00-17:30 備考：授業に関する質問はメールやGoogle Classroomでのコメントで受付ます。 対面での質問や相談の際は事前にメールで予約してください。 連絡先のメールアドレスは授業の際に周知する。					
学生へのメッセージ					
講義と実習は基本的に配付資料に沿って進めるが、適宜、医療統計の入門的講義も行う。また、実習は広小路キャンパスの地下情報科学実習室（PC 設置）、講義（7月23日4時限、7月30日3・4時限、10月8日4時限、10月22日3・4時限）は北臨床講義室で行う。 実習での課題配付や提出には、Google Classroomを利用します。そのため、大学のメールアドレスでのログインが必要となります。授業では、大学のメールアドレスとパスワードを忘れずに準備してください。 情報科学実習室では授業中を含め、いかなる場合でも飲食を厳禁とします。機器の故障や衛生面での問題が生じる可能性があるため、各自が責任を持ってルールを守ってください。水分補給などは、実習室から一旦退出し、飲食可能なスペースで行うこと。					

授業日程					
回数	日付	曜日	時限	内容	担当教員

1	6/25	水	3	統計解析ができる医師を育てる意義	田代 啓 長崎 生光 吉井 健悟
2	6/25	水	4	数値と記述統計量の報告	吉井 健悟 長崎 生光
3	6/25	水	5	データの分布と正規性の検証	吉井 健悟 長崎 生光
4	7/9	水	3	区間推定と要約統計量の報告	吉井 健悟 長崎 生光
5	7/9	水	4	データの分布と要約統計量の演習・まとめ	長崎 生光 吉井 健悟
6	7/16	水	3	仮説検定（１）仮説検定の手順	吉井 健悟 長崎 生光
7	7/16	水	4	仮説検定（２）第１種の過誤と第２種の過誤	吉井 健悟 長崎 生光
8	7/23	水	3	仮説検定（３）順位に基づいた検定	吉井 健悟 長崎 生光
9	7/23	水	4	評価尺度の信頼性と妥当性	中田 美津子
10	7/30	水	3	臨床試験デザイン（１）	堀口 剛
11	7/30	水	4	臨床試験デザイン（２）	堀口 剛
12	9/10	水	3	仮説検定の演習・まとめ	長崎 生光 吉井 健悟
13	9/10	水	4	相関と回帰（１）散布図と相関解析	吉井 健悟 長崎 生光
14	9/17	水	3	相関と回帰（２）回帰分析	吉井 健悟
15	9/17	水	4	相関解析と回帰分析の演習・まとめ	長崎 生光 吉井 健悟
16	10/1	水	3	重回帰分析	吉井 健悟
17	10/1	水	4	ロジスティック回帰分析	吉井 健悟 長崎 生光
18	10/8	水	3	生存時間解析	吉井 健悟
19	10/8	水	4	観察研究デザイン	中田 美津子
20	10/22	水	3	メタアナリシス・費用効果分析	中田 美津子
21	10/22	水	4	診断法の統計的評価（講義の確認テスト配布、提出期限・方法を提示）	手良向 聡
22	10/22	水	5	重回帰分析と生存時間解析の演習・まとめ	長崎 生光 吉井 健悟

科目名	英語 1 (100329)		
科目責任者	三宅 弘晃		
単位数	2. 6	必修・選択区分	必修
開講時期・学年	通年・1 学年	授業形態	講義

教育の目的と方針

本科目では、学生が英語を臨床および研究に活かすための基礎を築き、それを医療の現場や研究の場で活用する応用力を養うことを目的とする。

日進月歩する医学の世界にあって、迅速な学問向上のためには国際間の情報伝達、研究成果の交換が不可欠である。20 世紀後半に情報革命をもたらしたインターネットは情報を地球規模でほとんど時差なく送受信することを可能とし、それらの情報のやりとりの多くは、現在、事実上の世界共通語である英語でなされている。

一方で、言語はそれを形成し使用してきた人々の文化・風土・精神性・価値観などの表象でもある。英語を通じて多くの世界に触れ、幅広い教養を培うこともまた、将来人間の生命に直接関わる職業に携わる医師にとって重要なことである。

このように、グローバルな医療環境において、英語は単なるコミュニケーションツールとしてだけではなく、知識を共有し、最先端の医療に貢献するための「架け橋」として、さらに重要性を増している。将来医学に携わる学生には入学直後の早い段階でさまざまな英語に触れ、迅速かつ正確な英語運用能力を身につけることが期待される。

上記の目的を達成するため、「反転授業 (flipped class)」の流れに沿って、以下の 3 つのセクションから構成される授業を行う。なお、それぞれのセクションの内容や目的とその評価方法については、第一回目の講義において詳細に説明されるので、必ず参加すること。

1 予習

あらかじめ指定された範囲について読み、全体の内容を理解する。また、毎回の範囲に対して Google Classroom に投稿されるアサインメントを Google Classroom の指定された箇所に提出する。教科書の内容（言語構造、文化的背景に関するものなど）について質問があれば、積極的に投稿する（注：第一回目の内容説明を受けて第二回目の講義の予習が行えるよう、教科書は第一回目の講義までに必ず準備すること）

2 授業：グループワーク

毎回ランダムに決められたグループ（3～4 名程度）に分かれ、あらかじめ読んできた教科書の割り当て箇所についてディスカッションを行い、予習セクションで受講生から集められた質問や疑問について考える。

3 授業：講義

グループワークセクションで浮き彫りにされた理解しづらい箇所を中心に、とくに難しい英語表現や興味深いと思われる言語文化の諸問題に重点を置いて分析し、理解をさらに深める。また、リーディングストラテジーについて学び、ライティングに活かせる知識を得る。この部分は授業担当者（三宅）によるインタラクティブな性質をもった講義形式で行われる。

到達目標

1 リーディング：英語を速く正確に読みこなすことができる

雰囲気や不確かな推測に頼らず、理論的根拠をもった緻密な分析を行い、英語文献を速く正確に

読みこなす能力を身につけることを目標とする。これは、文構造および談話（ディスコース）構造の正確な把握と論理的な思考および文化的背景に関する知識に裏打ちされた「文脈理解をする力」である。

2 知識の再構成：他者と協働して知識を再構築し、深化することができる

他受講者との協働を通じて、自らの知識を客観的に俯瞰し、再体系化・深化する能力を身につけることを目標とする。これは、リーディングによって身につけた言語および文化に関する知識を消化・再構築したうえで他者とディスカッションして意見交換するときに重要な「他者との協働により自らの知見を深化する力」である。

3 ライティング：内在化した知識や考えを英語で正確に表現することができる

他者との協働で深められた知見を正確に英語で表現する能力を身につけることを目標とする。これは、リーディングや他者との協働を通じて深められた知識や意見を外在化するときに重要な「文法的、談話的に正確に表現する力」である。

成績評価方法および基準

以下の3点の合計得点を本科目の評点とし、60点以上である場合に合格として単位を認定する。なお、第一回目の講義において、各項目についてさらに詳細な説明がなされる。

1 提出：アサインメントおよび振り返りの提出（40点）

これは到達目標1および3に関する評価である。毎回オンラインで提出する。

2 参加：積極的参加（10点）

これは到達目標2に関する評価である。グループディスカッションの参加・貢献、および他者との協働に積極的に関わる姿勢、知識を整理・内在化する力により評価される。なお、これは単なる「出席」点とは異なり、単に席についているだけの状態に対して与えられる点数ではないことに留意すること。

3 テスト：定期テスト2回（20+30点）

これは到達目標すべてに関する評価である。

前期（Chapter 4）と後期（Chapter 8）に関して定期テストを行う（計2回）。

【無断欠席について】

無断欠席が一度でもある場合は単位認定評価の対象外となる。忌引きや学校感染症などのため、やむをえず欠席しなければならない場合は、すみやかに事務室に理由を提出したうえで、授業担当者（三宅）に代替課題の指示をあおぎ、指定された期日までに指定された方法で提出しなければならない。

事前・事後学習について

事前学習において学び合うことは歓迎するが、最終的に提出する解答は必ず自分の力で作成すること。他人の解答（生成 AI によるアウトプットを含む）を写すことは、試験におけるカンニングに相当する不正行為であるため、相応のペナルティが与えられる。上述のように、この本科目は反転授業により行われるため、毎回の授業においては予習が必要となる。毎回必ず取り組むこと。また事後学習においては、事前学習では学びきれていなかった項目をていねいに見直し、到達目標達成に向けて活かせるようにすること。なお、自学自習（事前・事後学習両方を含む）方法については、第一回目の授業で詳細な指示がある。

教科書・参考文献等

Skills for Success Reading and Writing Level 5 (Nigel A. Caplan, Scot R. Douglas 著、Oxford University Press、約 5,000 円)

オフィス・アワー
時間：授業日（木曜日）昼休み 場所：第一回目の授業で指示する また、オフィスアワーに限らずメールで質問を受け付けるので、積極的に活用すること。 連絡方法については、Google Classroomを通じて行う。細かい方法は第一回目の講義中に指示がある。
学生へのメッセージ
・毎回の授業において、教科書はもちろんのこと、辞書も必ず持参すること ・電子辞書および有料のスマホ辞書アプリの使用は可、Web上の無料辞書サイトの使用は不可 ・授業中はスマホやパソコンなどの電子機器類を積極的に使用することになるが、授業と無関係に使用してはならない ・生成AIとは「正しく」関わること。提出物（これから提出するもの）を作成するいかなる段階においても用いてはならない。ただし、提出後に自らの学びを深める目的で用いることについては禁止しない ・出席調査において不正を行った者に対しては、厳正に対処する。なお、虚偽の企ておよび虚偽申告だけでなく、それらの不正行為を幫助する／幫助しようとすることも不正行為とみなされる

授業日程					
回数	日付	曜日	時限	内容	担当教員
1	2025/4/10	木	3限(B組)/ 4限(A組)	Introduction I	三宅 弘晃
2	2025/4/17	木	3限(B組)/ 4限(A組)	Chapter 1 Reading 1	三宅 弘晃
3	2025/4/24	木	3限(B組)/ 4限(A組)	Chapter 1 Reading 2	三宅 弘晃
4	2025/5/8	木	3限(B組)/ 4限(A組)	Writing (1) / Wrap up (1)	三宅 弘晃
5	2025/5/15	木	3限(B組)/ 4限(A組)	Chapter 2 Reading 1	三宅 弘晃
6	2025/5/22	木	3限(B組)/ 4限(A組)	Chapter 2 Reading 2	三宅 弘晃
7	2025/5/29	木	3限(B組)/ 4限(A組)	Writing (2) / Wrap up (2)	三宅 弘晃
8	2025/6/12	木	3限(B組)/ 4限(A組)	Chapter 3 Reading 1	三宅 弘晃
9	2025/6/19	木	3限(B組)/ 4限(A組)	Chapter 3 Reading 2	三宅 弘晃
10	2025/6/26	木	3限(B組)/ 4限(A組)	Writing (3) / Wrap up (3)	三宅 弘晃
11	2025/9/18	木	3限(B組)/ 4限(A組)	Chapter 5 Reading 1	三宅 弘晃
12	2025/9/25	木	3限(B組)/ 4限(A組)	Chapter 5 Reading 2	三宅 弘晃
13	2025/10/2	木	3限(B組)/ 4限(A組)	Writing (5) / Wrap up (5)	三宅 弘晃
14	2025/10/9	木	3限(B組)/ 4限(A組)	Chapter 6 Reading 1	三宅 弘晃

15	2025/10/16	木	3 限(B 組) / 4 限(A 組)	Chapter 6 Reading 2	三宅 弘晃
16	2025/10/23	木	3 限(B 組) / 4 限(A 組)	Writing (6) / Wrap up (6)	三宅 弘晃
17	2025/11/13	木	3 限(B 組) / 4 限(A 組)	Chapter 7 Reading 1	三宅 弘晃
18	2025/11/20	木	3 限(B 組) / 4 限(A 組)	Chapter 7 Reading 2	三宅 弘晃
19	2025/11/27	木	3 限(B 組) / 4 限(A 組)	Writing (7) / Wrap up (7)	三宅 弘晃
20	2025/12/4	木	3 限(B 組) / 4 限(A 組)	Review	三宅 弘晃

科目名	英 語 2 (100330)		
科目責任者	木塚 雅貴 (前期A組・後期B組) James Jensen (前期B組・後期A組)		
単位数	2. 6	必修・選択区分	必修
開講時期・学年	通年・1 学年	授業形態	講義

教育の目的と方針

There are two specific aims of this course which will enable you to communicate successfully with other people in English in everyday situations:

1. To accustom you to English spoken at a natural speed, and thus to improve your aural comprehension ability.
(ナチュラルスピードで話される英語に慣れ、英語の聴く能力を高めること。)
2. To enable you to express your views and thoughts properly in spoken English, and thus to improve your oral ability.
(自らの見方・考え方を英語で適切に発表することができるように、英語の話す能力を高めること。)

到達目標

There are three attainment targets in this course:

1. To develop and enhance your listening comprehension ability, more specifically, to enable you to grasp the contents of more complicated and difficult lectures, talks, interviews and dialogues.
(複雑で高度な内容の講義・インタビュー・対話などを聴いて、その内容を適切に把握できること。)
2. To enable you to properly present your views and thoughts orally to other people in your own words.
(自らの見方・考え方を、自分の言葉で他人に適切に伝えることができること。)
3. To enable you to interact with others in English, especially by asking and answering questions, commenting, expressing your views and opinions, and having proper discussions.
(英語で質疑応答を行ったり、自らの考え方や意見を表明したり、適切に議論ができること。)

成績評価方法および基準

Student work in this course will be evaluated based on the following criteria:

1. Attendance (出席)

All classes are required for the whole academic year. Each student is expected to arrive and be ready to start the class on time. Being late or not being prepared to start the class on time will result in you being marked absent. Proper documentation is required for absences and tardiness to be excused.

Be sure to buy your own textbooks and bring them to every class (including the first lesson); otherwise, you will not be permitted to attend class and will be marked absent.

(授業は総て出席すること。やむを得ない事情があり遅刻や欠席をする場合には、以下に記載の指示に従って対応すること。必ず1回目の授業から教科書を持参すること。)

2. Involvement in class time exercises (授業への参加度)

Each student will be evaluated on his/her performance and participation in weekly learning tasks. This includes the willingness to use English in the classroom and undertaking all class tasks in a professional and respectful manner.

(授業中の活動状況並びに授業中の英語の使用状況と授業内活動への取り組み状況について評価する。)

3. Final Examination (定期試験)

At the time when each term finishes, your score for both the listening comprehension examination (Class A in the spring term) and presentation evaluation (Class B in the spring term) and vice versa in the autumn term MUST average over 60 percent of the total; otherwise, you cannot obtain credit for the course. If either of the scores is less than 60 percent, a final chance for a retake exam will be arranged within two weeks after each exam period. When your score is over 60 percent on the retake exam, credit for the course will be obtained. (Class A students in the spring term will have a chance of the extra retake exam for the listening comprehension course before the summer holiday period has started in July. Class B students in the autumn term will have a chance of the extra retake exam for the listening comprehension course during the very end of the exam period in December or during the week just after the exam period has ended in December.)

* You must use a blue ballpoint pen in writing your answers on the exam sheets.

(前後期で授業内容が Listening と Presentation と異なっていることから、単位認定にはそれぞれの授業の成績が 60 点以上であることが必要である。Listening の授業は、定期試験を実施する。Listening の授業評価が 60 点に満たない場合には、定期試験終了後に再試験とは別に特別再試験を実施し、評価が 60 点を超えれば単位認定の対象とする。【A 組については、夏休み期間が開始する前までに特別再試験を実施する予定である。】【B 組については、本授業の定期試験日翌週のいずれかの日に特別再試験を実施する予定である。】なお、試験では「青のボールペンで解答を記入する」こと。)

4. Presentations (プレゼンテーション)

You should make two slideshow presentations and show them to the rest of the class. The presentations should be original and conform to the guidelines of the class.

(スライド・ショーによるプレゼンテーションを 2 回実施する。プレゼンテーションは自ら作成し、授業の決まりに則ったものであること。)

• Requirements for Individual presentation #1:

1. Appropriate topic chosen from the list below or approved by Jim Jensen.
2. 1.5 -2 minutes each member
3. Uses Google Slides slideshow application.
4. A minimum of 6 slides including the Title slide and References slide.
5. Notes are permitted but the more you read, the lower your score will be.

• Requirements for Individual presentation #2:

1. Appropriate topic chosen from the list below or approved by your teacher.
2. 1.5-2 minutes each member.
3. Uses Google Slides slideshow application.
4. A minimum of 6 slides but one must include a chart or a graph.
5. Notes are permitted but the more you read, the lower your score will be.

5. Academic Honesty (公正な態度)

All student work should be the student's own original work with appropriate acknowledgement, citation and referencing where necessary. Plagiarism, the use of AI-generated material, or the use of translation software will result in the student receiving a "ZERO (0)" for the assignment and a written warning. Depending on the situation, students caught cheating will receive a written explanation of the tutor's reasoning and will not receive credit for the course.

<Listening comprehension class>

Class participation: 20 percent. Exam: 80 percent.

<Presentation class>

Class participation: 10 points. Presentation outlines: 20 points (10 points x 2). Slides: 20 points (10 points x 2). Presentations: 50 points (25 points x 2).

事前・事後学習について

Listening comprehension: In order to improve and enhance your listening comprehension ability, you have to listen to English for at least half an hour to one hour every day. The following

websites are useful resources for your study.

・ Learn English Teens. ・ VOA Learning English. ・ TED Talk Lessons. ・ Randall's ESL Cyber Listening Lab.

Presentation: You have to prepare your presentation slides outside of class and be ready for your class presentation.

教科書・参考文献等

[Class A]

Only during the spring term, the following textbook will be used in the class: *Headway Academic Skills Level 2: Listening & Speaking*, Oxford University Press, 2011.

From the autumn term and as a Year 2 student, the following textbook will be used: *Winning Presentations: 8 Types of Successful Presentation*, 成美堂, 2018.

[Class B]

In the spring term and as a Year 2 student, the following textbook will be used: *Winning Presentations: 8 Types of Successful Presentation*, 成美堂, 2018.

Only during the autumn term, the following textbook will be used in the class: *Academic Encounters Listening and Speaking 3* (2nd edition), Cambridge University Press, 2012.

オフィス・アワー

Masataka Kizuka is available on Mondays between noon and 13.30 in the office on the Shimogamo Campus during the class periods except for the second Monday of each month.

James Jensen can be contacted after the class.

学生へのメッセージ

This is a seminar-style class. Either during the spring term or during the autumn term, using a textbook, you will develop your listening comprehension ability to enable you to grasp accurately the contents of lectures, talks, interviews and dialogues. To measure your understanding of these contents, you will complete True/False questions, multiple-choice questions, fill-in-the-blank exercises and writing exercises using your own words. This class will be taught by Masataka Kizuka.

In addition, either during the spring term or during the autumn term, using a textbook, you will make two slideshow presentations in groups. The topics will be: 1. Kyoto Life and 2. Medical/Health Issues. theme. All groups will show their presentations to the rest of the class and will participate in question-and-answer sessions on the contents of the presentations. This class will be taught by James Jensen.

All the classes will be carried out ONLY in English; therefore, your answers during class should be given in English.

On the first day of the course (April 14th), all of the students will get together in one classroom.

(授業は演習形式で行われ、前期または後期に Listening と Presentation のいずれかを履修する。

前者は日本人教員が、後者は英語を第 1 言語とする教員が担当する。Presentation の授業では、
1. 京文化の外国人への紹介と 2. 医学・医療にかかわる事項を題材とするプレゼンテーションを行う。)

For the presentation class, you will need to download the following apps on your device(s): Google Drive/Google Docs/Google Classroom. **IMPORTANT:** Make sure to log in with your official KPUM email address.

<欠席に関する注意事項>

・ 以下の 2 条件を総て満たさない欠席がある場合には、原則的に単位の認定は行わない。

1. やむを得ない事情がある場合を除き、欠席当日の **授業開始前までに**、下鴨事務室（075-703-4921/4922）に電話で欠席理由を連絡すること。
2. 病気・忌引き・公共交通機関の遅延による合理的な理由がありやむを得ない事情と認められる場合であり、かつその事情を客観的に証明し得る書類（診断書・鉄道機関発行の遅延証明書等）が、欠席した授業の次の授業までに提出されていること。

授業日程 (Class A)					
回数	日付	曜日	時限	内容	担当教員
1	<u>April</u> 14 th	Mon.	2	Induction.	Kizuka
2	21 st	Mon.	2	“1 Moving on”.	Kizuka
3	28 th	Mon.	2	“1 Moving on” & “2 Island states”.	Kizuka
4	<u>May</u> 12 th	Mon.	2	“2 Island states”.	Kizuka
5	19 th	Mon.	2	“4 Innovations from nature”.	Kizuka
6	26 th	Mon.	2	“4 Innovations from nature”.	Kizuka
7	<u>June</u> 2 nd	Mon.	2	“6 Food science”.	Kizuka
8	9 th	Mon.	2	“6 Food science”.	Kizuka
9	16 th	Mon.	2	“8 Communication”.	Kizuka
10	23 rd	Mon.	2	“8 Communication” & review listening.	Kizuka
11	<u>July</u> 7 th	Mon.	2	Exam.	Kizuka
12	<u>September</u> 22 nd	Mon.	2	Induction.	Jensen
13	29 th	Mon.	2	Unit 1 (p. 9) “The Structure of a Presentation”.	Jensen
14	<u>October</u> 6 th	Mon.	2	Unit 2 (p.13) “Presentation Skills”.	Jensen
15	20 th	Mon.	2	Presentation #1.	Jensen
16	27 th	Mon.	2	Presentation #1.	Jensen
17	<u>November</u> 10 th	Mon.	2	Unit 4 (p.28) “Visual Aids”.	Jensen
18	17 th	Mon.	2	Unit 9 (p.55) “Citations and References; AMA”.	Jensen
19	<u>December</u> 1 st	Mon.	2	Unit 12 (p.73) “Cause and Effect”.	Jensen
20	8 th	Mon.	2	Presentation #2.	Jensen
21	15 th	Mon.	2	Presentation #2.	Jensen

授業日程 (Class B)					
回数	日付	曜日	時限	内容	担当教員
1	<u>April</u> 14 th	Mon.	2	Induction.	Jensen
2	21 st	Mon.	2	Unit 1 (p. 9) “The Structure of a Presentation”.	Jensen
3	28 th	Mon.	2	Unit 2 (p.13) “Presentation Skills”.	Jensen
4	<u>May</u> 12 th	Mon.	2	Presentation #1.	Jensen

5	19th	Mon.	2	Presentation #1.	Jensen
6	26th	Mon.	2	Unit 4 (p.28) “Visual Aids”.	Jensen
7	<u>June</u> 2nd	Mon.	2	Unit 9 (p.55) “Citations and References; AMA”.	Jensen
8	9th	Mon.	2	Unit 12 (p.73) “Cause and Effect”.	Jensen
9	16th	Mon.	2	Presentation #2.	Jensen
10	23rd	Mon.	2	Presentation #2.	Jensen
11	<u>July</u> 14th	Mon.	2	Induction.	Kizuka
12	<u>September</u> 22nd	Mon.	2	Chapter 1 “Marriage, Family, and the Home”.	Kizuka
13	29th	Mon.	2	Chapter 1 “Marriage, Family, and the Home”.	Kizuka
14	<u>October</u> 6th	Mon.	2	Chapter 1 “Marriage, Family, and the Home” & Chapter 2 “The Power of the Group”.	Kizuka
15	20th	Mon.	2	Chapter 2 “The Power of the Group”.	Kizuka
16	27th	Mon.	2	Chapter 2 “The Power of the Group”.	Kizuka
17	<u>November</u> 10th	Mon.	2	Chapter 2 “The Power of the Group”.	Kizuka
18	17th	Mon.	2	Chapter 3 “Gender roles”.	Kizuka
19	<u>December</u> 1st	Mon.	2	Chapter 3 “Gender roles”.	Kizuka
20	8th	Mon.	2	Chapter 3 “Gender roles”.	Kizuka
21	15th	Mon.	2	Exam.	Kizuka

科目名	Advanced Presentation & Academic Writing (100326)			
担当教員	木塚雅貴（総括担当者） Alzo David-West・James Jensen・Philip Gurney			
単位数	2.5	必修・選択区分	必修	
開講時期・学年	通年・2年	授業形態	授業	

教育の目的と方針

As a medical practitioner, you will sometimes be required to write and give presentations in English. In recognition of these needs, this course aims to enable you to:

（将来、医師として英語でプレゼンテーションを行うことから、以下の2点ができるようになること。）

1. Create and deliver presentations in English using a four-stage (introduction, body, conclusion, and Q&A) framework.
（プレゼンテーションの基本的な型に沿って英語でプレゼンテーションを作成し、発表すること。）
2. Construct and analyse academic documents in English.
（英語で学術的な文書を組み立て、分析的に検討すること。）

到達目標

Upon completion of the presentation component of this course, you should be able to:
（プレゼンテーションに関しては、以下の6点ができるようになること。）

1. Recognize the basic patterns that constitute the framework of an effective presentation.
（効果的なプレゼンテーションの枠組みに関する基本的な型を理解すること。）
2. Create and deliver individual and team presentations using the basic patterns of an effective presentation.
（基本的な型に則って、個人またはグループで効果的なプレゼンテーション作成し、実際に発表すること。）
3. Create and use handouts which supplement presentations.
（プレゼンテーション用の資料を作成すること。）
4. Answer and ask questions concerning a presentation.
（プレゼンテーションの内容に関する質疑応答を行うこと。）
5. Evaluate the effectiveness of a presentation.
（効果的なプレゼンテーションであるか否かの評価を行うこと。）
6. Cite sources used in a presentation.
（プレゼンテーションで使われた出典を明示すること。）

Upon completion of the writing component of this course, you should be able to:
（アカデミック・ライティングに関しては、以下の6点ができるようになること。）

1. Understand the correct role of each sentence in a paragraph or essay.
（一文一文が段落や文章全体において果たしている役割を理解すること。）
2. Understand the purpose of each paragraph in an essay.
（文章全体の中で各段落が持つ目的を理解すること。）
3. Discuss the sections of an essay using the proper terminology.
（適切な専門用語を用いて、文章全体を構成する各部分に関わる議論を行うこと。）
4. Create and self-correct drafts as part of the writing process.
（文章作成過程の一部として、草稿を作成し自らそれを推敲すること。）
5. Construct paragraphs and essays where each sentence has the proper scope and the whole functions as a unit.
（各文に係る範囲を適切に設定し、文章全体が一つのまとまりを持って機能するように段落と文章全体を組み立てること。）

6. Cite sources used in an essay using the American Medical Association (AMA) referencing conventions.
(AMA スタイルを基本に、文章中で使われた出典を明示すること。)

成績評価方法および基準

Student work in this course will be evaluated based on the following criteria:

1. **Attendance** (出席)

Each student is expected to arrive and be ready to start the class on time. Being late or not being prepared to start the class on time will result in you being marked absent. Proper documentation is required for absences and tardiness to be excused.

Be sure to buy your own textbooks and bring them to every class (including the first lesson); otherwise, you will not be permitted to attend class and will be marked absent.

(必ず 1 回目の授業から教科書を持参すること。)

2. **Involvement in class time exercises** (授業への参加度)

Each student will be evaluated on his/her performance and participation in weekly learning tasks. This includes the willingness to use English in the classroom and undertaking all class tasks in a professional and respectful manner.

(授業中の活動状況並びに授業中の英語の使用状況と授業内活動への取り組み状況について評価する。)

3. **Exercises completed outside of class** (授業外の課題)

Writing and presentation exercises completed outside of class will be assessed.

(授業外の課題として作成する小論文とプレゼンテーション課題の実施状況について評価する。)

4. **Presentations** (プレゼンテーション)

Each student will be required to make two formal presentations to the rest of the class. These presentations will be submitted in paper and digital form.

(各受講生は、授業中に 2 回プレゼンテーションを行う。)

5. **Writings** (文章作成)

Each student will be required to submit written outlines, drafts, essays and researched essays. The essays should be submitted in either paper or digital formats following your tutor's instructions.

(各受講生は、アウトライン・草稿・小論文・学術的な小論文を提出すること。提出方法は、担当教員の指示に従うこと。)

6. **Academic Honesty** (公正な態度)

All student work should be the student's own original work with appropriate acknowledgement, citation and referencing where necessary. Plagiarism, the use of AI-generated material, or the use of translation software will result in the student receiving a "ZERO (0)" for the assignment and a written warning. Depending on the situation, students caught cheating will receive a written explanation of the tutor's reasoning and will not receive credit for the course.

(AI や自動翻訳などのソフトを使って作成した小論文やプレゼンテーションは、剽窃に該当する。不正が確認された場合には、単位認定を行わない。)

* The assessment weight of the "Presentations" and "Writings" will be on an equal basis. Each student's class participation points will be included in both "Presentations" and "Writings". Detailed information will be provided by the individual cohort tutor.

事前・事後学習について

You have to prepare your presentation slides and writings outside of class and be ready for your class presentation and writing submissions.

教科書・参考文献等

- *Dynamic Presentations*, 金星堂, 2007. (Used in English 2 in Year 1.)
- *Basic Steps to Writing Research Papers* (2nd Edition), Cengage Learning, 2018.

オフィス・アワー

The individual tutor of each cohort group is the initial contact person. He/she can be contacted after the class.

(原則授業の担当教員に相談すること。)

学生へのメッセージ

This is a seminar-style class, which includes lessons, oral presentations, classwork, and regular homework.

Throughout the course, you will be asked to use the textbooks and handouts to develop your presentation and writing skills.

For the writing component, English grammatical patterns and paragraph writing will be reviewed, and terminology for discussing paragraphs and essays will be taught using the *Basic Steps to Writing Research Papers* textbook. This will include learning the writing process. You will use the writing process to write two 500-word essays. The genre of the first essay will be argumentative and the second will be expository.

For the presentation component, the fundamentals of outlining and presenting will be reviewed using the *Winning Presentations: 8 Types of Successful Presentation* textbook. In addition, videos of presentations will be shown and discussed. Finally, how to prepare and write handouts will be taught. With this as a foundation, groups of two or three students will make a 20-minute presentation about the medical system of an assigned foreign country. During the autumn term, you will create a 10-minute, individual presentation on the same topic as your first essay.

(授業は演習形式で行われ、講義・口頭発表・授業中の活動・宿題が課される。ライティングの授業では、教科書を用いて最終的に 500 語程度の小論文を 2 本作成する。1 本目は自らの主張を述べる小論文を、2 本目は説明型の小論文を作成する。プレゼンテーションの授業では、1 年生の学習内容を踏まえ、最終的に発表用の資料作成について学ぶ。最初は数名のグループで「諸外国の医療制度」に関する 20 分間のプレゼンテーションを行い、後期は 10 分間の個人によるプレゼンテーションを行う。)

Topics for essays and presentations will include:

(以下の 3 つが、小論文とプレゼンテーションのテーマである。)

1. Modern healthcare systems.
2. Medical conditions.
3. Controversies in healthcare.

Depending on the material being covered, lessons may consist of lectures, group work, exercises, or quizzes. You will be expected to do writing and presentation-creation exercises in and out of the class. You will also be expected to collaborate with your classmates using online software applications and submit final assignments in either paper or digital formats following your tutor's instructions. You should attempt to answer all exercise questions in English. To create the optimum environment for language learning, all communication in the classroom should be preferably conducted in English.

(授業中及び授業外の課題として、文章とプレゼンテーションを作成すること。オン・ライン上のソフトウェアを利用しながら他の学生と協力して活動を行い、担当教員の指示に従って紙ベースまたはオン・ライン上で最終課題を提出すること。基本的に授業は総て英語で行う。)

You are expected to undertake all class tasks in a professional and respectful manner.

(近い将来専門職である医師になるために相応しい態度で授業に臨むこと。)

<欠席に関する注意事項>

・以下の 2 条件を総て満たさない欠席がある場合には、原則的に単位の認定は行わない。

1. やむを得ない事情がある場合を除き、欠席当日の授業開始前までに、教育支援課 (075-251-5225/5228) に電話で欠席理由を連絡すること。
2. 病気・忌引き・公共交通機関の遅延による合理的な理由がありやむを得ない事情と認められる場合であり、かつその事情を客観的に証明し得る書類 (診断書・鉄道機関発行の遅延証明書等) が、欠席した授業の次の授業までに提出されていること。

授業日程					
回数	日付	曜日	時限	内容	担当教員
1	<u>June</u> 10 th	Tue	5	Induction.	Jensen
2	17 th	Tue	5	Writing: Unit 1 “What is a Research Paper?”, Unit 2 “Topics” & Unit 3 “Research”.	Jensen
3	<u>July</u> 1 st	Tue	5	Writing: Unit 4 “The Beginning Thesis Statement” & Unit 5 “The Working Outline”.	Jensen
4	8 th	Tue	5	Unit 14 “Writing the Reference List” & AMA Referencing.	Jensen
5	22 nd	Tue	5	Presentation: Unit 10 “For Example...”.	Jensen
6	<u>September</u> 16 th	Tue	5	Presentation: Unit 12 “Measuring Solutions, Solving Problems”.	Jensen
7	30 th	Tue	5	Presentation: Unit 13 “Lies & Statistics...”.	Jensen
8	<u>October</u> 7 th	Tue	5	Presentation #1.	Jensen
9	14 th	Tue	5	Presentation #1.	Jensen
10	21 st	Tue	5	Presentation #1.	Jensen
11	<u>November</u> 4 th	Tue	5	Presentation #1.	Jensen
12	11 th	Tue	5	Writing: Unit 8 “Writing the Title” & Unit 9 “Writing the Introduction”.	Jensen
13	18 th	Tue	5	Writing: Unit 10 “Support, Accuracy, Logic, and Relevance” & Unit 11 “Writing the Body”.	Jensen
14	25 th	Tue	5	Writing: Unit 12 “Writing the Conclusion” & Unit 13 “Avoiding Plagiarism: Citing and Quoting Sources”.	Jensen
15	<u>December</u> 2 nd	Tue	5	Presentation: Unit 16 “In Conclusion...”.	Jensen
16	9 th	Tue	5	Presentation: Unit 17 “Any Questions?”	Jensen
17	16 th	Tue	5	Presentation: Unit 18 “Review”.	Jensen
18	<u>January</u> 6 th	Tue	5	Presentation #2.	Jensen
19	13 th	Tue	5	Presentation #2.	Jensen
20	<u>February</u> 3 rd	Tue	5	Presentation #2.	Jensen
21	10 th	Tue	5	Presentation #2.	Jensen
22	17 th	Tue	5	Presentation #2.	Jensen

授業日程					
回数	日付	曜日	時限	内容	担当教員
1	<u>April</u>	Wed	5	Induction.	David-West

	23rd				
2	<u>May</u> 21st	Wed	5	Writing: Unit 1 “What is a Research Paper?”, Unit 2 “Topics” & Unit 3 “Research”.	David-West
3	<u>June</u> 25th	Wed	5	Writing: Unit 4 “The Beginning Thesis Statement” & Unit 5 “The Working Outline”.	David-West
4	<u>July</u> 23rd	Wed	5	Unit 14 “Writing the Reference List” & AMA Referencing.	David-West
5	<u>September</u> 17th	Wed	5	Presentation: Unit 10 “For Example...”.	David-West
6	24th	Wed	5	Presentation: Unit 12 “Measuring Solutions, Solving Problems”.	David-West
7	<u>October</u> 1st	Wed	5	Presentation: Unit 13 “Lies & Statistics...”.	David-West
8	<u>October</u> 8th	Wed	5	Presentation #1.	David-West
9	15th	Wed	5	Presentation #1.	David-West
10	22nd	Wed	5	Presentation #1.	David-West
11	<u>November</u> 5th	Wed	5	Presentation #1.	David-West
12	12th	Wed	5	Writing: Unit 8 “Writing the Title” & Unit 9 “Writing the Introduction”.	David-West
13	19th	Wed	5	Writing: Unit 10 “Support, Accuracy, Logic, and Relevance” & Unit 11 “Writing the Body”.	David-West
14	26th	Wed	5	Writing: Unit 12 “Writing the Conclusion” & Unit 13 “Avoiding Plagiarism: Citing and Quoting Sources”.	David-West
15	<u>December</u> 3rd	Wed	5	Presentation: Unit 16 “In Conclusion...”.	David-West
16	10th	Wed	5	Presentation: Unit 17 “Any Questions?”	David-West
17	17th	Wed	5	Presentation: Unit 18 “Review”.	David-West
18	<u>January</u> 7th	Wed	5	Presentation #2.	David-West
19	14th	Wed	5	Presentation #2.	David-West
20	<u>February</u> 4th	Wed	5	Presentation #2.	David-West
21	18th	Wed	5	Presentation #2.	David-West
22	25th	Wed	5	Presentation #2.	David-West

授業日程					
回数	日付	曜日	時限	内容	担当教員
1	<u>April</u> 11th	Fri	4/5	Induction.	Jensen/Gurney
2	18th	Fri	4/5	Writing: Unit 1 “What is a Research	Jensen/Gurney

				Paper?", Unit 2 "Topics" & Unit 3 "Research".	
3	25 th	Fri	4/5	Writing: Unit 4 "The Beginning Thesis Statement" & Unit 5 "The Working Outline".	Jensen/Gurney
4	<u>May</u> 9 th	Fri	4/5	Unit 14 "Writing the Reference List" & AMA Referencing.	Jensen/Gurney
5	16 th	Fri	4/5	Presentation: Unit 10 "For Example...".	Jensen/Gurney
6	23 rd	Fri	4/5	Presentation: Unit 12 "Measuring Solutions, Solving Problems".	Jensen/Gurney
7	30 th	Fri	4/5	Presentation: Unit 13 "Lies & Statistics...".	Jensen/Gurney
8	<u>June</u> 13 th	Fri	4/5	Presentation #1.	Jensen/Gurney
9	20 th	Fri	4/5	Presentation #1.	Jensen/Gurney
10	27 th	Fri	4/5	Presentation #1.	Jensen/Gurney
11	<u>July</u> 4 th	Fri	4/5	Presentation #1.	Jensen/Gurney
12	<u>September</u> 26 th	Fri	4/5	Writing: Unit 8 "Writing the Title" & Unit 9 "Writing the Introduction".	Jensen/Gurney
13	<u>October</u> 3 rd	Fri	4/5	Writing: Unit 10 "Support, Accuracy, Logic, and Relevance" & Unit 11 "Writing the Body".	Jensen/Gurney
14	10 th	Fri	4/5	Writing: Unit 12 "Writing the Conclusion" & Unit 13 "Avoiding Plagiarism: Citing and Quoting Sources".	Jensen/Gurney
15	17 th	Fri	4/5	Presentation: Unit 16 "In Conclusion...".	Jensen/Gurney
16	<u>November</u> 7 th	Fri	4/5	Presentation: Unit 17 "Any Questions?"	Jensen/Gurney
17	14 th	Fri	4/5	Presentation: Unit 18 "Review".	Jensen/Gurney
18	21 st	Fri	4/5	Presentation #2.	Jensen/Gurney
19	28 th	Fri	4/5	Presentation #2.	Jensen/Gurney
20	<u>December</u> 5 th	Fri	4/5	Presentation #2.	Jensen/Gurney
21	12 th	Fri	4/5	Presentation #2.	Jensen/Gurney
22	19 th	Fri	4/5	Presentation #2.	Jensen/Gurney

科目名	Basic Medical English (100327)			
科目責任者	木塚 雅貴(総括担当者) Manuela Antoniu, Alzo David-West, Rima Ghashut, James Jensen			
単位数	2. 5	必修・選択区分	必修	
開講時期・学年	通年・3 学年	授業形態	講義	

教育の目的と方針

As a medical practitioner, you should be able to successfully communicate with patients, their families, and your coworkers. In recognition of this need, this course aims to:

(医師として、患者とその家族やコメディカルと円滑なコミュニケーションを図ることは必須であることから、以下の 3 点ができるようになること。)

1. Improve your aural comprehension ability by acclimatising yourself to English spoken at a natural speed, especially in patient-doctor settings.
(患者と医師の会話を中心として、ナチュラルスピードで話される英語に慣れ、英語を聴く能力を高めること。)
2. Acquaint you with the conventions for successfully interacting with patients and their families.
(患者とその家族と円滑にやり取りする方法に習熟すること。)
3. Introduce you to basic medical English vocabulary.
(医学の領域で使われる英語の語彙を身につけること。)

到達目標

Upon completion of this course, in addition to having increased your general English listening and speaking competency, you should have a greater ability to:

(英語を聴き話すために必要な高度の一般的な能力に加え、以下の 4 つの能力を身につけること。)

1. Ask patients targeted questions.
(患者に当を得た質問をすること。)
2. Understand patients' spoken concerns.
(患者が伝えようとしている不安を理解すること。)
3. Interact with patients and their families in a friendly and productive manner.
(患者やその家族と、優しく建設的な態度でやり取りすること。)
4. Understand and use medical terminology.
(医学の専門用語を理解し適切に使うこと。)

成績評価方法および基準

Student work in this course will be evaluated based on the following criteria:

1. Attendance (出席)

All classes are required for the whole academic year. Each student is expected to arrive and be ready to start the class on time. Being late or not being prepared to start the class on time will result in you being marked absent. Proper documentation is required for absences and tardiness to be excused.

Be sure to buy your own textbooks and bring them to every class (including the first lesson); otherwise, you will not be permitted to attend class and will be marked absent.

(授業は総て出席すること。やむを得ない事情があり遅刻や欠席をする場合には、以下の指示に従って対応すること。必ず 1 回目の授業から教科書を持参すること。)

2. Involvement in class time exercises (授業への参加度)

Each student will be evaluated on his/her performance and participation in weekly learning tasks. This includes the willingness and extensive use of English in the classroom and undertaking all class tasks in a professional and respectful manner.

(授業中の活動状況並びに授業中の英語の使用状況と授業内活動への取り組み状況について評価する。)	
3. Exercises completed outside of class (授業外の課題)	
Preparation work completed outside of class will be assessed. (授業外の課題の実施状況について評価する。)	
4. Role-plays (ロールプレイ)	
Each student will be required to actively participate in role-plays. (積極的にロールプレイに取り組むことが求められる。)	
5. Paper examinations (筆記試験)	
In order to assess your progress, at the end of each unit, you will take a written examination that covers all the class work of each unit. (各章終了後に、その章の内容全体に関わる筆記試験を行う。)	
6. Academic Honesty (公正な態度)	
All student work should be the student's own original work with appropriate acknowledgement, citation and referencing where necessary. Plagiarism, the use of AI-generated material, or the use of translation software will result in the student receiving a "ZERO (0)" for the assignment and a written warning. Depending on the situation, students caught cheating will receive a written explanation of the tutor's reasoning and will not receive credit for the course. (AIや自動翻訳などのソフトを使って作成したプレゼンテーションは、剽窃に該当する。不正が確認された場合には、単位認定は行わない。)	
*The maximum score for each unit test is 25 points, which means that, in total throughout the year, 100 points are provided. The maximum score for each role-play performance is 20 points, which means that, in total, 60 points are the maximum score for the role-play performances. In addition, the maximum score for each scenario writing work is also 20 points, which means that, in total, 40 points are the maximum score for the scenario writing work. Each student's class participation points will be included in unit tests, role-plays and scenario writings. The details of each lesson, its content and the assessment are explained by individual tutors in the first lesson in April.	
事前・事後学習について	
You have to log on to the audio material to review the listening sections in the textbook after each lesson. You also have to prepare your role-plays and scenario writings outside of class and be ready for your class performance.	
教科書・参考文献等	
• <i>Medicine 1</i>, Oxford University Press, 2009. The textbook is out of print. Therefore, either online materials or printed materials for these units are distributed. Access to the website for its audio material is: https://elt.oup.com/student/oefc/audio-downloads/?cc=jp&selLanguage=en&mode=hub	
オフィス・アワー	
The individual tutor of each cohort group is the initial contact person. He/she can be contacted after the class. (原則授業の担当教員に相談すること。)	
学生へのメッセージ	
This is a seminar-style class, including lessons, oral presentations, classwork, and regular homework. In this course, you will be introduced to proper techniques for facilitating doctor-patient communication by doing four units of the textbook. You will be provided with listening comprehension activities to increase your understanding of the unit and medical terminology in general. You will perform a variety of activities to acquire the skills described in each unit. You will perform role-plays to demonstrate your attainment of the material and to refine your skills. Depending on the material being covered, lessons may consist of listening comprehension activities, text exercises, role-plays, group work or quizzes. You will be expected to prepare for	

role-play exercises in and out of the class. You should attempt to answer all exercise questions in English. To create the optimum environment for language learning, all communication in the classroom should be preferably conducted in English. Continuous assessment will be carried out.

(授業は演習形式で行われ、講義・口頭発表・授業中の活動・宿題が課される。教科書から4つのユニットを採り上げ、医師・患者間のコミュニケーションを円滑に行うために相応しい技能に焦点を当てた授業を行う。授業では、リスニング、医学の専門用語、教科書掲載の様々な活動、ロールプレイを扱う。なお、ロールプレイについては、授業外の課題としても取り組むことになる。基本的に授業は総て英語で行う。)

You are expected to undertake all class tasks in a professional and respectful manner.

(近い将来専門職である医師になるために相応しい態度で授業に臨むこと。)

<欠席に関する注意事項>

・以下の2条件を総て満たさない欠席がある場合には、原則的に単位の認定は行わない。

1. やむを得ない事情がある場合を除き、欠席当日の授業開始前までに、教育支援課 (075-251-5225/5228) に電話で欠席理由を連絡すること。
2. 病気・忌引き・公共交通機関の遅延による合理的な理由がありやむを得ない事情と認められる場合であり、かつその事情を客観的に証明し得る書類 (診断書・鉄道機関発行の遅延証明書等) が、欠席した授業の次の授業までに提出されていること。

授業日程

回数	日付	曜日	時限	内容	担当教員
1	<u>April</u> 10 th	Thur.	1/2	Induction & Unit 1 "Presenting complaints".	Antoniou · David-West · Ghashut · Jensen
2	17 th	Thur.	1/2	Unit 1 "Presenting complaints".	Antoniou · David-West · Ghashut · Jensen
3	24 th	Thur.	1/2	Unit 1 "Presenting complaints".	Antoniou · David-West · Ghashut · Jensen
4	<u>May</u> 8 th	Thur.	1/2	Unit 1 "Presenting complaints".	Antoniou · David-West · Ghashut · Jensen
5	15 th	Thur.	1/2	Unit 1 "Presenting complaints".	Antoniou · David-West · Ghashut · Jensen
6	22 nd	Thur.	1/2	Unit 1 "Presenting complaints".	Antoniou · David-West · Ghashut · Jensen
7	29 th	Thur.	1/2	<u>Unit 1 Test</u> & Unit 2 "Working in general practice".	Antoniou · David-West · Ghashut · Jensen
8	<u>June</u> 5 th	Thur.	1/2	Unit 2 "Working in general practice".	Antoniou · David-West · Ghashut · Jensen
9	12 th	Thur.	1/2	Unit 2 "Working in general practice".	Antoniou · David-West · Ghashut · Jensen
10	19 th	Thur.	1/2	Unit 2 "Working in general practice".	Antoniou · David-West · Ghashut · Jensen
11	<u>July</u>	Thur.	1/2	Unit 2 "Working in general practice".	Antoniou · David-

	10 th				West • Ghashut • Jensen
12	17 th	Thur.	1/2	Unit 2 “Working in general practice” & <u>Unit 2 Test.</u>	Antoniou • David-West • Ghashut • Jensen
13	<u>September</u> 4 ^t	Thur.	1/2	Unit 4 “Explaining and reassuring”.	Antoniou • David-West • Ghashut • Jensen
14	11 th	Thur.	1/2	Unit 4 “Explaining and reassuring”.	Antoniou • David-West • Ghashut • Jensen
15	18 th	Thur.	1/2	Unit 4 “Explaining and reassuring”.	Antoniou • David-West • Ghashut • Jensen
16	25 th	Thur.	1/2	Unit 4 “Explaining and reassuring”.	Antoniou • David-West • Ghashut • Jensen
17	<u>October</u> 9 th	Thur.	1/2	Unit 4 “Explaining and reassuring”.	Antoniou • David-West • Ghashut • Jensen
18	16 th	Thur.	1/2	<u>Unit 4 Test</u> & Unit 8 “Communication”.	Antoniou • David-West • Ghashut • Jensen
19	23 rd	Thur.	1/2	Unit 8 “Communication”.	Antoniou • David-West • Ghashut • Jensen
20	<u>November</u> 6 th	Thur.	1/2	Unit 8 “Communication”.	Antoniou • David-West • Ghashut • Jensen
21	13 th	Thur.	1/2	Unit 8 “Communication”.	Antoniou • David-West • Ghashut • Jensen
22	20 th	Thur.	1/2	Unit 8 “Communication”.	Antoniou • David-West • Ghashut • Jensen
23	<u>January</u> 22 nd	Thur.	1/2	Unit 8 “Communication”.	Antoniou • David-West • Ghashut • Jensen
24	<u>February</u> 5 th	Thur.	1/2	Review & <u>Unit 8 Test.</u>	Antoniou • David-West • Ghashut • Jensen

科目名	ドイツ語 I (100331)		
科目責任者	熊谷 知実		
単位数	11. 3	必修・選択区分	選択必修(I・II 同一言語)
開講時期・学年	前期・1 学年	授業形態	講義

教育の目的と方針

外国語の医学書のなかでドイツ語の書籍が占める割合は減少してきています。しかし将来ドイツに留学してドイツの医学や医療制度について学んでみたいと思う学生も少なくないでしょう。この授業では、学生が実際にドイツに行ってドイツ人とコミュニケーションすることを前提に、正確なドイツ語の発音と文法の基礎力、実践的なドイツ語会話能力を身につけることが目標とされています。

ドイツ語は変化の多い言語です。平易な会話を交わすにしても、複雑な文法規則の理解は避けて通ることができません。この授業で学生はドイツ語文法の基礎を学びながら、ドイツの日常で用いられている語彙や表現を増やし、ペア練習で実践的な演習に移行していく形式で「話すためのドイツ語力」を向上させていきます。話者の伝えんとする内容を理解し、ドイツ語の文章を用いて相手の要求に応じることができるようになる。それが最終到達目標です。

語学は反復して声に出すこと、学習継続の習慣をつけることが何よりも重要です。この授業はペアで行う会話練習（聴いて話す練習）と授業後半の復習（書く練習）によって構成されています。また授業の冒頭では、食文化や祭りや日常の習慣など、ドイツ文化の様々な側面が紹介されます。ドイツの現代事情や歴史文化への理解を深めることは、学生の学習継続のモチベーションアップにもつながることでしょう。毎時間の授業は以下のように進められます。

- 1 ドイツ文化に触れる
- 2 前回学んだ授業内容をおさらいする
- 3 新たな文法事項を学び、その実践的用法を声に出して練習する
- 4 状況にあわせた会話文を考え、その表現の応用練習をする
- 5 今回学んだ内容を書いて定着させる

到達目標

- 1 発音
ドイツ語の単語を正しく発音できる。
- 2 文法
(1) ドイツ語の語順を理解したうえで動詞を正しく人称変化できる。
(2) 正しい語順で平叙文と疑問文を用いることができる。
(3) 名詞の性を理解したうえで名詞を正しく格変化できる。
- 3 表現とコミュニケーション
(1) 初対面の人に挨拶や自己紹介ができる。
(2) 店舗で日用品を購入したりカフェで注文することができる。
(3) 尋ねられたことに簡単な感想や意見を述べるができる。

成績評価方法および基準

- 1 平常点
原則として授業は全出席とします。授業の終了時には授業内容確認の口頭テストないしまとめ課題を実施します。それらすべてが平常点として学期末の成績に加点されます。

2 試験
学期末の定期試験は筆記で行います。
3 総合成績評価
学期末試験の点数（70％）と平常点（30％）を総合的に勘案して、各項目の合計が 60％以上の場合に合格とし、その得点をこの科目の評価とします。
事前・事後学習について
・授業中の疑問点を整理し、次回授業までに解決しておくこと。 ・1回の講義につき予習復習に最低 60 分は必要です。単語を暗記し語彙を増やしていきましょう。
教科書・参考文献等
・『クマといっしょにドイツ語—1. 会話 2. 文法 4. 復習ドリル—』 （羽根田知子、熊谷知実、ハイケ・ピナウ著、朝日出版社、2022 年） この教科書は筆記練習帳にもなっています。必ず 1 人 1 冊購入したうえで、各ページに手書きでメモを残しながら学習を進めてください。 ・適宜コピー資料を配布します。 ・辞書は初回授業で紹介します。
オフィス・アワー
・水曜日の授業終了後に個人的な質問や相談に応じます。 ・授業中に担当教員のメールアドレスを公開します。
学生へのメッセージ
ドイツ語と英語はゲルマン語の兄弟言語で文法も単語も発音もそっくりです。学習を始めたばかりのときは混乱して戸惑うこともあるでしょう。でもコツコツと続けるうちに見えてくるものがあります。語学は続けることが何よりも重要です。Ohne Fleiß, kein Preis.（努力なしに褒美はない）授業は休まないで毎回出席してくださいね。

授業日程					
回数	日付	曜日	時限	内容	担当教員
1	2025/4/9	水	2	授業方針と成績評価、単語の発音	熊谷 知実
2	2025/4/16	水	2	発音：日常の挨拶と数字	熊谷 知実
3	2025/4/23	水	2	発音：物の価格と形容詞	熊谷 知実
4	2025/5/7	水	2	動詞：名前や出身を伝える	熊谷 知実
5	2025/5/14	水	2	動詞：趣味を伝える	熊谷 知実
6	2025/5/21	水	2	名詞の性：この本はいくらですか	熊谷 知実
7	2025/5/28	水	2	所有冠詞：これは私の携帯電話です	熊谷 知実
8	2025/6/11	水	2	名詞の格変化：これを気に入ってます	熊谷 知実
9	2025/6/18	水	2	名詞の否定：熱はありません	熊谷 知実
10	2025/6/25	水	2	カフェで注文	熊谷 知実

科目名	ドイツ語Ⅱ（100332）		
科目責任者	熊谷 知実		
単位数	1. 3	必修・選択区分	選択必修(Ⅰ・Ⅱ同一言語)
開講時期・学年	後期・1学年	授業形態	講義

教育の目的と方針

ドイツ語Ⅰで学習した文法規則や表現を基礎に、ドイツの日常で使われている表現を学生がスムーズに発話できるレベルに達することをこの授業の目標とします。聴き取りの上達は発話の上達にもつながりますから、会話文を聴いて書きとる練習も積極的に授業にとりいれます。学生は様々なシチュエーションで使われる語彙を学び、日常会話に役立つ表現を段階的に身につけていきます。

語学学習においては、言葉を単純に暗記するだけでなく、その言語を使用している人間集団の文化的背景を理解したうえでコミュニケーションを深めることができるようになること、すなわち異文化コミュニケーション能力の向上が求められています。言語を学習しながら、その国の歴史的・文化的背景や社会システムを理解し、自己の専門領域へとつなげていく。自己の学びを継続していくための基礎力をしっかりと身につける。それが最終到達目標です。

語学は反復して声に出すこと、学習継続の習慣をつけることが何よりも重要です。この授業はペアで行う会話練習（聴いて話す練習）と授業後半の復習（書く練習）によって構成されています。また授業の冒頭では、食文化や祭りや日常の習慣など、ドイツ文化の様々な側面が紹介されます。ドイツの現代事情や歴史文化への理解を深めることは、学生の学習継続のモチベーションアップにもつながることでしょう。毎時間の授業は以下のように進められます。

- 1 ドイツ文化に触れる
- 2 前回学んだ授業内容をおさらいする
- 3 新たな文法事項を学び、その実践的用法を声に出して練習する
- 4 状況にあわせた会話文を考え、その表現の応用練習をする
- 5 今回学んだ内容を書いて定着させる

到達目標

- 1 聴き取り
会話文を聴いて話者が伝えんとする内容を理解し、説明できる。
- 2 文法
 - (1) 前置詞を正しく用いて居場所や行先を表現できる。
 - (2) 命令形や助動詞を正しく用いて要望を伝えることができる。
 - (3) 日時や曜日を正確に表現できる。
- 3 表現とコミュニケーション
 - (1) 自分の居場所や行先を適切に伝えることができる。
 - (2) 様々な表現方法を用いて失礼のないようにお願いすることができる。
 - (3) 知人を誘って待ち合わせの日時を適切に設定できる。

成績評価方法および基準

- 1 平常点
原則として授業は全出席とします。授業の終了時には授業内容確認の口頭テストないしまとめ課題を実施します。それらすべてが平常点として学期末の成績に加点されます。

2 試験
学期末の定期試験は筆記で行います。
3 総合成績評価
学期末試験の点数（70％）と平常点（30％）を総合的に勘案して、各項目の合計が 60％以上の場合に合格とし、その得点をこの科目の評価とします。
事前・事後学習について
・授業中の疑問点を整理し、次回授業までに解決しておくこと。 ・1 回の講義につき予習復習に最低 60 分は必要です。単語を暗記し語彙を増やしていきましょう。
教科書・参考文献等
・『クマといっしょにドイツ語—1. 会話 2. 文法 4. 復習ドリル—』 （羽根田知子、熊谷知実、ハイケ・ピナウ著、朝日出版社、2022 年） ・「ドイツ語 I」の教科書を引き続き使用します。メモを残しながら学習を進めてください。 ・適宜コピー資料を配布します。
オフィス・アワー
・水曜日の授業終了後に個人的な質問や相談に応じます。 ・授業中に担当教員のメールアドレスを公開します。
学生へのメッセージ
学年末、学習者の多くは「もっと勉強しておけばよかった」と 1 年を振り返ります。最後に後悔が残らないようにコツコツと学習を続けましょう。Übung macht den Meister.（練習はプロを作る）授業は休まないで毎回出席してくださいね。

授業日程					
回数	日付	曜日	時限	内容	担当教員
1	2025/9/17	水	2	前期のふりかえり（動詞と名詞）、道案内	熊谷 知実
2	2025/9/24	水	2	前置詞：どこへいくの	熊谷 知実
3	2025/10/1	水	2	前置詞：どこにいるの	熊谷 知実
4	2025/10/8	水	2	再帰動詞：座りましょう	熊谷 知実
5	2025/10/15	水	2	命令形：水を 1 杯持ってきてください	熊谷 知実
6	2025/10/22	水	2	助動詞：窓を開けてくれますか	熊谷 知実
7	2025/11/12	水	2	時刻表現：7 時半はどうでしょう	熊谷 知実
8	2025/11/19	水	2	日付表現：12 月 1 日に約束があります	熊谷 知実
9	2025/11/26	水	2	待ち合わせ：いつどこで逢おうか	熊谷 知実
10	2025/12/3	水	2	メールを書く	熊谷 知実

科目名	フランス語 I (100333)		
科目責任者	モクタリ・シルヴァン		
単位数	1. 3	必修・選択区分	選択必修(I・II 同一言語)
開講時期・学年	前期・1 学年	授業形態	講義

教育の目的と方針

入門レベルで、易しく、簡単なフランス語。特に、「話す」ことを大切にする。前期末には基礎の自己紹介ができ、自分について話せることを目指す。フランス語は国際的な言語であることを意識するため、文化も、フランス語圏を学ぶ。特にフランスの病院の特徴を理解する。

授業は、

- 1 授業の始めに、新しい語彙などを学び、発音の練習を必ず行う。
- 2 会話を中心に日常生活の表現を習得する。
- 3 特に発音の練習を多くし、無理のない範囲で、出来るまで練習をする。
- 4 主にペアになり、会話の練習を行う。

到達目標

- 1 基礎の発音ができる。
- 2 基礎の挨拶ができる。
- 3 数字(0～99)を読むことができる。
- 4 フランスの基礎文化を理解して説明できる。

成績評価方法および基準

- 1 平常点 50%
宿題と小テスト 25%
授業への取り組み状況 25%
- 2 期末試験の成績 50%

最低基準

総合得点(平常点+期末試験)で60%以上を取得した場合に合格とする。

事前・事後学習について

予習や復習をして、積極的にクラスでのいろいろなアクティビティに参加するのが望ましいです。

教科書・参考文献等

- 1 教科書：『INSPIRE-1/LIVRE DE L'ELEVE+AUDIO/VIDEO+PARCOURS DIGITAL』JEAN-THIERRY LE BOUGNEC+MARIE-JOSÉ LOPES、アシェット・ジャポン出版社、ISBN：9782015135755、本体 4070 円(内税)。
- 2 推薦辞書：『プチ・ロワイヤル仏和辞典』、倉方秀憲、春木仁孝、大木充、東郷雄二、旺文社、4200 円。

オフィス・アワー

授業後、質問などに応じます。

連絡用メール(pimiku@koto.kpu-m.ac.jp)でも可能です。

学生へのメッセージ

基礎から学んで行きますが、大事なのは発音です。なるべく、発音の練習をしたり、ペアで会話をしましょう。

その為、毎回休まず出席してください。

授業日程

回数	日付	曜日	時限	内容	担当教員
1	2025/4/9	水	2	ガイダンス・レッスン1	モクタリ・シルヴァン
2	2025/4/16	水	2	レッスン2 挨拶やアルファベット（1）	モクタリ・シルヴァン
3	2025/4/23	水	2	レッスン2 挨拶やアルファベット（2）	モクタリ・シルヴァン
4	2025/5/7	水	2	レッスン3 フランス語とフランス語圏	モクタリ・シルヴァン
5	2025/5/14	水	2	レッスン4 自己紹介（1）	モクタリ・シルヴァン
6	2025/5/21	水	2	レッスン4 自己紹介（2）	モクタリ・シルヴァン
7	2025/5/28	水	2	レッスン4 自己紹介（3）	モクタリ・シルヴァン
8	2025/6/11	水	2	レッスン5 個人情報を交換する（1）	モクタリ・シルヴァン
9	2025/6/18	水	2	レッスン5 個人情報を交換する（2）	モクタリ・シルヴァン
10	2025/6/25	水	2	前期のおさらい	モクタリ・シルヴァン

科目名	フランス語Ⅱ（100334）		
科目責任者	モクタリ・シルヴァン		
単位数	1. 3	必修・選択区分	選択必修（Ⅰ・Ⅱ同一言語）
開講時期・学年	後期・1 学年	授業形態	講義

教育の目的と方針

前期に続き、日常的に役に立つコンテンツを学ぶ。例えば、自分の家族を紹介したり、相手の家族や好みについて尋ねたり、自分の好き・嫌いなことを語り、人を描写して特定する。

文化はフランスに住む際に必要なことを学び、日本との違いを理解する。後期末には、フランス旅行で最低限必要な会話ができるようにする。

授業は、

- 1 授業の始めに、新しい語彙などを学び、発音の練習を必ず行う。
- 2 会話を中心に日常生活の表現を習得する。
- 3 特に発音の練習を多くし、無理のない範囲で、出来るまで練習をする。
- 4 主にペアになり、会話の練習を行う。

到達目標

- 1 自然に基本的な発音ができる。
- 2 物と行動についての好みを、具体的に言える。
- 3 日常生活でよく使われる単語を理解して使える。
- 4 「～の方が好き・嫌い」の言い方を習得して使える。
- 5 数字（100～1000000）を読むことができる。

成績評価方法および基準

- 1 平常点 50%
宿題と小テスト 25%
授業への取り組み状況 25%
- 2 期末試験の成績 50%

最低基準

総合得点（平常点＋期末試験）で 60%以上を取得した場合に合格とする。

事前・事後学習について

予習や復習をして、積極的にクラスでのいろいろなアクティビティに参加するのが望ましいです。

教科書・参考文献等

- 1 教科書：『INSPIRE-1/LIVRE DE L' ELEVE+AUDIO/VIDEO+PARCOURS DIGITAL』 JEAN-THIERRY LE BOUGNEC+MARIE-JOSÉ LOPES、アシェット・ジャポン出版社、ISBN：9782015135755、本体 4070 円（内税）。
- 2 推薦辞書：『プチ・ロワイヤル仏和辞典』、倉方秀憲、春木仁孝、大木充、東郷雄二、旺文社、4200 円。

オフィス・アワー

授業後、質問などに応じます。

連絡用メール (pimiku@koto.kpu-m.ac.jp) でも可能です。

学生へのメッセージ

後期は、新しい単語が沢山出て来ます。復習を忘れないようにしてください。

そして、後期末試験に備えて、少しずつ勉強して行きましょう。

毎回休まず出席してください。

授業日程

回数	日付	曜日	時 限	内容	担当教員
1	2025/9/17	水	2	前期のおさらい	モクタリ・シルヴァン
2	2025/9/24	水	2	レッスン6 詳しい情報を伝える (1)	モクタリ・シルヴァン
3	2025/10/1	水	2	レッスン6 詳しい情報を伝える (2)	モクタリ・シルヴァン
4	2025/10/8	水	2	レッスン8 自分の家族を紹介する (1)	モクタリ・シルヴァン
5	2025/10/15	水	2	レッスン8 自分の家族を紹介する (2)	モクタリ・シルヴァン
6	2025/10/22	水	2	レッスン9 人を描写して特定する (1)	モクタリ・シルヴァン
7	2025/11/12	水	2	レッスン9 人を描写して特定する (2)	モクタリ・シルヴァン
8	2025/11/19	水	2	レッスン10 自分の・他人の好みについて話す (1)	モクタリ・シルヴァン
9	2025/11/26	水	2	レッスン10 自分の・他人の好みについて話す (2)	モクタリ・シルヴァン
10	2025/12/3	水	2	後期のおさらい	モクタリ・シルヴァン

科目名	スペイン語Ⅰ（100335）		
科目責任者	小川 雅美		
単位数	1. 3	必修・選択区分	選択必修(Ⅰ・Ⅱ同一言語)
開講時期・学年	前期・1学年	授業形態	講義

教育の目的と方針

- 1 スペイン語は世界で最もよく話されている言語の1つであり、日本人が彼らに接する可能性が増している。この科目では、スペイン旅行を主な話題とし、次の3つを目的とした教育・学習活動を行う。
 - ・異文化への眼差しを通して広い視野を培う。
 - ・スペイン語を使用する場面で、適切に行為しながら、基本的なコミュニケーション活動ができるようになる。
 - ・信頼できるツールを利用し、新しい言語を自ら学べるためのスキルを培う。
- 2 授業の方針は次の通り。
 - ・知的関心と積極的・協力的な学習態度を重視する。
 - ・授業は、講義と語学4技能の実習（読・聴・書・話）の組み合わせで行う。
 - ・写真と音声からできるだけリアルで具体的な言語表現を導入し、その後汎用性のある文法構造を系統的に教授する。
 - ・各課の最後で旅のやりとりのシミュレーションを行う。

到達目標

- 1 スペイン語を他の言語と区別できる。
 - ・ゆっくり話されればそれがスペイン語であると認識できる。
 - ・書かれたスペイン語を、既知の言語と混同せずに発音できる。
- 2 想定されたスペイン旅行で、旅行者として基本的なやりとりができる。
 - ・挨拶、依頼、お礼、謝り等を簡単な表現で伝えることができる。
 - ・物品、飲食物、施設その他の名称を「名詞句」として構成できる。
 - ・単純な構造のメッセージを、動詞を中心とした「文」として構成できる。
- 3 教室内でクラスメートや教員と知り合うためのやりとりができる。
 - ・簡単な自己紹介（氏名、出身地、居住地、好きなことなど）ができる。
 - ・互いのプロフィールについて質疑応答ができる。

成績評価方法および基準

- 1 平常点 20点
 - (1) 授業活動への積極的な参加。予習の仕方。
 - (2) 小テスト（適宜実施）や練習課題の結果。
 - 2 中間試験 30点

それまでに扱った内容が試験範囲となる。
 - 3 期末試験 50点

「スペイン語Ⅰ」の全体が試験範囲となる。
- 平常点、中間試験、期末試験の合計得点を評点とし、60点以上を合格とする。

事前・事後学習について	
・後掲する「授業日程」については、実際の授業の進行に合わせて柔軟に調整する。 ・授業中：クラスメートと協力しつつ、適度な緊張感とはっきりした声で取り組もう。 ・ツールの利用：辞書やオンラインのツール（機械翻訳等）については、適宜指導する。スペイン語学習を目的とし、授業内外でインターネットを利用してもよいが、試験では使用不可。 ・予復習：教科書のスペイン語表現の意味調べや小テストのため、毎回必要となる。 ・学生への連絡や資料配付等のため、大学のポータルを随時使用する。	
教科書・参考文献等	
1 教科書 小川雅美『スペイン語と歩こう』朝日出版社（2500 円＋税） 2 辞書 必携ではないが、購入を推奨する。紙辞書は市販のものであればどれもよいが、次のものが使いやすい。 鼓直（他）編『プログレッシブ スペイン語辞典 第2版 カレッジエディション』小学館 英西辞典、電子辞書も可能。 3 参考文献（任意） 文法を全体的に学ぶには 小川雅美（著）『スペイン語ワークブック』同学社	
オフィス・アワー	
授業終了後、質問や相談に応じる。Gmail（大学のアカウント使用）での質問等も可能。	
学生へのメッセージ	
視野を広げ、知識をつなげ、そして自分の身体で世界に一步步踏み出しましょう。	

授業日程					
回数	日付	曜日	時限	内容	担当教員
1	2025/4/9	水	2	Unidad 1（日本からスペインへ向かうまでのやりとり）	小川 雅美
2	2025/4/16	水	2	Unidad 2（マドリード市内にある標識の文字を発音する）	小川 雅美
3	2025/4/23	水	2	Unidad 3（レストランで飲食物を注文する）	小川 雅美
4	2025/5/7	水	2	Unidad 4（お土産を買う）	小川 雅美
5	2025/5/14	水	2	中間試験と復習	小川 雅美
6	2025/5/21	水	2	Unidad 5（自分や相手の持ち物についてやりとりする）	小川 雅美
7	2025/5/28	水	2	Unidad 6（スペイン観光入門。どこにある？どんな場所？何がある？）	小川 雅美
8	2025/6/11	水	2	Unidad 6（物事や人についての属性と状態についていろいろな文を作る）	小川 雅美
9	2025/6/18	水	2	Unidad 7（マドリードとバルセロナの市内観光。どこで何をする？）	小川 雅美
10	2025/6/25	水	2	Unidad 7（動詞と補足要素でいろいろな文を作る）	小川 雅美

科目名	スペイン語Ⅱ（100336）		
科目責任者	小川 雅美		
単位数	1. 3	必修・選択区分	選択必修（Ⅰ・Ⅱ同一言語）
開講時期・学年	後期・1 学年	授業形態	講義

教育の目的と方針

- この科目では、スペイン旅行およびスペイン語圏アメリカ地域への旅行を主な話題とし、次の3つを目的とした教育・学習活動を行う。
 - 異文化への眼差しを通して広い視野を培う。
 - スペイン語を使用する場面で、適切に行為しながら、基本的なコミュニケーション活動ができるようになる。
 - 信頼できるツールを利用し、新しい言語を自ら学べるためのスキルを培う。
- 授業の方針は次の通り。
 - 知的関心と積極的・協力的な学習態度を重視する。
 - 授業は、講義と語学4技能の実習（読・聴・書・話）の組み合わせで行う。
 - 写真と音声からできるだけリアルで具体的な言語表現を導入し、その後汎用性のある文法構造を系統的に教授する。
 - 各課の最後で旅のやりとりのシミュレーションを行う。

到達目標

- 想定されたスペイン語圏への旅行で、旅行者としてスペイン語を使用できる。具体的には次の通り。
- 助動詞と動詞の組み合わせで、希望や予定、依頼など実践的なやりとりができる。
 - 心身の状態についてやりとりし、適切なアドバイスができる。
 - 1日の習慣的行為について説明できる。
 - 表や地図を用いてスペイン語でコミュニケーション活動ができる。
 - スペイン語圏の地理および文化的特徴を、地図を用いて示すことができる。

成績評価方法および基準

- 平常点 20 点
 - 授業活動への積極的な参加。予習の仕方。
 - 小テスト（適宜実施）や練習課題の結果。
 - 中間試験 30 点

それまでに習った内容が試験範囲となる。
 - 期末試験 50 点

「スペイン語Ⅱ」の全体が試験範囲となる。
- 平常点，中間試験，期末試験の合計得点を評点とし，60 点以上を合格とする。

事前・事後学習について

- 教科書は16課構成であり、初級文法をほぼ網羅している。授業では12課まで学ぶ予定。
- 後掲する「授業日程」については、実際の授業の進行に合わせて柔軟に調整する。

・授業中：クラスメートと協力しつつ、適度な緊張感とはっきりした声で取り組もう。 ・ツールの利用：辞書やオンラインのツール（機械翻訳等）については、適宜指導する。スペイン語学習を目的とし、授業内外でインターネットを利用してもよいが、試験では使用不可。 ・予復習：教科書のスペイン語表現の意味調べや小テストのため、毎回必要となる。 ・学生への連絡や資料配付等のため、大学のポータルを随時使用する。
教科書・参考文献等
1 教科書 小川雅美『スペイン語と歩こう』朝日出版社（2500 円＋税） 2 辞書 「スペイン語 I」と同じ。 3 参考文献（任意） 「スペイン語 I」と同じ。
オフィス・アワー
授業終了後、質問や相談に応じる。Gmail（大学のアカウント使用）での質問等も可能。
学生へのメッセージ
教室にしながら、しかし自分の身体を使いながら、地球の反対側を旅していきましょう。

授業日程					
回数	日付	曜日	時限	内容	担当教員
1	2025/9/17	水	2	Unidad 8（スペイン周遊。動詞の活用パターンを学び、高頻度動詞を覚える）	小川 雅美
2	2025/9/24	水	2	Unidad 8（助動詞を用いて実践的な会話の幅を広げる）	小川 雅美
3	2025/10/1	水	2	Unidad 9（イスパノアメリカの地理と気候。地形や気象の表現を覚える）	小川 雅美
4	2025/10/8	水	2	Unidad 9（イスパノアメリカの地理と気候。表を用いて比較する）	小川 雅美
5	2025/10/15	水	2	中間試験と復習	小川 雅美
6	2025/10/22	水	2	Unidad 10（クスコ観光。気持ちや体調についての表現になじむ）	小川 雅美
7	2025/11/12	水	2	Unidad 10（gustar 型動詞を用いた構文を用いてやりとりする）	小川 雅美
8	2025/11/19	水	2	Unidad 11（「聖なる谷」とマチュピチュ観光。物やサービスの授受）	小川 雅美
9	2025/11/26	水	2	Unidad 11（人称代名詞のいろいろな格を用いてやりとりする）	小川 雅美
10	2025/12/3	水	2	Unidad 12（旅の 1 日。再帰構造を用いて日常生活動作を表現する）	小川 雅美

科目名	中国語 I (100337)		
科目責任者	陳 朝朝		
単位数	1. 3	必修・選択区分	選択必修(I・II 同一言語)
開講時期・学年	前期・1 学年	授業形態	講義

教育の目的と方針

この授業では、中国語の発音や表記、初歩文法など基礎の事項を把握し、中国語の基本的な日常会話表現を身に付けることを目的とする。

授業は、一般講義と演習で行う。

1 導入と口慣らし

(1) テキストのイラスト、単語カードなどを利用して単語の意味を理解する。

(2) CD、DVDなどを繰り返し聞かせ、中国語らしいリズム、イントネーションを身に付ける。

2 ロールプレイ

音声CDを利用し、シャドウイング、リプロダクションなどの練習をし、会話に慣れた後、学生同士のロールプレイによって実践的に会話する。

3 サマライゼーション

各レッスンの会話内容を自分の言葉に置き換え要約する。

4 中国語の歌や映画を活用して学習する。

到達目標

1 中国語を正確に発音できる。

2 中国語の基礎文法を理解し、適切に作文できる。

3 各課の本文の内容を覚えて、会話の中で再現できる。

4 中国語で簡単な自己紹介ができる。

5 医療現場で必要となる中国語の表現を用いて、基礎的な会話ができる。

成績評価方法および基準

平常点(小テスト 20%、発表 10%、授業への取り組み状況など 10%) 40%、期末試験の成績 60%を合わせた合計得点を評点とし、60 点以上の場合を合格とする。

事前・事後学習について

授業前の予習と授業後の復習が望ましい。

教科書・参考文献等

教科書:「医療系学生のための 初級中国語」(前半)

白帝社 山田真一 著 ¥2,500 円(税別)

参考書:「Why?にこたえるはじめての中国語の文法書」

同学社 相原茂・石田知子・戸沼市子

オフィス・アワー

授業終了後、質問や相談に応じます。(henao8ao@fc.ritsumeai.ac.jp)

学生へのメッセージ

授業日程					
回数	日付	曜日	時限	内容	担当教員
1	2025/4/9	水	2	ガイダンス（中国語の仕組み）、授業用語の習得	陳 朝朝
2	2025/4/16	水	2	あいさつ、ピンインの仕組み	陳 朝朝
3	2025/4/23	水	2	名前の言い方ピンインの読み方と、4つの声調	陳 朝朝
4	2025/5/7	水	2	子音、複母音、声調の変化	陳 朝朝
5	2025/5/14	水	2	ピンインのまとめ復習とテスト。第1課「こんにちは」日常の挨拶表見	陳 朝朝
6	2025/5/21	水	2	第2課「あなたは中国人ですか」	陳 朝朝
7	2025/5/28	水	2	第3課「健康保険証を持っていますか」	陳 朝朝
8	2025/6/11	水	2	第4課「家族にどんな人がいますか」	陳 朝朝
9	2025/6/18	水	2	まとめ復習	陳 朝朝
10	2025/6/25	水	2	発表	陳 朝朝

科目名	中国語Ⅱ（100338）		
科目責任者	陳 朝朝		
単位数	1. 3	必修・選択区分	選択必修（Ⅰ・Ⅱ同一言語）
開講時期・学年	後期・1 学年	授業形態	講義

教育の目的と方針

中国語Ⅱでは、中国語によるコミュニケーション能力を養い、中国語の「4 技能」（読む、書く、聞く、話す）をバランスよく向上させ、基本レベルの諸能力の習得を目的とする。また、異文化理解などの指導を通じて、国際社会で活躍できるスキルを身につけた人材を育成する。

授業は、一般講義と演習で行う。

1 導入と口慣らし

(1) テキストのイラスト、単語カードなどを利用して単語の意味を理解する。

(2) CD、DVDなどを繰り返し聞かせ、中国語らしいリズム、イントネーションを身に付ける。

2 役割練習

音声CDを利用し、シャドウイング、リプロダクションなどの練習をし、会話に慣れた後、学生同士の役割練習へと発展させて、より実践的な会話を行う。

3 サマライゼーション

各レッスンの会話内容を自分の言葉に置き換え要約する。

4 中国語の歌や映画を活用して学習する。

到達目標

1 中国語の発音の仕組みを理解し、基本的な文を正しく組み立てることができる。

2 中国語を用いて、日常的なコミュニケーションを行うことができる。

3 各課の本文の内容を再現し、会話の中で適切に応用できる。

4 医療現場で用いる基本的な中国語の表現を使い、簡単なやりとりを行うことができる。

成績評価方法および基準

平常点（小テスト 20%、発表 10%、授業への取り組み状況など 10%）40%、期末試験の成績 60%を合わせた合計得点を評点とし、60 点以上の場合を合格とする。

事前・事後学習について

授業前の予習と授業後の復習が望ましい。

教科書・参考文献等

教科書：「医療系学生のための 初級中国語」（前半）

白帝社 山田眞一 著 ￥2,500 円（税別）

参考書：「Why? にこたえるはじめての中国語の文法書」

同学社 相原茂・石田知子・戸沼市子

オフィス・アワー

授業終了後、質問や相談に応じます。（henao8ao@fc.ritsumeai.ac.jp）

学生へのメッセージ

授業日程					
回数	日付	曜日	時限	内容	担当教員
1	2025/9/17	水	2	あそこで少しお待ちください」	陳 朝朝
2	2025/9/24	水	2	少し話せます」	陳 朝朝
3	2025/10/1	水	2	検査室に行って検査をしてください」	陳 朝朝
4	2025/10/8	水	2	どうしましたか」	陳 朝朝
5	2025/10/15	水	2	課の復習と中間テスト	陳 朝朝
6	2025/10/22	水	2	口を開けてください」	陳 朝朝
7	2025/11/12	水	2	この薬を飲んだことがありますか」	陳 朝朝
8	2025/11/19	水	2	服をあそこに置いてください」	陳 朝朝
9	2025/11/26	水	2	病状はずっとよくなりました」	陳 朝朝
10	2025/12/3	水	2	まとめ復習と発表	陳 朝朝

科目名	朝鮮韓国語Ⅰ（100339）		
担当教員	由村 尚樹		
単位数	1. 3	必修・選択区分	選択必修（Ⅰ・Ⅱ同一言語）
開講時期・学年	前期・1 学年	授業形態	講義

教育の目的と方針

朝鮮韓国語は、日本語の語順とほぼ同じで、漢字語の音もよく似たものが多く、日本語母語者にとっては他の外国語より学びやすい言語といえます。しかし、ハングル文字はアルファベットや漢字と比べると慣れていないので読みにくいものであります。本講義ではまず文字・発音をたくさん練習し、どのような特徴があるのかを理解しましょう。講義中は韓国の事情や文化についても触れていきます

授業は、指定した教科書を中心に進めますが、理解を深めるために教科書以外の練習問題や印刷物を配布します。

到達目標

- 1) ハングル文字の構成を説明できる。
 - 2) 日常会話でよく使う単語を正しく読み、書くことができる。
 - 3) 漢数詞、固有数詞の区別ができる。
 - 4) 日本語と助詞の使い方が違う部分を説明できる。
 - 5) 肯定形、疑問形、否定形などの変化を理解し、基本的な文を作成できる。
- この講義を通して、隣国の言葉がどのようなものなのかを学習し、日本語と表現方法が同じものと違うものを理解し、学期末にはよく使う基本的な単語やあいさつ、フレーズを言えるよう書けるようにしましょう。

成績評価方法および基準

筆記小テスト10%・授業態度10%・発音テスト10%・学期末筆記試験70%の合計100%の内、60%以上の場合に合格とします。

事前・事後学習について

教科書・参考文献等

・李志暎『できる韓国語初級Ⅰ 新装版』アスク出版

オフィス・アワー

オフィスアワー メールアドレス

・由村尚樹講師 水曜日 10:30-12:00 naokitaejon@yahoo.co.jp

学生へのメッセージ

授業日程					
回数	日付	曜日	時限	内容	担当教員
1	2025/4/09	水	2	朝鮮韓国語とは ～わからなくても発音してみよう ～안녕하세요. 감사합니다. など	由村 尚樹
2	2025/4/16	水	2	文字学習① 子音と母音の組み合わせ（平音・激音、パッチムなし）	由村 尚樹
3	2025/4/23	水	2	文字学習② 子音と母音の組み合わせ（濃音・二重母音、パッチムなし）	由村 尚樹
4	2025/5/07	水	2	文字学習③ ～パッチムとは～ 子音と母音の組み合わせ（パッチムあり）	由村 尚樹
5	2025/5/14	水	2	文字学習④ パッチムがあるものないものを組み合わせ発音しよう	由村 尚樹
6	2025/5/21	水	2	あいさつ・フレーズ	由村 尚樹
7	2025/5/28	水	2	입니다. / 습니다. 体の動詞学習	由村 尚樹
8	2025/6/11	水	2	否定文・存在詞学習	由村 尚樹
9	2025/6/18	水	2	입니다. / 습니다. 体の形容詞学習	由村 尚樹
10	2025/6/25	水	2	漢数詞学習、固有数詞学習および曜日学習	由村 尚樹

※授業内容および進度は状況に応じて変更がありうる。

科目名	朝鮮韓国語Ⅱ（100340）		
担当教員	由村 尚樹		
単位数	1. 3	必修・選択区分	選択必修(Ⅰ・Ⅱ同一言語)
開講時期・学年	後期・1学年	授業形態	講義

教育の目的と方針

朝鮮韓国語Ⅰで学習したことを踏まえ、表現練習に入っていきます。表現練習で重要なことは動詞・存在詞・形容詞の肯定形、疑問形、否定形、過去形、過去疑問形、過去否定形などを区別できること、文章と文章を接続する練習を多くすること、そして場面状況に応じて適切な表現ができることです。講義中は韓国の事情や文化についても触れていきます。

授業は、指定した教科書を中心に進めますが、理解を深めるために教科書以外の練習問題や印刷物を配布します。クラス全体での読み書き聞き取り練習、教室を回りながら個別に読み書きの指導をします。

この授業では、文字学習発音練習記述学習が中心となるため、授業中は積極性が求められます。

到達目標

- 1) ハングル文字の構成を説明できる。
- 2) 日常会話でよく使う単語を正しく読み、書くことができる。
- 3) 漢数詞、固有数詞の区別ができる。
- 4) 日本語と助詞の使い方が違う部分を説明できる。
- 5) 肯定形、疑問形、否定形、過去形、敬語形などの変化を理解し、基本的な文を作成できる。
- 6) 接続詞、接続形を使い前後の文章をつなげることができる。
- 7) 語幹形、아/어活用形を使い様々な表現をすることができる。

いつどこで誰が何をどうするのかを朝鮮韓国語で表現できるように指導します。日本語と表現方法が同じものと違うものを理解し、自分自身が述べたいことを一つでも多く使えるようにしましょう。

成績評価方法および基準

筆記小テスト10%・授業態度10%・発音テスト10%・学期末筆記試験70%の合計100%の内、60%以上の場合に合格とします。

事前・事後学習について

教科書・参考文献等

・李志暎『できる韓国語初級Ⅰ 新装版』アスク出版

オフィス・アワー

オフィスアワー

メールアドレス

・由村尚樹講師 水曜日 10:30-12:00 naokitaejon@yahoo.co.jp

学生へのメッセージ

授業日程					
回数	日付	曜日	時限	内容	担当教員
1	2025/09/17	水	2	朝鮮韓国語Ⅰ内容の復習（単語・助詞・数字曜日・語尾）	由村 尚樹
2	2025/09/24	水	2	ㄹ体の動詞学習	由村 尚樹
3	2025/10/01	水	2	敬語学習および否定形学習	由村 尚樹
4	2025/10/08	水	2	過去形学習	由村 尚樹
5	2025/10/15	水	2	勧誘表現・進行形学習	由村 尚樹
6	2025/10/22	水	2	あいさつ・フレーズ	由村 尚樹
7	2025/11/12	水	2	可能・不可能表現学習	由村 尚樹
8	2025/11/19	水	2	希望・願望表現学習	由村 尚樹
9	2025/11/26	水	2	許可・禁止表現学習	由村 尚樹
10	2025/12/03	水	2	義務表現学習	由村 尚樹

※授業内容および進度は状況に応じて変更がありうる。

科目名	ラテン語（三大学共同化科目）（100314）		
科目責任者	松本 加奈子		
単位数	2（第2外国語のⅠに相当し、他の言語Ⅰを修得できなかった場合、Ⅰに読替え）	必修・選択区分	選択
開講時期・学年	後期・1学年	授業形態	講義

教育の目的と方針

ラテン語の文法項目を一つずつおさえながら、文章を読み解く練習をしていくことで、ラテン語の基礎となる初歩の文法を修得します。

ラテン語は古代ローマの言語でありながらも、近世初期に至るまで長い間、ヨーロッパ共通の学術言語として重宝され続けてきました。その名残は動植物の学名をはじめ、医学、解剖学、薬学、化学から哲学や政治に至るまで文系・理系を問わず様々な分野における多くの用語に見られるため、ラテン語を学ぶことは、単に古代の言語の文法を知ることにとどまらず、現代の学問や文化、思想の基盤への理解を深めることにもなります。また西欧の多くの言語に直接的・間接的な影響を及ぼしていることから、英語やフランス語、スペイン語、ドイツ語、イタリア語などを学ぶ際の助けともなります。現代語とも関連づけながら学習を進めることで、言語の成り立ちや進化を見渡す視野を広げ、言語そのものに対する関心や理解を深めることを目的とします。

到達目標

- 1 ラテン語の基礎となる初歩の文法を修得することが出来る。
- 2 辞書や活用表を見ながら簡単なラテン文を読むことが出来る。
- 3 ラテン語を由来とする身近な語彙や表現について、例を挙げて説明できる。

成績評価方法および基準

評価は、平常点と学年末の筆記試験で判断します。授業や課題に対する取り組みを含む平常点も重視します。

- 1 毎回の授業で提出する課題（羅和訳も含む）などの平常点 5割
- 2 学年末試験 5割

各項目の合計が60%以上の場合に合格とし、その得点を科目評価とする。

事前・事後学習について

毎回の講義で学習した教科書および配布資料の該当範囲を熟読し、内容を理解しておくこと。

教科書・参考文献等

テキスト：中山恒夫著、『標準ラテン文法』（白水社）

オフィス・アワー

授業終了後、質問や相談に応じます。

学生へのメッセージ

授業日程					
回数	日付	曜日	時限	内容	担当教員
1	2025/9/29	月	3	文字と発音、規則動詞（現在）、接続詞（※オンデマンド授業）	松本 加奈子
2	2025/10/6	月	3	第1 変化名詞、不規則動詞―「少女が詩人にバラを与える」	松本 加奈子
3	2025/10/20	月	3	第2 変化名詞―「子供たちがヤギを連れて行く」	松本 加奈子
4	2025/10/27	月	3	第1・第2 変化形容詞―「ローマは大きくて有名な都市である」	松本 加奈子
5	2025/11/10	月	3	前置詞、代名詞[1]―「主人は彼の召使と一緒に出かける」	松本 加奈子
6	2025/11/17	月	3	動詞（未完了過去・未来）―「少女は歌っていた／歌うだろう」	松本 加奈子
7	2025/12/1	月	3	第3 変化名詞―「使者たちが平和の報せをもたらす」	松本 加奈子
8	2025/12/8	月	3	動詞（完了・過去完了・未来完了） / ラテン語と英語①（曜日の名称）	松本 加奈子
9	2025/12/15	月	3	第3 変化形容詞 / ラテン語と英語②（月の名称）	松本 加奈子
10	2025/12/22	月	3	代名詞[2]―「これは気に入り、あれは気に入らない」	松本 加奈子
11	2025/1/13	火	3	動詞（受動）―「万物は太陽によって照らされる」	松本 加奈子
12	2026/1/19	月	3	疑問詞―「君たちはそこに何を見ているか」	松本 加奈子
13	オンデマンド			関係代名詞―「我々の見たものはすべて我々の気に入った」	松本 加奈子
14	オンデマンド			学名を読んでみよう	松本 加奈子
15	オンデマンド			第4・第5 変化名詞 / 復習	松本 加奈子

※オンデマンド授業（日程については授業時に指示）

科目名	体育（100506）		
担当教員	屋 京典		
単位数	1. 3	必修・選択区分	必修
開講時期・学年	通年・1 学年	授業形態	実習・実技・講義

教育の目的と方針

- 1 各種スポーツを通して、基礎的な運動技能及び健康維持の為の体力を高めること
 - 2 チームでの活動を通して、自己の責任・仲間との協力などの社会的態度を養うこと
 - 3 健康な生活習慣を維持していくための適切な運動習慣を理解し、実践を通して身につけること
 - 4 スポーツ技能向上のための様々な学習・指導方法およびトレーニング方法について学ぶこと
- 以上 4 点を受講生の教育目的とし、実習・実技を中心としながら、いくつかの課題に取り組む授業を行う。

本授業は、実習・実技（適宜、講義および演習）を行う

①実習：自ら作成した運動処方プログラムやスポーツの練習プログラムを実践し記録する。上記の内容に関する健康科学実験・運動科学実験に取り組み、その結果をまとめる。

②実技：各種スポーツの練習や試合を通して、基礎的な運動技能や体力を向上させる。グループ単位での活動においては、チーム力向上のための練習計画を作成し、仲間と協力しながら実践する。

③講義：実習・実技の課題を行う上での基礎となる、運動学習理論、体力トレーニング理論などについて適宜解説する。また、運動による身体機能の変化などについて解説し、運動の必要性について理解を深め、医療現場での運動処方に応用できるようにする。

④演習：運動強度や運動量の推定式などをもとに、自らの運動習慣を強度・時間・頻度などの観点から量的に分析し、今後健康な生活習慣を持続していくための運動処方プログラムを作成する。

到達目標

本授業を通して、受講生は以下に掲げた5つの目標を達成できるようにする。

- 1 定期的な運動によって体力や運動能力を高めることができる。

運動を継続し体力を向上させることは、その後の人生を豊かなものにするためにも非常に重要である。しかしスポーツ系のサークルに所属したり、スポーツジムに行ったりしない限り、運動を継続するのはなかなか難しい。そこで本授業では、スポーツやレクリエーションの実習を通して身体を動かすことを継続し、体力や運動能力を高めることを第1の目標とする。

- 2 グループ活動によって社会的態度が形成できる。

スポーツを継続することは単に体力を向上させるだけでなく、授業のメンバーと協力して準備や練習、スポーツ実習をおこなうことで、新しい人間関係（友人関係）をつくり、社会的な態度を養うことが可能となる。さらに、最近のストレス社会においては、スポーツを行うことでストレスを解消する心理的な効果も期待されている。

従って、心理学・生理学・社会学に基づいた人間関係構築及びストレス解消のための方法をスポーツの実技やグループ活動を通して身につけることを第2の目標とする。

- 3 適切な運動習慣を定性的・定量的に理解できる。

本授業が終了した後でも、健康な生活習慣を維持していけるように、自己の適切な運動習慣を計画し定期的実践していけるようになることが理想である。そのために、心拍数、1 回拍出量、心拍出量、カルボーネンの式、基礎代謝量などの概念を理解し、運動強度や身体活動量を自ら計算で

きるようになることが重要である。従って、運動強度や身体活動量の計算を通して、実際場面での応用ができるようになることを第 3 の目標とする。

4 スポーツ技能を高めることができる。

スポーツを行う上では、運動技能を学習し、修得する一連のプロセスが存在する。運動技能の学習および習得において、プレーヤー（学習者）はどのような手順で練習すればより上達が望めるのか、またコーチ（教示者・示範者）は学習者に対してどのような見地に基づいて運動指導を行えばよいのかについて、講義や実践を通して考えながら、スポーツの技能を高めていくことを第 4 の目標とする。

5 将来を見据えて運動に取り組むことができる。

将来、医師となると、様々な疾病に対する運動療法に携わる場面に遭遇することは非常に多くなると思われる。そこで医師として今後様々な患者に対応する立場にある者として、特に生活習慣病の運動療法の方法についての知識を理解し、それを実践できる力をつけることは非常に有用なことであると考え。第 3 の目標にも通じることであるが、それぞれの疾病に対する有効な運動療法についての知識を得ること、実践につなげられる応用力をつけることを第 5 の目標とする。

成績評価方法および基準

成績評価は、年間を前半と後半に分け、それぞれで下記 1～3 の項目を合計して得点を算出し、それらの平均値を評点として、60 点以上であれば合格とする。

1 参加度 (30%)

実習・実技に対する参加意欲を評価する。指示された運動を適切に実践し、安全管理を守ること。チームメンバーと適切にコミュニケーションをとること。チームの中で自らの役割を積極的に果たし協力すること。以上のような行動を評価対象とする。

2 技術・態度 (20%)

実習・実技に取り組む態度を評価する。体育の実習・実技に適した服装を必ず用意し、定められた時間を厳守すること。実習・実技への参加態度が不適切である場合は欠席扱いとする。

3 試験 (50%)

実習・講義内容の知識に関する筆記試験を各期末に行う予定である。

事前・事後学習について

演習や実技が中心の授業であるため授業の際に指示する。

教科書・参考文献等

教科書：使用しない

参考文献等：

東海大学一般体育研究室編『健康・フィットネスと生涯スポーツ』（大修館書店、2013 年）

川西正志・野川春夫編著『生涯スポーツ実践論：生涯スポーツを学ぶ人たちに』（市村出版、2018 年）

大修館書店編集部『アクティブスポーツ総合版 2019』（大修館書店、2019 年）

東京大学身体運動科学研究室編『教養としての身体運動・健康科学』（東京大学出版社、2009 年）

松村道一・小田伸午・石原昭彦編著『脳百話一動きの仕組みを解き明かす』（市村出版、2003 年）

C・エイブラハム・M・クールズ編、竹中晃二・上地広昭監訳『行動変容を促すヘルス・コミュニケーション 根拠に基づく健康情報の伝え方』（北大路書房、2018 年）

オフィス・アワー

非常勤講師であるため、原則授業後に対応し、必要がある場合にはメールでアポイントをとるこ

と。メールアドレス：ポータル等を通じて周知する

学生へのメッセージ

受講マナーとして、授業中の飲食および携帯電話の使用は禁止する。ただし、水分補給のための飲料は許可する。

実習・実技の際には、それに適した服装・シューズを用意すること。運動が「できる」という意味ではなく、「体育の授業を受講するにあたって、適したもの」という捉え方をすること。教員が適していないと判断した場合には、出席を認めない場合もある。

体育は実習・実技科目である性質上、出席・参加状況を最重要視する。欠席した場合は診断書を添付した欠席届を提出すること。また遅刻は30分までとし、30分を超えた場合は欠席扱いとする。遅刻3回で欠席1回とみなす。遅刻や見学に関しても、証明書等を添付のうえ、教員に届け出ること。教員が正当な理由では無いと判断した場合には、出席を認めない場合もある。

授業日程

回数	日付	曜日	時限	内容	担当教員
1	2025/4/10	木	3 限(A 組) / 4 限(B 組)	オリエンテーション	屋 京典
2	2025/4/17	木	3 限(A 組) / 4 限(B 組)	サッカー①	屋 京典
3	2025/4/24	木	3 限(A 組) / 4 限(B 組)	サッカー②	屋 京典
4	2025/5/8	木	3 限(A 組) / 4 限(B 組)	アルティメット①	屋 京典
5	2025/5/15	木	3 限(A 組) / 4 限(B 組)	アルティメット②	屋 京典
6	2025/5/22	木	3 限(A 組) / 4 限(B 組)	アルティメット③	屋 京典
7	2025/5/29	木	3 限(A 組) / 4 限(B 組)	講義	屋 京典
8	2025/6/12	木	3 限(A 組) / 4 限(B 組)	ポートボール②	屋 京典
9	2025/6/19	木	3 限(A 組) / 4 限(B 組)	ポートボール③	屋 京典
10	2025/6/26	木	3 限(A 組) / 4 限(B 組)	ポートボール④	屋 京典
11	2025/9/18	木	3 限(A 組) / 4 限(B 組)	サッカー①	屋 京典
12	2025/9/25	木	3 限(A 組) / 4 限(B 組)	サッカー②	屋 京典
13	2025/10/2	木	3 限(A 組) / 4 限(B 組)	サッカー③	屋 京典

14	2025/10/9	木	3 限(A 組) / 4 限(B 組)	アルティメット①	屋 京典
15	2025/10/16	木	3 限(A 組) / 4 限(B 組)	アルティメット②	屋 京典
16	2025/10/23	木	3 限(A 組) / 4 限(B 組)	アルティメット③	屋 京典
17	2025/11/13	木	3 限(A 組) / 4 限(B 組)	講義	屋 京典
18	2025/11/20	木	3 限(A 組) / 4 限(B 組)	ポートボール①	屋 京典
19	2025/11/27	木	3 限(A 組) / 4 限(B 組)	ポートボール②	屋 京典
20	2025/12/4	木	3 限(A 組) / 4 限(B 組)	ポートボール③	屋 京典

※天候その他状況により、変更がありうる。

科目名	総合講義（リレー講座）（100507）			
科目責任者	天谷 文昌（教育センター長）			
単位数	2.7(評価・認定:早期体験実習Ⅰ・Ⅱ、統合授業、リレー講座の4科目の合計)	必修・選択区分	必修	
開講時期・学年	通年・1学年	授業形態	講義	

教育の目的と方針

医療及び医学に携わる者は、すべて等しく、自分の携わる医療・医学はいかにあるべきかを、それらの全体との関連において生涯にわたって問うことが課せられている。医学は、自然科学を基礎とし、多くの技術を用いる総合科学であり、また、絶えず先端技術を採り入れる先端科学でもある。

一方で、その先端科学を人類の福祉・保健・医療に適用するためには、深い人間理解に根ざした幅広い人格の形成と教養が生涯要求される。この意味で、医療人・医学者は、科学者としての能力、医療者としての能力、プロフェッショナルとしての能力を生涯涵養してゆくことが必要となる。

そのため、諸君がこれらを理解し自分で考えるための手助けとして、ロールモデルとなる多くの教員が参加するリレー方式の講義を行なう。

到達目標

- 1 社会が医療・医学に求めている役割や責任について、具体的な事例を基に説明できる。
さまざまなロールモデル（医師、医学者、医療者）による講義を通じて、社会が医師・医学者及び医学生に求める課題につうて考察し、その内容を説明できる。
- 2 自分にとっての医療・医学の意義、価値、関心を明確にし、自らが目指す医師像を言葉によって表現できる。
将来のキャリアや学修目標、目指すべき医師像に向けて、自己の課題を整理し、具体的に述べることができる。
- 3 プロフェッショナルとし求められる資質や態度について理解し、生涯にわたる学習の重要性や勉強法について説明できる。
医療人・医学者としての倫理観や責任感など、プロフェッショナルに大切な資質、態度とは何かを考察し、自らの学びの指針を示すことができる。また、継続的な学習の意義を理解し、それに向けた具体的な行動を挙げることができる。

成績評価方法および基準

平常点（100%）

授業後に適宜小レポート等を実施し、その合計得点を評価とする。

なお、単位認定に関しては、リレー講座、早期体験実習Ⅰ、早期体験実習Ⅱ、統合授業の各評価の合計が6割未満の場合、全ての授業を不合格とする。

事前・事後学習について

とくになし。

教科書・参考文献等

適宜、資料を配布する。
オフィス・アワー
授業終了後、教室で質問や相談に応じます。
学生へのメッセージ

授業日程					
回数	日付	曜日	時限	内容	担当教員
1	4/8	火	3	動物実験オリエンテーション	大塚 哲
2	4/11	金	-	13：30-15:00(京都学・歴彩館) みなさんに期待すること(看護学科合同)	夜久 均
3	4/18	金	-	13：30-15:00(京都学・歴彩館) 附属病院の概要・現状(看護学科合同)	佐和 貞治
4	4/25	金	-	15：30-16：15(図書館ホール) 医学科の教育カリキュラム	天谷 文昌
4	4/25	金	-	16：15-17：00(図書館ホール) 本学の歴史	八木 聖弥
	5/9	金	-	15：30-16：30(図書館1階) 学術情報活用講座(大学図書館活用入門)	図書館員 大瀧 副主査
5	5/16	金	4	医学部生のためのメンタルヘルス	中嶋 章作
6	5/23	金	4	早期体験実習Ⅰの心構え	間嶋 紗織
7	6/27	金	4	先輩に学ぶ①) 研究マインド：基礎研究と臨床医学を繋げ！	曾和 義広、 大学院生
8	9/19	金	4	OSCEについて	間嶋 紗織
9	9/26	金	4	海外での基礎研究留学	的場 聖明、他
10	10/3	金	4	先輩に学ぶ②) 研究マインド：基礎研究と臨床医学を繋げ！	曾和 義広、 大学院生
	10/10	金	4	eAPRIN 受講説明会	曾和 義広
11	10/17	金	-	14：30-16：30 早期体験実習Ⅱの心構え	武藤 倫弘 瀬戸山 晃一
12 13	10/24	金	-	13：30-16：40(図書館ホール) 先輩に学ぶ③・④) 地域医療実習報告会(医学5年生・看護3年)	金子 美子 間嶋 紗織
14	11/28	金	4	海外での臨床医学留学	八代 健太、他
15 16 17	12/2	火	-	12：50-17：40(図書館ホール) 早期体験実習報告会①・②・③	武藤 倫弘 瀬戸山 晃一、他

科目名	総合講義（人権教育）（100505）			
科目責任者	天谷 文昌（教育センター長）			
単位数	0.3	必修・選択区分	必修	
開講時期・学年	通年・1 学年	授業形態	講義	

教育の目的と方針

すべての国民は個人として尊重され、生命、自由そして幸福を追求する権利を持つことが憲法において保障されている。

しかしながら、一般社会においては、過去にはハンセン病やエイズ、また最近の COVID-19 などの感染症に対する誤った認識や理解が差別や偏見につながった事例や、高齢者や障害者、外国人等に対する人権侵害事例も耳にするとところである。さらに最近ではインターネットの普及に伴う事例も見受けられるところである。

医療の世界においても、配慮を欠いた医療従事者の言動が患者の不安を増大させることも指摘されており、信頼関係に基づいた患者本位の医療環境を形成するためには、医療従事者の高い人格、豊かな人権意識の養成が望まれている。

この講義では、医師・医療者を目指す学生に対して、誤った認識や理解が差別や偏見につながることを学び、正しい知識に基づく人権意識の涵養を図る。

到達目標

- 1 医療に関わる人権問題について、具体的な事例を挙げて説明できる。
- 2 差別や偏見の不合理性を理解し、その背景にある問題を分析し、解決するための具体的な行動について考え、述べることができる。
- 3 患者の人権の重要性を理解し、それに配慮するための行動について考え、説明できる。

成績評価方法および基準

平常点（100％）

各回の授業後に小レポート等を実施し、その合計点が 60％以上であれば合格とする。

事前・事後学習について

授業後には各回の内容についての小レポート等を期限内に提出する必要がある。

教科書・参考文献等

適宜プリントを配布する。

オフィス・アワー

授業終了後、教室で質問や相談に応じます。

学生へのメッセージ

本講義は、外部の有識者を講師として招いての講義になります。授業中の私語や居眠りをするこ
となく、集中して講義を拝聴し、その内容を知的に消化してレポートを作成して下さい。

授業日程					
回数	日付	曜日	時限	内容	担当教員
1	5/30	金	4	人権教育(1)：同和問題	山本 崇記
2	6/13	金	4	人権教育(2)：人権総論	村田 隆史
3	6/20	金	4	人権教育(3)：SNSと人権	小山 優子

授業日程										KPUM学 校・リ-	
回数	日付	時限	開始	終了	内容	所属	講師名	(場所)	備考		
1	4月8日	3	12:50	14:20	動物実験オリエンテーション	実験動物センター部門長	大塚 哲		(火曜開催)	(3)	
2	4月11日	—	13:30	15:00	みなさんに期待すること(看護学科合同)	学長	夜久 均	京都学・歴史館	看護学科合同	(2)(4)	
3	4月18日	—	13:30	15:00	附属病院の概要・現状(看護学科合同)	病院長	佐和 貞治	京都学・歴史館	看護学科合同	(4)	
4	4月25日	—	15:30 16:15 16:15	16:15 17:00	医学科の教育カリキュラム(45分) 本学の歴史(45分)	教育センター長 (特任准教授)	天谷 文昌 八木 聖弥	図書館ホール		(3)(4)(6)	
	5月2日				(4/30(水)～5/2(金):対慈恵戦)						
	5月9日		15:30	16:30	学術情報活用講座(大学図書館活用入門)	附属図書館員	大瀧副主査	図書館ラウンジ コモンズ	学術情報活用講座		
5	5月16日	4	14:30	16:00	医学部生のためのメンタルヘルス	中嶋クリニック院長	中嶋 章作				
6	5月23日	4	14:30	16:00	早期体験実習Ⅰの心構え	教育センター教員	間嶋 紗織			(4)	
①	5月30日	4	14:30	16:00	人権教育(1): 同和問題	静岡大学 教授(2024年度)	山本 崇記	オンデマンド(予定)		(4)	
	6月6日				(6/3(火)～6/6(金):早期体験実習Ⅰ)		担当教員				
②	6月13日	4	14:30	16:00	人権教育(2): 人権総論	京都府立大学 准教授	村田 隆史			(4)	
③	6月20日	4	14:30	16:00	人権教育(3): SNSと人権	弁護士	小山 優子			(4)	
7	6月27日	4	14:30	16:00	先輩に学ぶ①: 研究マインド: 基礎研究と臨床医学を繋げ!	教育センター教員/メンター・ジョブローダー	曾和/大学院生			(1)	
					(7/2-8/4・9/1-9/5・8/29試験等/夏季休業)						
8	9月19日	4	14:30	16:00	OSCEについて	教育センター	間嶋 紗織		OSCE(4年)10/5	(4)	
9	9月26日	4	14:30	16:00	海外での基礎研究留学	循環器・腎臓内科学 教授	的場 聖明ほか		的場・塩崎・榊野・八代・煤村		
10	10月3日	4	14:30	16:00	先輩に学ぶ②: 研究マインド: 基礎研究と臨床医学を繋げ!	教育センター教員/メンター・ジョブローダー	曾和/大学院生			(4)	
	10月10日		14:30	16:00	eAPRIN受講説明会	教育センター 特任教授	曾和 義広				
11	10月17日	4	14:30	16:30	早期体験実習Ⅱの心構え	学生部長・医学基盤教育部長	武藤・瀬戸山ほか			(4)	
12	10月24日	—	13:30	15:00	先輩に学ぶ③: 地域医療実習報告会(医学5年・看護3年)	教育センター教員		図書館ホール		(4)(5)	
13		—	15:10	16:40	先輩に学ぶ④: 地域医療実習報告会(医学5年・看護3年)		金子・間嶋ほか	図書館ホール		(4)(5)	
	10月31日				(10/28(火)～10/31(金):トリアス祭)						
	11月7日				(11/4(火)～11/7(金):早期体験実習Ⅱ)						
	11月14日				【予備日】						
	11月21日				【予備日】						
14	11月28日	4	14:30	16:00	海外での臨床医学留学	生体機能形態科学 教授	八代 健太ほか		八代・橋本・浮村・山田		
15	12月2日	3	12:50	14:20	早期体験実習Ⅱ報告会①	学生部長・医学基盤教育部長ほか	武藤・瀬戸山ほか	図書館ホール	(火曜開催)	(4)	
16	12月2日	4	14:30	16:00	早期体験実習Ⅱ報告会②	学生部長・医学基盤教育部長ほか	武藤・瀬戸山ほか	図書館ホール	(火曜開催)	(4)	
17	12月2日	5	16:10	17:40	早期体験実習Ⅱ報告会③	学生部長・医学基盤教育部長ほか	武藤・瀬戸山ほか	図書館ホール	(火曜開催)	(4)	
					(1/27(火)～1/30(金):統合授業)						

科目名	総合講義（早期体験実習Ⅰ）（100507）			
科目責任者	教育センター			
単位数	2.7(評価・認定:早期体験実習Ⅰ・Ⅱ、統合授業、リレー講座の4科目の合計)	必修・選択区分	必修	
開講時期・学年	通年・1学年	授業形態	実習	

教育の目的と方針

本実習では、病院が多職種のスタッフから共同で成り立っていることを知り、見学だけでなく体験を通してチーム医療の真の姿を考える機会を得ることを目的とする。病院での全ての職種について見学・体験することは難しいが、各自が見学・体験する現場で様々な職種の業務内容を患者さんとの関わりの中で理解するように努めることが求められる。

具体的には、医師及びその他の医療者の仕事のシャドーイング*を通して、医療者として将来何が求められるのかを知り、多職種によるチーム医療がどのように機能し、医療者として何を工夫・意識しなければならないかを理解する。また、医師側だけではなく、患者さんは病院でどのように過ごし、何を感じているかに触れ、自分なりの理解や考えを深める。そして現場にいる医療者及び患者を尊重し、マナーや倫理面に配慮できるよう強く期待する。

*シャドーイングとは、影のように指導者に寄り添って「見て学ぶ」「そばにいて学ぶ」実習方法。

（１）内 容

- ・病院内各部門及び事務部門の見学
- ・他の医療者の仕事のシャドーイング
- ・患者エスコート（院内施設案内、検査付き添い、診察室への案内など）

（２）実習施設

本学附属病院内各部門、病棟等で行なう。

到達目標

- 1 円滑に実習を進めるために必要な倫理的配慮、常識・マナーなどを理解し、実践できる。
- 2 患者とコミュニケーションを取り、患者の視点からみた医療・病院とは何かを推察できる。
- 3 医師及びその他の医療者の仕事をシャドーイングし、それぞれにどのような役割を担っているか、やり甲斐や大変さはどのような点に認められるかを確認し、説明できる。
- 4 チーム医療の実際、連携のために現場で行なわれている工夫などを理解し、チーム医療には何が重要であるかを指摘できる。

成績評価方法および基準

実習態度（50％）、レポート課題（50％）の合計得点を評価とする。

実習態度の評価では、場に適切な身なりや服装、時間や約束の遵守、明朗な言動、スタッフや患者とのコミュニケーション、真摯で積極的な学びへの姿勢などが対象となる。

レポート課題では、上記の到達目標に関わる内容について実習後に提出を求める。詳細については実習時に配布する要項を参照すること。

なお、単位認定に関しては、リレー講座、早期体験実習Ⅰ、早期体験実習Ⅱ、統合授業の各評価

の合計が6割未満の場合、全ての授業を不合格とする。

実習上の注意事項について

実習に臨むにあたって

- 1 入学手続きで指示のあった抗体検査及び予防接種により、必ず実習までに必要な免疫を獲得しておくこと。必要な免疫が獲得できていない場合は実習は受けられない。
- 2 感染症拡大警戒時においては、往々にしてオンライン課題・オンライン実習に切り替わる可能性があるため、各自 Zoom ミーティング、Google の stu メールアカウントでのアクセスができる様に準備しておくこと。
- 3 実習は単なる視察や「教えてください」という受身ではなく、「自ら学ぶ」という意欲的な心構えで臨む。
- 4 まとめにおいて、実習の内容、感想、意見を発表し、質疑・討論を行なう。
- 5 実習後、指示された方法によりレポート(日々及び全体)を提出すること。
※ なお、社会情勢等により変更もありうる。追加情報を適宜参照すること。

教科書・参考文献等

適宜資料を配布する。

オフィス・アワー

教育支援課下鴨事務室、教育センターにて適宜質問や相談に応じる。

連絡先等の詳細については、事前に配布する「早期体験実習Ⅰ要項」を参照すること。

学生へのメッセージ

本実習中は、他人に不快感を与えない清潔な身だしなみ、挨拶を励行し、礼儀正しく節度ある態度を特に心がける。身だしなみが不適切な者は実習に参加できない場合がある。実習の性格上プライバシーに立ち入ることもあるので、守秘義務を守り、配慮の行き届いた行動を心がける。アンプロフェッショナルな言動が見られる場合は、実習を中止し不参加とすることもある。各教室・施設では、担当教員の指示に従って実習を受けること。

実習不参加者は単位が取得できないので、必ず参加できるように、上記の注意事項を遵守するだけでなく、体調・予定の管理を徹底しておくこと。

授業日程

回数	日付	曜日	時限	内容	担当教員
1	6/3	火	-	場所：本学附属病院（河原町キャンパス）	教育センター教員
2	6/4	水	-	場所：本学附属病院（河原町キャンパス）	教育センター教員
3	6/5	木	-	場所：本学附属病院（河原町キャンパス）	教育センター教員
4	6/6	金	-	下鴨キャンパス	教育センター教員

* 日程や方法、場所については、変更する場合がある。

* グループ分け、実習部門、集合場所等の詳細については別途連絡する。

科目名	総合講義（早期体験実習Ⅱ）（100507）			
科目責任者	武藤 倫弘 ほか			
単位数	2.7(評価・認定:早期体験実習Ⅰ・Ⅱ、統合授業、リレー講座の4科目の合計)	必修・選択区分	必修	
開講時期・学年	通年・1学年	授業形態	実習	

教育の目的と方針

本実習では、みなさんが卒前・卒後に参画するであろう医療・医学の現場（フィールド）を体験し、医療・医学とはなにかを問いただすことによって、将来の自己像、医療・医学における課題をより深く考察することを目的とし、体験実習と実習報告会等を行なう。

配属教室の臨床、研究、教育の現場で活動するさまざまな医師・医学者の仕事を体験する。本実習が、医療や人間の姿を広い視点から捉え、人間の見方の幅を広げる契機となるよう、積極的な姿勢で臨んでほしい。

（１）指 導

実習先教室の指導担当者に直接指導を受ける。

（２）実習先

本学附属病院及び研究室で行なう。

到達目標

医療・医学の現場での体験を通して、自分にとっての医学・医療のイメージを形成し、将来における自己の課題を発見して、それをわかりやすく表現することができる。

成績評価方法および基準

早期体験実習Ⅱでは、担当教員及び教授作成の実習評価票、報告会におけるプレゼンテーション及びレポートにより評価する。

なお、単位認定に関しては、リレー講座、早期体験実習Ⅰ、早期体験実習Ⅱ、統合授業の各評価の合計が６割未満の場合、全ての授業を不合格とする。

実習上の注意事項について

- ①感染症拡大警戒時等においては、オンライン課題・オンライン実習に切り替わる可能性がある。各自 Zoom ミーティング、Google アカウントでのアクセスができる様に準備をしておくこと。
- ②単なる視察や「教えてください」という受身ではなく、「自ら学ぶ」という意欲的な心構えで臨む。
- ③本実習中は、他人に不快感を与えない清潔な身だしなみ、挨拶を励行し、礼儀正しく節度ある態度を特に心がける。身だしなみが不適切なときは実習に参加できない場合がある。
- ④実習の性格上、プライバシーに立ち入ることもあるので、守秘義務を守り、配慮の行き届いた行動を心がける。
アンプロフェッショナルな言動が見られる場合は実習を中止することがある。
- ⑤各診療科・研究室では、担当教員の指示に従って実習を受ける。
- ⑥実習後、実習票及び報告書を提出し、報告会において実習の内容、感想、意見を発表し、

質疑・討論を行なう。 ⑦実習および報告会の不参加者は総合講義の単位を修得することができない。 ⑧実習に先立ち、10/5(日)に実施される上回生のOSCE試験に模擬患者として参加すること。
教科書・参考文献等
適宜プリントを配布
オフィス・アワー
実習に関する質問等には、担当教員の研究室にアポイントメントの連絡を行い調整の上、個別に対応する。
学生へのメッセージ
目的と方針の繰り返しになるが、早期体験実習は、現場の見学だけでなく、将来の同業者の生活を知る機会でもある。受け身な見学に留まらず、インタビューをする意気込みで積極的に関わり将来の自分を想像する機会にして欲しい。報告会においても、学友の様々な捉え方や発表の仕方を体験し、良いところを見出して、自ら取り入れて欲しい。

授業日程					
回数	日付	曜日	時限	内容	担当教員
	10/5	日	1～3	模擬患者(OSCE)	教育センター教員
1～2	11/4	火	1～5	実習(診療系)	各関係教室教員
3～4	11/5	水	1～5	実習(診療系)	各関係教室教員
5～6	11/6	木	1～5	実習(基礎・社会系)	各関係教室教員
7～8	11/7	金	1～5	実習(基礎・社会系)	各関係教室教員
9～11	12/2	火	1～5	実習報告会①・②・③	学生部長・医学基盤教育部長・クラス担任教授ほか
※日程や方法については、変更する場合がある。 グループ分け、実習先等の詳細については別途連絡する。					

科目名	総合講義（統合授業）（100507）			
科目責任者	教育センター教員			
単位数	2.7(評価・認定:早期体験実習Ⅰ・Ⅱ、統合授業、リレー講座の4科目の合計)	必修・選択区分	必修	
開講時期・学年	通年・1学年	授業形態	演習	

教育の目的と方針

学生は、本授業を通じて、患者視点に基づいた医療の実践方法を学び、医療安全やチーム医療の重要性を理解し、医療現場で求められる倫理観やコミュニケーション能力を兼ね備えた医療人の素養を身につけることが求められる。

この授業では、医学生が医療現場での課題に向き合い、「患者さんから学ぶ」ことを通じて「安全・安心な医療」の実現を目指す。また、本授業では「ペイシェント・ジャーニー」の視点を取り入れ、患者さんの経験や気持ちを軸に、医療安全や多職種連携の重要性を学ぶ。本授業は、「患者中心の医療」の理解を深めることを主な教育方針として掲げ、医療者の視点だけでなく、患者さんの気持ちや患者さんを取り巻く環境の要因を考慮し、最適な医療を提供する姿勢を身につける。さらに、医療安全への意識を高めるために、1年生と3年生が共同するグループワークを通じて、リスクマネジメントの実践力、異なる専門職との協働を円滑に進める能力を養い、多職種連携の重要性および必要性への理解を深める。また、アクティブラーニングを重視し、グループディスカッションやプレゼンテーションを取り入れることで、主体的な学習態度を促進する。

到達目標

- 1 病気や障害とともに生きる人々の視点を理解し、医師及び医学者としてのあるべき姿を具体的に述べるができる。
- 2 医師や患者以外の多職種や専門職の役割や視点を理解し、それについて考察・説明できる。
- 3 自習及びチーム学習を通じて、相互評価に基づいた建設的なフィードバックを班員に提供し、その結果を発表内容に反映できる。
- 4 異なる学年の学生と協力し、3年生は1年生を指導する立場を、1年生は3年生から学ぶ姿勢を理解し、チーム内で適切に役割分担を行ない、作業を円滑に進めて成果物を完成させることができる。

成績評価方法および基準

態度評価（30%）、レポート評価（40%）、発表評価（30%）の合計得点を評価とする。

態度評価では、班員同士のピア評価、聴講中、グループワーク中、発表中の評価に基づく。

レポート評価では、上記到達目標に関連し、講演の内容、グループワーク、発表（他の班のペイシェントジャーニーを含む）により学んだことを簡潔に分かりやすく記述することを求める。

発表評価では、班ごとに作成したプロダクト（パワーポイントなどを用いて作成のこと）及び発表内容に関する評価とし、学生個人ではなく班として評価点を与える。

なお、単位認定に関しては、リレー講座、早期体験実習Ⅰ、早期体験実習Ⅱ、統合授業の各評価の合計が6割未満の場合、全ての授業を不合格とする。

事前・事後学習について

- 1 1年生、3年生ともに、事前に紹介する教材動画、疾病に関して事前に自己学習し、講演ならば

にグループワークに臨むこと。とくに 3 年生は、これまでに学んだ知識を基に、1 年生に症例に関して説明できるように準備しておくこと。

教科書・参考文献等

教材等は適宜配布する。

オフィス・アワー

教育支援課下鴨事務室（1 年生）、教育支援課学生支援係（3 年生）、教育センター（1 年生・3 年生）にて適宜質問や相談に応じる。

連絡先等の詳細については、事前に配布する「統合授業 実施要項」を参照すること。

学生へのメッセージ

統合授業は、1 年生と 3 年生が協力しながら学ぶ貴重な機会です。1 年生は、3 年生と交流することで、より深い知識や臨床の視点を得ることができます 3 年生は、1 年生に教えることで自らの理解を整理し、指導力やコミュニケーション能力を高めることができます。この授業を通して、学年の枠を超えた協力の大切さを実感してください。

この授業で得られるものは、皆さんの主体的な姿勢や、互いに高め合おうとする意識によって大きく変わります。積極的に意見を交わし、協力しながら、新たな気づきや学びを得るための充実した時間にしてください。

授業日程

回数	日付	曜日	時限	内容	担当教員
1	1/27	火	－	オリエンテーション、講演	教育センター教員
2	1/28	水	－	グループワーク	教育センター教員
3	1/29	木	－	グループワーク、発表	教育センター教員
4	1/30	金	－	レポート作成	教育センター教員
＊ 社会情勢により変更もありうるため、追加情報を適宜参照すること。					

IV 専門教育要項

(第1学年後期～第6学年)

基礎医学	180
解剖学、生理学、分子医科学、感染病態学（微生物・医動物学）、免疫学、薬理学、病理学	
社会医学	229
保健・予防医学、法医学	
臨床医学	254
循環器ユニット、呼吸器ユニット、神経ユニット、消化器ユニット、内科学、外科学（小児外科学、小児心臓血管外科学を含む）、整形外科、産婦人科学、小児科学、眼科学、皮膚科学、泌尿器科学、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学、精神医学、放射線医学、麻酔科学、感染症学・臨床検査医学（人体病理学を含む）、救急医療学、総合医療・地域医療学、臨床実習前 OSCE 講座、リハビリテーション医学、生物統計学、	
地域医療実習	323
総合講義	326
研究配属	331
選択科目	342
歯科口腔科学、臨床病理セミナー	

1 専門科目の履修

1 授業科目（別表Ⅰ専門教育授業科目一覧表参照）

（1）必修科目

解剖学、生理学、分子医科学、感染病態学（微生物・医動物学）、免疫学、薬理学、病理学、保健・予防医学、法医学、循環器ユニット、呼吸器ユニット、神経ユニット、消化器ユニット、内科学、外科学（小児外科学、小児心臓血管外科学を含む）、整形外科、産婦人科学、小児科学、眼科学、皮膚科学、泌尿器科学、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学、精神医学、放射線医学、麻酔科学、感染症学・臨床検査医学（人体病理学を含む）、救急医療学、総合医療・地域医療学、臨床実習前 OSCE 講座、リハビリテーション医学、生物統計学、臨床実習、地域医療実習、臨床演習、総合講義、研究配属

（2）選択科目

歯科口腔科学、臨床病理セミナー

（3）その他

特別講義、関連講義、補講等

2 試験

（1）定期試験は原則として授業終了時の学期末又は次の学期末に、追試験及び再試験は、第6学年及び特別の事情がある場合を除き、各学年に1回行う。中間試験は随時行う。（別表Ⅱの専門科目試験実施時期一覧表参照）

（2）学生は、講義（臨床演習を含む。）時間数の60%以上及び実習（臨床演習を除く演習を含む。）については全て出席しなければ、当該試験を受けることができない。ただし、実習に関しては、病気や忌引き等のやむを得ない理由があると認められる場合には、欠席届を以って出席と認める場合がある。

（3）臨床授業科目の試験は、第一次試験と第二次試験（総合試験）とに分けて行う。第一次試験は原則として、講義終了時又はその学期末若しくは次の学期末に、第二次試験は第6学年の後期にそれぞれ行う。

（4）総合講義修了の認定については、次のとおりとする。

学年毎に単位認定を行う。（学年での単位が取得でななかった場合は、留年となる。）

各講義の小テストによる合格数が「各項目に60%以上」を満たすものについて各項目の修了を認定する。修了した項目数が学年で行われる項目数の3分の2以上である場合に、学年の総合講義の単位認定を行う。

（5）研究配属修了の認定については、オリエンテーション講座の出席、レポートの提出、口頭発表などにより配属教室において判定する。

（6）選択科目についての追再試験は実施しない。

3 進級

各学年の進級要件は、次の要件を全て満たしている者とする。なお、要件を満たさない者は当該学年にとどまり、次年度、原則として単位修得を認定されなかった科目を再履修する。

（1）第2学年末において、第2学年に行われる基礎医学授業科目（解剖学、生理学及び分子医科学、感染病態学（微生物・医動物学）、免疫学、薬理学及び病理学）及び教養英語、総合講義の全ての科目の単位を修得した者

（2）第3学年末において、第3学年に行われる臨床医学科目、生物統計学、総合講義及び医学英語の全ての科目の単位を修得した者

（3）第4学年末において、社会医学、国際医学英語、行動科学応用、臨床演習、総合医療・地域医療学、臨床実習前 OSCE 講座、研究配属及び総合講義について、全ての科目の単位を修得し、共用試験（CBT 及び Pre-CC OSCE）に合格した者

（4）第5学年末において、臨床実習（クリニカル・クラークシップⅠ）を修了し、総合講義、地域医療実習、医療倫理学及び医療統計学の全ての科目の単位を修得及び進級試験に合格した者

4 卒業

第6学年の卒業要件は、臨床実習（クリニカル・クラークシップⅡ）を修了の上、臨床実習の単位を修得し、共用試験（臨床実習後 OSCE）及び卒業試験に合格するとともに、ディプロマポリシーを満たした者とする。なお、要件を満たさない者は当該学年にとどまり、次年度、原則として単位修得を認定されなかった科目を再履修する。

別表 I

専門教育授業科目一覧表（平成 30 年度以前入学者）

区分	授 業 科 目	必修・ 選択の 別	回数	単位	備 考
基礎 医学	解剖学◎	必修	136	9	計 4 6 単位 (実習を含む)
	生理学◎	必修	88	8	
	分子医科学◎	必修	90	8	
	感染病態学(微生物・医動物学)◎	必修	74	5	
	免疫学◎	必修	42	4	
	薬理学◎	必修	55	4	
	病理学◎	必修	105	8	
社会 医学	保健・予防医学◎	必修	70	4.5	計 6 . 5 単位 (実習を含む)
	法医学◎	必修	20	2	
臨 床 医 学	内科学（神経内科学・老年内科学を含む）◎	必修	65	6.5	計 3 2 単位
	外科学（小児外科学を含む）◎	必修	40	4	
	脳神経外科学◎	必修	10	1	
	整形外科学◎	必修	16	1.5	
	産婦人科学◎	必修	22	2	
	小児科学◎	必修	18	1.5	
	眼科学◎	必修	10	1	
	皮膚科学◎	必修	10	1	
	泌尿器科学◎	必修	10	1	
	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学◎	必修	10	1	
	精神医学◎	必修	10	1	
	放射線医学◎	必修	11	1	
	麻酔科学◎	必修	10	1	
	疼痛・緩和医療学◎	必修	3		
	感染症学・臨床検査医学◎	必修	12	1	
	救急医療学◎	必修	12	1	
	総合診療学◎	必修	63	4.5	
	リハビリテーション医学◎	必修	8	1	
	生物統計学◎	必修	8	1	
	医療レギュラトリーサイエンス学	必修	2	0.25	
	臨床実習◎	必修	1440	72	計 7 3 単位
	地域医療実習◎	必修	20	1	
	臨床演習◎	必修	44	4.5	計 4 . 5 単位
そ の 他	総合講義Ⅰ◎	必修	50	5	計 1 6 単位
	総合講義Ⅱ◎	必修	16	1.5	
	総合講義Ⅲ◎	必修	37	3.5	
	研究配属◎	必修	120	6	
	歯科口腔科学◎	選択	6	0.5	
	臨床病理セミナー◎	選択	10	1	

（注 1）このほか、特別講義及びセミナー等を随時開催することができる。

（注 2）◎印の科目は医師等が自らの実務経験を活かし授業（講義、演習、実習等）を行う実務家教員担当科目である。

別表 I

専門教育授業科目一覧表（平成 31 年度以降入学者）

区分	授 業 科 目	必修・ 選択の 別	回 数	単 位	備 考
基礎 医学	解剖学◎	必修	140	9.3	計43.6単位 (実習を含む)
	生理学◎	必修	88	7.8	
	分子医科学◎	必修	90	8.1	
	感染病態学(微生物・医動物学)◎	必修	48	4	
	免疫学◎	必修	40	3.7	
	薬理学◎	必修	51	3.9	
	病理学◎	必修	86	6.8	
社会 医学	保健・予防医学◎	必修	69	5.2	計7.2単位 (実習を含む)
	法医学◎	必修	20	2	
臨 床 医 学	循環器ユニット◎	必修	29	1.9	計36.3単位
	呼吸器ユニット◎	必修	39	2.6	
	神経ユニット◎	必修	64	4.3	
	消化器ユニット◎	必修	41	2.7	
	内科学（ユニット科目除く）◎	必修	25	2.5	
	外科学（ユニット科目除く）◎	必修	21	2.1	
	整形外科学◎	必修	16	1.6	
	産婦人科学◎	必修	22	2.2	
	小児科学◎	必修	18	1.8	
	眼科学◎	必修	10	1	
	皮膚科学◎	必修	10	1	
	泌尿器科学◎	必修	10	1	
	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学◎	必修	10	1	
	精神医学◎	必修	10	1	
	放射線医学◎	必修	11	1.1	
	麻酔科学◎	必修	13	1.3	
	感染症学・臨床検査医学◎	必修	11	1.1	
	救急医療学◎	必修	10	1	
	総合医療・地域医療学◎	必修	9	0.9	
	臨床実習前OSCE講座	必修	40	2.6	
	リハビリテーション医学◎	必修	8	0.8	
	生物統計学◎	必修	8	0.8	
	臨床実習◎	必修	1440	72	計73単位
	地域医療実習◎	必修	20	1	
	臨床演習◎	必修	35	3.5	計3.5単位
そ の 他	総合講義Ⅰ◎	必修	8	0.8	計17.4単位
	総合講義Ⅱ◎	必修	22	2.2	
	総合講義Ⅲ◎	必修	15	1.5	
	総合講義Ⅳ◎	必修	29	2.9	
	総合講義Ⅴ◎	必修	28	2.8	
	研究配属◎	必修	120	6	
	国際医学英語(International Medical English)◎	必修	12	1.2	
	歯科口腔科学◎	選択	6	0.6	
	臨床病理セミナー◎	選択	10	1	

(注1) このほか、特別講義及びセミナー等を随時開催することができる。

(注2) ◎印の科目は医師等が自らの実務経験を活かし授業（講義、演習、実習等）を行う実務家教員担当科目である。

令和7年度 実務経験のある教員等による授業科目一覧（臨床医学）

教室名	職名	代表教員	実務経験の内容
内分泌・免疫内科学	教授	福井 道明	医師
循環器・腎臓内科学	教授	的場 聖明	医師
呼吸器内科学	教授	高山 浩一	医師
消化器内科学	准教授	山口 寛二	医師
血液内科学	教授	黒田 純也	医師
脳神経内科学	教授	尾原 知行	医師
消化器外科学	教授	塩崎 敦	医師
移植・一般外科学	講師	昇 修治	医師
内分泌・乳腺外科学	教授	直居 靖人	医師
心臓血管外科学	教授	小田 晋一郎	医師
呼吸器外科学	教授	井上 匡美	医師
小児外科学	教授	小野 滋	医師
形成外科学	病院教授	沼尻 敏明	医師
脳神経外科学	教授	橋本 直哉	医師
整形外科	教授	高橋 謙治	医師
リハビリテーション医学	教授	三上 靖夫	医師
産婦人科学	教授	森 泰輔	医師
小児科学	教授	家原 知子	医師
眼科学	教授	外園 千恵	医師
皮膚科学	准教授	益田 浩司	医師
泌尿器科学	教授	浮村 理	医師
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	教授	平野 滋	医師
精神医学	教授	成木 迅	医師
放射線医学	教授	山田 恵	医師
麻酔科学	教授	天谷 文昌	医師
感染症学・臨床検査医学	教授	貫井 陽子	医師
救急医療学	講師	山畑 佳篤	医師
人体病理学	教授	小嶋 基寛	医師
総合医療・地域医療学	教授	四方 哲	医師

臨床医学講義については、すべて実務経験のある教員（大学附属病院等における勤務経験のある医師等）によって実施されている。

別表Ⅱ

専門科目試験実施時期一覧表

学 年	2 学 年		3 学 年		4 学 年		5 学 年		6 学 年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
解剖学		●								
生理学		●								
分子医学		●								
薬理学		●								
感染病態学(微生物・医動物学)		●								
免疫学		●								
病理学		●								
保健・予防医学					●					
法医学					●					
共用試験 (CBT・OSCE)						●				
内科学			●	○	○					
外科学			●	○	○					
産婦人科学			●	○	○					
小児科学			●	○	○					
精神医学			●	○	○					
放射線医学			●	○	○					
感染症学・臨床検査医学			●	○	○					
病理学			●	○	○					
臓器別ユニット			●	○	○					
整形外科学				●	○					
眼科学				●	○					
皮膚科学				●	○					
泌尿科学				●	○					
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学				●	○					
麻醉科学(疼痛・緩和医療を含む)				●	○					
救急医療学				●	○					
リハビリテーション医学				●	○					
生体統計学				●	○					
総合診療学					●	○				
進級試験						●		○		
卒業試験									●	○
Post-CCOSCE									★	○

進級判定

(注)変更される場合があるので、注意すること。

凡 例	
●	定期試験
○	追再試験
★	卒業試験

(注) 1 第2・3・4学年の留年生は不合格となつた授業科目を再度履修し、定期試験から受験することができる。

2 その他の試験実施上の注意事項は、別に掲示する。

令和 7 年度 講義室

第 1 学年 第 1 講義室（基礎医学学舎 1 階）

※後期（2 月 16 日～）

第 2 学年 第 2 講義室（基礎医学学舎 1 階）

第 3 学年 第 1 講義室（基礎医学学舎 1 階）

第 4 学年 第 1 演習室（基礎医学学舎 2 階）

12 月からは臨床実習である。

第 5 学年 北臨床講義室（臨床講義棟 2 階）

4 月からは臨床実習である。

第 6 学年 南臨床講義室（臨床講義棟 2 階）

4 月からは臨床実習である。

授業時間割表

第2学年～第6学年

令和7年度 第2学年 前期 授業時間割

◎：講義、実習
△：実習・演習

	月					火					水					木					金						
	I	II	III	IV	V	I	II	III	IV	V	I	II	III	IV	V	I	II	III	IV	V	I	II	III	IV	V		
	(春季休業)																										
	解剖	解剖	解剖△	解剖△		生理	生理	分医	分医		解剖	解剖	解剖△	解剖△		解剖	分医	分医	解剖△			生理	生理	分医	分医	教養英語	
1w (4/7~11)	生理	生理	解剖△	解剖△		分医	分医	解剖△	解剖△		分医	分医	解剖△	解剖△		生理	生理	生理	解剖△			分医	分医	生理	生理		教養英語
2w (4/14~18)	解剖	分医	解剖△	解剖△		解剖	解剖	健康診断	健康診断		生理	生理	分医	分医	英語1	解剖	分医	分医	解剖△			生理	生理	分医	分医		
3w (4/21~25)	(対慈恵戦)																										
4w (4/28~5/2)	(昭和の日)																										
	(こどもの日)																										
4w (5/5~9)	解剖	解剖	解剖△	解剖△		生理	生理	解剖△	解剖△		生理	生理	解剖△	解剖△		解剖	生理	分医	解剖△			分医	分医	生理	生理	教養英語	
5w (5/12~16)	分医	分医	解剖△	解剖△		解剖	解剖	解剖△	解剖△		分医	分医	生理	生理	英語2	解剖	分医	分医	生理	生理		分医△	分医△	生理	生理		教養英語
6w (5/19~23)	分医△																										
7w (5/26~30)	生理△																										
8w (6/2~6)	解剖	生理	解剖△	解剖△		分医	分医	生理	生理	英語1	解剖	生理	解剖△	解剖△		解剖	生理	解剖△	解剖△			生理△	生理△	分医	分医	教養英語	
9w (6/9~13)	分医	分医	解剖△	解剖△		分医	分医	生理	生理	英語2	解剖	解剖	解剖△	解剖△		分医	分医	生理	生理			生理△	生理△	分医	分医		教養英語
10w (6/16~20)	解剖	解剖	解剖△	解剖△		分医	分医	解剖△	解剖△		生理	生理	解剖△	解剖△		生理	生理	分医	分医	英語3		分医△	分医△	生理	生理		
11w (6/23~27)	生理	生理	解剖△	解剖△		分医	分医	生理	生理	英語3	解剖	生理	解剖△	解剖△		解剖	生理	解剖△	解剖△			生理△	生理△	分医	分医	教養英語	
12w (6/30~7/4)	分医	分医	解剖△	解剖△		解剖	解剖	分医	分医	英語4	解剖	解剖	解剖△	解剖△		生理	生理	解剖△	解剖△			生理△	生理△	分医	分医		教養英語
13w (7/7~11)	分医	分医	解剖△	解剖△		解剖	解剖	分医	分医	英語4	解剖	解剖	解剖△	解剖△		生理	生理	解剖△	解剖△			生理△	生理△	分医	分医		
14w (7/14~18)	(海の日)																										
15w (7/21~25)	生体構造科学 (定期試験)																										
16w (9/1~5)	生体機能形態科学 (定期試験)																										
17w (9/8~12)	ゲノム医科学 (定期試験)																										
18w (9/15~19)	(敬老の日)																										
19w (9/22~26)	(秋分の日)																										

令和7年度 第2学年 後期 授業時間割

◎：講義、実習 △：実習・演習

[illegible]

令和7年度 第3学年 前期 授業時間割

	月					火					水					木					金					
	I	II	III	IV	V	I	II	III	IV	V	I	II	III	IV	V	I	II	III	IV	V	I	II	III	IV	V	
											(春季休業)															
(4/1~4)	外	精	循環器 U	循環器 U	循環器 U	内	放	循環器 U	循環器 U	循環器 U		小	循環器 U	循環器 U	循環器 U	医学 英語①	循環器 U	循環器 U	循環器 U	循環器 U	産	小	循環器 U	循環器 U	循環器 U	
1w (4/7~11)	循環器 U	循環器 U	内	精	内	臨	放	内	内	小	循環器 U	産	小	小	産	医学 英語②	循環器 U	循環器 U	循環器 U	循環器 U	精	小	循環器 U	循環器 U	循環器 U	
2w (4/14~18)	循環器 U	循環器 U	内	精		臨	放	健康診断		産	小	外	外	放		医学 英語③	産	産	産	産	循環器 U	外(小)	小			
3w (4/21~25)	循環器 U	循環器 U	内	精		臨	放																			
(4/28~5/2)	(対慈恵戦)					(昭和の日)					(対慈恵戦)					(対慈恵戦)										
4w (5/5~9)	(こどもの日)					(振替休日)						呼吸 U	呼吸 U	小	産		医学 英語④					循環器試験				
5w (5/12~16)	内	精	呼吸 U	呼吸 U	呼吸 U	呼吸 U	呼吸 U	臨		産	小	呼吸 U	呼吸 U	呼吸 U	呼吸 U	医学 英語⑤	呼吸 U	呼吸 U	呼吸 U	呼吸 U	呼吸 U	外(小)	小			
6w (5/19~23)	呼吸 U	呼吸 U	内	精	外	呼吸 U	呼吸 U	臨	放	産	呼吸 U	産	産	小	放	医学 英語⑥	呼吸 U	呼吸 U	呼吸 U	呼吸 U	呼吸 U	外	小			
7w (5/26~30)	呼吸 U	呼吸 U	臨	精	内	臨	放	呼吸 U	呼吸 U	産	呼吸 U	産	産	小		医学 英語⑦	呼吸 U	呼吸 U	呼吸 U	呼吸 U	呼吸 U	外	小			
8w (6/2~6)	内	精	内	外(小)	内	臨	放	外	外	産	小	内	産	内		医学 英語⑧					呼吸器試験					
9w (6/9~13)	内	精	内	外	内	臨	放	外	産		小	内	外	産		医学 英語⑨	内	外	内	内	外	小	外(小)	産		
10w (6/16~20)	内	精	小	産	外(小)	臨	放	放	内	産	小		外	内		医学 英語⑩	内	産	産	産	臨	外	産	産		
11w (6/23~27)	小児科学 (定期試験)					予備日					内科学 (定期試験)					精神医学 (定期試験)					産婦人科学 (定期試験)					
12w (6/30~7/4)	外科学 (定期試験)					放射線医学 (定期試験)					感染症・検査医学 (定期試験)					予備日					病理各論 (定期試験)					
13w (7/7~11)	神経 U	神経 U	神経 U	神経 U	神経 U	神経 U	神経 U	神経 U	神経 U	神経 U	神経 U	神経 U	神経 U	神経 U	神経 U	医学 英語⑪	神経 U	神経 U	神経 U	神経 U	神経 U	神経 U	神経 U	神経 U	神経 U	
14w (7/14~18)	神経 U	神経 U	神経 U	神経 U	神経 U	神経 U	神経 U	神経 U	神経 U		神経 U	神経 U	神経 U	神経 U	神経 U	医学 英語⑫	神経 U	神経 U	神経 U	神経 U	研究配属オリエンテーション					
15w (7/21~25)	(海の日)					神経 U	神経 U	神経 U	神経 U	神経 U	神経 U	神経 U	神経 U	神経 U	神経 U	神経 U		神経 U	神経 U	神経 U	神経 U	神経 U	神経 U	神経 U	神経 U	
16w (9/1~5)	神経 U	神経 U	神経 U	神経 U	神経 U	神経 U	神経 U	神経 U	神経 U	神経 U	神経 U	神経 U	神経 U	神経 U	神経 U	医学 英語①	神経 U	神経 U	神経 U	神経 U	神経 U	神経 U	神経 U	神経 U	神経 U	
17w (9/8~12)	消化器 U	消化器 U	消化器 U	消化器 U	消化器 U	消化器 U	消化器 U	消化器 U	消化器 U	消化器 U	消化器 U	消化器 U	消化器 U	消化器 U	消化器 U	医学 英語②	事前学習					神経試験				
18w (9/15~19)	(敬老の日)					消化器 U	消化器 U	消化器 U	消化器 U	消化器 U	消化器 U	消化器 U	消化器 U	消化器 U	消化器 U	消化器 U	医学 英語③	消化器 U				B肝				
19w (9/22~26)	消化器 U	消化器 U		消化器 U	消化器 U	消化器 U	消化器 U	消化器 U	消化器 U	消化器 U	消化器 U	消化器 U	消化器 U	消化器 U	消化器 U	医学 英語④	消化器 U	消化器 U	消化器 U	消化器 U	消化器 U	消化器 U	消化器 U	消化器 U	消化器 U	

令和7年度 第3学年 後期 授業時間割

	月					火					水					木					金						
	I	II	III	IV	V	I	II	III	IV	V	I	II	III	IV	V	I	II	III	IV	V	I	II	III	IV	V		
	消化器 U	消化器 U	消化器 U	消化器 U	消化器 U																						
1W (9/29～10/3)																											
2W (10/6～10)	皮	麻	整	臨病		皮	整	生統	生統	眼	耳	整	泌	耳			医学 英語⑤	耳	麻		齒	耳	泌	齒			
3W (10/13～17)	(スポーツの日)					皮	整	生統	生統	眼		整	泌	眼			医学 英語⑥	泌	麻		齒		整	泌			
4W (10/20～24)	皮	麻	整	臨病		皮	整	生統	生統		麻	泌	整			B肝	医学 英語⑦	整	眼		齒	耳	臨病	臨病			
(トリアス祭)																											
5W (11/3～7)	(文化の日)					耳	皮	生統	生統	眼		整	泌	整			医学 英語⑧	整	麻	眼		齒	耳	整	臨病		
6W (11/10～14)	皮	麻	整	臨病	眼	皮	麻	救	救		救	救	泌	泌			医学 英語⑨	皮	麻		齒		耳	臨病			
7W (11/17～21)	皮	麻	臨病	臨病		リハ		救	救		眼	麻	リハ	救			医学 英語⑩	整	麻		救	救	眼	臨病			
8W (11/24～28)	(振替休日)					耳		リハ	リハ		救	泌	リハ	リハ			耳	麻	リハ								
9W (12/1～5)	麻酔科学 (定期試験)					リハビリテーション医学 (定期試験)					予備日					眼科学(筆答) (定期試験)					眼科学(口頭) (定期試験)						
10W (12/8～12)	予備日					皮膚科学 (定期試験)					予備日					整形外科科学 (定期試験)					予備日						
11W (12/15～19)	泌尿器科学 (定期試験)					予備日					耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 (定期試験)					救急医療学 (定期試験)					生物統計学 (定期試験)						
(冬季休業)																											
(冬季休業)																											
(冬季休業)																											
(冬季休業)																											
12W (1/5～9)	内科学 (追再試験)					呼吸器ユニット (追再試験)					小児科学 (追再試験)					精神医学 (追再試験)					産婦人科学 (追再試験)						
13W (1/12～16)	(成人の日)					感染制御・検査医学 (追再試験)					外科学 (追再試験)					予備日					消化器ユニット (追再試験)						
14W (1/19～23)	病理名論 (追再試験)					放射線医学 (追再試験)					循環器ユニット (追再試験)					医学 英語⑪					医用 工学	医用 工学	再生 医学	再生 医学	医用 工学	医用 工学	医用 工学
15W (1/26～30)				再生 医学		統合授業																					
16W (2/2～6)			腫瘍学	腫瘍学	腫瘍学		腫瘍学	腫瘍学	腫瘍学		ゲノム 医学	ゲノム 医学	ゲノム 医学	ゲノム 医学	再生 医学	再生 医学	医学 英語⑫	再生 医学	再生 医学	再生 医学	ゲノム 医学	ゲノム 医学	ゲノム 医学	ゲノム 医学			
17W (2/9～13)	麻酔科学 (追再試験)					リハビリテーション医学 (追再試験)					(建国記念の日)					神経ユニット (追再試験)					予備日						
18W (2/16～20)	眼科学 (追再試験)					皮膚科学 (追再試験)					予備日					整形外科学 (追再試験)					泌尿器科学 (追再試験)						
19W (2/23～27)	(天皇誕生日)					予備日					耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 (追再試験)					救急医療学 (追再試験)					生物統計学 (追再試験)						
20W (3/2～6)	追再試験																										
21W (3/9～13)											(進級判定)					B肝											
(春季休業)																											
(春季休業)																											
(春季休業)																											

令和7年度 第4学年 前期 授業時間割

	月					火					水					木					金				
	I	II	III	IV	V	I	II	III	IV	V	I	II	III	IV	V	I	II	III	IV	V					
(4/1~4)																									
1w (4/7~11)		保予	保予	保予															行動科学						
2w (4/14~18)		保予	保予	保予															行動科学						
3w (4/21~25)		保予	保予	保予															健康診断						
(4/28~5/2)		(対慈恵職)					(昭和の日)					(対慈恵職)					(対慈恵職)								
4w (5/5~9)		(こどもの日)					(振替休日)										保予△								
5w (5/12~16)		保予△					保予△										保予△								
6w (5/19~23)		保予	保予	保予			法	保予	保予	保予	法								行動科学						
7w (5/26~30)		保予	法	法			保予△		保予△										保予△						
8w (6/2~6)		予防医学 (定期試験)					法医学 (定期試験)					予備日					行動科学 (定期試験)					公衆保健科学 (定期試験)			
9w (6/9~13)						研					究					配					属				
10w (6/16~20)						研					究					配					属				
11w (6/23~27)						研					究					配					属				
12w (6/30~7/4)						研					究					配					属				
13w (7/7~11)						研					究					配					属				
14w (7/14~18)						研					究					配					属				
15w (7/21~25)		(海の日)					法医学 (追再試験)					予防医学 (追再試験)					公衆保健科学 (追再試験)					行動科学 (追再試験)			
16w (9/1~5)																					C B T 本試験を実施予定				
17w (9/8~12)							osce前 講義		osce前 講義		OSCE 説明会		osce前 講義		osce前 講義		osce前 講義		osce前 講義		osce前 講義				
18w (9/15~19)		(敬老の日)					準備日										総合診断学実習								
19w (9/22~26)		総合診断学実習					(秋分の日)										総合診断学実習								

令和7年度 第4学年 後期 授業時間割

	月					火					水					木					金				
	I	II	III	IV	V	I	II	III	IV	V	I	II	III	IV	V	I	II	III	IV	V	I	II	III	IV	V
1W (9/29～10/3)																					10月5日(日) Pre-03 OSCE予定				
2W (10/6～10)		精口		内口		内口										外口	外口	泌口				放口	臨口		
3W (10/13～17)		(スポーツの日)					内口	内口	泌口		内口	麻口			外口	外口	眼口	精口				麻口	放口	外口	
4W (10/20～24)			整口	眼口			小口	小口	小口				整口	小口			耳口	皮口	産口				皮口	耳口	産口
(10/27～10/31)																					PPE実習予定(実施日については追って通知)				
5W (11/3～7)		(文化の日)				臨床倫理学	放射線基礎医学	放射線基礎医学	放射線基礎医学	放射線基礎医学	臨床倫理学										OSCE再試験				
6W (11/10～14)		総診	総診	総診		臨床倫理学	放射線基礎医学	放射線基礎医学	放射線基礎医学	放射線基礎医学	臨床倫理学	総診	総診	総診							総診	総診	総診	総診	総診
7W (11/17～21)																									
8W (11/24～28)		(振替休日)				臨床実習オリエンテーション 白衣授与式等																			
9W (12/1～5)	0C I 1																								
10W (12/8～12)	0C I 2																								
11W (12/15～19)	0C I 3																								
(冬季休業) (12/22～26)																					(冬季休業)				
(冬季休業) (12/29～1/2)																									
12W (1/5～9)	0C I 4																								
13W (1/12～16)	0C I 5	(成人の日)																							
14W (1/19～23)	0C I 6																								
15W (1/26～30)	0C I 7																								
16W (2/2～6)	0C I 8																								
17W (2/9～13)	0C I 9																								
18W (2/16～20)	0C I 10																								
19W (2/23～27)	0C I 11	(天皇誕生日)																							
20W (3/2～6)	0C I 12																								
21W (3/9～13)	0C I 13																								
(春季休業) (3/16～20)	0C I 14																								
(春季休業) (3/23～27)																									

令和7年度 第5学年 前期 授業時間割

—— : 臨床実習

	月					火					水					木					金				
	I	II	III	IV	V	I	II	III	IV	V	I	II	III	IV	V	I	II	III	IV	V	I	II	III	IV	V
1w (4/7～11)	00I15																								
2w (4/14～18)	00I16																								
3w (4/21～25)	00I17																								
(4/28～5/2)	00I18																								
4w (5/5～9)																									
5w (5/12～16)	00I19																								
6w (5/19～23)	00I20																								
7w (5/26～30)	00I21																								
8w (6/2～6)	00I22																								
9w (6/9～13)	00I23																								
10w (6/16～20)	00I24																								
11w (6/23～27)	00I25																								
12w (6/30～7/4)	00I26																								
13w (7/7～11)	00I27																								
14w (7/14～18)	00I28																								
15w (7/21～25)	00I29																								
16w (7/28～8/1)	00I30																								
17w (8/25～29)																									
18w (9/1～5)	00I31																								
19w (9/8～12)	00I32																								
20w (9/15～19)	00I33																								
21w (9/22～26)	00I34																								

地域医療実習

(秋分の日)

(敬老の日)

(こどもの日)

(昭和の日)

(振替休日)

健康診断

医統1 医統2 医統3

地域医療実習事前説明会

医統4 医統5

医統6 医統7

医統8 医統9

医統10 医統11

令和7年度 第5学年 後期 授業時間割

— : 臨床実習

	月					火					水					木					金				
	I	II	III	IV	V	I	II	III	IV	V	I	II	III	IV	V	I	II	III	IV	V	I	II	III	IV	V
1W (9/29～10/3)	CC I 35													医統16	医統17										
2W (10/6～10)	CC I 36													医統18	医統19										
3W (10/13～17)		(スポーツの日)														進級試験						医倫	医倫		
4W (10/20～24)	医倫	医倫						医倫	医倫		医統20	医統21	医統22			医倫	医倫				医倫	医倫			地域医療実習報告会
(10/27～31)	(トリアス祭)																								
5W (11/3～7)	(文化の日)					移構 再生医学	移構 再生医学	移構 再生医学	移構 再生医学	移構 再生医学	進級試験 (追再試験)					医倫	医倫				医倫 補講	医倫 補講	医倫	医倫	移構 再生医学
6W (11/10～14)	化学 療法	化学 療法	化学 療法	化学 療法	化学 療法			化学 療法	化学 療法	化学 療法							医倫 補講		東洋 医学	東洋 医学					地域 医療学
7W (11/17～21)	医事法	医事法	医事法	医事法	医事法	医事法	医事法	医事法	医事法	医事法				地域 医療学					東洋 医学	東洋 医学					地域 医療学
8W (11/24～28)	CC II 1	(振替休日)																							
9W (12/1～5)	CC II 2																								
10W (12/8～12)	CC II 3																								
11W (12/15～19)	CC II 4																								
12W (12/22～26)																									
13W (12/29～1/2)																									
14W (1/5～9)	CC II 5																								
15W (1/12～16)	CC II 6	(成人の日)																							
16W (1/19～23)	CC II 7																								
17W (1/26～30)	CC II 8																								
18W (2/2～6)	CC II 9																								
19W (2/9～13)	CC II 10										(建国記念の日)														
20W (2/16～20)	CC II 11																								
21W (2/23～27)	CC II 12	(天皇誕生日)																							
22W (3/2～6)	CC II 13																								
23W (3/9～13)	CC II 14																								
24W (3/16～20)	CC II 15																								
25W (3/23～27)	CC II 16																								

令和7年度 第6学年 前期 授業時間割

—— : 臨床実習

	月					火					水					木					金				
	I	II	III	IV	V	I	II	III	IV	V	I	II	III	IV	V	I	II	III	IV	V	I	II	III	IV	V
(3/31~4)																									
(4/7~11)																									
1w (4/14~18)	CCII 17																								
2w (4/21~25)	CCII 18																								
(4/28~5/2)	CCII 19					(昭和の日)																			
4w (5/5~9)	CCII 20					(こどもの日)										(振替休日)									健康診断
5w (5/12~16)	CCII 21																								
6w (5/19~23)	CCII 22																								
7w (5/26~30)	CCII 23																								
8w (6/2~6)	CCII 24																								
9w (6/9~13)	CCII 25																								
10w (6/16~20)	CCII 26																								
11w (6/23~27)	CCII 27																								
12w (6/30~7/4)	CCII 28																								
13w (7/7~11)	CCII 29																								
14w (7/14~18)	CCII 30																								
15w (7/21~25)	CCII 31					(海の日)																			
16w (7/28~8/1)	CCII 32																								
(8/25~29)																									
(9/1~5)																									
17w (9/8~12)																									
18w (9/15~19)						(敬老の日)																			
19w (9/22~26)											(秋分の日)														

令和7年度 第6学年 後期 授業時間割

—— : 臨床実習

	月					火					水					木					金				
	I	II	III	IV	V	I	II	III	IV	V	I	II	III	IV	V	I	II	III	IV	V	I	II	III	IV	V
1W (9/29～10/5)																									
2W (10/6～10)																									
3W (10/13～17)																									
4W (10/20～24)																									
(10/27～31)																									
5W (11/3～7)																									
6W (11/10～14)																									
7W (11/17～21)																									
8W (11/24～2)																									
9W (12/1～5)																									
10W (12/8～12)																									
11W (12/15～19)																									
(冬季休業)																									
(12/22～28)																									
(冬季休業)																									
(12/29～1/2)																									
12W (1/5～9)																									
13W (1/12～16)																									
14W (1/19～23)																									
15W (1/26～30)																									
16W (2/2～6)																									
17W (2/9～13)																									
18W (2/16～20)																									
19W (2/23～27)																									
20W (3/2～6)																									

科目名	解剖学		
科目責任者	松田 賢一（生体構造科学） 八代 健太（生体機能形態科学）		
単位数	9. 3	必修・選択区分	必修
開講時期・学年	後期・1 学年／前期・2 学年	授業形態	講義・実習

生体構造科学		(単位数:4. 75)
教育の目的と方針		
医学を修得するための基礎として、人体の構造を理解し、その知識を身につける。人体構造について、個体から、器官、組織、細胞のレベルまで段階を追って系統的に学習するとともに、それぞれがどのような位置関係にあるか、機能的にどのように関連する構成をとっているかについて理解する。実際のご遺体を解剖することにより、篤志としての献体を理解し、命の尊厳や死について深く考え、医師になるために不可欠な倫理観を培う。班員で協力して一人のご遺体を解剖し、詳細に観察することを通じて、チームの一員として協調して成し遂げることの重要性を認識する。 内臓学の講義で、各器官系の肉眼レベルから組織・細胞レベルでの構造について理解する。生体構造科学では、消化器系、生殖器系、内分泌系および感覚器系について学修する。組織学実習で、内臓学講義で学んだ組織・細胞レベルの内容について、実際の組織標本を観察し確認する。人体解剖学実習で、内臓学で学んだ器官系の肉眼レベルの構造について確認するとともに、下肢、腹部・骨盤部に存在する構造物の位置とそれぞれの結合について観察し、理解する。神経解剖学の講義により、中枢神経および末梢神経の肉眼レベル、組織・細胞レベルでの構造について知り、神経系のそれぞれの機能に関連した情報伝達経路について理解する。脳実習で実際に脳標本を解剖し、神経解剖学講義で学んだ構造の位置や関係性について観察し、理解を深める。		
到達目標		
1 消化器系、生殖器系、内分泌系および感覚器系の各器官について、人体における位置、肉眼レベルでの構造を説明できる。 2 消化器系、生殖器系、内分泌系および感覚器系の組織構築と構成する細胞の種類、形態および分布を説明できる。 3 顕微鏡による組織観察結果を、スケッチを用いて正確に報告できる。 4 中枢神経および末梢神経の肉眼レベルでの構造と組織・細胞構築を説明できる。 5 中枢神経の血管系について説明できる。 6 中枢神経の各部位における灰白質・神経核の分布と神経線維連絡について、機能と関連付けて説明できる。 7 末梢から中枢までの求心性入力経路、および中枢から末梢までの遠心性出力経路を説明できる。 8 下肢、腹部・骨盤部における運動器の分布・結合および血管と神経の走行について説明できる。 9 腹腔・骨盤腔の構成と、内臓の位置、内部構造および血管・神経支配について説明できる。		

10 人体解剖学実習および脳実習を班員で協調して行い、剖出結果を共有、その内容を教員に正確に説明できる。 11 人体解剖学実習および脳実習において、高い倫理観をもって適切な態度で取り組むことができる。
成績評価方法および基準
1 実習評価 人体解剖学実習および脳実習では各回終了時に口頭試問を行い、重要項目に対する理解到達を確認する。組織学実習では提出されたスケッチに対し理解度を各回2点満点で評価する。 2 筆記試験 人体解剖学実習と神経解剖学の筆記試験を定期試験と別の日程で実施する。定期試験において内臓学（消化器系、生殖器系、内分泌系および感覚器系）の筆記試験を行う。 3 総合成績評価 組織学実習評価の合計を10%に換算する。人体解剖学実習筆記試験および神経解剖学筆記試験の成績をそれぞれ20%に、定期試験の成績を50%に換算する。計100%のうち、60%以上を合格とし、その得点を科目評価とする。
事前・事後学習について
1 内臓学および神経解剖学の講義には、事前に配布されている資料を熟読して臨むこと。講義後にも資料を熟読して理解を深めること。 2 組織学実習には、関連する内臓学講義で配付された資料と組織学の教科書を熟読して参加すること。スケッチ返却後、記入されている教員からのコメントをもとに、再度、確認し理解を深めること。 3 人体解剖学実習および脳実習には、各回、実習項目表の内容について、解剖学実習書および解剖図譜を用いて理解したうえで参加すること。
教科書・参考文献等
人体解剖学： 「解剖学実習書」 京都府立医科大学解剖学教室篇 「プロメテウス解剖学コアアトラス 第4版」 医学書院 「ネッター解剖学アトラス 原書第7版」 南江堂 組織学： 「Ross 組織学（原書第7版）」 南山堂 「標準組織学 総論・各論 第6版」 医学書院 神経解剖学： 「臨床神経解剖学 原著第8版」 エルゼビア・ジャパン 「脳神経ペディア」 羊土社 「神経解剖学講義ノート」 金芳堂 生理学も含めた参考書 「人体の正常構造と機能 第5版」 日本医事新報社
オフィス・アワー

オフィス・アワーは、教員全員、月、火、水、木曜日の 16 時から 17 時まで。ただし、確実に面談するには、電話（内線 5301）かメールにて連絡したうえで来室するのが望ましい。

メールアドレス：松田賢一 准教授 matsuken@koto.kpu-m.ac.jp
山田俊児 講師 syamada@koto.kpu-m.ac.jp
田口勝敏 講師 ktaguchi@koto.kpu-m.ac.jp
小泉 崇 助教 syupic@koto.kpu-m.ac.jp

学生へのメッセージ

- 1 解剖学は人体の構造について学ぶだけでなく、命の尊厳についても学ぶ学問である。実習には厳粛な態度にて臨むこと。ご遺体およびご遺族の尊いお気持ちを踏みにじる言動には、厳格に対処するので注意すること。
- 2 秋期に開催される解剖追悼式には必ず参加すること。
- 3 解剖学は、理解し覚えるべき事項が非常に多いので、試験前のみならず、常時継続的に学習するよう努めること。
- 4 人体解剖学実習および脳実習は、班員が共同で行うものである。班員皆で協力しあい、剖出した内容を共有することで、班として一体となって理解できるよう努めること。

生体機能形態科学

（単位数：4. 5 5）

教育の目的と方針

解剖学は、人体の構造を科学的に解明し、生命現象の本質を探究する学問であり、医学の根幹をなす分野である。本学では、解剖学教育を通じて、医療を实践する上で不可欠な人体構造の知識を提供するとともに、医療者として求められる倫理観を涵養する。

本講座では、人体の構造（骨学、肉眼解剖学と組織学）および発生過程（発生学）を学び、さらにこれらに関連する分子レベルの生命現象に至るまで、幅広い領域を体系的に学ぶ。解剖学の発展が現代医学の基盤を支えていることを理解し、獲得した知識を統合・応用する力を養う。これにより、学生は臨床現場における実践に活かせる視点を培い、医学・医療の発展に寄与するための基礎的素養を身につける。

講義と実習を通じて、科学的探究の姿勢を涵養するとともに、医学・医療を担う社会におけるチームワークと協調性を育む。さらに、生命への深い敬意と死の尊厳に対する認識を培い、人類の健康と福祉に貢献する次世代の医療人の育成を目指す。

到達目標

1. 人体の正常構造を肉眼および組織レベルで体系的に説明することができる。
2. 人体の構造と機能との関連性を説明することができる。

3. 解剖学的構造と機能障害の関係を科学的に推論できる
4. 解剖学的要因に起因する機能障害（疾患）の成り立ちを科学的に考察することができる。
5. 医療行為・手技の背後にある解剖学的知見に基づく理論的背景を、科学的に考察することができる。
6. 人体の発生過程を科学的に推論できる。
7. 発生現象と先天性疾患との関連性を説明することができる。
8. 再生医療・生殖医療の意義およびそれに伴う倫理的課題について議論することができる。
9. 「人命の尊厳と死」および「医の倫理」について多角的に考察することができる。
10. 医療専門職としての在り方を主体的に探究し、実践することができる。
11. 骨学実習や人体解剖実習を通じて、医学・医療を支えるために資するチームワークを実践することができる。

成績評価方法および基準

1 実習評価点

人体解剖学実習ごとに終了時に口頭試問を行い、その日の実習態度と重要項目に対する理解度を総合評価する。全解剖実習を通して、評価点は総合で 10 点満点の評価を行う。また、組織学実習におけるスケッチに対して理解度を評価し、全組織学実習を通じた総合評価を 10 点満点で行う。

2 筆記試験

骨学、発生学、肉眼解剖学、組織学について、それぞれ個別の筆記試験を実施する。各試験の実施に関する詳細は、講義にて周知する。

- 骨学：シラバスに記載された日程（骨学実習の最終日）で実施する。
- 発生学・肉眼解剖学：シラバスに記載された日程で実施する。
- 組織学：定期試験期間中に実施する。

各試験は 100 点満点とし、60 点未満を不合格とする。不合格者には、各項目 1 回のみ追再試験を実施する。

- 組織学の追再試験：追再試験期間中に実施する。
- 骨学・発生学・肉眼解剖学の追再試験：該当学生と相談の上、学事日程の範囲内で日程を決定し実施する。

3 総合成績評価

100 点満点で行った各試験の素点を下記の比率で圧縮し、総合評価点を算出する。総合点が 60 点に満たない場合は不可とする。

骨学 10%、発生学 10%、組織学 30%、人体解剖学 30%、解剖実習評価 10%、組織学実習評価 10% / 計 100%

試験問題は英語で出題される。これは、病院実習において英語の専門用語の知識が求められるためである。また、国際的に通用する人材を育成する目的で、英語によるコミュニケーション能力の向上も重視している。ただし、解答は日本語で行うことができる。

総合点が 60 点を超えていても、個別の試験で 60 点未満の項目がある場合には、該当する項目（骨学・組織学・発生学・肉眼解剖学）に対し個別にレポートなどの提出を課す。提出がなければ単位は認定されないため、必ず提出すること。

事前・事後学習について

講義および実習の資料は事前に配布するため、これを参考に教科書などを活用し、予習しておくことが望ましい。

講義・実習で初めて学ぶ構造や機能、理論・原理、専門用語などについては、講義・実習後に自ら調べ、理解を深めること。それでも不明な点があれば、遠慮せず教員に質問すること。内容が多いため、適宜復習することを推奨する。

なお、各講義・実習で教科書の全内容を網羅することは時間的に困難である。講義・実習はあくまでも「知」の入り口に過ぎない。学修を通じて関心を深め、医師として習得すべき知識とは何かを各自が考えながら、理解を深めてほしい。

人体解剖実習に向けた事前学習として、オンデマンド解説動画を配信する。各実習の方法や課題を十分に理解した上で臨み、限られた時間を有効に活用して観察と理解に努めること。実習で観察した重要な臓器・器官については、適宜復習し、学びを確実なものとすることを推奨する。

教科書・参考文献等

人体解剖学： 「解剖実習書」（京都府立医科大学解剖学教室篇）

「臨床のための解剖学 第2版」MSI 社

「ムーア臨床解剖学 第3版」MSI 社

「スネル臨床解剖学 第3版」MSI 社

「グレイ解剖学 原著第4版」エルゼビア・ジャパン株式会社

「プロメテウス解剖学コアアトラス 第4版」医学書院

「ネッター解剖学アトラス 原書第7版」南江堂

「解剖実習の手引き 改訂11版」南山堂

「グラント解剖実習 改訂版」西村書店

骨学： 「骨学実習の手びき」南山堂

組織学： 「組織細胞生物学 原書第5版」南江堂

発生学：	「ジュンケイラ組織学 第5版（原書14版）」丸善出版 「Ross 組織学（原書第7版）」南山堂 「標準組織学 総論・各論 第6版」医学書院 「ラーセン人体発生学 第4版」西村書店 「ラングマン人体発生学 第12版」MSI 社 「ムーア人体発生学 原書第11版」医歯薬出版 「ギルバート発生生物学 原書第10版」MSI 社 上記の多くが海外の教科書の翻訳である。誤訳も散見されるため、原書にも是非にチャレンジしてほしい。										
オフィス・アワー											
生体機能形態科学は、オフィスアワーとしての特定の時間を指定しないので、いつでもアクセスして欲しい。ただし、まとまった時間を割いて欲しい場合は、各教員へ個別にアポイントメントを取ること（秘書のオフィスアワーは、月曜日と木曜日の10時から17時まで；内線5302）。 メールアドレス： <table border="0"> <tr> <td>八代 健太 教授</td><td>kyashiro@koto.kpu-m.ac.jp</td></tr> <tr> <td>小林 大介 講師</td><td>kdaisuke@koto.kpu-m.ac.jp</td></tr> <tr> <td>中島 由郎 講師（学内）</td><td>ynakaji@koto.kpu-m.ac.jp</td></tr> <tr> <td>茂田 昌樹 助教</td><td>mshigeta@koto.kpu-m.ac.jp</td></tr> <tr> <td>松尾 和彦 助教</td><td>matsuo-k@koto.kpu-m.ac.jp</td></tr> </table>		八代 健太 教授	kyashiro@koto.kpu-m.ac.jp	小林 大介 講師	kdaisuke@koto.kpu-m.ac.jp	中島 由郎 講師（学内）	ynakaji@koto.kpu-m.ac.jp	茂田 昌樹 助教	mshigeta@koto.kpu-m.ac.jp	松尾 和彦 助教	matsuo-k@koto.kpu-m.ac.jp
八代 健太 教授	kyashiro@koto.kpu-m.ac.jp										
小林 大介 講師	kdaisuke@koto.kpu-m.ac.jp										
中島 由郎 講師（学内）	ynakaji@koto.kpu-m.ac.jp										
茂田 昌樹 助教	mshigeta@koto.kpu-m.ac.jp										
松尾 和彦 助教	matsuo-k@koto.kpu-m.ac.jp										
学生へのメッセージ											
1. 実習への遅刻は、ご献体としてお体を提供くださった故人への重大な非礼にあたるため、人体解剖学実習においては原則として認められない。「やむを得ない事情」により遅刻する場合は、速やかに教育支援課または担当教室へ連絡すること。無断での遅刻は欠席扱いとする。また、実習は開始から終了までの全過程に参画することをもって出席とみなし、原則として「やむを得ない事情」以外の事由での早退は認められない。 2. 「やむを得ない事情」により、遅刻・欠席・早退せざるを得ない場合は、担当教室と相談の上、欠席届を提出すること。 止むを得ない事情の例： ● 事故、災害 ● 公共交通機関の遅延 ● 突発的な疾病											

- 感染症法の対象となる感染症への罹患
 - 三親等以内の親族の忌引き
 - その他、担当教室がやむを得ないと判断した事由
3. 本学では、ご献体くださった方々への哀悼の意を表し、春季には大学墓地で納骨式を、秋季には西本願寺にて追悼式を執り行っている。特に追悼式には多くのご遺族が参列されるため、学生は故人およびご遺族に対する敬意を持って参加すること。
- 秋季追悼式: 2025 年 10 月 18 日（土）（詳細は教育支援課より周知）
4. 解剖実習の有無にかかわらず、ご献体やご遺族の尊厳を損なう行為（追悼式の無断欠席を含む）には厳正に対処し、該当する学生には単位が認定されない。また、その他アンプロフェッショナルと客観的に判断され得る事由が発生した場合にも、同様に該当する学生には単位が認定されない場合があることに留意すること。
5. 骨学実習、組織学実習、人体解剖実習の取り組み方や各実習における注意事項の詳細については、講義を通じて周知する。

授業日程

解剖学

第1学年後期

(講義)

日程	時限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
2月16日(月)	1	序論・解剖学を学ぶに当たって	形態科学	八代教授
2月16日(月)	2	組織学総論1(細胞)	形態科学	八代教授
2月17日(火)	1	組織学総論2(上皮組織1)	形態科学	八代教授
2月17日(火)	2	組織学総論3(上皮組織2)	形態科学	八代教授
2月18日(水)	2	組織学総論4(支持組織1:結合組織・骨・軟骨)	形態科学	八代教授
2月20日(金)	1	組織学総論5(支持組織2:血液)	形態科学	八代教授
2月24日(火)	1	組織学総論6(筋組織)	形態科学	八代教授
2月27日(金)	1	組織学総論7(神経組織)	形態科学	八代教授
3月2日(月)	1	消化器1	生体構造科学	山田講師
3月4日(水)	2	消化器2	生体構造科学	山田講師
3月5日(木)	2	心臓・脈管	形態科学	茂田助教
3月6日(金)	1	消化器3	生体構造科学	山田講師
3月10日(火)	1	消化器4	生体構造科学	山田講師
3月12日(木)	2	呼吸器	形態科学	小林講師
3月13日(金)	5	特別講義	形態科学	未定

第1学年後期

(実習)

日程	時限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
2月16日(月)	3・4	骨1	形態科学	教室員
2月18日(水)	3・4	骨2	形態科学	教室員
2月19日(木)	3・4	骨3	形態科学	教室員
2月20日(金)	3・4	組織1(組織学総論1)(上皮組織1)	形態科学	教室員
2月27日(金)	3・4	生体機能形態科学 試験(骨学)	形態科学	教室員
3月2日(月)	3・4	組織2(組織学総論2)(上皮組織2, 結合組織)	形態科学	教室員
3月4日(水)	3・4	組織3(組織学総論3)(軟骨・骨・血液)	形態科学	教室員
3月5日(木)	3・4	組織4(組織学総論4)(筋組織, 神経組織)	形態科学	教室員
3月6日(金)	3・4	組織5(消化器1)	生体構造科学	教室員
3月9日(月)	3・4	組織6(消化器2)	生体構造科学	教室員
3月11日(水)	1・2	組織7(心臓・脈管)	形態科学	教室員
3月12日(木)	3・4	組織8(呼吸器)	形態科学	教室員

日程	時限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
4月7日(月)	1	消化器5	生体構造科学	山田講師
4月7日(月)	2	生殖器1	生体構造科学	松田准教授
4月9日(水)	1	消化器6	生体構造科学	山田講師
4月9日(水)	2	生殖器2	生体構造科学	松田准教授
4月10日(木)	1	生殖器3	生体構造科学	松田准教授
4月21日(月)	1	内分泌1	生体構造科学	小泉助教
4月22日(火)	1	内分泌2	生体構造科学	小泉助教
4月22日(火)	2	発生生物学1	形態科学	八代教授
4月24日(木)	1	発生生物学2	形態科学	八代教授
4月24日(木)	2	感覚器1	生体構造科学	松田准教授
5月7日(水)	1	神経1	生体構造科学	松田准教授
5月7日(水)	2	感覚器2	生体構造科学	松田准教授
5月12日(月)	1	発生生物学3	形態科学	八代教授
5月12日(月)	2	感覚器3	生体構造科学	松田准教授
5月15日(木)	1	神経2	生体構造科学	松田准教授
5月15日(木)	2	泌尿器	形態科学	中島講師(学内)
5月20日(火)	1	神経3	生体構造科学	松田准教授
5月20日(火)	2	発生生物学4	形態科学	八代教授
6月9日(月)	1	神経4	生体構造科学	山田講師
6月12日(木)	1	発生生物学5	形態科学	八代教授
6月12日(木)	2	神経5	生体構造科学	松田准教授
6月18日(水)	1	発生生物学6	形態科学	八代教授
6月18日(水)	2	神経6	生体構造科学	山田講師
6月23日(月)	1	生体機能形態科学 試験(発生生物学)	形態科学	教室員
6月23日(月)	2	神経7	生体構造科学	山田講師
7月3日(木)	1	免疫	形態科学	松尾助教
7月3日(木)	2	神経8	生体構造科学	小泉助教
7月8日(火)	2	神経9	生体構造科学	山田講師
7月9日(水)	3・4	生体機能形態科学 試験(人体解剖)	形態科学	教室員
7月23日(水)	2	生体構造科学 試験(人体解剖・神経)	生体構造科学	教室員

日程	時 限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
4月7日(月)	3・4	人体1 (頸と体幹の浅層1)	形態科学	教室員
4月9日(水)	3・4	人体2 (頸と体幹の浅層2)	形態科学	教室員
4月10日(木)	3・4	人体3 (頸と体幹の浅層3, 上肢1)	形態科学	教室員
4月14日(月)	3・4	組織9 (消化器3)	生体構造科学	教室員
4月15日(火)	3・4	人体4 (上肢2)	形態科学	教室員
4月16日(水)	3・4	人体5 (上肢3)	形態科学	教室員
4月17日(木)	3・4	人体6 (上肢4)	形態科学	教室員
4月21日(月)	3・4	組織10 (生殖器1)	生体構造科学	教室員
4月24日(木)	3・4	人体7 (胸部1)	形態科学	教室員
5月7日(水)	3・4	人体8 (胸部2)	形態科学	教室員
5月8日(木)	3・4	人体9 (胸部3)	形態科学	教室員
5月12日(月)	3・4	人体10 (下肢1)	生体構造科学	教室員
5月13日(火)	3・4	組織11 (生殖器2)	生体構造科学	教室員
5月14日(水)	3・4	人体11 (下肢2)	生体構造科学	教室員
5月15日(木)	3・4	組織12 (内分泌)	生体構造科学	教室員
5月19日(月)	3・4	人体12 (下肢3)	生体構造科学	教室員
5月20日(火)	3・4	組織14 (感覚器1)	生体構造科学	教室員
6月9日(月)	3・4	組織13 (泌尿器)	形態科学	教室員
6月11日(水)	3・4	組織15 (感覚器2)	生体構造科学	教室員
6月12日(木)	3・4	人体13 (腹部・骨盤1)	生体構造科学	教室員
6月16日(月)	3・4	人体14 (腹部・骨盤2)	生体構造科学	教室員
6月18日(水)	3・4	人体15 (腹部・骨盤3)	生体構造科学	教室員
6月19日(木)	3・4	人体16 (腹部・骨盤4)	生体構造科学	教室員
6月23日(月)	3・4	人体17 (腹部・骨盤5)	生体構造科学	教室員
6月24日(火)	3・4	人体18 (腹部・骨盤6)	生体構造科学	教室員
6月26日(木)	3・4	人体19 (背部1)	形態科学	教室員
6月30日(月)	3・4	人体20 (頭部1)	形態科学	教室員
7月2日(水)	3・4	人体21 (頭部2)	形態科学	教室員
7月3日(木)	3・4	人体22 (頭部3)	形態科学	教室員
7月7日(月)	3・4	人体23 (感覚器1)	生体構造科学	教室員
7月10日(木)	3・4	組織16 (免疫)	形態科学	教室員
7月14日(月)	3・4	人体24 (感覚器2)	生体構造科学	教室員
7月15日(火)	3・4	脳1	生体構造科学	教室員
7月16日(水)	3・4	脳2	生体構造科学	教室員
7月17日(木)	3・4	脳3	生体構造科学	教室員

人体解剖学実習項目表

回	部位	実 習 項 目	回	部位	実 習 項 目				
1	上肢・ 頸部・ 胸部	腹部Ⅹ +H16+D3:D39+D3:D3:D39	12	下 肢	下肢Ⅹ 後下腿部の観察				
		頸と体幹の浅層Ⅰ-② 体表観察と皮切り			下肢Ⅵ 足背の観察				
		頸と体幹の浅層Ⅰ-③ 広頸筋・乳腺			下肢Ⅺ 足底の観察				
		頸と体幹の浅層Ⅰ-④ 皮静脈と皮神経			下肢Ⅻ 下肢の関節の観察				
2		頸と体幹の浅層Ⅰ-⑤ 大胸筋・外腹斜筋	13	腹 部 ・ 骨 盤	腹部Ⅰ 腹部の体表観察				
		頸と体幹の浅層Ⅱ-① 頸神経叢の枝			腹部Ⅱ 腹部の表面観察				
		頸と体幹の浅層Ⅱ-② 胸鎖乳突筋			腹部Ⅲ 前腹壁中層の観察				
		頸と体幹の浅層Ⅱ-③ 背中の皮切り・浅層			腹部Ⅳ 前腹壁深層の観察				
3		頸と体幹の浅層Ⅱ-④ 頸のやや深層			腹部Ⅴ 腹膜腔の開放				
		頸と体幹の浅層Ⅲ-① 胸部の深層			腹部Ⅵ 腹部内臓の原位置での観察				
4		頸と体幹の浅層Ⅲ-② 鎖骨下動脈とその枝			腹部Ⅶ 腹膜と腹膜腔の観察				
		上肢Ⅰ-① 腕の皮切り			14	腹部Ⅷ 腹部内臓に分布する血管 と神経の観察			
上肢Ⅱ-① 腕神経叢・上腕の屈筋と神経		腹部Ⅸ 横隔膜							
5		上肢Ⅱ-② 肩甲骨の前面の筋				15	腹部Ⅹ 腹膜後隙		
		上肢Ⅱ-③ 上腕の伸筋					腹部Ⅺ 腹部内臓の観察		
6		上肢Ⅲ-① 肩甲骨の背面の筋			16	骨盤Ⅰ 会陰部の観察			
		上肢Ⅲ-② 前腕の屈筋	骨盤Ⅱ 腹膜骨盤腔の観察						
7		上肢Ⅲ-③ 前腕の伸筋と手背	17		骨盤Ⅲ 腹膜下骨盤腔の観察				
		上肢Ⅳ-① 手掌の皮切り・手掌腱膜			腹部Ⅻ 後腹壁と腸骨窩の観察				
8		上肢Ⅳ-② 手の深い層と深い層	18		骨盤Ⅳ 骨盤内臓の観察				
		上肢Ⅴ-① 上肢の血管と神経の総括			骨盤Ⅴ 下肢の関節の観察(股関節)				
9		上肢Ⅴ-② 肩・肘・手指の関節	19		背 部 ・ 頭 部	背部Ⅰ-① 胸腰筋膜・固有背筋			
		胸部Ⅰ-① 胸壁・肋間筋・肋骨・胸骨				背部Ⅰ-② 脊柱管・脊髄・脊髄神経節			
		胸部Ⅱ-① 胸壁内面・頸の根元の深層				背部Ⅰ-③ 頸の靱帯と筋群・頸の深層			
10		胸部Ⅱ-② 肺・胸膜・心膜				20	背部Ⅰ-④ 頸の深層の血管		
		胸部Ⅲ-① 縦隔					頭部Ⅰ-① 頭部の体表観察と皮切り		
11		胸部Ⅲ-② 心臓・大血管・気管・食道				21	頭部Ⅰ-② 顔の浅層・咽頭		
		胸部Ⅲ-③ 後胸壁					頭部Ⅰ-③ 甲状腺・気管		
12	下肢Ⅰ 下肢の体表観察	22					頭部Ⅱ-① 喉頭		
	下肢Ⅱ 下肢伸側面の表面観察						頭部Ⅱ-② 頭蓋の内側・口腔		
	下肢Ⅲ 前大腿部の観察						頭部Ⅱ-③ 舌骨・下顎骨		
	下肢Ⅳ 前膝部の観察						頭部Ⅲ-① 鼻腔・咽頭鼻部		
13	下肢Ⅴ 前下腿部の観察			23			頭部Ⅲ-② 咀嚼筋・下顎管		
	下肢Ⅶ 臀部の観察		頭部Ⅲ-③ 顎関節・側頭下窩						
	下肢Ⅷ 後大腿部の観察		頭部Ⅲ-④ 副鼻腔・翼口蓋神経節						
	下肢Ⅸ 膝窩の観察								
			24				感覚器	眼の解剖	
			25				感覚器	耳の解剖	

科目名	生理学		
科目責任者	樽野 陽幸（細胞生理学） 八木田 和弘（統合生理学）		
単位数	7. 8	必修・選択区分	必修
開講時期・学年	後期・1 学年／前期・2 学年	授業形態	講義・実習

細胞生理学		(単位数：3. 9)
教育の目的と方針		
「生理学」とは文字通り、生きる理（ことわり）を明らかにすることを目指す学問である。生命は様々なからくりが精妙に機能することで維持されている。例えば、走ると筋組織に酸素を届けるために呼吸と心拍が速くなる。水を飲み過ぎたら尿がたくさん出て、汗をかくと水を飲みたくなる。お腹が空くと食べ物を食べたくなり、お腹が一杯になると食べたくなる。栄養のあるものをおいしく感じて毒のあるものをまずく感じる。耳だけで音の来た方向がわかる。これらは生命のもつ無数のからくりの例であり、生理学ではこうした広範囲の生命現象の背景にある機序を学ぶ。生理学のもたらす知識は、健常人の体のしくみだけではなく、様々な疾患の病態、検査法、治療法、予防法の理解の基盤となる。 生理学を学ぶ学生は、臓器ごとの個々の生命機能に関する遺伝子、タンパク質、細胞、臓器レベルの知識を修得することに加えて、個体の生命維持を目的としたそれらの複雑な協働すなわち臓器間連携を理解することを目指す。さらに、臨床医学とも関連させて学ぶことで疾患を生理学的に理解する基礎を身につけることも期待される。		
到達目標		
1）細胞の構成と機能を説明できる。 2）細胞膜を介する物質の能動的・受動的輸送過程とその機序を説明できる。 3）生体のホメオスタシスとその調節機構を説明できる。 4）血液・造血器・リンパ系の構造と機能を説明できる。 5）循環器系の構造と機能を説明できる。 6）呼吸器系の構造と機能を説明できる。 7）腎・尿路系の構造と機能を説明できる。 8）体液（電解質・酸塩基平衡）の調節機構とその破綻による症候を説明できる。 9）各種感覚の受容機序と伝導路を説明できる。		
成績評価方法および基準		
1) 定期試験：筆記試験の点数 90 点 2) 実習：実習中パフォーマンスとレポート内容を点数化 10 点 両項目の合計点を最終評価とし、60 点以上の場合に合格とする。		

事前・事後学習について		
例1：指定教科書の該当範囲を講義までに読み、概要を把握しておくこと。講義後にも改めて熟読し、理解を深めること。1回の講義につき予習・復習それぞれ30分～1時間程度を要する。授業中の疑問点を整理し、次回授業までに解決しておくこと。独力で解決できない場合には、要点をまとめた上でオフィス・アワー内に担当教員に質問することを推奨する。 例2：実習までに、事前に配布するマニュアルに目を通し、参考書等を利用して、観察すべき対象とその手順について十分に予習しておくこと。		
教科書・参考文献等		
1 The Text of Medical Physiology : Guyton & Hall(監修) (出版社: SAUNDERS) ISBN : 1455770051 / (日本語版) ガイトン生理学 (出版社: エルゼビア・ジャパン) ISBN : 9784860347741 2 標準生理学: 本間 研一(監修)(出版社: 医学書院) ISBN : 9784260034296		
オフィス・アワー		
・樽野陽幸 教授	火曜日	16:00-18:00
・野村憲吾 助教	火曜日	16:00-18:00
・相馬祥吾 助教	火曜日	16:00-18:00
・末松尚史 助教	火曜日	16:00-18:00
学生へのメッセージ		
学習に限らず研究や学生生活に関する問い合わせなど、学生の訪問を歓迎しています。オフィス・アワー以外で訪問する際は、可能な限り講義資料に記載している連絡先に事前連絡してください。		

統合生理学		(単位数: 3. 9)
教育の目的と方針		
生理学は日常生活における身体の機能や、病気による変化を通じて、生命の基本的なしくみ(生命の理)を解き明かすことによってライフサイエンスの進歩、より健康な体づくり、病気の理解、治療、予防に貢献している。そのため、生理学は、解剖学、生化学、分子生物学や薬理学などの科目で扱う分子から、細胞、システムに至るまでの広範囲の生命現象を対象とし、医学諸分野を理(ことわり)でつなぎ、生命現象の全体像を理解する学問である。 統合生理学では、中枢及び末梢神経、内分泌、運動器、消化吸収、睡眠、生体リズムの生理について学習し、Up-to-Dateな知識に加えて、生命現象の全体像を把握する力、物事を論理的に考える力を修得することが最も重要な目標となる。その出発点として、身体のはたらきや病気になった時の変化について、“なぜだろう”、“どうしてそうなるのだろう”というさまざまな疑問をもつ態度を培う。		
到達目標		
1. 生理機能制御による恒常性維持の概念を概説できる。 2. 活動電位の発生機構と伝導を説明できる。 3. シナプス(神経筋接合部を含む)の形態とシナプス伝達の機能(興奮性、抑制性と可塑性)を		

説明できる。 4. 中枢神経系と末梢神経系の構成を概説できる。 5. 脳神経の名称、核の局在、走行・分布と機能を概説できる。 6. 大脳の構造・機能局在を説明できる。 7. 随意運動の発現機構を概説できる。 8. 小脳の構造と機能を概説できる。 9. 大脳基底核（線条体、淡蒼球、黒質）の線維結合と機能を概説できる。 10. 消化器系の構造と機能を説明できる。 11. 骨格筋の興奮収縮連関を説明できる。 12. 脊髄反射（伸張反射、屈筋反射）と筋の相反神経支配を説明できる。 13. 脊髄神経と神経叢（頸神経叢、腕神経叢、腰神経叢、仙骨神経叢）の構成及び主な骨格筋支配と皮膚分布（デルマトーム）を概説できる。 14. 骨の成長と骨形成・吸収の機序を説明できる。 15. 交感神経系と副交感神経系の中枢内局在、末梢分布、機能と伝達物質を概説できる。 16. 視床下部の構造と機能を内分泌及び自律機能と関連付けて概説できる。 17. 内分泌系の機能について、各ホルモンの生合成や分泌機構及び作用について概説できる。 18. 視床下部ホルモン・下垂体ホルモンの名称、作用と相互関係を説明できる。 19. 生体リズムおよび睡眠の制御機構と生理的意義、及び病態との関連について説明できる。 20. 環境による生体の応答及び適応機構について概説できる。			
成績評価方法および基準			
1) 定期試験 90% 2) 実習評価 10% 両項目の合計が60%以上の場合に合格とする。			
事前・事後学習について			
以下に指定する教科書の該当範囲を講義までに熟読し、概要を把握しておくこと。講義後は配布された講義資料や教科書を熟読し、更なる理解を深めること。1回の講義につき予習・復習それぞれ最低30分程度は必要である。			
教科書・参考文献等			
教科書 1. 本間研一（監修）（2019）標準生理学 第9版 出版社：医学書院 ISBN:978-4-260-03429-6 参考書 1. 宮下保司（監修）（2022）カンデル神経科学 Principles of Neural Science：Eric R. Kandel 著 メ出版社：ディカルサイエンスインターナショナル ISBN:978-4-8157-3055-0 2. John E. Hall（著）（2018）ガイトン生理学 Guyton and Hall Textbook of Medical Physiology 出版社：Elsevier ISBN：9784860347741			
オフィス・アワー			
・八木田和弘 教授	火曜日	16:00～18:00	kyagita@koto.kpu-m.ac.jp
・小池宣也 講師	水曜日	15:00～18:00	nkoike@koto.kpu-m.ac.jp
・土谷佳樹 講師	水曜日	16:00～18:00	ytsuchiy@koto.kpu-m.ac.jp
・梅村康浩 講師	木曜日	11:30～13:00	yumemura@koto.kpu-m.ac.jp

学生へのメッセージ

ホメオスタシスや環境適応など、生物が持つ普遍的原理について考える姿勢を身につけることが望まれます。最終的には「生きているとは？」といった、生物が個体として機能する仕組みを考え続けることができる能力を身につけることを期待します。人体は未だ理解が及んでいないことも多く、短絡的な解釈を慎み、生命に対する畏怖と謙虚さを忘れてはなりません。医師になるための知的基礎体力とも言える、局所と全体を見通す能力の基盤としての生理学を身につけてください。

授業日程

生理学（細胞生理学・統合生理学）

第1学年後期

（講義）

日程	時 限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
2月17日(火)	3	統合生理学概論（1）	統合生理学	八木田教授
2月18日(水)	1	一般生理学（1）	細胞生理学	樽野教授
2月24日(火)	4	統合生理学概論（2）	統合生理学	八木田教授
3月3日(火)	1	一般生理学（2）	細胞生理学	樽野教授
3月3日(火)	3	活動電位の伝導	統合生理学	土谷講師
3月6日(金)	2	一般生理学（3）	細胞生理学	樽野教授
3月10日(火)	4	イオンチャネル	統合生理学	土谷講師
3月13日(金)	4	興奮の伝達：電気的シナプスと化学的シナプス	統合生理学	土谷講師

第2学年前期

（講義）

日程	時 限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
4月8日(火)	1	運動器の生理学Ⅰ（骨・関節の生理）	統合生理学	小池講師
4月8日(火)	2	運動器の生理学Ⅱ（骨格筋の生理）	統合生理学	梅村講師
4月11日(金)	1	血液（1）	細胞生理学	樽野教授
4月11日(金)	2	血液（2）	細胞生理学	樽野教授
4月14日(月)	1	自律神経（1）	統合生理学	八木田教授
4月14日(月)	2	自律神経（2）	統合生理学	八木田教授
4月17日(木)	1	体性感覚・痛覚	細胞生理学	野村助教
4月17日(木)	2	血液（3）	細胞生理学	樽野教授
4月18日(金)	3	シナプス伝達：神経伝達物質と受容体（1）	統合生理学	土谷講師
4月23日(水)	1	聴覚・前庭覚	細胞生理学	相馬助教
4月23日(水)	2	シナプス伝達：神経伝達物質と受容体（2）	統合生理学	土谷講師
4月25日(金)	1	内分泌（1）	統合生理学	八木田教授
4月25日(金)	2	内分泌（2）	統合生理学	八木田教授
5月9日(金)	3	循環（1）	細胞生理学	樽野教授
5月13日(火)	1	循環（2）	細胞生理学	樽野教授
5月13日(火)	2	循環（3）	細胞生理学	樽野教授
5月14日(水)	1	内分泌（3）	統合生理学	八木田教授
5月14日(水)	2	内分泌（4）	統合生理学	八木田教授
5月16日(金)	1	循環（4）	細胞生理学	樽野教授
5月16日(金)	2	循環（5）	細胞生理学	樽野教授
5月21日(水)	3	睡眠（1）	統合生理学	八木田教授

日程	時 限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
5月21日(水)	4	睡眠(2)	統合生理学	八木田教授
5月22日(木)	3	循環(6)	細胞生理学	樽野教授
5月22日(木)	4	循環(7)	細胞生理学	樽野教授
5月23日(金)	3	シナプス伝達：筋終板・量子伝達	統合生理学	土谷講師
5月30日(金)	3	腎(1)	細胞生理学	野村助教
6月9日(月)	2	腎(2)	細胞生理学	野村助教
6月10日(火)	1	シナプス伝達：可塑性と発達	統合生理学	土谷講師
6月10日(火)	2	腎(3)	細胞生理学	野村助教
6月11日(水)	1	腎(4)	細胞生理学	野村助教
6月11日(水)	2	運動器の生理学Ⅲ(脊髄・末梢神経の生理)	統合生理学	小池講師
6月13日(金)	1	呼吸(1)	細胞生理学	相馬助教
6月13日(金)	2	運動器の生理学Ⅳ(歩行と運動の生理)	統合生理学	小池講師
6月17日(火)	3	呼吸(2)	細胞生理学	相馬助教
6月17日(火)	4	消化吸收(総論・食物の摂取と輸送)	統合生理学	小池講師
6月20日(金)	3	予防・未病制御の生理学	統合生理学	田邊智子客員教授
6月24日(火)	1	呼吸(3)	細胞生理学	相馬助教
6月24日(火)	2	呼吸(4)	細胞生理学	相馬助教
6月25日(水)	1	消化吸收(胃)	統合生理学	小池講師
6月25日(水)	2	消化吸收(肝・胆及び膵外分泌系)	統合生理学	小池講師
6月26日(木)	1	体液(1)	細胞生理学	野村助教
6月26日(木)	2	視覚(1)	細胞生理学	末松助教
6月27日(金)	1	消化吸收(小腸・大腸)	統合生理学	小池講師
6月27日(金)	2	視覚(2)	細胞生理学	末松助教
6月30日(月)	1	消化吸收(腸内細菌叢)	統合生理学	小池講師
6月30日(月)	2	大脳皮質運動関連領野	統合生理学	梅村講師
7月1日(火)	3	呼吸(5)	細胞生理学	相馬助教
7月1日(火)	4	視覚(3)	細胞生理学	佐藤客員教授
7月2日(水)	1	体温調節	統合生理学	小池講師
7月2日(水)	2	体液(2)	細胞生理学	野村助教
7月4日(金)	3	大脳皮質前頭前野のはたらき	統合生理学	梅村講師
7月10日(木)	1	分子細胞生理学	細胞生理学	野村助教

第2学年前期

(講義)

日程	時 限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
7月10日(木)	2	味覚	細胞生理学	樽野教授
7月11日(金)	2	小脳：制御と学習	統合生理学	梅村講師
7月15日(火)	2	大脳基底核：制御機能	統合生理学	梅村講師
7月16日(水)	2	機能不全の生理学（1）	細胞生理学	樽野教授
7月17日(木)	2	嗅覚	細胞生理学	竹内客員教授
7月18日(金)	3	機能不全の生理学（2）	細胞生理学	樽野教授
7月22日(火)	3	生体リズム（1）	統合生理学	八木田教授
7月22日(火)	4	生体リズム（2）	統合生理学	八木田教授

第2学年前期

(実習)

日程	時 限	内 容	担 当 者			
			所 属	講師名		
6月2日(月)	1・2	細胞生理学 実習オリエンテーション	細胞生理学	全教室員		
6月2日(月)	3・4	統合生理学 実習オリエンテーション	統合生理学	全教室員		
6月3日(火)	1・2	細胞生理学実習 ：循環器の水力学モデル ：心電図・血圧 ：尿生成	細胞生理学統合生理学	全教室員		
6月3日(火)	3・4					
6月4日(水)	1・2					
6月4日(水)	3・4					
6月5日(木)	1・2	統合生理学実習 ：血糖値制御機構 ：静止膜電位、シナプス伝達、活動電位 ：随意性筋収縮と誘発筋電図				
6月5日(木)	3・4					
6月6日(金)	1・2					
6月6日(金)	3・4					

科目名	分子医科学		
科目責任者	中田 慎一郎（分子生化学） 田代 啓（ゲノム医科学）		
単位数	8. 1	必修・選択区分	必修
開講時期・学年	後期・1 学年／前期・2 学年	授業形態	講義・実習

分子生化学		(単位数:4. 05)
教育の目的と方針		
分子生化学では、エネルギー代謝を中心に、分子レベルで生命現象を学ぶ。また、個体を構成する成分とその役割、さらにそれらが関わる代謝経路や調節機構についても理解を深める。 生物の体内ではさまざまな現象が起こっている。例えば、食物から生体活動エネルギーがどのように産生されるのか、個体の維持にどのような代謝が関与しているのかといった生命現象を、生化学を通じて分子レベルの化学反応として説明できるようにする。 将来、臨床医や研究者として活躍するためには、病態を科学的な視点から分子レベルで理解することが不可欠である。そのために、まずマクロレベルからミクロレベルまでの正常な状態を把握することが求められる。特にミクロレベルの理解を担うのが生化学である。解剖学・生理学・生化学を包括的に学ぶことで、病態をより深く理解できるようになる。また、治療薬の薬理作用を学び、薬剤の適正使用や新規治療法の開発に活かすためにも、生化学の知識を身につけることが重要である。こうした視点を持ちながら、生化学の学習に主体的に取り組む。 分子生化学の範囲は広く、難解な概念や記憶すべき事項也多岐にわたる。学んだ内容を長期的に記憶できるよう、効率的な学習を心がけることが大切である。 個々の代謝反応を単独の事象として暗記するのではなく、それらがどのように結びつき、生命活動を支えているのかを俯瞰的に捉え、理解することが重要である。細かな化学反応を覚えるだけでなく、代謝経路の相互関係を意識することで、より深い理解につなげる。		
到達目標		
1) ～14)の項目について、以下の事項の達成を目標とする ・簡潔にまとめ、非専門家に対して数分程度で説明できる。 ・医学部学生に対して、分子レベルで代謝を説明し、科学的な視点から体内で起こる反応を解説できる。		

・将来、疾患の分子病態や薬理について、生化学的な視点から説明できる。

[項目]

- 1) 糖質、脂質、タンパク質、アミノ酸、核酸、ビタミンとは何か
- 2) 糖質、脂質、タンパク質、アミノ酸の消化と吸収
- 3) 糖・脂質、タンパク質の複合体にはどのような物質があるか、およびその働き
- 4) 酵素とは何か、およびその働き
- 5) 糖代謝（解糖系、トリカルボン酸回路、酸化リン酸化、ペントースリン酸経路、糖新生経路、グリコーゲン代謝など）
- 6) 脂質代謝（脂肪酸の合成、リン脂質の合成、コレステロール代謝、ケトン体の産生・利用、エイコサノイドの合成・利用など）
- 7) タンパク質代謝（タンパク質の合成・輸送・修飾・分解、アミノ酸の合成・分解、アンモニアの処理など）
- 8) ヌクレオチド代謝（合成・分解など）
- 9) ポルフィリン代謝（ヘムの合成・分解）
- 10) ビタミン（機能、過剰摂取、摂取不足など）
- 11) DNA 修復機構（ミスマッチ修復、塩基除去修復、ヌクレオチド除去修復、非相同末端結合、相同組換えなど）
- 12) 細胞のシグナル細胞（受容体とシグナル分子）
- 13) 癌関連遺伝子と発癌（癌原遺伝子、癌抑制遺伝子）
- 14) 遺伝子操作法の基礎

成績評価方法および基準

定期試験は 80 点満点、グループ発表会の評価は 10 点満点、実習レポートの評価は 10 点満点とし、合計 100 点満点とする。合計得点が 60 点以上の者を合格とする。再試験および追試験は 100 点満点とする。得点が 60 点以上の者を 合格とする。

定期試験では、記述問題および多肢選択問題を通じて、到達目標の達成度を確認する。

グループ発表会では、課題に関する理解度に加え、分かりやすい資料を作成する力や説明する力を、分子生化学教員および学生が評価する。

実習レポートは、以下の観点から分子生化学教員が評価する。

科学レポートとしての形式が守られているか。

実習内容を理解できているか。 実験方法および操作を理解しているか。 実験結果を正しく記載できているか。 実験結果の考察が適切であるか。 設問が正しく解答されているか。 得られた実験結果が予想と違う場合、その原因、推察など考察が適切であるか。 資料が分かりやすく作成されているか。
事前・事後学習について ・後期・1学年の早い時期に教科書#1を通読しておく。 ・講義範囲に該当する項目について、教科書#1に記載された内容を記憶するとともに、教科書#2の該当項目も読み、大まかな概要を把握しておく。 ・講義後は、講義内容を復習するとともに教科書#2、#3の該当項目を精読し、詳細な化学反応についても理解を深め、到達目標項目全てを理解できるようにする。
教科書・参考文献等 教科書 #1: 一條秀憲 運動・からだ図解 生化学の基本 マイナビ出版 ISBN-13:978-4839980979 教科書 #2: 鈴木 敬一郎(編集), 本家 孝一(編集), 大河原 知水(編集), 藤原 範子(編集) 生化学(カラーイラストで学ぶ 集中講義) メジカルビュー社 ISBN-13:978-4758300988 教科書 #3: R. L. Miesfeld RL, McEvoy M.M 著 水島昇 監訳 ミースフェルド生化学 東京化学同人 ISBN-13:978-4807909865 出版社からの依頼により、講義資料を印刷物や電子媒体として配布することができないことに留意すること。
オフィス・アワー 中田 慎一郎 火曜日 15時-16時 メールにて予約 snakada@koto.kpu-m.ac.jp 吉田 達士 金曜日 15時-16時 メールにて予約 yoshida@koto.kpu-m.ac.jp 山崎 健太 水曜日 15時-18時 メールにて予約 kyamasak@koto.kpu-m.ac.jp 忠垣 憲次郎 木曜日 12時-17時 メールにて予約 tadagaki@koto.kpu-m.ac.jp
学生へのメッセージ 生化学には、長期的な記憶の定着が難しい学習内容が多く含まれます。少しでも記憶の定着を助けるために、語呂合わせを活用するなど、効率的な学習方法を取り入れてください。 また、良い語呂や覚え方を考案した場合は、ぜひ提供してください。同級生や後輩へと引き継

ぎ、将来的に『京都府立医科大学の出身者は基礎医学の知識がしっかりしている』と評価されることにつながるよう、積極的に活用していきたいと考えています。

なお、講義資料の大部分は配布できません。そのため、指定教科書（特に #1, #2）の持参を推奨します。

また、客員教授の講義については、日程が変更される場合がありますので、ご注意ください。

ゲノム医科学

(単位数: 4. 05)

教育の目的と方針

ゲノム医科学では、遺伝情報がどの様に染色体 DNA に書き込まれていて、どの様に転写、翻訳、翻訳後修飾と局在化によって生命現象に結びつくかを分子生物学的に学ぶ。疾病の原因の原因の原因を突き詰めていくと、DNA 複製が 100% 正確ではなく変異が入ることに行き着く。変性疾患であれガンであれ、万病の元は DNA 塩基配列に入った変異であるのでその分子機序の理解は医学の理解の基本である。内科学の教科書のほぼすべての疾患記載の冒頭に「家族性あり」と書かれていることは、ほぼすべての疾患発症にゲノム寄与があることを意味している。

疾病発症、疾患進行制御、薬物感受性、有害事象出現、身長、体重、知能指数、嗜好、顔立ちなどのあらゆる表現型の「個体差=個性」は、ゲノム寄与と環境寄与で生じる。各表現型ごとにゲノム寄与の根拠となる「個体差=個性」が書き込まれている染色体 DNA 上の変異群がある。技術の発展によってあらゆる「個体差=個性」の原因変異群が具体的に同定・検証されていることは驚嘆すべきことである。

さらに各個人の DNA 配列情報を医療に利用するゲノム医学が直近 15 年間に大いに発展した。従来の医学知識に胡座をかいている医療機関と、必死にゲノム医科学の勉強をする医療機関で提供される医療の質の差は、今日ますます広がっている。進歩に遅れない様に生涯に亘って自学自習で学び続ける姿勢と、多くの情報の中から偽情報に惑わされず重要情報を取捨選択する能力を身につけることが不可欠である。字面を信じず疑いながら文書を読む習慣と、判断根拠になる実験や研究の読解方法を身につけるために、読解レポート課題や医学と生物学の偉人についてのグループ学習発表と、実験をする実習を課す。また、営利目的の私利私欲が生み出す根拠のない疑似科学を見破ってそれと対決する姿勢を身につけるために ABO 型血液型性格占いなどを例に疑似科学について解説する。

ゲノム医科学は、ゲノム学、遺伝学、分子生物学、生化学、統計学、倫理学がシームレスに繋がった学問である。一生に亘って多岐に亘る知識を自学自習してそれを自分の整理棚に収めて教養と

専門知識を拡大することを継続するために、本科履修を通じて自分の整理棚を構築することと、自学自習をうまくエンジン始動できるように指導する。

到達目標

1) ～15) の項目について、以下の事項の達成を目標とする

- 簡潔にまとめ、非専門家に対して数分程度で説明できること。
- 医学部学生に対して、分子レベルでゲノムを説明し、科学的な視点から DNA 配列上の変異で体内で起こる事象を解説できること。
- 将来、疾患の分子病態や内科学を学ぶ際に、ゲノム医科学と関連付けて理解できるよう、教科書のどこにどの項目が記載されているかを把握し、整理することができること。

[項目]

- 1) ゲノムとは何か、変異とは何か、SNP とは何か、DNA 複製とは何か
- 2) 転写と発現調節と翻訳とは何か
- 3) タンパク質局在化と翻訳後修飾とタンパク質分解とは何か
- 4) 逆転写とレトロウイルスとエイズとは何か
- 5) ホルモンと恒常性とは何か
- 6) 細胞周期とプログラム細胞死とは何か
- 7) 幹細胞と治癒と再生とは何か
- 8) 遺伝子治療とは何か
- 9) 免疫の分子生物学と神経の分子生物学と血管新生と動脈硬化の分子生物学とは何か
- 10) 生殖細胞と胚誘導とは何か
- 11) 分子遺伝と集団進化とは何か
- 12) ゲノミクスとプロテオミクスとは何か
- 13) ゲノム診断と個人最適化医療とゲノム医療とは何か
- 14) ゲノム研究方法とゲノム倫理とは何か
- 15) 疑似科学とは何か

成績評価方法および基準

定期試験は 80 点満点、読解レポート評価は 5 点満点、医学・生物学の偉人グループ学習発表の評価は 5 点満点、実習レポートの評価は 10 点満点とし、合計 100 点満点とする。合計得点が 60 点以上の者を合格とする。再試験および追試験は 100 点満点とする。得点が 60 点以上の者を合格とする。定期試験では、到達目標の達成度を確認する。

医学・生物学の偉人グループ発表会では、偉人の選択と各偉人に対する理解度に加え、分かりやすい資料を作成する力や説明する力を、学生とゲノム医科学教員が評価する。

実習レポートは、以下の観点からゲノム医科学教員が評価する。

- 科学レポートとしての形式が守られているか。
- 実習内容を理解できているか。
- 実験方法および操作を理解しているか。
- 実験結果を正しく記載できているか。
- 実験結果の考察が適切であるか。
- 設問が正しく解答されているか。
- 得られた実験結果が予想と違う場合、その原因、推察など考察が適切であるか。
- 資料が分かりやすく作成されているか。

事前・事後学習について

- 後期・1学年の早い時期に教科書#1、#2、#4を通読しておく。
- 教科書#3の対応する箇所も読んでおく。
- 講義後は、講義内容を復習するとともに教科書#1、#2、#3、#4の該当項目を精読し、理解を深め、到達目標項目全てを理解できるようにする。

教科書・参考文献等

教科書 #1: 新 遺伝医学やさしい系統講義 19 講 福嶋義光監修、メディカル・サイエンス・インターナショナル社

教科書 #2: 診療・研究にダイレクトにつながる遺伝医学 渡邊淳著、羊土社

教科書 #3: トンプソン&トンプソン遺伝医学第2版 [原著第8版] Nussbaum ら著 福嶋義光監訳、メディカル・サイエンス・インターナショナル社

教科書 #4: エッセンシャル細胞生物学 原書第5版 中村桂子ら訳 南江堂

オフィス・アワー

田代 啓 水曜日 16時-18時 メールにて予約 tashiro@koto.kpu-m.ac.jp

中野 正和 15時-17時 メールにて予約 manakano@koto.kpu-m.ac.jp

学生へのメッセージ

将来的に「京都府立医科大学の出身者はゲノム医科学の知識がしっかりしていて最新知識をアップデートし続ける自学自習精神がある」と評価されることを目指したい。効率よく学習を進められるよう、協力をお願いしたい。

授業日程

分子医科学

第1学年後期

(講義)

日程	時限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
2月17日(火)	4	ゲノム医科学総論 (1)	ゲノム医科学	田 代 教 授
2月19日(木)	1	翻訳 (1)	ゲノム医科学	中 野 准 教 授
2月19日(木)	2	分子生化学総論	分子生化学	中 田 教 授
2月20日(金)	2	分子生化学総論	分子生化学	中 田 教 授
2月24日(火)	2	生命とがんについて考える	分子生化学	菊池客員教授
2月24日(火)	3	ゲノム医科学総論 (2)	ゲノム医科学	田 代 教 授
2月27日(金)	2	DNAの複製	ゲノム医科学	田 代 教 授
3月2日(月)	2	分子生化学総論：糖代謝	分子生化学	中 田 教 授
3月3日(火)	2	分子生化学総論：糖代謝・脂質代謝	分子生化学	中 田 教 授
3月3日(火)	4	分子生化学総論：脂質代謝	分子生化学	中 田 教 授
3月5日(木)	1	翻訳 (2)	ゲノム医科学	中 野 准 教 授
3月9日(月)	2	転写 (1)	ゲノム医科学	田 代 教 授
3月10日(火)	2	分子生化学総論：アミノ酸代謝	分子生化学	中 田 教 授
3月10日(火)	3	分子生化学総論：アミノ酸代謝・その他	分子生化学	中 田 教 授
3月11日(水)	3	分子生化学総論：その他	分子生化学	中 田 教 授
3月11日(水)	4	転写 (2)	ゲノム医科学	田 代 教 授
3月12日(木)	1	ホルモン (1)	ゲノム医科学	中 野 准 教 授
3月13日(金)	3	分子生化学総論：代謝の統合	分子生化学	中 田 教 授

第2学年前期

(講義)

日程	時限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
4月8日(火)	3	発表会	分子生化学	中 田 教 授
4月8日(火)	4	発表会	分子生化学	中 田 教 授
4月10日(木)	2	酵素の構造とその活性制御	分子生化学	山崎講師(学内)
4月11日(金)	3	遺伝情報の発現調節	ゲノム医科学	田 代 教 授
4月15日(火)	1	ビタミン (水溶性・脂溶性)	分子生化学	山崎講師(学内)
4月15日(火)	2	タンパク質局在化機構	ゲノム医科学	田 代 教 授
4月16日(水)	1	物質輸送の仕組み	分子生化学	吉 田 講 師
4月16日(水)	2	翻訳後修飾とタンパク質分解	ゲノム医科学	田 代 教 授
4月18日(金)	1	ホルモン (1)	ゲノム医科学	中 野 准 教 授
4月18日(金)	2	ホルモン (2)	ゲノム医科学	中 野 准 教 授

日程	時限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
4月21日(月)	2	細胞内情報伝達概説	分子生化学	忠垣講師(学内)
4月23日(水)	3	逆転写とレトロウイルス	ゲノム医科学	田 代 教 授
4月23日(水)	4	分子病	ゲノム医科学	田 代 教 授
4月25日(金)	3	糖質・脂質の化学	分子生化学	吉 田 講 師
5月8日(木)	1	ヌクレオチド・アミノ酸・ペプチドの化学	分子生化学	吉 田 講 師
5月8日(木)	2	タンパク質の構造と機能	分子生化学	吉 田 講 師
5月9日(金)	1	細胞周期とプログラム細胞死	ゲノム医科学	中 野 准 教 授
5月9日(金)	2	DNA修復	分子生化学	中 田 教 授
5月16日(金)	3	神経の分子生物学	ゲノム医科学	田 代 教 授
5月19日(月)	1	解糖経路、TCA回路、電子伝達系	分子生化学	忠垣講師(学内)
5月19日(月)	2	糖新生経路、グリコーゲンの合成と分解	分子生化学	忠垣講師(学内)
5月21日(水)	1	幹細胞と新しい生命工学	ゲノム医科学	池川客員教授
5月21日(水)	2	ペントースリン酸経路・グルクロン酸経路	分子生化学	忠垣講師(学内)
5月22日(木)	1	脂肪酸の合成・分解(β酸化)、ケトン体	分子生化学	山崎講師(学内)
5月22日(木)	2	免疫系のゲノム医科学(1)	ゲノム医科学	池川客員教授
5月23日(金)	1	実習への導入およびcold run	分子生化学	山崎講師(学内)
5月23日(金)	2	遺伝子治療(1)	ゲノム医科学	中 野 准 教 授
6月10日(火)	3	小児における内分泌疾患と代謝疾患	分子生化学	鹿島田客員教授
6月10日(火)	4	遺伝性難治疾患ゲノム解析への挑戦	分子生化学	荻 客員教授
6月13日(金)	3	リポタンパク、コレステロールの代謝と脂質の運搬	分子生化学	山崎講師(学内)
6月16日(月)	1	ゲノム医科学からみた生殖細胞と胚誘導	ゲノム医科学	池川客員教授
6月16日(月)	2	医学・生物学の偉人演習(1)	ゲノム医科学	田 代 教 授
6月17日(火)	1	ゲノム医科学からみたプロテオミクス	ゲノム医科学	池川客員教授
6月17日(火)	2	エイコサノイドの代謝と脂質メディエーター	分子生化学	吉 田 講 師
6月19日(木)	1	アミノ酸代謝と尿素回路	分子生化学	吉 田 講 師
6月19日(木)	2	アミノ酸炭素骨格の代謝	分子生化学	吉 田 講 師
6月20日(金)	1	遺伝子治療(2)	ゲノム医科学	中 野 准 教 授
6月20日(金)	2	医学・生物学の偉人演習(2)	ゲノム医科学	田 代 教 授
6月25日(水)	3	RNAの細胞生物学	ゲノム医科学	中 野 准 教 授
6月25日(水)	4	医学・生物学の偉人演習(3)	ゲノム医科学	田 代 教 授
6月27日(金)	3	ポルフィリン代謝-ヘム合成とビリルビンの処理-	分子生化学	山崎講師(学内)
7月1日(火)	1	核酸(ピリミジン代謝・プリン代謝/de novo, salvage)	分子生化学	忠垣講師(学内)
7月1日(火)	2	血管新生・動脈硬化の分子生物学	ゲノム医科学	中 野 准 教 授
7月4日(金)	1	分子遺伝と集団進化(1)	ゲノム医科学	八木客員教授
7月4日(金)	2	分子遺伝と集団進化(2)	ゲノム医科学	八木客員教授
7月7日(月)	1	免疫系のゲノム医科学(2)	ゲノム医科学	中 野 准 教 授

第2学年前期

(講義)

日程	時限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
7月7日(月)	2	分子遺伝と集団進化 (3)	ゲノム医科学	田 代 教 授
7月8日(火)	3	遺伝子工学	分子生化学	吉 田 講 師
7月8日(火)	4	癌遺伝子と細胞増殖のシグナル伝達	分子生化学	吉 田 講 師
7月11日(金)	3	癌抑制遺伝子	分子生化学	忠垣講師(学内)
7月14日(月)	1	リサーチマインド涵養教育	ゲノム医科学	田 代 教 授
7月14日(月)	2	疑似科学との向き合い方	ゲノム医科学	田 代 教 授
7月18日(金)	1	ゲノミクスのまとめ (1)	ゲノム医科学	田 代 教 授
7月18日(金)	2	ゲノミクスのまとめ (2)	ゲノム医科学	田 代 教 授

第2学年前期

(実習)

日程	時限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
5月26日(月)	1・2	分子生化学・ゲノム医科学実験－実習	分子医科学	全 教 室 員
5月26日(月)	3・4			
5月27日(火)	1・2	〃	〃	〃
5月27日(火)	3・4			
5月28日(水)	1・2	〃	〃	〃
5月28日(水)	3・4			
5月29日(木)	1・2	〃	〃	〃
5月29日(木)	3・4			
5月30日(金)	1・2	結果の考察と全体ディスカッション	〃	〃

科目名	免疫学		
科目責任者	松田 修		
単位数	3. 7	必修・選択区分	必修
開講時期・学年	前／後期・2 学年	授業形態	講義・実習

教育の目的と方針

免疫系は、病原微生物や病原生物の感染に対して、生体を防御する高次システムであり、高度に専門化した免疫担当細胞とそれらが発現する分子群からなる緻密で動的なネットワークによって維持され、機能している。免疫系はまた、腫瘍に対する監視と排除にも関与する。免疫系を構成する細胞は詳細にキャラクタライズされており、また免疫応答を担う分子群に関する情報も膨大な量、蓄積している。免疫系の破綻は、日和見感染の発症や感染症の重篤化に繋がる。一方、免疫系の異常はアレルギー性疾患や自己免疫病をもたらす。臓器移植や幹細胞移植においても、免疫系は重要な意義をもつ。他方で、免疫の研究は、その特異さゆえに、医学生物学上のさまざまな技術革新を創出した。

そこで免疫学の教育目標は、免疫の概念と、感染における免疫応答の基礎、とくに獲得免疫応答と自然免疫応答のメカニズムを、細胞レベルおよび分子レベルで理解することにある。また、免疫不全、アレルギー、自己免疫、腫瘍免疫、移植免疫について、免疫学的観点で理解する。さらに、免疫学がもたらしたバイオテクノロジーの基礎を学ぶ。免疫学の魅力のひとつは、現在も刻々と変化し多様化している点にあるので、免疫学の最先端の研究の面白さを知ってもらうことも目標とする。

到達目標

免疫の概念、感染における獲得免疫応答と自然免疫応答の機構を分子レベル、細胞レベルから個体レベルまで包括的に説明できる。

アレルギー、自己免疫疾患、免疫不全症、移植免疫、腫瘍免疫等の基礎を学び、免疫応答の異常とその制御を説明できる。

免疫学に端を発するバイオテクノロジーの基礎を説明できる。

学内外の研究者による最先端の免疫学の研究を浴び、最先端研究の重要性を説明できる。

情報収集と解析、プレゼンテーションとディスカッションを行える。

実習において免疫学の基礎的な技法を体得し、実験の原理を説明できる。

成績評価方法および基準

1 試験（80％）

講義と実習を終了後に定期試験を行う。形式は筆記試験とする。

2 日常点（20％）

講義と実習では原則として出席をとる。学生によるセミナー発表と討論も評価対象とする。実習では実習態度とともに毎回提出するレポートを評価する。

3 総合成績評価

原則として試験の成績が 6 割以上、かつ日常点が 6 割以上を合格基準とする。ただし試験の成績が 6 割に及ばない場合でも、日常点において到達目標の達成と学修した内容について十分な知識を持つと判断できる場合には、試験の成績に日常点の一部を加算して 6 割以上となること

をもって合格とすることがある。
事前・事後学習について
免疫学の学習は生物学、生化学、解剖学等の基本を理解していることが前提で行えるので、免疫学の系統講義にはこれらの基礎知識を確認してから臨んでほしい。免疫学の特別講義と演習は系統講義で学んだことを理解してから、免疫学実習はさらにそれらを身に着けた上で学べるものなので、意識して事前・事後学習を行うこと。
教科書・参考文献等
教科書 1. Janeway's Immunobiology, 10th ed.,(July, 2022), K. Murphy, C. Weaver & L. J. Berg. W W 著. International Student edition, Norton & Co Inc., ISBN-13: 978-0393884913 ペーパーバック：約 29,000 円. ルーズリーフ：約 13,000 円. 免疫学の重要な項目をほぼ網羅している。2 の新版の原著。電子書籍も available である。 2. 免疫生物学 (原書第 9 版) (March 8, 2019) , Ken Murphy & C.Weaver 著. 笹月 健彦 (翻訳), 吉開 泰信 (翻訳)、南江堂. ISBN-10: 4524251154、ISBN-13: 978-4524251155. 約 9,350 円. 1 の旧版の日本語訳。 参考書 1. Case Studies in Immunology: A Clinical Companion, 2016/3/8. Raif Geha and Luigi Notarangelo. Routledge; 第 7 版 (2016/2/1). ISBN-13: 978-0815345121 Kindle format 約¥5,600. 計 55 件の臨床事例を通じて、免疫学の主要なトピックを学ぶことができる。日本語訳は出版されていない。
オフィス・アワー
・松田 修 教授 火曜日 14:00-17:00 ・岸田綱郎 准教授 火曜日 14:00-17:00 ・新屋政春 講師 火曜日 14:00-17:00 ・山本健太 学内講師 火曜日 14:00-17:00
学生へのメッセージ
医学の専門教育はどうしても記憶が中心になりがちだが、免疫学では、深く理解し考える力を養成すること、問題抽出能力と解決力を培うこと、仮説を立てて科学的に検証すること、批判的思考の大切さ、ディスカッションを通じて他者の考えを受け入れあるいは考えを戦わせることの重要性、実験による証明の必要性、等を学んでほしい。

授業日程

免疫学

第2学年前期

(講義)

日程	時 限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
9月17日(水)	3	免疫学(1) 免疫系の基本原理	免疫学	松田教授
9月17日(水)	4	免疫学(2) B細胞と獲得免疫応答 1	〃	〃
9月22日(月)	3	免疫学(3) B細胞と獲得免疫応答 2	〃	〃
9月22日(月)	4	免疫学(4) B細胞と獲得免疫応答 3	〃	〃

第2学年後期

(講義)

日程	時 限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
9月29日(月)	1	免疫学(5) T細胞と獲得免疫応答 1	免疫学	松田教授
9月29日(月)	2	免疫学(6) T細胞と獲得免疫応答 2	〃	〃
9月30日(火)	3	免疫学(7) T細胞と獲得免疫応答 3	〃	〃
9月30日(火)	4	免疫学(8) 自然免疫応答 1	〃	〃
10月6日(月)	1	免疫学(9) 自然免疫応答 2	〃	〃
10月6日(月)	2	免疫学(10) 自然免疫応答 3	〃	〃
10月7日(火)	3	免疫学(11) 感染と免疫	〃	〃
10月7日(火)	4	免疫学(12) 免疫不全	〃	〃
11月4日(火)	3	免疫学(13) 移植と免疫	〃	岸田准教授
11月4日(火)	4	免疫学(14) 腫瘍と免疫	〃	〃
11月10日(月)	1	免疫学(15) アレルギー	〃	〃
11月10日(月)	2	免疫学(16) 自己免疫	〃	〃
11月11日(火)	3	免疫学特別講義(1) ウイルス感染と免疫 1	〃	市村客員教授
11月11日(火)	4	免疫学特別講義(2) ウイルス感染と免疫 2	〃	〃
11月12日(水)	3	免疫学特別講義(3) TCRレパトアと免疫 1	〃	藤本客員講師
11月12日(水)	4	免疫学特別講義(4) TCRレパトアと免疫 2	〃	〃
11月17日(月)	3	免疫学特別講義(5) 胸腺と免疫	〃	糸井客員教授
11月17日(月)	4	免疫学特別講義(6) ワクチンと免疫	〃	山田客員教授
11月25日(火)	3	免疫学セミナー(1)	〃	山本学内講師
11月25日(火)	4	免疫学セミナー(2)	〃	〃
11月26日(水)	3	免疫学セミナー(3)	〃	新屋講師
11月26日(水)	4	免疫学セミナー(4)	〃	〃

第2学年後期

(講義)

日程	時 限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
11月27日(木)	3	免疫学セミナー (5)	免疫学	新屋講師
11月27日(木)	4	免疫学セミナー (6)	〃	〃
12月4日(木)	1	免疫学セミナー (7)	〃	〃
12月4日(木)	2	免疫学セミナー (8)	〃	〃
12月11日(木)	1	免疫学セミナー (9)	〃	山本学内講師
12月11日(木)	2	免疫学セミナー (10)	〃	〃
12月12日(金)	2	免疫学セミナー (11)	〃	〃
12月12日(金)	3	免疫学セミナー (12)	〃	〃

第2学年後期

(実習)

日程	時 限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
1月7日(水)	3・4	免疫学実習(1, 2)	免疫学	教室員
1月8日(木)	3・4	免疫学実習(3, 4)	免疫学	教室員
1月9日(金)	3・4	免疫学実習(5, 6)	免疫学	教室員

科目名	感染病態学（微生物・医動物）		
科目責任者	中屋 隆明		
単位数	4	必修・選択区分	必修
開講時期・学年	前／後期・2学年	授業形態	講義・実習

教育の目的と方針

人類は、他の生物との深いかかわり合いなくしては存在しえない。一方で、長い間ヒトを脅かし続けてきたのが感染症である。ヒトに感染症を起こす病原体には、ウイルス、細菌、真菌、寄生虫などが含まれる。感染病態学（微生物学・医動物学）の教育目的は、学生がこれら病原体の生物学を系統的に学んだ上で、主体的な講義・実習参加を通して、各病原体がヒトに感染し、疾患を引き起こす機構および宿主の対抗措置について理解することである。また、本教育を通して、微生物学、医動物学研究および感染症研究の意義と面白さを理解することを期待する。

到達目標

医学教育モデル・コアカリキュラム（令和4年度改訂版）「PS-03-03 感染症」および「CS-05-04 感染制御」等に掲げた学修目標に到達する。

特に、以下の項目を重要な到達目標とする。

- 1) 主要な病原体（ウイルス、細菌、真菌、寄生虫）の構造を図示し、その形態学的特徴を説明できる。

ウイルス

- 2) ウイルスの増殖・複製機構の概要を説明できる。
- 3) ウイルスが感染した細胞に起こる変化を説明できる。
- 4) ウイルス感染の種特異性および組織特異性を説明できる。
- 5) 主要なウイルスの病原性（標的臓器）および臨床症状を説明できる。
- 6) 主要なウイルスの診断・検査法、治療法、および予防法（ワクチン、消毒法等）の概要を説明できる。
- 7) 各種抗ウイルス薬の作用機序を説明できる。
- 8) [実習] ウイルスの検出および定量の一環としてウイルス力価が独力で測定できる。

細菌

- 9) [実習] 独力でグラム染色を行い、細菌を形態と染色性により4つのタイプに分類できる。
- 10) [実習] 様々な培地条件で培養することで菌を同定できる。
- 11) [実習] 薬剤感受性試験（ディスク拡散法）にて対象菌の薬剤耐性を予想できる。
- 12) 主要な細菌の病原性（標的臓器）および臨床症状について説明できる。
- 13) 主要な細菌感染症の診断・検査法、治療法、および予防法（ワクチン、消毒法等）の概要を説明できる。
- 14) 細菌感染症において標的臓器やグラム染色の情報から起炎菌が予測できる。
- 15) 主要な細菌において有効な抗菌薬を選択できる。
- 16) 抗菌薬を適正に使用しなければならない理由を根拠に基づいて説明できる。
- 17) 薬剤耐性菌の出現機構について説明できる。

真菌

- 18) 真菌感染症と細菌感染症の違いを説明できる。
- 19) 主な真菌において病原性（標的臓器）、臨床症状、診断・検査法、治療法、予防法の概要を説明できる。

寄生虫

- 20) 主要な寄生虫の生活環を図示して病原性を説明できる。
- 21) 主な寄生虫感染症において臨床症状、診断・検査法、治療法、予防法の概要を説明できる。

その他 2 2) 性感染症、院内感染症、人獣共通感染症、新興・再興感染症、節足動物媒介感染症、日和見感染症、国際感染症、輸入感染症、菌交代症、バイオテロを説明できる。 2 3) 主要な感染症における感染・炎症のフォーカスとなる臓器を説明できる。 2 4) 主要な病原体の感染経路を列挙し、各経路における感染予防法を説明できる。 2 5) 〔実習〕病原体を安全に扱う感染予防対策を個人およびグループ単位で実践できる。
成績評価方法および基準
1 試験 定期試験として筆記試験を行う。筆記試験には記述式と選択式の両方の問題を含む。また試験は上記の到達目標の達成度合いを評価する目的の問題群で構成される。 2 総合成績評価 定期試験の点数、解答内容（95%）と実習レポート（5%）により可否を判定する。具体的には60%を合格最低基準とする。
事前・事後学習について
1 各講義開始前に事前資料として講義スライド（もしくは講義スライドを改変したもの）を学生課より配布する。講義前にそれらの資料を通読しておくことを強く推奨する。 2 講義で疑問に感じたことや理解できなかったことがあれば、講義終了後に担当教官に質問することが望ましい。直接対面でもメールを介した質問でもいづれでも問題ないので気軽に質問にきてほしい。 3 事後学習には配布資料だけでなく次項で挙げる教科書等を併用するとより理解が深まる。その際生じた疑問も気軽に質問に来てもらって差し支えない。
教科書・参考文献等
1 標準微生物学（平松啓一編、医学書院、第15版、2024、定価7,920円） 2 微生物学-基礎から臨床へのアプローチ（監訳神谷茂、河野茂、メディカルサイエンス・インターナショナル、2012、定価8,800円） 3 図説人体寄生虫学（吉田幸雄・有菌直樹共著、南山堂、改訂10版、2021、定価9,900円） 上記以外については講義初めのオリエンテーション時に紹介する。
オフィス・アワー
教授 中屋 隆明（なかや たかあき） tnakaya@koto.kpu-m.ac.jp 講師 廣瀬 亮平（ひろせ りょうへい） ryo-hiro@koto.kpu-m.ac.jp ※平日午後は概ね在室 講師 西岡 敬介（にしおか けいすけ） din85051@koto.kpu-m.ac.jp ※ 曜日・時間帯は各教員にメールにて問い合わせること。
学生へのメッセージ
臨床の現場においても感染症は必ず遭遇する。また感染症は適切な治療により完全回復が期待できる一方で不適切な治療や治療の遅れにより致死的になり得る。初期の診断や治療の決定が患者の予後を大きく左右するため、主治医の判断が極めて重要となる。感染病態学ではそれらの医療行為の基礎となる重要な微生物学知識および考え方の習得を目的としている。医療行為の根拠となる微生物学な知識・考え方を取得することで、各症例に応じて医療行為を適切に改変したり柔軟な対応をとることができる。 加えて、感染症は「風邪」として身近なものである一方で、COVID-19のようにパンデミックを起こし全世界に多大な人的・経済的損失を与える極めて深刻なものである。一見すると同じように見える病原体でも人体（社会）に与える影響にはこのように大きな違いがある。微生物学研究ではこのような違いがどのような機序で生じるのかを探求し、最終的には深刻な感染症に打ち勝つことを目標としている。感染病態学では微生物学研究の意義や面白さを講義・実習を通じて体感・理解してもらうことも目的としている。 講義・実習に積極的に参加し是非微生物学の魅力を知ってもらいたい。

授業日程

感染病態学（微生物・医動物学）

第2学年前期

（講義及び実習）

日程	時限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
9月16日(火)	1	感染病態学総論（1）：オリエンテーション（コア・カリキュラム関連個所の説明）	感染病態学	中 屋 教 授
9月16日(火)	2	細菌学総論（1）細菌の細菌の構造、宿主と病原体との関連	〃	中 屋 教 授
9月17日(水)	2	細菌学総論（2）抗菌薬、薬剤耐性菌	〃	中 屋 教 授
9月18日(木)	1	ウイルス学総論（1）ウイルスの構造、複製機構・病原性	〃	中 屋 教 授
9月18日(木)	2	ウイルス学総論（2）ウイルス感染症の治療と予防	〃	中 屋 教 授
9月24日(水)	1	ウイルス学各論（1）：DNAウイルス①（ヘルペス）・脳炎(非定型髄膜炎)	〃	西 岡 講 師
9月24日(水)	2	ウイルス学各論（2）：DNAウイルス②（パポーバ、パルボ、アデノウイルス他）	〃	西 岡 講 師

第2学年後期

（講義及び実習）

日程	時限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
10月1日(水)	1	ウイルス学各論（3）：ウイルス性肝炎・ウイルス性腸炎（ノロ・ロタウイルス等）	感染病態学	廣 瀬 講 師
10月1日(水)	2	ウイルス学各論（4）：呼吸器感染症(インフルエンザ・コロナウイルス等)、その他の飛沫・空気伝播する感染症(麻疹・風疹・ムンプス等)	〃	廣 瀬 講 師
10月8日(水)	1	ウイルス学各論（5）：レトロウイルス（HIV・HTLVなど）	〃	西 岡 講 師
10月8日(水)	2	ウイルス学各論（6）：小児感染症・予防接種、性感染症、新興再興感染症、1類感染症	〃	西 岡 講 師
11月5日(水)	1	ウイルス学各論（7）：感染症の診断・検出法	〃	西 岡 講 師
11月5日(水)	2	ウイルス学各論（8）：虫媒感染症（ウイルス・細菌）、ウイルス学実習オリエンテーション（アナウンス）	〃	西 岡 講 師
11月11日(火)	1	ウイルス学実習1日目(第4実習室)	〃	教員全員
11月11日(火)	2	ウイルス学実習1日目(第4実習室)	〃	〃
11月12日(水)	1	ウイルス学実習2日目(第4実習室)	〃	〃
11月12日(水)	2	ウイルス学実習2日目(第4実習室)	〃	〃
11月13日(木)	1	ウイルス学実習3日目(第4実習室)	〃	〃
11月13日(木)	2	ウイルス学実習3日目(第4実習室)	〃	〃
11月19日(水)	1	細菌学各論（1）：細菌感染症の治療戦略、院内感染、菌交代症、菌血症・敗血症	〃	廣 瀬 講 師
11月19日(水)	2	細菌学各論（2）：消化管感染症（食中毒）、肝・胆道系感染症	〃	廣 瀬 講 師
11月20日(木)	1	細菌学各論（3）結核（抗酸菌）	〃	廣 瀬 講 師
11月20日(木)	2	細菌学各論（4）：呼吸器感染症（肺炎）	〃	廣 瀬 講 師
11月27日(木)	1	細菌学各論（5）：神経感染症（髄膜炎）・プリオン病、ポリオ	〃	西 岡 講 師
11月27日(木)	2	細菌学各論（6）：尿路感染症、性感染症	〃	西 岡 講 師

第2学年後期

(講義及び実習)

日程	時 限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
12月1日(月)	3	細菌学各論(7): ワクチン・薬剤耐性菌(AMR)	感染病態学	西 岡 講 師
12月1日(月)	4	細菌学各論(8): 骨・関節感染症、皮膚軟部組織感染症	〃	西 岡 講 師
12月2日(火)	3	真菌学各論(1): 細菌感染症と真菌感染症の違い、カンジダ症	〃	廣 瀬 講 師
12月2日(火)	4	真菌学各論(2): アスペルギウス症、クリプトコッカス症など	〃	廣 瀬 講 師
12月5日(金)	3	細菌学各論(9): 起炎菌・標的臓器・宿主(患者)因子に基づく抗菌薬選択の考え方、細菌学実習オリエンテーション(アナウンス)	〃	廣 瀬 講 師
1月6日(火)	1・2	感染病態学総論(2): まとめ	〃	中 屋 教 授

第2学年後期

(実習及び演習)

日程	時 限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
12月8日(月)	3	細菌学実習1日目(第4実習室)	感染病態学	教員全員
12月8日(月)	4	細菌学実習1日目(第4実習室)	〃	〃
12月9日(火)	1	細菌学実習2日目(第4実習室)	〃	〃
12月9日(火)	2	細菌学実習2日目(第4実習室)	〃	〃
12月9日(火)	3	細菌学実習2日目(第4実習室)	〃	〃
12月9日(火)	4	細菌学実習2日目(第4実習室)	〃	〃
12月10日(水)	3	細菌学実習3日目(第4実習室)	〃	〃
12月10日(水)	4	細菌学実習3日目(第4実習室)	〃	〃
12月11日(木)	3	医動物学各論(1): 寄生虫学総論	〃	齋 藤 特 任 教 授
12月11日(木)	4	医動物学各論(2): 原虫感染症①	〃	齋 藤 特 任 教 授
12月15日(月)	1	医動物学各論(3): 原虫感染症②	〃	廣 瀬 講 師
12月15日(月)	2	医動物学各論(4): 線虫感染症	〃	廣 瀬 講 師
12月16日(火)	1	医動物学各論(5): 吸虫感染症	〃	廣 瀬 講 師
12月16日(火)	2	医動物学各論(6): 条虫感染症	〃	廣 瀬 講 師
12月17日(水)	1	予備日(休講振替日)		
12月17日(水)	2	予備日(休講振替日)		

科目名	病理学総論		
科目責任者	原田 義規 (細胞分子機能病理学) 分子病態病理学部門		
単位数	4. 7	必修・選択区分	必修
開講時期・学年	前／後期・2 学年	授業形態	講義・実習

細胞分子機能病理学		(単位数：2. 35)
教育の目的と方針		
病理学は、疾患によって生じる分子や細胞・組織における一定の構造・機能の異常に基づき、その病因（Etiology）と発症機序（Pathogenesis）を追求し、疾患体系を確立する学問である。また、病理学は、患者の疾患を直接取り扱う臨床医学の基盤をなすものであり、患者の病態は常に病理学的視点に立脚して理解されるべきである。これまで病理学は、主として形態学的手法を適用することで疾患の理解に取り組んできた。しかしながら、疾患は単なる形態や機能の異常にとどまらず、分子レベルでの機能や動態の変化を伴うものである。そのため、形態学的手法に加え、分子レベルの多様な解析方法を駆使し、広い生物学的視野のもとで疾患を理解することが求められる。このような包括的なアプローチを通じて、疾患の本質により深く迫ることが可能となる。病理学の教育は、このような視点を重視して行う。 本講義では、学生が病理学を通じて疾患の成り立ちを学び、分子・細胞・組織レベルでの構造・機能の異常を把握できる能力を磨く。病因（Etiology）と発症機序（Pathogenesis）を論理的に説明できる能力を磨く。病理学は臨床医学の基盤であり、学生は病理学的視点から患者の病態を適切に把握し、論理的に考察する力を磨く。さらに、組織標本や病理画像の観察を通じて、病理学的視点から病態を解析し、臨床医学へ応用する能力を高める。		
到達目標		
・腫瘍に関連した、組織の再生、修復、肥大、増生、化生、異形成、退形成の定義、良性腫瘍と悪性腫瘍ならびに上皮性腫瘍と非上皮性腫瘍の違い、腫瘍細胞の異型性と多形性の定義、局所における腫瘍の増殖、局所浸潤と転移の機構、腫瘍発生に関わる遺伝要因と外的因子の関連性、癌遺伝子、癌抑制遺伝子について説明できる。 ・循環障害に関連した、体液の成分や分布のバランスが壊れた病態である浮腫、ショックと血行動態の障害である出血、血栓、塞栓、梗塞の定義とそれぞれの原因と病態について説明できる。 ・遺伝子異常と疾患・発生発達異常に関連した、胚（生殖）細胞と体細胞、それぞれにおける遺伝子異常が引き起こす疾患の相違点、メンデル遺伝の様式と代表的な疾患、多因子遺伝が原因となる疾患、染色体異常による疾患、ミトコンドリア遺伝子の変異による疾患の特徴を理解し、個体の発達異常における遺伝因子と環境因子の関係を説明できる。 ・環境・栄養と疾患に関連した、環境、物理的・化学的外因による障害を説明できる。 ・栄養の過剰・欠乏による疾患発生のメカニズムを説明できる。		
成績評価方法および基準		

平常点(20%)、定期試験(80%)とし、これらの評価の合計得点が 60 点に満たない者を不可とする。 平常点は、実習で提出を求める小課題または小テストの合計得点とする。ただし、毎回課題または小テストを実施するとは限らない。小課題は、よく考えられていると判断できる場合に 4 点、内容が優れている場合に 3 点とし、課題内容と異なる回答の場合や理解できない回答の場合だけでなく、およそ与えられた時間内での回答として不適切であると判断できるものは 0 点とする。なお、特に優れた内容のものについてはさらに加点する場合がある。ただし、どれだけ加点されたとしても、その合計得点が平常点の上限(20%)を超えることはない。 定期試験は、到達目標の達成度を測定するために 10 から 20 問を出題する。問題は論述式の説明と選択式の解答を求める内容とする。この試験において少なくとも 50 %以上の得点に達しない者は到達目標を達成できていないと判断する。また、実習の出席率 100%をもって、定期試験の受験資格とする。否応なく欠席する場合は届け出が必要である。定期試験の受験には、全実習のスケッチ提出が必要である。再試験および追試験は、定期試験と同様の様式で出題する。				
事前・事後学習について				
授業で紹介する内容を効率よく身に着けるためにも、受講前に配布した資料を熟読し、内容を理解しておく必要がある。授業中の疑問点を整理し、次回授業までに解決しておくこと。独力で解決できない場合には、要点をまとめた上でオフィス・アワー内に担当教員に質問することを推奨する。 実習までに、事前に配布する資料に目を通し、参考書等を利用して、観察すべき対象とその手順について十分に予習しておくこと。また、本授業では学生が講義で得た知識を実習で確認し、知識を実践的に定着させることを重視する。講義と実習を一つのユニットとして組み合わせることで、学生は理論と実践を統合的に学び、病理学的思考を発展させる。				
教科書・参考文献等				
1 教科書 (1) Robbins and Kumar Basic Pathology 11th Edition (Elsevier) (2) Robbins and Cotran Pathologic Basis of Disease 10th Edition (Elsevier) (3) 解明 病理学: 病気のメカニズムを解く、第 4 版、(監修) 青笹克之 2 参考書 (アトラス) (1) 組織病理アトラス 第 6 版 (文光堂) (2) Robbins and Cotran Atlas of Pathology 4th edition (Elsevier)				
オフィス・アワー				
原田義規	准教授	水曜日	14:00-16:00	yoharada@koto.kpu-m.ac.jp
小形岳寛	学内講師	火曜日	14:00-16:00	ogatat@koto.kpu-m.ac.jp
中尾龍太	助教	火曜日	14:00-16:00	r-nakao@koto.kpu-m.ac.jp
中村明宏	助教	金曜日	14:00-16:00	nakam993@koto.kpu-m.ac.jp
望月健太郎	助教	月曜日	14:00-16:00	k-mochi@koto.kpu-m.ac.jp
学生へのメッセージ				
病理学の教育は、講義と実習の緊密な協調を特徴とする。講義により得た知識は実習によって確かめられ、知識として定着する。したがって、病理学の教育方法は講義・実習を一つのユニットとした形態をとる。状況により可能であればアクティブ・ラーニングやグループ・ディスカッション				

を取り入れたいと考えている。授業への積極的参加として、学生同士が積極的に交流し、議論することを推奨する。ただし、授業内のアンプロフェッショナル行為については、厳しく対応する(退室を命じる場合もある)ので注意されたい。

分子病態病理学

(単位数：2.35)

教育の目的と方針

病理学 (pathology) は、ギリシャ語の pathos (苦難、病気) と logos (理、ことわり、学問) が語源であり、ヒトの病気の成り立ちを学ぶ学問である。病理学総論 (前半) において、分子病態病理学では、①細胞傷害、②組織修復・再生・治癒、③免疫と炎症 [基礎]、④免疫と炎症 [疾患]、⑤代謝障害、⑥感染症を担当する。総論では、疾患が発生する基本原理を整理し、臓器横断的な病態の理解を目指す。また疾患に関する用語・概念の習得も重視する。歴史的に、病理学は肉眼形態学さらに組織形態学を基盤に発展してきた。近年の科学の進歩は、形態学的データに対して、多様な分子情報をも付与するようになってきている。病理学総論 (後半) では、「マルチオミックスと病理学」と題して、ゲノミクス、トランスクリプトミクス、プロテオミクス、メタボロミクスなど、生体内の機能を担う多様・多彩な物質の網羅的解析から、疾患がどのように解明されてきたのか? 第一線で活躍する病理学研究者より、最新の知見を取得する。

到達目標

1. 細胞傷害について、細胞基本構造とその障害による細胞変性・細胞死のメカニズムを説明することができる。
2. 組織修復・再生・治癒について、ストレスに対する細胞の適応と、代表的臓器の修復メカニズムについて説明することができる。
3. 免疫と炎症について、宿主免疫応答のメカニズムを分子レベルで説明することができる。
4. 免疫と炎症について、代表的疾患の発症メカニズムや病態を説明することができる。
5. 代謝障害について、脂質・糖質、アミロイド、無機質・色素など、多様な物質の代謝メカニズムと、その機能障害でおきる疾患について説明することができる。
6. 感染症について、代表的疾患をきたす病原体と、その感染がもたらす病態について説明することができる。
7. 病理学的研究について、近年、新たな疾患の理解にマルチオミックス解析がどのように貢献しているか、説明することができる。

成績評価方法および基準

定期試験は記述試験 (160 点: 64%) と実習試験 (90 点: 36%) で行い、合計 250 点の 150 点以上 (正答率 60%以上) をもって合格とする。定期試験の実施要項に変更がある場合は、事前に連絡する。

事前・事後学習について

特に、事前学習の必要はないが、余裕があれば下欄に記載する教科書を通読すること。
事後学習として、講義スライドの最後に提示する復習問題の解答を作成することが望ましい。

教科書・参考文献等

1. Robin's Pathology: Mechanisms of Human Disease, 8th ed., Strayer DS and Saffitz JE ed.
2. ロビンス基礎病理学、原著 8 版、(監訳) 豊國伸哉、高橋雅英
3. 解明 病理学: 病気のメカニズムを解く、第 4 版、(監修) 青笹克之

上記 2 は、1 の訳本である。3 は、1 と同様に疾患発生の機序の解説を意識した内容となっている。何れも写真やイラストが豊富で解りやすく、講義スライドもこれらの教科書を意識して作成されている。

オフィス・アワー

平日 9:00-17:00。内線 5849 に連絡し、秘書を通してアポイントメントをとること。

学生へのメッセージ

「なぜ、病気がおきるのだろうか？」という学生達の素朴な疑問に、真摯な気持ちで向き合います。病理学は、“基礎と臨床の架け橋”です。生物学、分子生物学、解剖学、生理学、生化学、微生物学、免疫学などの知識を統合して、病気の成り立ちと病態を理解し、臨床医学へと学習を進めてください。

科目名	病理学各論		
科目責任者	原田 義規（細胞分子機能病理学） 分子病態病理学部門		
単位数	2. 1	必修・選択区分	必修
開講時期・学年	後期・2 学年	授業形態	講義・実習

細胞分子機能病理学		(単位数：1. 4)
教育の目的と方針		
病理学は、患者の疾患を直接取り扱う臨床医学の基盤をなすものであり、患者の病態はつねに病理学的視野に立脚して理解されねばならない。疾患そのものが形態や機能を超えたものである以上、形態学にとどまることなく、分子の機能や動態を明らかにし得る多様な方法論を駆使し広い生物学的視野のもとで理解されねばならない。病理学の教育はこのような視点を重視し、病理学各論においても病理学総論と同様に、病理学の教育方法は講義・実習を一つのユニットとした形態をとる。本講義では、学生が病理学を通じて疾患の成り立ちを学び、分子・細胞・組織レベルでの構造・機能の異常を把握できる能力を磨く。病因（Etiology）と発症機序（Pathogenesis）を論理的に説明できる能力を磨く。病理学は臨床医学の基盤であり、学生は病理学的視点から患者の病態を適切に把握し、論理的に考察する力を磨く。さらに、組織標本や病理画像の観察を通じて、病理学的視点から病態を解析し、臨床医学へ応用する能力を高める。		
到達目標		
血管の病理に関して、血管の正常構造と機能、及び代表的な疾患（粥状動脈硬化症、高血圧、血管炎など）の病理組織とその形成メカニズムについて説明できる。 生殖器の病理に関連して、男性生殖器疾患として、前立腺（肥大症、腫瘍）、精巣腫瘍、女性生殖器疾患として、先天異常、卵巣（機能障害と不妊、腫瘍）、子宮（腫瘍、内膜症）、外陰、膣、骨盤内感染症などの病理組織とその形成メカニズムについて説明できる。 内分泌の病理に関連して、視床下部・下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患とカルシウム代謝異常、副腎皮質・髄質疾患、糖代謝異常、脂質代謝異常、タンパク質及び核酸代謝異常の病理所見とその形成メカニズムについて説明できる。		
成績評価方法および基準		
1. 実習の出席率 100%をもって、定期試験の受験資格とする。否応なく欠席する場合は届け出が必要である。定期試験の受験には、全実習のスケッチ提出が必要である。 2. 定期試験は、記述試験と実習試験で行い、6割以上の正答をもって合格とする。		
事前・事後学習について		
授業で紹介する内容を効率よく身に着けるためにも、受講前に配布した資料を読んでおく必要がある。また、事後学習として、講義スライドを中心に勉強すること。		
教科書・参考文献等		

1 教科書 (1) Robbins and Kumar Basic Pathology 11th Edition (Elsevier) (2) Robbins and Cotran Pathologic Basis of Disease 10th Edition (Elsevier) (3) 解明 病理学: 病気のメカニズムを解く、第4版、(監修) 青笹克之 2 参考書 (アトラス) (1) 組織病理アトラス 第6版 (文光堂) (2) Robbins and Cotran Atlas of Pathology 4th edition (Elsevier)
オフィス・アワー
原田義規 准教授 水曜日 14:00-16:00 yoharada@koto.kpu-m.ac.jp 小形岳寛 学内講師 火曜日 14:00-16:00 ogatat@koto.kpu-m.ac.jp
学生へのメッセージ
講義と実習がユニットとなった授業であり、状況により可能であればアクティブ・ラーニングやグループ・ディスカッションを取り入れたいと考えている。授業への積極的参加として、学生同士が積極的に交流し、議論することを推奨する。ただし、授業内のアンプロフェッショナル行為については、厳しく対応する(退室を命じる場合もある)ので注意されたい。

分子病態病理学 (単位数：0.7)
教育の目的と方針
病理学各論では、病理学総論で取得した”臓器横断的な病気の成り立ちの理解”を基盤に、それぞれの臓器に特徴的な腫瘍性・非腫瘍性疾患の成因や病態の理解を目指す。近年、腫瘍性病変については、腫瘍発生のメカニズムが分子レベルで解明され、分子標的治療の開発も著しく進歩した。各臓器における腫瘍の特徴を、ゲノム、エピゲノム、分子、細胞、組織レベルで明瞭化することは、臨床的治療方針の決定に極めて重要である。高齢化社会における腫瘍臨床において、病理診断が極めて重要であることを理解する。また、非腫瘍性病変では、自己免疫疾患や膠原病、変性疾患など、病理組織学的に疾患特異性が乏しく、臨床情報を含めて包括的に判断しなければならない疾患が少なくない。そんな中にも、肉芽腫や封入体形成など、疾患特徴的な病理所見が存在することを知り、臨床診断の一助になることを理解する。病理学各論では、疾患の臨床的知識も踏まえ、より実践的な臨床病理学の知識を取得する。病理学各論で取得した知識は、高学年でのクリニカルクラークシップにおける臨床実習へと発展させる。 尚、病理学各論では、腎臓・泌尿器、皮膚、造血器・リンパ系の病理について講義・実習が行われる。病理学各論に含まれない臓器は、臓器別ユニット講義にて講義・実習を実施する。
到達目標
1. 腎臓・泌尿器の病理について、糸球体疾患や間質性腎疾患などの非腫瘍性病変、腎臓や尿路などの腫瘍性病変について、説明することができる。 2. 皮膚の病理について、皮膚病理に特徴的な用語を理解し、代表的な腫瘍性・非腫瘍性病変について説明することができる。 3. 造血器・リンパ系の病理について、リンパ節の正常構造を理解し、リンパ腫組織型の分類と、遺伝子異常、組織像や臨床像などを説明することができる。また、代表的な白血病について説

明することができる。
成績評価方法および基準
定期試験は、病理学 3 教室合同にて行う。五択問題全 50 問とし、写真問題 20 問を含む。解答はマークシート方式とし、30 問以上の正解（正答率 60%）をもって合格とする。定期試験の実施要項に変更がある場合は、事前に連絡する。
事前・事後学習について
特に、事前学習の必要はないが、事後学習として、講義スライドを中心に勉強すること。
教科書・参考文献等
解明 病理学: 病気のメカニズムを解く、第 4 版、(監修) 青笹克之 本書の各論の項目は、イラストや写真が多くて読みやすい。 各臓器毎に、病理診断に関する教科書が多数発行しているが、内容が多岐にわたるので、講義内容を中心に勉強するとよい
オフィス・アワー
平日 9:00-17:00 に内線電話でアポイントメントをとること。 基礎医学学舎 7 階 721 号室 内線 5849
学生へのメッセージ
病理学各論では、ユニット講義と同様、該当する臓器の正常解剖、画像所見、各疾患の臨床的特徴をふまえて、病理学を学ぶことが望まれる。病理から臨床、臨床から病理へと双方向性に学習を進め、効率よく各疾患を理解するように期待する。

授業日程

病理学

第2学年前期

(講義及び実習)

日程	時 限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
9月16日(火)	3・4	細胞傷害	分子病態病理学	未定
9月18日(木)	3・4	免疫と炎症(基礎) I	分子病態病理学	藤本講師
9月19日(金)	1～3	腫瘍 I ・光学顕微鏡の基礎と使い方	細胞分子機能病理学	原田准教授/望月助教
9月22日(月)	1・2	組織修復・再生・治癒	分子病態病理学	未定
9月24日(水)	3・4	腫瘍 II	細胞分子機能病理学	原田准教授
9月25日(木)	3・4	免疫と炎症(基礎) II	分子病態病理学	藤本講師
9月26日(金)	1～3	腫瘍 III	細胞分子機能病理学	原田准教授

第2学年後期

(講義及び実習)

日程	時 限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
9月29日(月)	3・4	循環障害 I	細胞分子機能病理学	小形学内講師
9月30日(火)	1・2	代謝障害 I	分子病態病理学	未定
10月1日(水)	3・4	免疫と炎症(基礎) III	分子病態病理学	藤本講師
10月3日(金)	1～3	腫瘍 IV	細胞分子機能病理学	原田准教授
10月6日(月)	3・4	代謝障害 II	分子病態病理学	未定
10月7日(火)	1・2	循環障害 II	細胞分子機能病理学	小形学内講師
10月8日(水)	3・4	遺伝子異常と疾患・発生発達異常 I	細胞分子機能病理学	中尾助教
10月9日(木)	3・4	循環障害 III	細胞分子機能病理学	小形学内講師
10月10日(金)	1・2	免疫と炎症(疾患) I	分子病態病理学	丹藤助教
11月4日(火)	1・2	免疫と炎症(疾患) II	分子病態病理学	丹藤助教
11月5日(水)	3・4	遺伝子異常と疾患・発生発達異常 II	細胞分子機能病理学	中尾助教
11月6日(木)	3・4	感染症 I	分子病態病理学	丹藤助教
11月10日(月)	3・4	環境・栄養と疾患 I	細胞分子機能病理学	中尾助教
11月13日(木)	3・4	感染症 II	分子病態病理学	丹藤助教
11月14日(金)	1・2	環境・栄養と疾患 II	細胞分子機能病理学	中尾助教
11月17日(月)	1・2	病理総論：総括と発展 I	細胞分子機能病理学	中村助教
11月18日(火)	1・2	発展①：マルチオミックスと病理学 I	分子病態病理学	矢追助教
11月21日(金)	3	発展②：マルチオミックスと病理学 II	分子病態病理学	藤本講師
11月28日(金)	3	病理総論：総括と発展 II	細胞分子機能病理学	望月助教
12月4日(木)	3・4	病理総論：総括と発展 III	細胞分子機能病理学	教室員
12月10日(水)	1・2	発展③：マルチオミックスと病理学 III	分子病態病理学	矢追助教

(講義及び実習)

日程	時 限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
1月7日(水)	1・2	発展④：マルチオミックスと病理学Ⅳ	分子病態病理学	矢追助教
1月8日(木)	1・2	発展⑤：マルチオミックスと病理学Ⅴ	分子病態病理学	矢追助教
2月2日(月)	1・2	血管の病理Ⅰ	細胞分子機能病理学	小形学内講師
2月2日(月)	3・4	内分泌の病理Ⅰ	細胞分子機能病理学	小形学内講師
2月3日(火)	1・2	血管の病理Ⅱ	細胞分子機能病理学	小形学内講師
2月3日(火)	4	運動器の病理Ⅰ	人体病理学	小西病院教授
2月4日(水)	1・2	内分泌の病理Ⅱ	細胞分子機能病理学	小形学内講師
2月4日(水)	4	皮膚の病理Ⅰ	分子病態病理学	未定
2月5日(木)	1	腎・泌尿器の病理Ⅰ	分子病態病理学	丹藤助教
2月5日(木)	2	皮膚の病理Ⅱ	分子病態病理学	未定
2月5日(木)	3	腎・泌尿器の病理Ⅱ	分子病態病理学	丹藤助教
2月9日(月)	1・2	造血器・リンパ系の病理Ⅰ	分子病態病理学	未定
2月9日(月)	3・4	生殖器の病理Ⅰ	細胞分子機能病理学	原田准教授
2月10日(火)	1・2	造血器・リンパ系の病理Ⅱ	分子病態病理学	未定
2月10日(火)	3・4	乳腺の病理	臨床病理学	田中顕之助教
2月12日(木)	1・2	生殖器の病理Ⅱ	細胞分子機能病理学	原田准教授
2月13日(金)	1・2	運動器の病理Ⅱ	臨床病理学	小西客員講師
2月13日(金)	3・4	生殖器の病理Ⅲ	細胞分子機能病理学	原田准教授

科目名	薬理学		
科目責任者	榎村 敦詩 岡田 宣宏		
単位数	3. 9	必修・選択区分	必修
開講時期・学年	前／後期・2 学年	授業形態	講義・実習

教育の目的と方針

薬理学は、薬と生体の相互作用ならびにその結果起こる現象を解析する学問といえる。生体側の変化を学ぶ薬力学のみならず、作用する薬の変化を捉える薬物動態学を学び、生体と薬剤の相互作用を理解することにより、個々の現象を説明しその結果を予測できるようになる。

薬理学の基礎として、生化学、生理学、解剖学、ゲノム医科学など他分野で身につけることを活用し、薬物受容体を基本とする作用機序を分子レベルから理解し、薬物動態の各ステップを考察する。

また薬理学は臨床医学・医療に直結する学問である。薬を処方・投薬する際には、添付文書やインタビューフォームを活用して適応・副反応を把握し薬剤を選択するのみならず、用法・用量の決定まで要求される。対象となる疾患や病態についての専門知識も必要となるため、感染病態学・病理学・免疫学などの基礎医学や社会医学をはじめ、該当分野の臨床医学についての知識も積極的に修得する。

種々の臨床試験を経て安全かつ有効に使用できる医薬品の実現をゴールとする開発過程には、レギュラトリーサイエンスの視点が重要であること、多方面の人が関わり、多大な時間、多額の費用を要することを理解する。医薬品を適正使用できるように、薬物動態の中心を担う肝臓・腎臓・心臓の機能低下や、BMI など身体的特徴や代謝酵素活性などゲノム多様性をも含めた個体差に加えて、併存疾患や新生児・小児、妊産婦、高齢者など、個々の患者への対応力・応用力を培う。

医学を含む自然科学は凄まじい速度で進歩しており、薬理学も例外ではない。学内外の専門分野の研究者より、薬に関連する研究の最先端ならびに診療の最前線を見聞きし、医学の発展を肌で感じ、その進歩を現在の薬物治療に関係づけて理解することで、将来の創造的薬物療法の開発に応用する。

到達目標

1. 薬の知識を蓄積し、薬理学の基礎から応用まで説明できる。
2. 薬物の作用機序、有害作用、体内動態や、他の薬物との相互作用を分子レベルから説明できる（用量反応曲線・ADME など）。特に薬物の受容体結合・薬理作用の関連性及び作動薬・拮抗薬に応用できる。
3. 薬物の有害作用、薬物間・薬物動態的相互作用について概要を説明できる。
4. 主な抗腫瘍薬の適応、有害事象、投与時の注意事項、がん免疫に関する治療法について判断できる。
5. 分子標的薬・バイオ医薬の薬理作用と有害事象の概要を説明できる。
6. 抗微生物薬、糖尿病・内分泌作用薬、循環器作用薬、消化器作用薬、中枢神経作用薬、末梢神経作用薬、麻薬性鎮痛薬・鎮静薬、抗炎症薬、抗アレルギー薬、リウマチ・痛風・喘息治療薬などに関する治療法について概要を説明できる。

7. 医療の安全性に関する情報（薬剤等の副作用、薬害、医療過誤、やってはいけないこと、優れた取組事例等）を共有し、医療現場における薬物をめぐる問題とその対応について考察することで、事後に役立てるよう応用できる。
8. ブロックバスターと呼ばれる薬剤など画期的な新薬の登場は、医療・科学や時には社会全体に大きな影響を与える。科学的な発見から薬剤の開発過程、世に与えたインパクトまでを関連付けて説明できる。

成績評価方法および基準

1. 日常点

一部の講義では小テストや課題の提出を求めることがある。実習・演習では遅刻早退なく出席し、小テストやレポートの提出をもって出席とする。これらは日常点の対象とする。

2. 試験

定期試験は筆記試験により行う。講義のみならず、実習・演習の内容も出題の対象になる点に留意する。

3. 総合成績評価

日常点（10%）、定期試験（90%）とし、これらの評価の合計得点が 60 点に満たないものを不可とする。

事前・事後学習について

授業で効率良く身につけるためにも、講義内容に関する教科書や参考文献に目を通し、Web 情報や受講前に配布された資料などを活用することで、あらかじめ理解しておく。授業後には講義資料を改めて熟読し、更に理解を深めること。次回授業までに内容の疑問点を整理し、復習することで解決しておく。独力で解決できない場合には、要点をまとめた上でオフィス・アワー内に担当教員に質問することを推奨する。

1 回の講義につき予習・復習それぞれ最低 30 分程度は必要である。

実習・演習については、事前にその範囲に関するマニュアルや資料に目を通し、必要に応じて参考資料や Web 情報等を活用することで、当日行う実験や演習、シンポジウムなどの手順を予習し、考えうる質問事項などを考えておく。

教科書・参考文献等

教科書は特に指定しないが、NEW 薬理学など以下にあげる教科書・参考図書の最新版を用いることが望ましい。

- ・ NEW 薬理学（田中千賀子・加藤隆一・成宮周編、南江堂）
- ・ Katzung & Trevor's Pharmacology: Examination & Board Review (Lange)
(Anthony J Trevor, Bertram G Katzung, Marieke Kruidering-Hall; McGraw-Hill)
- ・ カッツング薬理学エッセンシャル（Katzung BG（著）・櫻井 隆（監訳） 丸善出版）
- ・ リップンコットシリーズ イラストレイテッド薬理学（Harvey RA（編）・柳澤輝行（監訳）丸善出版）
- ・ ラング・デール薬理学（渡邊直樹監訳、丸善出版）
- ・ ハーバード大学講義テキスト：臨床薬理学（Golan DE（編集）・渡邊裕司（監訳）丸善出版）
- ・ ローレンス 臨床薬理学（Bennett PN（著）・大橋京一（監訳） 西村書店）
- ・ ベッドサイドの薬理学（笹栗俊之・宮田篤郎編、丸善出版）

・FLASH 薬理学（丸山敬著、羊土社）
・シンプル薬理学 （野村 隆英 ・石川 直久（著） 南江堂）
＊薬理学図書室に蔵書があるので、内容の確認を希望する際は7階705を訪問してください。

オフィス・アワー

教室の連絡先：内線 5332、yakuri@koto.kpu-m.ac.jp

金曜日 12 時～14 時

楳村敦詩教授：aumemura@koto.kpu-m.ac.jp

岡田宣宏助教：okadan@koto.kpu-m.ac.jp

勝山真人研究教授：mkatsuya@koto.kpu-m.ac.jp

備考：個別指導または相談の際には事前にメールで予約すること。

学生へのメッセージ

一部の講義や演習はグループ学習とディスカッション、ミニシンポジウム形式で行う。平時の講義を含めて、できるだけ積極的に参加し、学生同士が交流し議論してほしい。

ただし社会人としてふさわしくない、授業内のアンプロフェッショナル行為については、厳しく対応する（退室を命じる場合もある）ので注意すること。講義は全出席、遅刻・早退しないことが原則である。

講義・実習の資料共有や変更など、メール連絡を重視している。一日一回はメールをチェックし、対応が必要な際は即時（遅くとも一両日中に）返信すること。

講義だけでなく学生生活全般について、責任を持ち節度ある対応・行動すること。

Ⅲ 授業日程

薬理学

第2学年前期

(講義)

日程	時限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
9月17日(水)	1	総論 1	薬理学	煤村教授
9月25日(木)	1	総論 2	薬理学	煤村教授

第2学年後期

(講義)

日程	時限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
9月25日(木)	2	総論 3	薬理学	煤村教授
10月2日(木)	3	末梢神経作用薬 1 (アドレナリン作用薬)	薬理学	薬理学教室員
10月2日(木)	4	末梢神経作用薬 2 (抗アドレナリン作用薬)	薬理学	薬理学教室員
10月9日(木)	1	末梢神経作用薬 3 (コリン作用薬・抗コリン作用薬)	薬理学	薬理学教室員
10月9日(木)	2	消化器作用薬 1 (上部消化管)	薬理学	煤村教授
11月6日(木)	1	消化器作用薬 2 (下部消化管・IBD)	薬理学	煤村教授
11月6日(木)	2	消化器作用薬 3 (肝胆膵、ウイルス)	薬理学	煤村教授
11月7日(金)	1	抗アレルギー薬	中研RI	勝山研究教授
11月7日(金)	2	抗炎症薬 (ステロイド・非ステロイド性抗炎症薬)	中研RI	勝山研究教授
11月7日(金)	3	リウマチ・痛風・喘息に対する治療薬	中研RI	勝山研究教授
11月14日(金)	3	※実習オリエンテーション	薬理学	薬理学教室員
11月18日(火)	3	循環器作用薬 1 (降圧薬・脂質異常症治療薬)	薬理学	岡田助教
11月18日(火)	4	循環器作用薬 2 (不整脈・利尿薬・腎臓)	薬理学	岡田助教
11月19日(水)	3	循環器作用薬 3 (虚血性心疾患と心不全)	循環器・ 腎臓内科学	小原客員講師
11月19日(水)	4	化学療法薬 1 (抗腫瘍薬)	薬理学	岡田助教
11月20日(木)	3	化学療法薬 2 (抗腫瘍薬)	薬理学	煤村教授
11月20日(木)	4	化学療法薬 3 (抗感染症薬)	薬理学	岡田助教
11月21日(金)	1	臨床薬理学序論 (薬物相互作用・他)	薬理学	薬理学教室員
11月21日(金)	2	糖尿病治療薬	薬理学	山崎客員講師
11月25日(火)	1	中枢神経作用薬 1 (抗不安薬・催眠薬)	薬理学	衣斐客員講師
11月25日(火)	2	中枢神経作用薬 2 (麻薬性鎮痛薬・麻酔薬・認知症薬)	薬理学	衣斐客員講師
11月26日(水)	1	中枢神経作用薬 3 (抗精神病薬)	精神医学	綾仁講師
11月26日(水)	2	中枢神経作用薬 4 (気分障害治療薬・パーキンソン病)	薬理学	学生発表
11月28日(金)	1	病態分子薬理学 1 研究紹介	薬理学	薬理学教室員
11月28日(金)	2	病態分子薬理学 2 専門分野	薬理学	外部講師

第2学年後期

(実習・演習)

日程	時 限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
12月1日(月)	1・2	実習・演習	薬理学	薬理学教室員
12月2日(火)	1・2	実習・演習	薬理学	薬理学教室員
12月3日(水)	1・2	実習・演習	薬理学	薬理学教室員
12月3日(水)	3・4	実習・演習	薬理学	薬理学教室員
12月5日(金)	1・2	実習・演習	薬理学	薬理学教室員
12月8日(月)	1・2	実習・演習	薬理学	薬理学教室員
12月15日(月)	3・4	実習・演習	薬理学	薬理学教室員
12月16日(火)	3・4	実習・演習	薬理学	薬理学教室員
12月17日(水)	3・4	実習・演習	薬理学	薬理学教室員
12月18日(木)	1・2	実習・演習	薬理学	薬理学教室員
12月18日(木)	3・4	実習・演習	薬理学	薬理学教室員
12月19日(金)	1・2	実習・演習	薬理学	薬理学教室員

科目名	保健・予防医学		
科目責任者	高嶋 直敬（公衆保健科学部門） 武藤 倫弘（予防医学部門）		
単位数	5. 2	必修・選択区分	必修
開講時期・学年	前期・4 学年	授業形態	講義・実習

公衆保健科学部門		(単位数：1. 7)
教育の目的と方針		
公衆保健科学の教育では、公衆衛生学、疫学的重要性を自ら体得し、将来医師としていかなる立場におかれても、常に公衆衛生学の実践的指導者として活躍し得ることを目的とする。公衆衛生学は、集団に対して健康増進や疾病予防の働きかけを行い、生命/健康寿命の延長を目的とし、それに必要な原理を究め、この原理を実際に適用する方法を考える学問である。公衆衛生学は、人の集団を対象として健康課題の解決を図る実践的な学問であり、疫学は公衆衛生学の基礎となる学問のひとつである。 講義を通して、臨床判断や社会医学/公衆衛生学の基盤となる疫学、地域医療、京都府の地域特性に関する医療的課題、ヘルスプロモーションや社会の制度、災害医療等を理解し、社会における医療の実践や地域医療について実践できる基礎的能力を身につけることを目的とする。		
到達目標		
1. 公衆衛生の概念を理解し、説明できる 2. 予防の段階(一、二、三次予防)とそれらの戦略を理解し、説明できる 3. 公衆衛生活動の意義を理解し、求められる役割について述べることができる 4. 生存権等の健康に関する基本的人権と社会保障の意義と概要を理解し、説明できる 5. 保健所、市町村保健センター、地方衛生研究所等の役割を理解し、説明できる 6. 栄養、身体活動、休養等の健康増進施策の意義と概要、法制度を理解し、説明できる 7. 地域保健に関連する基本的な制度や法律を理解し、説明できる 8. 精神保健及び精神障害者福祉の意義及び関連する制度や法律を理解し、説明できる 9. 成育基本法、母子保健法、母体保護法、児童福祉法、児童虐待防止法等、母子保健施策の意義と概要を理解し、説明できる 10. 学校保健安全法、学校医の役割、学校感染症等、学校保健の意義と概要を理解し、説明できる 11. 健康危機の概念と種類、それらへの対応について理解し、説明できる 12. 健康危機管理に関連する基本的な制度や法律を理解し、説明できる 13. 疫学について以下の内容を理解し、説明できる a. 主な人口統計、疾病・障害の分類・統計 b. 平均寿命、健康寿命及び主な疫学指標 c. 主なバイアスや交絡を例示できる d. 観察研究及び介入研究等の疫学の研究デザイン 14. 研究倫理の以下の内容について理解し、説明できる a. 捏造、改ざん、盗用等を含め研究不正の類型		

b. 人を対象とした研究に関するルールの概要 c. 利益相反に関するルールの概要 15. 経済が医療に与える影響について理解し、説明できる 16. 医療資源を公平に分配するとはどういうことか考え、自らの意見を述べることができる
成績評価方法および基準
記述試験 (70%)、授業中に実施する確認テストや授業中の態度などによる平常点 (30%)にとし、これらの評価の合計が満点の 60%に満たないものを不可とする。 平常点は、授業で提出を求める小課題、確認テストに加えて、授業中の質疑応答を加点する。 定期試験は選択または記述式の知識の理解の有無を問う問題と、論述式の講義内容を理解し考えを述べる問題から構成する。 再試験及び追試験も原則として定期試験と同様の様式で行うが、同様の内容の口頭試問及び課題提出をもって変えることがある。 公衆保健科学としての最終評価は、講義(定期試験及び平常点)評価(80%)、実習評価(20%)により総合的に評価する。
事前・事後学習について
授業開始前に教科書・事前配布資料(ある場合)などを 1 時間程度、学習し、質問の用意をする。 講義の終了後、講義内容を 1 時間程度復習し、整理しておく。
教科書・参考文献等
シンプル衛生公衆衛生学 2025 (辻一郎監修、南江堂、2,600 円＋税) はじめて学ぶ やさしい疫学 改訂第 4 版 (日本疫学会監修、南江堂、2,500 円＋税) 国民衛生の動向 2024/2025 (厚生労働統計協会、2,700 円＋税)
オフィス・アワー
連絡先・内線 5789, e-mail: kousyu@koto.kpu-m.ac.jp オフィス・アワー 水曜日 14:00-16:00 (事前にメールまたは電話で連絡ください) ・高嶋直敬教授 n-taka@koto.kpu-m.ac.jp
学生へのメッセージ
学生同士が積極的に議論することを推奨するが、講義中のアンプロフェッショナルな行為については平常点を減点する。また他の学生や講義の進行の妨げになる行為を認めた場合は、退室を命ずる場合もあるので注意すること。

予防医学部門 (単位数：1.8)
教育の目的と方針
学生諸君が予防医学の重要性を自ら体得し、将来医師としていかなる立場におかれても、常に予防医学の実践的指導者として活躍し得ることを目的とする。衛生学・公衆衛生学はともに、①疾病を予防すること、②積極的に健康を増進すること、③寿命を延長することを目的とし、以上の目的達

成に必要な原理を究め、この原理を実際に適用する方法を考える学問である。公衆衛生学は、人の集団を対象として健康課題の解決を図る実践的な学問であり、疫学は公衆衛生学の基礎となる学問のひとつである。さらに、現在の医療に欠けている「包括的医療」あるいは「全人医療」的見地からも理解を深めることを目的としている。

到達目標

1. 公衆衛生学と予防医学（先制医療）の重要性を説明することができる。
2. 医療が希少資源であることが理解でき、将来の医療のあり方を推論することができる。
3. がんの全体像（主な傾向や代表的な順位）を把握し、説明することができる
4. がんの実態把握がどのようにがん対策（1次予防、1.5次予防、2次予防、3次予防）に役立つかを述べることができる。
5. カウンセリング、公共サービス、政策、健康教育といった選択を適切に府民に提示できる。
6. 医療と社会とを関連付けることができる。
7. 健康に関する基本的人権と社会保障の意義と内容について説明できる。
8. 医療保険、介護保険、年金保険を含む社会保険の仕組みと問題点を把握し、説明できる。
9. 経済が医療に与える影響を把握し、将来の医療体制のあり方を推論することができる。
10. 世界各国の医療体制及び医療制度について概要を把握し、問題点について自らの意見を述べるができる。
11. 遺伝性腫瘍の発がんの遺伝学的機序や臨床的特徴を理解し、散发性腫瘍との違いを説明することができる。
12. 遺伝性腫瘍の医療における衛生学の役割や責務について説明することができる。
13. 遺伝性腫瘍に対する包括的な理解を通じ、他の遺伝性疾患や多因子疾患における病因理解に応用することができる。
14. 発がんにおける環境要因について説明することができる。
15. 職業性発がん物質と発がんへの関連について説明することができる。
16. 職業がんの医療における衛生学や産業医学の役割や責務について説明することができる。
17. 職業性発がんに関する包括的な理解を深めることで、他の多因子疾患における遺伝的要因と環境要因の相互作用について推論できるようになる。
18. 環境問題や環境汚染物質、大気汚染物質が人体に及ぼす影響とそのメカニズム等について説明できる。
19. 日本における水質管理や廃棄物処理について説明できる。
20. 研究不正を列举し、説明できる。
21. 生活習慣病としての認知症、遺伝子疾患としての認知症を説明できる。
22. 酸化ストレス、もしくは炎症反応による生体分子や生体機能への影響を説明できる。
23. 医療面接における基本的コミュニケーション技法を用いることができる。
24. 病歴などの患者背景を聴き取り、情報を取捨選択し整理できる。
25. 国際的に取り組む必要のある健康課題について、歴史・社会的背景を踏まえて、概要と具体的対策について把握している。
26. 産業保健の意義、労働衛生の3管理、リスクアセスメントについて基本的な考え方を述べることができる。
27. 産業医の具体的な職務について把握し、説明することができる。
28. 観察研究及び介入研究等の研究デザインの違いによる長所及び短所を説明できる。

成績評価方法および基準
評価方法 試験の受験資格は本学の履修規定に従う。 評価は記述試験 100%で評価し、60%未満の場合は不合格とする。 定期試験は、到達目標の達成度を測定するために、14 から 17 問を出題する。問題は、選択肢式と論述式である。公衆衛生学と予防医学の知識を持たない者にとっても理解できる文章ならびに説明であることを求める。 予防医学としての最終評価は、定期試験評価（80%）、実習評価(20%)により総合的に評価する。
事前・事後学習について
講義は事後学習が重要である。講義においてはスライドの初めに到達目標を示し、最後のスライドにまとめを示している。最後のスライドは講義で得た知識の整理のために提示しているものである。多くの講義スライドは事前に配布するので、スライドの初めと最後を一読してから講義に臨むとさらに理解が進む。市販の問題集(国試過去問、CBT 対策)で該当する箇所を解くなどの復習が1回の授業につき 30 分程度は必要と考える。
教科書・参考文献等
教科書は指定しない 以下を参考文献とする シンプル衛生公衆衛生学 2025（辻一郎監修、南江堂、2,600 円＋税） 国民衛生の動向 2024/2025 （厚生労働統計協会、2,970 円） 基礎から学ぶ 楽しい疫学 （中村好一 著、医学書院、3,200 円＋税） 遺伝学的検査とわかりやすい疾患の説明 （山下直秀 編著、幻冬舎、3,500 円＋税）
オフィス・アワー
・武藤 倫弘 教授 水曜日 14:00-16:00 mimutoh@koto.kpu-m.ac.jp ・その他連絡先 保健・予防医学教室 予防医学部門 受付 内線 5338, e-mail: prevpub@koto.kpu-m.ac.jp
学生へのメッセージ
公衆衛生学は実学教育そのものであり、卒後にその重要性に気づく学問分野である。社会（地域医療）の一員である医師は、人間社会が疾病に与える影響の大きさを実感することから「自ら社会課題を見つけ、課題を解決するための方策を練り、解決できるまでの具体的行程を提示する」ための企画能力と実行能力が必要だと気づく。そのため学部学生の際に、講義・実習・課外活動・学生自治活動を通じて必要な基盤を作って欲しい。将来、「それは本当に社会的ニーズのある課題なのか?」、「独善的興味に偏っていないか?」と常に自問自答し、ニーズ調査を基盤とした3適（適時／適所／適切）な情報発信、そして介入を伴う＜普及と実装研究＞を行っていくために、今何を学ぶべきかを考えつつ講義と実習に臨んで欲しい。 また、講義中のアンプロフェッショナル行為については退室を命じ、その講義は欠席扱いとする。

保健・予防医学実習 (単位数：1. 7)
教育の目的と方針
学生諸君が予防医学、公衆衛生学の重要性を自ら体得し、将来医師としていかなる立場におかれても、常に予防医学、公衆衛生学の実践的指導者として活躍し得るための素養を身に着けることを目的とする。衛生学・公衆衛生学はともに、①疾病を予防すること、②積極的に健康を増進すること、③寿命を延長することを目的とし、以上の目的達成に必要な原理を究め、この原理を実際に適用する方法を考える学問である。公衆衛生学は、人の集団を対象として健康課題の解決を図る実践的な学問であり、疫学は公衆衛生学の基礎となる学問のひとつである。さらに、現在の医療に欠けている「包括的医療」あるいは「全人医療」的見地からも理解を深めることを目的としている。 実習では、地域住民の疾病予防や健康増進に貢献できる能力を身に着けること、京都府の地域医療システム、地域特性に由来する健康問題の現状や課題について理解し、解決に向かって取り組むことができる能力を身に着けることを目的とする。
到達目標
・公衆衛生活動の意義を理解し求められる役割について自らの考えを述べることができる。 ・自他の役割や思考を踏まえ、学友と協働して目的を達成することができる。 ・発表の場（スライドやレポートなど）に応じて、正確でわかり易く情報を伝えることができる。 ・氾濫している疾患予防に関する情報から、エビデンスの高い情報を適切に選択できる。 ・科学的・論理的思考法を鍛えるために、データをもとに教員と議論できる。 ・保健所、地方衛生研究所等の役割を理解し、説明することができる。 ・公衆衛生医師の役割と重要性を理解し、説明することができる。 ・医療提供体制と医師の働き方について自身の考えを述べることができる。
成績評価方法および基準
評価方法：実習報告書 40%、実習発表会の発表内容 10%、実習態度 50%によって評価する。 評価基準：到達目標について理解できているか。 単位認定：上記評価を総合し、60%以上を単位認定とする。 予防医学としての最終評価は、定期試験評価(80%)、実習評価(20%)により総合的に判断を行う。 公衆保健科学としての最終評価は、講義(定期試験及び平常点)評価(80%)、実習評価(20%)により総合的に評価する。
事前・事後学習について
保健所の役割および実習先で取り扱う内容を理解し、社会課題を明らかにするための事前テーマと質問内容を設定した上で実習先訪問に臨む。(例：結核予防対策、介護保険制度、精神保健、障害者保健、高齢者保健、地域保健、地域医療等)
教科書・参考文献等
教科書は指定しない 以下を参考文献とする

シンプル衛生公衆衛生学 2025（辻一郎監修、南江堂、2,600 円＋税）
 はじめて学ぶ やさしい疫学 改訂第 4 版（日本疫学会監修、南江堂、2,500 円＋税）
 国民衛生の動向 2024/2025（厚生労働統計協会、2,700 円＋税）
 研修医・コメディカルスタッフのための 保健所研修ノート 第 4 版(安武繁 著、医歯薬出版、2017
 年、定価 4,180 円、ISBN978-4-263-73179-6)

オフィス・アワー

保健・予防医学教室 予防医学部門
 ・武藤倫弘教授 水曜日 14:00-16:00 mimutoh@koto.kpu-m.ac.jp
 ・その他連絡先 受付 内線 5338, e-mail: prevpub@koto.kpu-m.ac.jp
 保健・予防医学教室 公衆保健科学部門
 水曜日 14:00-16:00（事前にメールまたは電話で連絡ください）
 内線 5789, e-mail: syakaii@koto.kpu-m.ac.jp
 ・高嶋直敬教授 n-taka@koto.kpu-m.ac.jp

学生へのメッセージ

学外施設の実習では、特にアンプロフェッショナル行為については厳しく対応します。
 実習では、学内で生活習慣病などの疾患に対する予防対策について、情報収集、立案、プレゼンテーション作成などを実施する複数のグループと、京都府の各保健所や保健環境研究所などで実習を行う複数のグループに分かれて行います。

授業日程

保健・予防医学

第4学年前期

(講義)

日程	時限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
4月7日(月)	2	分子予防医学総論	予防医学	武藤教授
4月7日(月)	3	社会医学と疫学総論	公衆保健科学	高嶋教授
4月7日(月)	4	環境保健	予防医学	飯泉学内講師
4月8日(火)	2	世界の結核・日本の結核	予防医学	下内客員講師
4月10日(木)	2	介入疫学の実例（大腸がんの予防）	予防医学	石川特任教授
4月10日(木)	3	保健統計	公衆保健科学	松井学内講師
4月11日(金)	2	疫学で用いられる指標	公衆保健科学	高嶋教授
4月11日(金)	3	分子環境医学	予防医学	曾和特任教授
4月14日(月)	2	放射線の長期健康影響に関する疫学研究	保健管理センター	小笹特任教授
4月14日(月)	3	食・腸内環境と健康長寿	予防医学	内藤特任教授
4月14日(月)	4	行政医学序説 ～公衆衛生医師の職務とキャリア～	京都府保健医療対策監	奥田特任教授
4月15日(火)	2	疫学研究デザイン	公衆保健科学	小原講師
4月17日(木)	2	地域保健と医療体制	公衆保健科学	長光助教
4月17日(木)	3	母子保健	看護学科	志澤教授
4月18日(金)	2	医の倫理 -研究倫理編-	公衆保健科学	松井学内講師
4月21日(月)	2	スクリーニング	公衆保健科学	担当未定
4月21日(月)	3	健康の社会的決定要因	予防医学	曾和特任教授
4月21日(月)	4	労働衛生	予防医学	宮上客員講師
4月22日(火)	2	生活習慣病の予防 基礎から臨床へ	予防医学	増田助教
4月24日(木)	2	遺伝性腫瘍の分子遺伝学からがんの本質的理解へ	予防医学	渡邊講師
4月25日(金)	2	がんの疫学	予防医学	武藤教授
4月25日(金)	3	感染症対策	公衆保健科学	渡邊助教
5月19日(月)	2	1次、1.5次、2次、3次予防	予防医学	武藤教授
5月19日(月)	3	老人保健、介護保険と老年疾患の疫学	公衆保健科学	栗山客員教授
5月19日(月)	4	健康づくりと生活習慣病	公衆保健科学	高嶋教授
5月20日(火)	2	食生活と健康	公衆保健科学	尾崎客員教授
5月20日(火)	3	医療面接 (1)	予防医学	藤崎客員講師
5月20日(火)	4	医療面接 (2)	予防医学	藤崎客員講師
5月22日(木)	2	学校保健と精神保健	公衆保健科学	小原講師
5月22日(木)	3	医療保険制度	予防医学	宮本准教授
5月26日(月)	2	行動変容と環境整備	予防医学	武藤教授
5月29日(木)	2	口腔保健	公衆保健科学	松井学内講師
5月29日(木)	3	難病対策、災害時の公衆衛生活動	公衆保健科学	長光助教
5月30日(金)	3	国際医療比較	予防医学	宮本准教授
5月30日(金)	4	がんと環境要因（職業性発がんを中心に）	予防医学	渡邊講師

日程	時 限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
4月8日(火)	3・4	実習オリエンテーション	予防医学 公衆保健科学	教室員全員
4月15日(火)	3	文献検索入門		
4月15日(火)	4	実習オリエンテーション(2)		
5月8日(木)	1～4			
5月9日(金)	1～4			
5月12日(月)	1～4	実 習		
5月13日(火)	1～4	(レポート提出期限：2025年5月30日)		
5月15日(木)	1～4			
5月16日(金)	1～4			
5月27日(火)	1～4	実習報告会(公衆保健科学、予防医学担当)		
5月29日(木)	4・5	公衆衛生学演習		

科目名	法医学		
科目責任者	池谷 博		
単位数	2	必修・選択区分	必修
開講時期・学年	前期・4 学年	授業形態	講義

教育の目的と方針

法医学は「社会上の法律的諸問題について医学的検討を行う社会医学の一部門」である。法医学では法医学解剖による死因究明を通じて人権擁護、社会の治安維持、公共福祉に貢献している。現代社会は、生活様式の変化、高齢化、疾病構造の変化、世界規模での人々の往来、新たな感染症の流行など医療衛生環境が常に激変しており、死亡の様態も複雑多様化している。このような変化に対応するためには、実務の中で見出した課題を研究し、研究成果（新しい法医学診断法の確立など）を社会に還元していくことが重要である。

本講義では、まず医師として人の死に対応（異状死届出、死亡診断書（死体検案書）作成等）できるよう、基本的な医学的知識を習得し、医療および死因究明に関する法律や制度を理解する。さらに、虐待、犯罪、身元不明者の個人識別などの法医学的問題や、法医学研究を通じて、医学研究の重要性を理解する。

到達目標

1. 人の死を診断できる。
2. 死体検案から異状死の対応を適切に行うことができる。
3. 死体現象から死亡時期を推定することができる。
4. 外因による死亡を説明することができる。
5. 死因を推定できる。
6. 死亡診断書（死体検案書）を作成できる。
7. 個人識別の方法について説明できる。
8. 虐待が疑われる児童に適切に対応できる。
9. 基本的な薬毒物の種類や作用機序について説明できる。
10. 日本の死因究明制度について説明できる。

成績評価方法および基準

- 1) 定期試験 60% 2) 講義後の小テスト（不定期） 40 %
各項目の合計が 60% 以上の場合に合格とし、その得点をこの科目の評価とする。

事前・事後学習について

以下に指定する教科書の該当範囲を次回の講義までに熟読し、概要を把握しておくこと。講義後にも改めて熟読し、更なる理解を深めること。1 回の講義につき予習・復習それぞれ最低 30 分程度は必要である。

教科書・参考文献等

教科書

1. 池谷博、櫻田宏一（2018）新しい検案・解剖マニュアル 金芳堂
ISBN978-4-7653-1759-7

参考文献

1. P. Saukko, B. Knight (2016) Knight's Forensic Pathology 4th ed. CRC Press
ISBN978-0-340-97253-3
2. 高取健彦 監修 (2019) NEW エッセンシャル法医学 第6版 医歯薬出版
ISBN978-4-263-73189-5
3. 永野耐造、若杉長英 編 (1998) 現代の法医学 第3版増補 金原出版
ISBN978-4-307-03047-2
4. 久々湊晴夫、旗手俊彦 編 (2011) はじめての医事法 第2版 成文堂
ISBN978-4-7923-2610-4

オフィス・アワー

教授 池谷 博 (いけがや ひろし) : ikegaya@koto.kpu-m.ac.jp

准教授 新谷 香 (しんたに かおり) kaori@koto.kpu-m.ac.jp

教室代表 (内線) 5343 hoi@koto.kpu-m.ac.jp

曜日・時間帯: 平日の午前9時より午後5時まで

学生へのメッセージ

授業は出席番号順に着席すること。出席は授業開始時に確認する。

法医学は社会における法と秩序の維持に資する学問である。法的だけでなく倫理的に不適当な行動(授業中の入退室や、私語など)は慎むべきである。

定期試験では、指定教科書の持ち込みを許可する場合がある。

授業日程

法医学

第4学年前期

(講義)

日程	時 限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
4月10日(木)	1	法医学総論Ⅰ (死体の取扱い・診断書)	法医学	池 谷 教 授
4月11日(金)	4	法医学総論Ⅱ (生活反応・死因論)	法医学	池 谷 教 授
4月11日(金)	5	法医学総論Ⅲ (死体現象)	法医学	近藤学内講師
4月18日(金)	1	損傷Ⅰ (鋭器損傷)	法医学	近藤学内講師
4月18日(金)	3	損傷Ⅱ (鈍器損傷, 銃器損傷)	法医学	近藤学内講師
4月18日(金)	4	特講① 死因究明制度	法医学	石原客員教授
4月18日(金)	5	損傷Ⅲ (臓器損傷)	法医学	近藤学内講師
4月24日(木)	1	窒息Ⅰ (縊死, 絞死)	法医学	河 本 助 教
4月25日(金)	4	特講② 犯罪と医学研究	法医学	櫻田客員教授
4月25日(金)	5	窒息Ⅱ (扼死, 溺死)	法医学	河 本 助 教
5月20日(火)	1	特講③ 死因究明と画像診断	法医学	岩瀬客員教授
5月20日(火)	5	特講④ 交通外傷	法医学	一杉客員教授
5月23日(金)	2	異常温度による外因死, その他の外因死	法医学	河 本 助 教
5月23日(金)	3	幼児虐待と嬰兒殺	法医学	近藤学内講師
5月23日(金)	4	特講⑤ 骨による個人識別	法医学	宮坂客員教授
5月23日(金)	5	法歯学	法医学	河 本 助 教
5月26日(月)	3	中毒学概論	法医学	新谷准教授
5月26日(月)	4	中毒学各論	法医学	新谷准教授
5月28日(水)	5	特講⑥ 臨床法医学	法医学	猪口客員講師
5月30日(金)	2	特講⑦ DNA型鑑定	法医学	関口客員教授

科目名	内科学		
科目責任者	福井 道明（内分泌・免疫内科学） 玉垣 圭一（腎臓内科学） 黒田 純也（血液内科学）		
単位数	2. 5	必修・選択区分	必修
開講時期・学年	前期・3 学年	授業形態	講義

教育の目的と方針

【内分泌・免疫内科学】

臨床医学を学ぶ者にとって、内科学はその全ての基礎となる。したがって、内科学全般を系統的に学習することは、医師を目指すすべての者にとって必須である。これまでに習得した基礎科目の知識を十分に活用して、内分泌・免疫内科学を理解し、正しい知識を身につけることで、臨床医学全般につながる基本的な能力を向上させることが可能となる。そのため、系統講義を通じて理解に必要な基礎医学の知識を整理し、様々な角度から臨床医学の理解を深める。授業に能動的に取り組み、自ら最新の雑誌や論文を検索し、情報を正しく選択して習得することを目標とする。

【腎臓内科学】

腎臓内科は、生命維持に直結する臓器機能を扱う内科専門領域であり、論理的な診断・治療が必要とされる。医師として将来どの分野を専攻する場合でも、腎臓内科の基礎知識は必要となる。

腎臓病総論では、腎臓病の分類、症候、検査などについて系統的に学ぶ。また、慢性腎臓病（Chronic Kidney Disease；CKD）と急性腎障害（Acute Kidney Injury；AKI）の概念や、腎不全・腎代替療法（透析療法、腎移植）について理解を深める。原発性糸球体疾患では、臨床診断名と臨床症候分類・組織学的分類との関係を整理し、個々の疾患について理解する。さらに、腎臓病は全身疾患に伴って起こることが多く、それぞれの原因疾患の病態、合併する腎障害の特徴・治療などを習得する。

【血液内科学】

内科学（血液内科）の講義では血液内科学の対象となる白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群など各種の造血器悪性腫瘍、ならびに各種の貧血、再生不良性貧血や血小板減少性紫斑病、凝固異常症などの難治非腫瘍性血液疾患の病態、診断、治療について理解を深めることを目的とする。

近年の分子生物学、細胞遺伝学、腫瘍免疫学の進歩に伴い、血液内科分野では分子標的治療薬やモノクローナル抗体治療薬、二重特異性抗体治療薬が続々と開発されたほか、多岐にわたる造血幹細胞移植療法技術の向上、CAR-T 細胞療法といった革新的な細胞治療の開発も含め、治療は日々、進歩し、治療成績も向上の一途を辿っている。講義により基本的な血液疾患の病態、鑑別のための検査法、原理、一般的な治療方針についても理解するとともに、最新の知識・情報を習得する。

到達目標

【内分泌・免疫内科学】

- 1 内分泌・糖尿病・代謝内科学
 - (1) 基礎
 - ①内分泌臓器の意義を推論できる。
 - ②内分泌臓器の構造について判断できる。
 - ③ホルモンの分泌生理・作用機序について判断できる。
 - (2) 各論
 - ①各種内分泌疾患、糖尿病の病態生理を判断できる。
 - ②各種内分泌疾患、糖尿病の臨床症状を推論できる。
 - ③生活習慣病の概念、取り組みを判断できる。
 - ④患者心理を推論できる。
- 2 膠原病・リウマチ・アレルギー内科学
 - (1) 免疫・炎症・アレルギー反応を背景とした免疫疾患の基本病態を理解できる。
 - (2) 膠原病・アレルギー疾患の種類を分類し列挙できる。
 - (3) 免疫疾患に伴う様々な全身症状(症候)と診断基準を説明できる。
 - (4) 上記に加え、各種免疫疾患、画像、検査所見の意味を理解し、説明できる。
 - (5) 抗アレルギー薬、ステロイド製剤、免疫抑制剤、分子標的薬などの作用機序を理解し、これらを用いた疾患の治療について説明できる。

【腎臓内科学】

1. 総論
 - (1) 腎疾患の主要な臨床症状を説明できる。
 - (2) 腎疾患に関する検査を応用できる。
 - (3) 病型分類を判断できる。
2. 各論
 - (1) 主要な腎疾患について
 - ①疫学を記述できる。
 - ②病態を説明できる。
 - ③病理所見を含めて診断を推論できる。
 - ④治療の選択肢を述べられる。
 - ⑤予後を予測できる。
 - (2) 腎不全について
 - ①症状を説明できる。
 - ②腎代替療法の種類と特性について記述できる。
 - (3) 水電解質について
 - ①病態生理を説明できる。
 - ②検査異常の診断を推論できる。

【血液内科学】 (1) 血液疾患の病態生理、臨床症状を判断できる。 (2) 血液疾患診断のために必要な検査法、原理について判断できる。 (3) 血液疾患に対する標準的治療および救済治療について判断できる。 (4) 抗癌剤、分子標的治療薬の種類、適応疾患、効果、有害事象につき判断できる。 (5) 造血幹細胞移植・細胞治療の適応、治療法、合併症について判断できる。
成績評価方法および基準
【内分泌・免疫内科学】【腎臓内科学】【血液内科学】 定期試験（100%） 系統講義終了後に、3 教室合同でマークシート方式による総括試験を行い、試験結果が 60%以上であれば合格とする。
事前・事後学習について
【内分泌・免疫内科学】 事前学習（予習） - 基礎医学の講義で学んだ知識を整理復習し、授業の理解に役立てる。 - 授業で紹介する内容を効率良く身につけるためにも、受講前に配布した資料を熟読し、内容を理解しておく必要がある。 事後学習（復習） - 配布した講義資料を用いて授業内容の要点の復習を行い整理する。 - 授業内容で理解が足りなかった内容について最新の雑誌や論文を検索し、要点をまとめた上で必要であれば担当教官に質問することを推奨する。
【腎臓内科学】 講義は時間が限られているため、配布される資料には前もって目を通しておくことが望ましい。 講義の終了後には資料に沿って復習しつつ、参考図書にも目を通して、病態生理を理解し知識を定着させていくことを推奨する。
【血液内科学】 事前に配布された参考資料については一通り目を通しておくこと。 授業で知った未知の疾患、検査法、治療法などについて授業後に自分で調べ内容を確認すること。 事前・事後学習に関し 1 回の講義につき 30-60 分程度を想定している。
教科書・参考文献等
【内分泌・免疫内科学】 朝倉内科学 新臨床内科学 糖尿病治療ガイド 日本糖尿病学会 編 リウマチ病学テキスト 日本リウマチ財団・日本リウマチ学会編

また、系統講義時に必要に応じて文献、資料等を提示する。		
【腎臓内科学】		
特定の文献を教科書としては使用しない。各授業で用いるスライド資料は、授業前に学生課を通じて配布する。参考図書として以下を紹介する。		
内科学 第12版 朝倉書店 ISBN978-4254322804		
新臨床内科学 第10版 医学書院 ISBN978-4260038065		
プロフェッショナル腎臓病学 中外医学社 ISBN978-4498224629		
研修医のための輸液・水電解質・酸塩基平衡 改訂2版 中外医学社 ISBN978-4498123618		
【血液内科学】		
特定の文献を教科書としては使用しない。各授業はスライド資料を用いて行い、原則として授業前に資料として配布する。授業中、適宜参考文献も提示する。血液内科学の系統的な理解のための補助資料として以下を紹介する。		
・ Williams Hematology, 10th Edition (McGraw-Hill Education) ・ 造血器腫瘍 診療ガイドライン 2023年版（日本血液学会編、金原出版） ・ 新臨床腫瘍学 改訂第7版（日本臨床腫瘍学会編、南江堂）		
オフィス・アワー		
【内分泌・免疫内科学】		
福井道明 教授	水曜日 12:00-13:00	
川人 豊 病院教授	火曜日 12:00-13:00	
河野正孝 講師	月曜日 12:00-13:00	
濱口真英 講師	月曜日 12:00-13:00	
岡田博史 学内講師	水曜日 12:00-13:00	
妹尾高宏 助教	月曜日 12:00-13:00	
中西尚子 助教	水曜日 12:00-13:00	
連絡先：内分泌・免疫内科学教室 メールアドレス y-nai@koto.kpu-m.ac.jp		
※備考：個別指導または相談の際には事前にメール予約してください。		
【腎臓内科学】		
	オフィスアワー	メールアドレス
玉垣 圭一 講師	火曜日 12:00-13:00	tamagaki@koto.kpu-m.ac.jp
草場 哲郎 講師（学内）	月曜日 12:00-13:00	kusaba@koto.kpu-m.ac.jp
桐田 雄平 助教	月曜日 12:00-13:00	ykirita@koto.kpu-m.ac.jp
小牧 和美 助教	月曜日 12:00-13:00	kazumi58@koto.kpu-m.ac.jp
三原 悠 助教	金曜日 12:00-13:00	y-mhr@koto.kpu-m.ac.jp
・ 連絡先：循環器・腎臓内科 秘書 内線 5511 ・ 備考：個別相談の際には事前にメールで予約してください。		
【血液内科学】		
黒田 純也（くろだ じゅんや）		
メールアドレス：junkuro@koto.kpu-m.ac.jp		

所属・職位：血液内科・教授

曜日・時間帯：月・火・水曜日・16：00～17：00

志村 勇司（しむら ゆうじ）

メールアドレス：yshimura@koto.kpu-m.ac.jp

所属・職位：血液内科・准教授

曜日・時間帯：月・木・金曜日・16：00～17：00

水谷 信介（みずたに しんすけ）

メールアドレス：mizushin@koto.kpu-m.ac.jp

所属・職位：血液内科・学内講師

曜日・時間帯：水・木曜日・16：00～17：00

※備考：個別指導または相談の際には事前にメール予約が望ましい

学生へのメッセージ

【内分泌・免疫内科学】

1 内分泌・糖尿病・代謝内科学

ホルモンや代謝は、身体の恒常性を維持する上で不可欠な役割を果たしています。この恒常性維持機構の異常は、心血管系、腎臓、神経系を含む全身の機能に影響を及ぼします。ホルモンの分泌調節や代謝の仕組みと、疾患ごとの病態を理解した上で、最新の診断技術や治療法を適切に組み合わせた最適な医療を提供できる力が求められます。また、糖尿病をはじめとする内分泌・代謝疾患の多くは慢性疾患であり、一生にわたるケアが必要です。治療薬の進化が著しい一方で、生活習慣や環境の調整、心理的なサポートも重要となります。医師として、患者さんと「ともに歩む」医療を実践することを目標にします。

2 膠原病・リウマチ・アレルギー内科学

膠原病疾患は皮膚、関節、肺、心臓、消化管、腎臓などの全身の様々な臓器に影響を及ぼすため、「全身を診る」という観点から学ぶべき点が多い疾患群です。病態を理解するためには、各臓器の解剖学、生理学、病理学に加えて、免疫アレルギー学の基礎知識が必要で、また、疾患を学ぶことによって、その背景にある免疫システムという基礎分野への興味・探求にも繋がります。さらに、治療には、抗アレルギー薬、ステロイド製剤、免疫抑制剤、分子標的薬などを使用するため、感染病態学、薬理学的な学びもあります。

【腎臓内科学】

腎臓内科医は臨床において幅広い知識を元に、腎炎・ネフローゼといった糸球体疾患、全身疾患に伴う二次性腎障害、電解質異常、透析診療、腎移植後の管理など、多岐にわたる病態の診療にあたる。また、腎生検・病理診断のほか、内シャント造設、腹膜透析カテーテル留置といった外科的手技にも関わる。

系統講義を通じて腎臓内科医の「ものの見方・考え方」を是非、学んでほしい。将来、医療を通じて社会に貢献する医師としての喜びを身につけていく際に、必ず役立つものと確信している。

【血液内科学】

講義形式が中心となるが、不明な点があれば授業中に（または授業後でも）積極的に質問や提案をしていただきたい。何が知りたいのか、何が分かっていないのかを明確にして、お互いに有意義な時間となるよう調整していきたい。

授業日程

内 科 学

第3学年前期

(講義)

日程	時限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
4月8日(火)	1	リウマチ・膠原病とその類縁疾患(1)	内・免	川人病院教授
4月14日(月)	3	臨床輸血学	血・内	志村准教授
4月14日(月)	5	悪性リンパ腫	血・内	古林客員講師
4月15日(火)	3	止血異常の診断と治療	血・内	松本客員講師
4月15日(火)	4	多発性骨髄腫	血・内	河田客員講師
4月21日(月)	3	腎臓病総論	腎・内	草場講師(学内)
4月24日(木)	5	貧血総論と鉄代謝異常	血・内	水谷講師(学内)
5月12日(月)	1	糖尿病の病態・治療	内・免	稲垣客員教授
5月19日(月)	3	肥満症	内・免	下村客員教授
5月26日(月)	5	全身疾患と腎障害(1)	腎・内	三原助教
6月2日(月)	1	リウマチ・膠原病とその類縁疾患(2)	内・免	妹尾助教
6月2日(月)	3	リウマチ・膠原病とその類縁疾患(3)	内・免	河野講師
6月2日(月)	5	原発性糸球体疾患	腎・内	桐田助教
6月4日(水)	3	糖尿病の合併症	内・免	福井教授
6月4日(水)	5	造血幹細胞移植とその合併症	血・内	魚嶋客員講師
6月9日(月)	1	慢性白血病と骨髄増殖性腫瘍	血・内	内山客員講師
6月9日(月)	3	リウマチ・膠原病とその類縁疾患(4)	内・免	河野講師
6月9日(月)	5	急性白血病の診断と治療	血・内	黒田教授
6月11日(水)	3	内分泌総論・甲状腺	内・免	中西助教
6月12日(木)	3	骨髄不全症候群	血・内	水谷講師(学内)
6月12日(木)	5	副腎・副甲状腺・骨代謝	内・免	濱口講師
6月16日(月)	1	リウマチ・膠原病とその類縁疾患(5)	内・免	妹尾助教
6月17日(火)	4	視床下部―下垂体系	内・免	濱口講師
6月18日(水)	5	全身疾患と腎障害(2)	腎・内	小牧助教
6月19日(木)	3	生活習慣病	内・免	岡田講師(学内)

第4学年後期

(臨床演習)

日程	時限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
10月6日(月)	4	造血器腫瘍の症例提示	血・内	塚本講師(学内)
10月7日(火)	1	リウマチ性疾患診療の基礎知識(講義形式)	内・免	川人病院教授
10月14日(火)	2	水電解質(講義形式)	腎・内	玉垣講師
10月14日(火)	3	病歴・検査から診断へ(講義形式)	内・免	牛込客員教授
10月15日(水)	1	臨床実習前の消化器内科診療の確認	消・内	吉田講師

科目名	外科学		
科目責任者	小野 滋（小児外科学） 昇 修治（移植・一般外科学） 直居 靖人（内分泌・乳腺外科学） 小田 晋一郎（心臓血管外科学・小児部門） 沼尻 敏明（形成外科学）		
単位数	2. 1	必修・選択区分	必修
開講時期・学年	前期・3 学年	授業形態	講義

教育の目的と方針

【小児外科学】

小児外科学では、小児期（0～16 歳未満）にみられる先天性・後天性外科疾患（心疾患、脳神経疾患を除く）を対象としている。「小児は大人のミニチュアではない」という至言に示される通り、成人外科とは異なったこまやかな対応が要求される。特に超低出生体重児を含む新生児期、乳幼児期においては、疾患の種類と病態、患児の生理機能が成人外科とは著しく異なり、適切な診断・周術期管理を行うには小児外科学の知識が必要である。

このため系統講義では、小児外科学の基礎的知識および代表的な小児外科疾患について学び、病歴・身体所見の取得、検査法から診断、手術に至るまでの実際を解説する。

【移植・一般外科学】

臓器移植の適応となる疾患と手術・周術期の治療について理解する。
移植免疫の機序や免疫抑制療法について理解する。

【内分泌・乳腺外科学】

乳癌は日本女性の 9 人に 1 人がかかるといわれ、日本人女性がもっとも多く罹患する癌腫であるため、どの診療科においても遭遇しうる疾患の 1 つである。また、罹患患者数の急増にともない、乳腺外科は社会的な重要度が増している領域である。乳癌はその罹患数の多さから、研究面でも癌領域として最も急速な世界的進歩をとげ、基礎と臨床において日々豊富な evidence が発出されている。乳癌の領域においては診断法・治療法が激しく変化する時代であり、講義では乳腺外科疾患の病態、診断、治療について基礎から先端的内容にまで解説する。

【心臓血管外科学・小児部門】

小児心臓血管外科で行う手術は、先天性心疾患に対する根治手術や、数回にわたる姑息術を経て行う段階的修復術など、バリエーションに富んでいる。先天性心疾患に関する病態生理、解剖の習熟を行い、手術の基本原則を理解する事を目的とする。机上の理解のみに留まらない、『実践的な学問』として学んでもらえるようにカリキュラムを構成する方針である。

【形成外科学】

従来の外科学では肉体的苦痛からの解放を使命とし、治癒率の向上と延命に懸命な努力が払われてきた。しかし“見かけの異常”による精神的苦痛からの解放に対しては十分とは言えなかった。

この観点から患者の **Quality of Life** を重視した形成外科が誕生した。そこに流れるのは“より人間らしく” “より自然に” といった考えであることを学生に理解してもらうことを目的としている。

学生は、先天疾患・外傷・腫瘍切除後再建などについて、診断と治療の方針を習得する。学生は、形成外科学が単に生命予後を良くするだけではなく、機能的にも、整容的にも、よりすぐれた結果患者にもたらすための探索であることを理解する。

到達目標

【小児外科学】

1. 学生は、小児外科学の代表的疾患について、小児特有の病態を踏まえた治療計画を選択できる。
2. 学生は、成人とは異なる小児外科学特有の病態・生理を判断できる。
3. 学生は、新生児外科疾患の術前評価や集中治療を含めた、小児外科学特有の周術期管理を選択できる。

【移植・一般外科学】

医学生が

1. (主に腹部の) 臓器移植の適応と禁忌の病態について理解し、判断できる。
2. 臓器移植手術と術後管理・免疫抑制療法について理解し、治療方針を選択できる。
3. (主に脳死ドナーからの) 臓器提供の実情を理解し、説明できる。

【内分泌・乳腺外科学】

1. 乳腺とホルモンとの関係を説明できる。
2. 機能的疾患、炎症性疾患の病態と治療方針が推論できる。
3. 良性腫瘍、悪性腫瘍の分類・病態・治療方針・予後について説明することができる。
4. 良性疾患、悪性腫瘍の理学所見が説明できる。
5. マンモグラフィ・超音波検査・CT・MRI など各種画像が診断できる。
6. 画像から診断・治療方針を考察できる。
7. 診断過程と患者の状態に応じた手術、薬物等の治療法の医学的社会的、かつ、患者の自己決定権も踏まえた治療方針が説明できる。
8. 乳癌の治療成績・予後について説明できる。

【心臓血管外科学・小児部門】

1. 学生は治療対象となる疾患の外科的治療を行うために必要な解剖学、発生学、生理学、生化学等を理解し、先天性心疾患に対する治療法の選択について説明できる。
2. 学生は手術時における他科医師、他職種とのコミュニケーションの重要性を説明できる。
3. 学生は患者・家族との信頼関係の構築の重要性について説明できる。

【形成外科学】

1. 創傷の治癒と瘢痕形成について理解し、それらに関する記述の正誤を判断できる。
2. RSTL の概念についての記述の正誤を判断できる。
3. Reconstructive ladder に則った再建方法を選択できる。
4. 皮弁の血行、種類、デザインに関する記述の正誤を判断できる。
5. 外傷(顔面・四肢・熱傷)に関する適切な治療を選択できる。

6. 頭頸部再建・顔面先天疾患に関する適切な治療を選択できる。
7. 再建（四肢・乳房・体幹・難治性潰瘍）に関する適切な治療を選択できる。

成績評価方法および基準

【小児外科学】【移植・一般外科学】【内分泌・乳腺外科学】

【心臓血管外科学・小児部門】【形成外科学】

定期試験（100％）

系統講義終了後に、5 教室合同でマークシート方式による総括試験を行い、試験結果が 60％以上であれば合格とする。

（不合格者に後日再試験を同様の形式で行う。）

事前・事後学習について

【小児外科学】

以下に指定する教科書の該当範囲を次回の講義までに熟読し、概要を把握しておくこと。講義後にも熟読し更なる理解を深めること。1 回の講義につき予習・復習それぞれ最低 30 分程度は必要である。

【移植・一般外科学】

予習は必要ありません。

復習するに際して、独力で解決できない場合には、要点をまとめた上でオフィスアワー内に担当教員に質問することを推奨します。

【内分泌・乳腺外科学】

事前に授業内容のスライドを PDF で配布する。

【心臓血管外科学・小児部門】

事前に教科書に目を通して、疾患や治療法の基礎的な学習をすることが好ましい。

また講義で初めて知った現象，理論，用語などについては，講義後に自分で調べて意味や内容を確認すること。これは，授業内での学修を促進するためだけでなく，復習による理解の深化を促すためのものである。授業外での予復習に関しては，1 回の授業につき 1 時間程度を必要とする。

【形成外科学】

指定する教科書を講義までに読了し，概要を把握しておくこと。講義後にも改めて熟読し，更なる理解を深めること。1 回の講義につき予習・復習それぞれ最低 60 分程度は必要である。またこの教科書は 4 年次の CC1 でも使用する。

興味を持った学生は、参考図書も読んでおくとう理解が深まる（3 学年の講義では必須ではないが、5 年次の CC2 で形成外科学を選択する学生は、この参考図書を必須としている）。

教科書・参考文献等

【小児外科学】

1. 標準小児外科学 第8版（上野 滋、他編 医学書院 8,800 円 ISBN：978-4-260-04796-8）

2. スタンダード小児外科手術 (田口智章、他編 メジカルビュー社 16,500 円 ISBN : 978-4-7583-0461-0) 3. Pediatric Surgery 7th ed. (AG Coran, 他編 Mosby 約 40,000 円 ISBN : 978-0-323-07255-7) 4. Rickham's Neonatal Surgery 1st ed. (PD Losty,他編 Springer 約 19,000 円 ISBN : 978-1-447-14720-6)
【移植・一般外科学】
【内分泌・乳腺外科学】 1. 教科書 京都府立医科大学 乳腺外科 臨床実習マニュアル改訂版 (内分泌・乳腺外科監修) 当面この Original Text Book を実習開始時に無料配布する。 2. 参考書 標準外科 第 15 版 (医学書院) 3. 京都府立医科大学附属図書館 情報・文献検索 UpToDate https://www.uptodate.com/contents/search
【心臓血管外科学・小児部門】 1. 先天性心疾患の外科治療 形態の理解と最良の三次元的再構築 (山岸正明著 MEDICAL VIEW 社) 2. 先天性心疾患手術書 (安井久喬編 MEDICAL VIEW 社) 3. 心臓血管外科手術書 (小柳仁他著 先端医療技術研究所) 4. 心臓血管外科手術のための解剖学 (小柳仁、黒沢博身編 MEDICAL VIEW 社) 5. 心臓・弁膜症の外科 (新井達太編 医学書院)
【形成外科学】 1. 指定教科書 標準形成外科学 第 8 版 医学書院 2025 年発行 6600 円 (古い版では記載のない項目もありましたので、最新版をおすすめします) 2. 参考図書 Z 形成術とその他の皮膚形成術 倉田喜一郎著 克誠堂出版 1999 年発行 15400 円 (現在は電子版しかありません)
オフィス・アワー
【小児外科学】 8 時～17 時 ・小児外科医局 内線 5809 (カリキュラム担当 文野誠久) 代表メールアドレス pedsurg@koto.kpu-m.ac.jp
【移植・一般外科学】 ・担当者：昇 修治 koto メールで問い合わせ 又は医局へ来訪頂く オフィスアワー：毎週水曜日 12 時～13 時 その他適宜

【内分泌・乳腺外科学】

・直居靖人 教授	火曜日 15:00 - 17:00	naoi@koto.kpu-m.ac.jp
・阪口晃一 准教授	月曜日 9:30 - 11:30	ksak@koto.kpu-m.ac.jp
・森田 翠 学内講師	水曜日 9:30～11:30	midori@koto.kpu-m.ac.jp
・加藤千翔 助教	木曜日 13:00 - 16:00	c-kato@koto.kpu-m.ac.jp

【心臓血管外科学・小児部門】

オフィスアワー（心臓血管外科）

・小田晋一郎 教授	月曜日～金曜日	9:00-17:00	soda@koto.kpu-m.ac.jp
・川尻英長 講師	月曜日～金曜日	9:00-17:00	kawajiri@koto.kpu-m.ac.jp
・神田圭一 准教授(兼)	月曜日～金曜日	9:00-17:00	kei@koto.kpu-m.ac.jp
- ・その他連絡先 心臓血管外科秘書 内線 5752, e-mail:cvts@koto.kpu-m.ac.jp

【形成外科学】

- ・事務連絡先 形成外科医局秘書 内線 5730（月水金のみ）
専攻科目内容については、沼尻敏明 病院教授に相談ください（秘書に連絡して日程調整をしてください）。

学生へのメッセージ

【小児外科学】

小児外科学は、本学における特徴の一つであり、小児科学のみならず、発生学、解剖学（先天的異常）、臓器機能、ゲノム異常と関連した応用知識が求められる。

人体の発生の奥深さ、精緻さとともに、それを手術でいかに治療するかという、外科学ならではの面白さについても理解していただきたい。

【移植・一般外科学】

独力で解決できない場合には、要点をまとめた上で教員に質問することを推奨します。

【内分泌・乳腺外科学】

皆様こんにちは。乳癌は国内罹患数が年間 9 万人にも達し、罹患年齢が比較的若いことから大きな社会的問題になっております。そこで診断・治療を効果的に進めるべく、他臓器癌に先んじる形で「Subtype 分類法」「多遺伝子アッセイによる再発リスク予測法」等の先進的な分子診断法が開発されました。そして Subtype 分類・再発リスクごとに各種薬剤の開発・治験が行われることで、治療成績は大きく向上しております。実習期間中にこの世界的・体系的な診断法・治療法の開発、及び整容性にこだわる当科の最新の乳房再建手術を御覧ください。京都府立医科大学は乳癌の臨床・研究の国内 Top 施設です。この分野には大きなニーズがあり、御関心を頂ければ幸いです。

直居靖人

【心臓血管外科学・小児部門】

心臓血管外科は患者さんの状態を手術によって劇的に改善させることができるという点が非常に大きな魅力です。解剖学、生理学、病理学なども関連させて学んでいただけると、理解が深まると思います。ぜひ興味を持って勉強してください。質問はいつでもお待ちしております。

【形成外科学】

シラバスは読んでいない、教科書は読んでいない、購入すらしていない、という学生が目立っています。意見を尋ねてみても、答えない・わかりません、としか返ってこないことが多々あります。予習の痕跡がみえないのは残念です。大学は小学校とは異なり、全く知識のない生徒に知識を覚えさせる場所ではありません。すでに知識を持った学生と、専門教員とが議論をおこなって、新しい領域を切り開く場所です。

一部の不勉強で知識の足りない学生が混じるために、せっかく予習してきた医学生が得られるべき適切な学習環境が阻害されることも出てきております。真摯に勉強する医学生への教育をすすめていくため、ご協力お願いいたします。

実のある学習になるよう、お互いに努力していきましょう。

〈一般的禁止事項〉

- ・私語をすること
- ・担当教員の許可なく、携帯電話・スマートフォンを使用すること
- ・担当教員の許可なく、講義室に出入りすること
- ・その他、担当教員の指示に従わない行動をとること
- ・他の医学生が迷惑する行為を行うこと

授業日程

外科学

第3学年前期

(講義)

日程	時 限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
4月7日(月)	1	外傷(顔面・四肢・熱傷)	形成外科	奥田客員講師
4月23日(水)	3	乳腺疾患の診断と治療①	内分泌・乳腺	直居教授
4月23日(水)	4	乳腺疾患の診断と治療②	内分泌・乳腺	阪口准教授
4月25日(金)	3	小児肝・胆疾患	小児外科	高山助教
5月16日(金)	3	小児消化管疾患・奇形(上部)	小児外科	金助教
5月19日(月)	5	先天性心疾患①	心臓血管	小田教授
5月23日(金)	3	外科感染症と炎症	移植・一般	昇講師
5月30日(金)	3	移植外科①	移植・一般	昇講師
6月2日(月)	4	小児悪性固形腫瘍	小児外科	文野准教授
6月3日(火)	3	基本的外科手術手技	内分泌・乳腺	森田講師(学内)
6月3日(火)	4	先天性心疾患②	心臓血管	小田教授
6月3日(火)	5	小児外科学総論および小児肺・胸部疾患	小児外科	小野教授
6月9日(月)	4	移植外科②	移植・一般	昇講師
6月10日(火)	3	先天性心疾患③	心臓血管	小田教授
6月11日(水)	4	形成外科総論及び頭頸部再建外科①	形成外科	沼尻病院教授
6月12日(木)	4	移植外科③	移植・一般	昇講師
6月13日(金)	1	顔面外科及び頭頸部再建外科②	形成外科	沼尻病院教授
6月13日(金)	4	小児消化管疾患・奇形(下部)	小児外科	井口助教
6月16日(月)	5	小児外科日常疾患・脈管奇形	小児外科	井上助教
6月18日(水)	4	再建(四肢・乳房・体幹・難治性潰瘍)	形成外科	河原崎講師
6月20日(金)	3	ヘルニア、肛門疾患	移植・一般	昇講師

第4学年後期

(臨床演習)

日程	時 限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
10月8日(水)	4	臨床実習 前準備(討議形式)	形成外科	沼尻病院教授
10月9日(木)	2	移植外科臨床実習を始めるにあたって(講義形式)	移植・一般	昇講師
10月9日(木)	3	心臓血管外科臨床実習を始めるにあたって(講義形式)	心臓血管	川尻講師
10月15日(水)	4	小児外科診療の実際(講義形式)	小児外科	竹内客員講師
10月16日(木)	2	呼吸器外科臨床実習を始めるにあたって(講義形式)	呼吸器外科	下村准教授
10月17日(金)	4	移植外科臨床診察の基本手技、知識(講義形式)	移植・一般	昇講師

科目名	循環器ユニット		
科目責任者	的場聖明		
単位数	1. 9	必修・選択区分	必修
開講時期・学年	前期・3学年	授業形態	講義

教育の目的と方針

循環器疾患は高齢化社会において非常に頻度の高い疾患となってきた。救急や重症管理においても循環器疾患の頻度は少なくない。診断方法の進歩はもとより薬物療法、非薬物療法、チーム医療アプローチなど治療についても年々進歩を遂げており、循環器疾患に関する UpToDate な知識を含めた理解をすることは大切なことである。

ユニット講義：循環器領域の各疾患における疫学、病因、病型、病態、病理、診断、検査、治療、予後などについて系統的に講義する。虚血性心疾患や心不全・不整脈といった日常臨床でよく遭遇する最重要疾患から心臓救急や心臓リハビリテーション、稀ではあるが興味深い疾患まで診断・治療の実際を講義する。

到達目標

学生は循環器疾患の病態のメカニズムについて判断できる
 学生は適切な診断をつけるための検査・病理所見について判断できる
 学生は薬物治療、非薬物療法のほか、生活指導など包括的な治療方針を立てられる

成績評価方法および基準

試験

循環器ユニット終了時にマークシート方式による筆記試験を行い60点を合格点とする。不合格者に後日再試験を同様の形式で行う。

事前・事後学習について

授業の準備として以下の点を行うこと。講義は時間が限られており前もって予習しておくことが望ましい。配布される資料を前もって読み、参考図書にも目を通しておくことが望ましい。講義のあとにはできるだけ速やかに資料を再度復習し身に着けるよう努力すること。

教科書・参考文献等

循環器内科

病気がみえる vol.2 循環器 (メディックメディア)

読み方だけは確実に身につく心電図 (羊土社)

やさしくわかる心エコーの当て方・見かた (羊土社)

Braunwald's Heart Disease

(A textbook of cardiovascular medicine. E Braunwald 他編集)

心臓血管外科

心臓血管外科手術書 (小柳仁他著 先端医療技術研究所)

心臓血管外科手術のための解剖学（小柳仁、柳沢博身編 MEDICAL VIEW 社）
心臓・弁膜症の外科（新井達太編 医学書院）

病理学

Robbins Basic Pathology 11th edition（Elsevier）
組織病理アトラス 第6版（文光堂）

オフィス・アワー

オフィスアワー（循環器内科）

メールアドレス

- ・ 的場聖明 教授 火曜日 13:30-16:30 matoba@koto.kpu-m.ac.jp
- ・ 白石裕一 講師 月曜日午後、木曜日終日 siraisih@koto.kpu-m.ac.jp
- ・ その他連絡先 循環器腎臓内科秘書 内線 5511

オフィスアワー（心臓血管外科）

- ・ 小田晋一郎 教授 月曜日～金曜日 9:00-17:00 soda@koto.kpu-m.ac.jp
- ・ 川尻英長 講師 月曜日～金曜日 9:00-17:00 kawajiri@koto.kpu-m.ac.jp
- ・ 神田圭一 准教授(兼) 月曜日～金曜日 9:00-17:00 kei@koto.kpu-m.ac.jp
- ・ その他連絡先 心臓血管外科秘書 内線 5752, e-mail:cvts@koto.kpu-m.ac.jp

オフィスアワー（細胞分子機能病理学）

- ・ 小形岳寛 学内講師 火曜日 14:00-16:00 ogatat@koto.kpu-m.ac.jp

学生へのメッセージ

循環器の疾患について理解をすることは患者の診療における基本的な事項の一つです。検査の種類も多く、大変な科目ですが、比較的理詰めに理解できることが多く、各検査同士のつながりが理解できると循環器の診療はとても楽しくなります。ぜひ興味を持って勉強してください。質問にもいつでも来てください。お待ちしております。

授業日程

1限 8:50-9:50, 2限 10:00-11:00, 3限 12:50-13:50, 4限 14:00-15:00, 5限 15:10-16:10

循環器ユニット

第3学年前期

(講義)

日程	時 限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
4月7日(月)	3	心臓の病理Ⅰ	病理学	松山客員教授
4月7日(月)	4	心臓の病理Ⅰ 実習	病理学	松山客員教授
4月7日(月)	5	循環器内科学総論	循環器内科	的場教授
4月8日(火)	3	心臓の病理Ⅱ	病理学	小形講師(学内)
4月8日(火)	4	心臓の病理Ⅱ 実習	病理学	小形講師(学内)
4月8日(火)	5	心機能と心エコー (1) 心エコーの基本	循環器内科	山野講師
4月9日(水)	3	心機能と心エコー (2) 心不全の評価	循環器内科	山野講師
4月9日(水)	4	循環器診察、心臓聴診法	循環器内科	白石講師
4月9日(水)	5	心電図の基礎 (12誘導心電図編)	循環器内科	白石講師
4月10日(木)	3	動脈硬化と血管疾患	循環器内科	星野講師
4月10日(木)	4	心臓弁膜症 (大動脈弁疾患、僧帽弁疾患1)	循環器内科	白石講師
4月10日(木)	5	心電図の基礎 (不整脈編)	循環器内科	白石講師
4月11日(金)	3	狭心症・心筋梗塞	循環器内科	中村教授(病院)
4月11日(金)	4	心筋疾患・心膜疾患・感染性心内膜炎	循環器内科	川崎客員教授
4月11日(金)	5	下肢動脈疾患	循環器内科	伊藤助教
4月14日(月)	1	循環器科領域の経皮的Intervention治療	循環器内科	全 准教授
4月14日(月)	2	循環器画像診断法 (CT・MRI・RI)	循環器内科	浅沼客員教授
4月16日(水)	1	成人先天性心疾患	循環器内科	中西講師(学内)
4月16日(水)	2	不整脈疾患の治療 (薬物、非薬物療法)	循環器内科	妹尾准教授
4月17日(木)	3	心臓弁膜症 (僧帽弁疾患2、その他)	循環器内科	白石講師
4月17日(木)	4	心不全と心臓リハビリテーション	循環器内科	白石講師
4月17日(木)	5	不整脈疾患の治療 (薬物、非薬物療法)	循環器内科	妹尾准教授
4月18日(金)	3	生活習慣病と循環器疾患1 (高血圧)	循環器内科	的場教授
4月18日(金)	4	生活習慣病と循環器疾患2 (脂質異常、糖尿病他)	循環器内科	的場教授
4月18日(金)	5	心臓血管外科学総論	心臓血管外科	川尻講師
4月21日(月)	1	心臓手術 (冠動脈疾患)	心臓血管外科	川尻講師
4月21日(月)	2	心臓手術 (弁膜症その他)	心臓血管外科	川尻講師
4月25日(金)	1	大動脈血管疾患	心臓血管外科	神田准教授
4月25日(金)	2	末梢血管疾患	心臓血管外科	神田准教授
5月9日(金)		循環器ユニット試験		

科目名	呼吸器ユニット		
科目責任者	高山 浩一		
単位数	2. 6	必修・選択区分	必修
開講時期・学年	前期・3 学年	授業形態	講義

教育の目的と方針

肺は気道系と血管系が会う極めて複雑な構造をもつ臓器である。そのため、腫瘍性疾患をはじめ、種々の肺炎・結核を含む抗酸菌症・真菌症などの感染性疾患，気管支喘息を含むアレルギー性疾患，慢性閉塞性肺疾患，間質性肺疾患，肺循環障害，職業的疾患，睡眠時無呼吸症候群を含む呼吸調節障害，日常診療でしばしば遭遇する気胸・膿胸・胸膜炎などの胸膜疾患，胸部外傷などの救急疾患と極めて多岐にわたる疾患が存在する。これらの疾患を理解するためには呼吸器についての解剖学・生理学・病理学といった基礎医学を十分に学習し，身につける必要がある。

また，近年では社会の高齢化に伴い呼吸器疾患患者は増加の一途をたどっているが，その中でも肺癌患者は急増している。急速に発展を遂げている肺癌に対する薬物療法や低侵襲外科治療，放射線治療，これらを組み合わせた進行肺癌に対する集学的治療とその診断に必要な病理と画像診断について理解する。また肺癌以外にも転移性肺腫瘍や縦隔腫瘍等の腫瘍性疾患についての知識を身につける。探求心をもって症候・疾患・病態を科学的にとらえ，臨床実習参加時には担当患者の病態を的確に把握し，診療技能の習得につなげる。

到達目標

1. 呼吸器の解剖および生理学を理解し、呼吸機能の基本的な仕組みを説明できる。
2. 腫瘍性疾患および非腫瘍性疾患の病因や病態を理解し、説明できる。
3. 呼吸器疾患に関わる理学所見を説明できる。
4. 呼吸器疾患に関わる生理機能検査および画像検査の意義を理解し、結果を適切に解釈できる。
5. 代表的な呼吸器疾患に対する内科治療および外科治療の適応と方法について説明できる。
6. 肺癌の診断手順を理解し、適切な検査の組み合わせを説明できる。
7. 肺癌に対する薬物治療、外科治療、放射線治療の適応と実施方法を説明できる。
8. 肺癌の病理学的診断の意義を理解し、診断結果を治療選択に応用できる。
9. 呼吸器疾患に対する抗菌剤、抗がん剤の適応と使用方法を説明できる。
10. 呼吸療法の適応とその実施方法を説明できる。
11. 自然気胸、胸膜炎、外傷に対する外科手術の適応と治療方法を説明できる。
12. 肺移植の適応疾患、適応条件、および実施の流れを説明できる。
13. 呼吸リハビリテーションの意義と実施方法を説明できる。
14. 救急医療における呼吸管理の基本的な対応を説明できる。
15. 呼吸器疾患の診療において、集学的治療の重要性を理解し、チーム医療の役割を説明できる。

成績評価方法および基準

定期試験：臓器別ユニットの講義が終了した時点で総括テストを行い，得点が 60%以上の場合に合格とする。定期試験は到達目標の達成状況の評価するために行い，臓器別ユニット講義で学習した内容について出題する。

事前・事後学習について
授業で紹介する内容を理解するために、受講前に配付した授業スライド資料などを熟読しておく必要がある。各講義前には、以下に指定する教科書等を利用して、呼吸器に関する該当範囲の概要を把握しておくこと。また、講義後には、当日の講義内容の要点について、教科書等を利用して自身で理解を深めておくことが望まれる。
教科書・参考文献等
1. 呼吸器疾患最新の治療 2025 - 2026. (弦間昭彦/西岡安彦/矢寺和弘 編集 南江堂) 2. Fishman's Pulmonary Diseases and Disorders, 5th Edition (McGraw-Hill Professional) 3. 新 呼吸器専門医テキスト 改訂第2版 (日本呼吸器学会編集 南江堂) 4. 呼吸器外科手術書 (畠中陸郎, 金芳堂出版) 5. 肺癌診療ガイドライン (日本肺癌学会編集, 金原出版) 6. General Thoracic Surgery 8th edition (Thomas W Shields, Lippincott) 7. 肺切除術 (荒井他嘉司, 塩沢正俊, 朝倉書店) 8. 呼吸器外科テキスト改訂第2版 (日本呼吸器外科学会, 南江堂) 9. ネット解剖学アトラス原著第7版 (南江堂) 10. 病気がみえる vol 4 呼吸器第3版 (メディックメディア) 11. Robbins and Cotran Pathologic Basis of Disease 10th ed. (Elsevier) 12. Robbins and Cotran Atlas of Pathology 4th ed. (Elsevier) 13. 組織病理アトラス 第6版, 文光堂
オフィス・アワー
呼吸器内科学教室：秘書 respir@koto.kpu-m.ac.jp 高山 浩一 教授 片山 勇輝 助教 呼吸器外科学教室：秘書 thoracic@koto.kpu-m.ac.jp 井上 匡美 教授 下村 雅律 准教授 分子病態病理学教室：丹藤 創 助教 tando@koto.kpu-m.ac.jp 生体機能形態科学部門・解剖学：八代健太 教授 kyashiro@koto.kpu-m.ac.jp 内線 5302 その他連絡先：呼吸器内科学教室秘書 respir@koto.kpu-m.ac.jp
学生へのメッセージ
この呼吸器ユニットでは解剖学・生理学・病理学といった基礎医学を基盤とし, 内科・外科を中心に多数の診療科が垣根を越えて講義を行うことでよりいっそう「呼吸器」について深く学ぶことができる大変良い機会である。一連の講義を通じて呼吸器学の奥深さと面白さを感じて頂きたい。

授業日程 1限 8:50-9:50, 2限 10:00-11:00, 3限 12:50-13:50, 4限 14:00-15:00, 5限 15:10-16:10

呼吸器ユニット

第3学年前期

(講義)

日程	時 限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
5月7日(水)	1	呼吸器解剖学各論	形態科学	八代教授
5月7日(水)	2	呼吸器感染症②	感染制御・検査	濱島助教
5月12日(月)	3	呼吸生理学	京都薬大	細木准教授
5月12日(月)	4	呼吸器疾患の画像診断	放射線科	前原客員講師
5月12日(月)	5	呼吸器疾患の診断	呼内	高山教授
5月13日(火)	1	肺外科①：早期肺癌と低侵襲手術	呼外	岡田講師(学内)
5月13日(火)	2	肺外科②：進行肺癌と集学的治療・拡大手術	呼外	井上教授
5月14日(水)	3	呼吸調整障害	呼内	森田助教
5月14日(水)	4	免疫・アレルギー疾患①	呼内	金子講師
5月14日(水)	5	免疫・アレルギー疾患②	呼内	金子講師
5月15日(木)	3	気管支鏡検査の実際	呼内	岩破講師(学内)
5月15日(木)	4	呼吸器のリハビリテーション医学・医療	リハビリ医学	櫻井助教
5月15日(木)	5	呼吸器内科演習 X線読影	呼内	高山教授
5月16日(金)	1	職業性肺疾患	呼内	尾ノ井助教
5月16日(金)	2	肺癌の診断と治療	呼内	西岡助教
5月19日(月)	1	肺循環	循内	中西講師(学内)
5月19日(月)	2	呼吸器内科TBL② 息切れの鑑別	呼内	金子講師
5月20日(火)	1	肺がんの薬物療法①	呼内	山田准教授
5月20日(火)	2	気管・気管支の外科	呼外	下村准教授
5月21日(水)	1	肺移植と心肺移植	呼外	井上教授
5月21日(水)	2	COPDの診断と治療	呼内	河内助教
5月22日(木)	3	縦隔外科と重症筋無力症	呼外	井上教授
5月22日(木)	4	炎症性肺疾患・胸膜の外科	呼外	下村准教授
5月22日(木)	5	胸部外傷・胸壁・横隔膜の外科	呼外	下村准教授
5月23日(金)	1	下気道疾患・嚢胞性肺疾患	呼内	河内助教
5月23日(金)	2	気管支喘息	呼内	徳田講師
5月26日(月)	1	喫煙と呼吸器疾患	呼内	高山教授
5月26日(月)	2	呼吸器内科TBL① 咳の鑑別	呼内	金子講師
5月27日(火)	3	肺癌の薬物療法②	呼内	山田准教授
5月27日(火)	4	病理学呼吸器各論	分子病態病理学	丹藤助教
5月27日(火)	5	病理学呼吸器各論	分子病態病理学	丹藤助教
5月28日(水)	1	呼吸器感染症①	感染制御・検査	濱島助教
5月28日(水)	2	胸膜疾患	呼内	西岡助教
5月29日(木)	3	間質性肺炎	呼内	徳田講師
5月29日(木)	4	人工呼吸管理・NPPV	呼内	岩破講師(学内)
5月29日(木)	5	呼吸器感染症③	呼内	松井助教
5月30日(金)	1	肺外科③：転移性肺腫瘍	呼外	岡田講師(学内)
5月30日(金)	2	気胸・嚢胞性肺疾患	呼外	岡田講師(学内)
6月6日(金)		呼吸器ユニット試験		

科目名	神経ユニット		
科目責任者	尾原 知行（脳神経内科） 橋本 直哉（脳神経外科）		
単位数	4. 3	必修・選択区分	必修
開講時期・学年	前期・3 学年	授業形態	講義

教育の目的と方針

臓器別ユニット（神経）では、脳神経系に発生する疾患群について、その病理・診断・治療学的知見を統合的に習得することを目的に、神経病理学に基づいて神経学（脳神経内科学）・脳神経外科学の系統的な講義を受ける。モデルコアカリキュラムを基盤に、まず神経解剖学の知識を復習し、その後神経学に関わる諸分野を含めて疾患群単位で講義・TBLを受講し、総合的な理解と臨床への応用を目指す。

Neurology（神経学・脳神経内科学）は19世紀半ばにフランスのシャルコーらにより近代神経学が確立され、一方の対をなすNeurosurgery（脳神経外科学）は神経学を基盤に20世紀初頭に北米で勃興し、これらは診断機器の開発、神経科学及び分子生物学の進歩と相まって世界的に大きく発展してきた。神経学の基本は、注意深い観察と所見の適切な記載である。「何故？」という素朴な疑問が学問の出発点であるが、脳神経内科学・脳神経外科学ではそのことをもっとも端的に具現化する。症状を注意深く観察し問題点を整理し、必要な検査方法を選択し、診断・治療へと方針を決めていく思考過程の深さを学ぶ。神経病理学では、先天性脳・脊髄形成異常、脳・脊髄循環障害、感染性・炎症性・脱髄性疾患、神経変性疾患、脳・脊髄腫瘍などについて形態学的、分子生物学的特徴を理解し、神経学（脳神経内科学）・脳神経外科学の理解を深める一助とする。

脳梗塞に対する血管再開通治療によって劇的な症状の改善がみられるように、いずれの分野においても多くの神経疾患の治療が可能になった。脳神経内科分野では認知症、パーキンソン病、脊髄小脳変性症など未だ治療が困難な疾患が残されているが、それらに対しても根本治療薬、疾患修飾薬の開発が進められ、リハビリテーションも大きな治療効果を有する。脳神経外科分野では、脳深部や頭蓋底および脊髄領域の難治性疾患に対しても低侵襲で確実な外科治療が可能になり、良好な機能予後が得られるようになった。救急医療の一端を担うため、病巣の周囲で非可逆的な神経損傷が生じる前に速やかに正確な診断を下し、迅速に治療を遂行することも重要である。患者は新生児から高齢者まで全年齢層にわたり、病態により一時的に意識・人格障害や様々な神経脱落症状を伴い、脳死患者を診察する場合も稀ではない。医師としてこれらの患者や家族へ適切に対応するために、正確な医学的知識の習得のみならず、患者をその生活様式や精神状態も含めて人間として全体的に理解する力を身につける。

到達目標

- 1 神経疾患の診断学を理解し実践できるようになる。
 - (1) 神経疾患の理解に必要な知識を整理し、病歴聴取と神経診察の手技を理解し実践できる。
 - (2) 診察所見に基づいて鑑別疾患をあげ、診断のために必要な検査を理解し列記できる。
- 2 神経変性疾患の診断と治療が出来るようになるために、各疾患を理解する。
 - (1) 中枢神経、末梢神経、筋の大まかな構造と機能を理解し説明できる。
 - (2) 各疾患の大まかな分類、病理学的所見、特徴、鑑別点を理解し説明できる。
 - (3) 各疾患の治療法を理解し説明できる。

- 3 脳卒中（脳血管障害）の診断と治療が出来るようになるために、各疾患を理解する。
 - (1) 脳と脳血管の大まかな構造と機能を理解し説明できる。
 - (2) 脳卒中の大まかな分類、病理学的所見、特徴、鑑別点を理解し説明できる。
 - (3) 脳卒中の各疾患の内科的・外科的治療法を理解し説明できる。
- 4 脳腫瘍の診断と治療が出来るようになるために、各疾患を理解する。
 - (1) 脳腫瘍の大まかな分類を理解し説明できる。
 - (2) 脳腫瘍の特徴、組織学的・分子生物学的所見、鑑別点を理解し説明できる。
 - (3) 脳腫瘍各型の内科的・外科的治療法を理解し説明できる。
- 5 末梢神経・神経免疫関連疾患の診断と治療が出来るようになるため、各疾患を理解する。
 - (1) 臨床に必要な神経生理学を理解し説明できる。
 - (2) 末梢神経・神経免疫関連疾患の分類、特徴、鑑別点を理解し説明できる。
 - (3) 末梢神経・神経免疫関連疾患の内科的・外科的治療法を理解し説明できる。
- 6 神経感染症の診断と治療が出来るようになるために、各疾患を理解する。
 - (1) 神経感染症の大まかな分類を理解し説明できる。
 - (2) 神経感染症の特徴、病理学的所見、鑑別点を理解し説明できる。
 - (3) 神経感染症の各疾患について内科的・外科的治療法を理解し説明できる。
- 7 脊髄脊椎疾患の診断と治療が出来るようになるために、各疾患を理解する。
 - (1) 脊髄脊椎疾患の大まかな分類を理解し説明できる。
 - (2) 脊髄脊椎疾患の特徴、鑑別点を理解し説明できる。
 - (3) 脊髄脊椎疾患の各疾患について内科的・外科的治療法を理解し説明できる。
- 8 てんかんなどの機能的疾患の診断と治療が出来るようになるために、各疾患を理解する。
 - (1) 脳波などの電気生理検査を理解し、解釈できる。
 - (2) てんかん、不随意運動、機能的疾患の大まかな分類、特徴、鑑別点を理解し説明できる。
 - (3) 機能的疾患について内科的・外科的治療法を理解し説明できる。
- 9 一般神経診療、神経救急、神経倫理について理解し説明できる。
 - (1) 頭痛の大まかな分類を理解し、診断と治療を説明できる。
 - (2) 神経外傷、神経救急、集中治療について理解し、診断と治療を説明できる。
 - (3) 脳死を含む神経倫理学を理解し説明できる。
10. 先天性脳形成異常の病態生理、診断と治療について理解し、説明できる。
 - (1) 先天性脳・脊髄形成異常の大まかな分類を理解し説明できる。
 - (2) 先天性脳・脊髄形成異常の特徴、病理学的所見、病態生理を理解し説明できる。
 - (3) 先天性脳・脊髄形成異常の各疾患について診断法、治療法を理解し説明できる。

成績評価方法および基準

講義への取り組み方と各講義・テーマごとに到達目標を評価する目的で行う小テストにおいて、平常の評価を行う（25%）。脳神経内科、脳神経外科、分子病態病理学の到達目標を達成しているかを問う定期試験を神経ユニット講義終了後に行う（75%）。全体で 60%以上に到達した者を合格とする。

事前・事後学習について

授業で紹介する内容を効率良く身につけるために、受講前に配布した資料は熟読し、内容をおおまかに理解しておく。授業中の疑問点を整理し、次回授業までに解決しておくこと。独力で解決できない場合には、要点をまとめた上でオフィス・アワー内に担当教員に質問することを推奨する。

以下に指定する教科書の該当範囲を次回の講義までに熟読し、概要を把握しておくことを推奨す

る。講義後にも改めて熟読し、更なる理解を深めること。1 回の講義につき予習・復習それぞれ最低 30 分程度行うことがのぞましい。

教科書・参考文献等

分子病態病理学

1. 神経病理インデックス 第2版（新井信隆）（医学書院）
2. 非腫瘍性疾患病理アトラス 中枢神経（新井信隆）（文光堂）
3. マクロ神経病理学アトラス（新井信隆）（医学書院）
4. 脳腫瘍臨床病理カラーアトラス 第5版（医学書院）

脳神経内科学

1. カラーイラストで学ぶ神経症候学（平山恵造編）（南江堂）
2. ベッドサイドの神経の診かた 改訂17版（田崎義昭，斉藤佳雄編）（南江堂）
3. 神経内科ケーススタディ- 病変部位決定の仕方（黒田康夫）（新興医学出版）
4. 神経内科ハンドブック第4版（水野美邦）（医学書院）
5. 臨床のための神経機能解剖学（後藤文男）（中外医学社）
6. Merri't's Textbook of Neurology (12th ed.)

脳神経外科学

1. ニュースタンダード 脳神経外科学 第5版（三輪書店）
2. 標準脳神経外科学 第16版（医学書院）
3. 脳神経外科学Ⅰ・Ⅱ 第13版（金芳堂）

オフィス・アワー

	オフィスアワー	メールアドレス
分子病態病理学		
・教室連絡先	教室秘書 内線 5849（対面の場合は要アポイントメント）	
脳神経内科学		
・尾原知行教授	金曜日 10:00-16:00	ohatomo@koto.kpu-m.ac.jp
・その他連絡先	教室秘書 内線 5794, e-mail : neurokpu@koto.kpu-m.ac.jp	
脳神経外科学		
・橋本直哉教授	金曜日 13:00-15:00	nhashimo@koto.kpu-m.ac.jp
・立澤和典准教授	月曜日 14:00-16:00	tatsu@koto.kpu-m.ac.jp
・高橋義信講師	金曜日 14:00-16:00	t-ysnb@koto.kpu-m.ac.jp
・丸山大輔助教	木曜日 14:00-16:00	dmaruyam@koto.kpu-m.ac.jp
・梅林大督助教	火曜日 13:00-15:00	umebayad@koto.kpu-m.ac.jp
・谷山市太助教	水曜日 14:00-16:00	ichita@koto.kpu-m.ac.jp
・その他連絡先	教室秘書 内線 5541, e-mail : nouge@koto.kpu-m.ac.jp	

学生へのメッセージ

到達目標に記載の疾患グループごとに、脳神経内科学・脳神経外科学・病理学の教員が講義を行う形式をとる。病理学については講義に続いて実習を行う。病理学実習は神経ユニット講義の一環として行うが通常系統講義の一コマ 60 分を延長して 90 分を割いて行うので注意すること。講義においては学生の理解度を確認しながら進め、可能な範囲で双方向的な評価を行う。各項目に TBL の時間を設け、主体的に学ぶ姿勢を涵養している。

授業日程 1限 8:50-9:50, 2限 10:00-11:00, 3限 12:50-13:50, 4限 14:00-15:00, 5限 15:10-16:10

神経ユニット

第3学年前期

(講義)

日程	時限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
7月7日(月)	1	神経解剖学	生体構造科学	田中教授
7月7日(月)	2	神経疾患の放射線診断	放射線科	赤澤講師
7月7日(月)	3	(神内)神経内科診断学①	脳神経内科	尾原教授
7月7日(月)	4	(神内)神経内科診断学②意識障害・運動・感覚障害	脳神経内科	尾原教授
7月8日(火)	1	神経外科学総論	脳神経外科	橋本教授
7月8日(火)	2	神経変性疾患総論	脳神経内科	笠井准教授
7月8日(火)	3	認知症 正常圧水頭症	脳神経内科	近藤講師
7月8日(火)	4	失語症、高次脳機能障害	脳神経内科	近藤講師
7月9日(水)	1	パーキンソン病と多系統萎縮症 α synucleinopathy	脳神経内科	森井助教
7月9日(水)	2	パーキンソン症候群 PSP CBS tauopathy	脳神経内科	笠井准教授
7月9日(水)	3	神経病理1(神経変性疾患)	分子病態病理	丹藤助教
7月9日(水)	4	神経病理1(神経変性疾患) 実習	分子病態病理	丹藤助教
7月10日(木)	3	筋萎縮性側索硬化症 TDP43 proteinopathy	脳神経内科	笠井准教授
7月10日(木)	4	脊髄小脳変性症とポリグルタミン病・治療可能な遺伝性神経変性疾患	脳神経内科	笠井准教授
7月11日(金)	1	TBL 神経変性疾患	脳神経内科	笠井准教授
7月11日(金)	2	脳卒中総論	脳神経内科	尾原教授
7月11日(金)	3	虚血性脳血管障害各論①病態、検査、治療	脳神経内科	尾原教授
7月11日(金)	4	虚血性脳血管障害各論②再灌流療法	脳神経内科	田中瑛学内講師
7月14日(月)	1	神経病理Ⅱ(循環障害)	分子病態病理	未定
7月14日(月)	2	神経病理Ⅱ(循環障害) CPC形式	分子病態病理	未定
7月14日(月)	3	虚血性脳血管障害各論③ 外科的治療 血管内治療	脳神経外科	山中講師
7月14日(月)	4	出血性脳血管障害各論① 診断 内科的治療	脳神経外科	山中講師
7月14日(月)	5	重症筋無力症・イートンランバートン症候群・多発筋炎・皮膚筋炎	脳神経内科	芦田助教
7月15日(火)	1	出血性脳血管障害各論② 外科的治療 血管内治療	脳神経外科	丸山助教
7月15日(火)	2	特殊な脳卒中 もやもや病、脳動静脈奇形ほか	脳神経外科	丸山助教
7月15日(火)	3	TBL 脳卒中	脳神経外科/脳神経内科	尾原教授/丸山助教
7月15日(火)	4	脳腫瘍総論	脳神経外科	橋本教授
7月16日(水)	1	脳腫瘍各論① 良性腫瘍	脳神経外科	立澤准教授
7月16日(水)	2	脳腫瘍各論② 悪性腫瘍1	脳神経外科	高橋講師
7月16日(水)	3	脳腫瘍各論③ 悪性腫瘍2	脳神経外科	高橋講師
7月16日(水)	4	脳腫瘍各論④ 転移性脳腫瘍 小児脳腫瘍	脳神経外科	谷山助教
7月16日(水)	5	多発性硬化症、視神経脊髄炎、NMDA脳炎	脳神経内科	芦田助教

7月17日(木)	3	神経病理Ⅲ (脳腫瘍) 成人	分子病態病理	未定
7月17日(木)	4	神経病理Ⅲ (脳腫瘍) 小児、その他	分子病態病理	未定
7月17日(木)	5	TBL 脳腫瘍	脳神経外科	高橋講師/谷山助教
7月22日(火)	1	脊椎変性疾患 脊椎脊髄外傷	脳神経外科	梅林助教
7月22日(火)	2	脊椎脊髄腫瘍	脳神経外科	梅林助教

神経ユニット

第3学年前期

(講義)

日程	時限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
7月22日(火)	3	脊椎脊髄(末梢神経)の外科治療	脳神経外科	梅林助教
7月22日(火)	4	TBL 脊椎脊髄疾患	脳神経外科	梅林助教
7月23日(水)	1	てんかん総論	脳神経内科	田中章学内講師
7月23日(水)	2	不随意運動	脳神経内科	小泉助教
7月23日(水)	3	絞扼性神経障害	脳神経内科	能登講師
7月23日(水)	4	神経生理学 (神経伝達速度、筋電図、誘発電位)	脳神経内科	能登講師
7月23日(水)	5	ニューロパチー・ミオパチー	脳神経内科	能登講師
7月24日(木)	5	神経筋疾患の病理	脳神経内科	滋賀臨床教授
7月25日(金)	1	脳波(電気生理検査) /MEG	脳神経内科	田中章学内講師
7月25日(金)	2	てんかんの薬物治療	脳神経内科	田中章学内講師
7月25日(金)	3	小児のてんかん	小児科	戸澤学内講師
7月25日(金)	4	機能的脳神経外科 てんかんの外科治療	脳神経外科	梅林助教
9月1日(月)	1	小児神経外科	脳神経外科	山中講師
9月1日(月)	2	神経病理Ⅳ (小児科領域)	分子病態病理	伊東特任教授
9月1日(月)	3	神経病理Ⅳ (小児科領域)	分子病態病理	伊東特任教授
9月1日(月)	4	神経病理Ⅳ (小児科領域) 実習	分子病態病理	伊東特任教授
9月2日(火)	1	神経感染症1 (髄膜炎/脳膿瘍の診断と治療)	脳神経内科	吉田特任教授
9月2日(火)	2	神経感染症2 (ウィルス性髄膜炎・免疫抑制下における中枢神経感染・プリオン病)	脳神経内科	吉田特任教授
9月2日(火)	3	TBL 末梢神経・筋・神経免疫疾患	脳神経内科	能登講師
9月2日(火)	4	神経病理Ⅴ (脱髄・炎症)	分子病態病理	未定
9月3日(水)	2	頭痛	脳神経内科	石井学内講師
9月3日(水)	3	神経病理Ⅵ (神経感染症)	分子病態病理	丹藤助教
9月3日(水)	4	神経病理Ⅵ (神経感染症) 実習	分子病態病理	丹藤助教
9月4日(木)	4	神経倫理・脳死	脳神経内科	尾原教授/石井学内講師
9月5日(金)	1	神経倫理・脳死	脳神経外科	橋本教授
9月5日(金)	2	神経外傷	脳神経外科	塩見客員教授
9月5日(金)	3	神経救急 集中治療	脳神経外科	塩見客員教授
9月12日(金)		神経ユニット試験		

科目名	消化器ユニット		
科目責任者	原田 義規（病理学） 山口 寛二（消化器内科学） 塩崎 敦（消化器外科学）		
単位数	2. 7	必修・選択区分	必修
開講時期・学年	後期・3 学年	授業形態	講義

教育の目的と方針

消化器ユニット講義では病理学、消化器内科学、消化器外科学の各教室が合同で講義を担当する。講義においては、各科の視点から消化器疾患を多角的に解説することにより、学生が基本知識を習得した上で、これらの知識を用いてさらに自主的に学力を養い、消化器疾患に対する問題をより深い視点から解決する能力を習得することを目的とする。

各科における講義の方針については以下に示す。

【病理学】

病理学は、疾患によって生じる分子や細胞・組織における一定の構造・機能の異常に基づき、その病因 Etiology と発症機序 Pathogenesis を追求し、疾患体系を確立する学問である。また、患者の疾患を直接取り扱う臨床医学の基盤をなすものであり、患者の病態はつねに病理学的視野に立脚して理解されねばならず、病理学の教育はこのような視点を重視し、講義と実習の緊密な協調を特徴とする。講義により得た知識は実習によって確かめられ、知識として定着するため、講義・実習を一つのユニットとした形態をとる。

【消化器内科学】

消化器内科学では、消化管、肝・胆・膵の生理、生化、形態学的基本知識を持ちながら、各臓器の疾患を理解する必要がある。また消化器疾患の基本的知識のみならず、全身の中の消化器疾患として理解する必要がある。系統講義、臨床演習・実習を通じて口腔、食道、胃・十二指腸、小腸、大腸、肝・胆・膵、腹膜における疾患の病態、診断、治療について把握できるようにしたい。肝臓病の分野では 分子生物学や遺伝子工学の知識が必要となり、新たな視点を含めた各種検査法、画像診断、治療とその技法、臨床的意義について詳述する。消化管や胆・膵の分野では、内視鏡やその他の画像検査を用いた診断・治療の進歩について詳述し、将来の展望についても教授したい。

【消化器外科学】

学生が消化器疾患の基本知識を習得した上で、これらの知識を用いて外科的な視点から消化器疾患を理解する能力の習得する事を目的とする。それぞれが自分で考え正しい理解に到達することにより病態や現象の本質を理解できる「問題解決型」の教育スタイルの実践を目標とする。

到達目標

消化器疾患の病因・診断・治療を説明できる。

病理学・内科学・外科学の総論的な知識をもとに、学生自身が各消化器疾患の病因・発生機序を理解し、診断に必要な病理学的・内科学的な検査を選択して、最終的な内科的・外科的治療の方針を決定できる。この様な消化器疾患の診断から治療に至る一連の診療体系を選択し、その必要性や意

義・課題を説明できる。

各科における到達目標の詳細については以下に示す。

【病理学】

口腔・消化管・肝臓・胆嚢・膵臓に関し、

1. 正常構造と機能を判断できる
2. 代表的な非腫瘍性疾患（胃炎、炎症性腸疾患、肝炎、肝硬変、膵炎など）の病態病理を判断できる
3. 腫瘍性疾患の病態病理（胃癌、大腸癌、肝癌、胆嚢癌、膵癌など）を判断できる

【消化器内科学】

代表的な消化器疾患に関して、

1. 腹痛、腹部膨満感、悪心・嘔吐、下痢・便秘、吐・下血、背部痛、不明熱等の各消化器症状から鑑別疾患を推論できる。
2. 診断のために用いられる検査として腹部超音波検査、腹部 CT・MRI、消化管内視鏡などの意義を判断できる。
3. 治療として行われる消化管出血に対する内視鏡的止血術、消化管腫瘍に対する内視鏡的切除術、閉塞性黄疸に対する内視鏡治療、肝炎や肝癌に対する各種治療の適応とその技術や肝移植、炎症性腸疾患に対する分子標的治療薬、消化器癌への薬物療法などの適応・意義について判断できる。

【消化器外科学】

代表的な消化器疾患の外科治療に関して、

1. 適応やタイミングについて判断できる
2. 必要な術前・術後の検査を選択できる
3. 得られた検査結果の意義を説明できる
4. 定型的な手術手技の基本を説明できる
5. 診断に適した手術術式を選択できる

成績評価方法および基準

1. 成績評価方法

系統講義終了後に消化器ユニット（消化器内科学、消化器外科学、病理学）として定期試験を行い評価する。形式は原則としてマークシート方式による筆記試験で行う。

2. 評価基準

試験点数の 60%以上の獲得で合格と判定する。合格点に満たない者には消化器ユニットとして再試験を行い、合格基準は同様とする。

事前・事後学習について

以下に挙げた教科書を中心に該当範囲を次回の講義までに熟読して概要を把握しておくこと。講義後にも改めて熟読し、更なる理解を深めること。1 回の講義につき予習・復習それぞれ最低 30 分程度は必要である。

教科書・参考文献等

【病理学】

1. 教科書

- ・ Robbins and Kumar Basic Pathology 11th Edition (Elsevier)
- ・ Robbins and Cotran Pathologic Basis of Disease 10th Edition (Elsevier)

2. 参考書（アトラス）

- ・ 組織病理アトラス 第6版, 文光堂
- ・ Robbins and Cotran Atlas of Pathology 4th edition (Elsevier)

【消化器内科】

1. Harrison's Principles of Internal Medicine (Fauci, et.al., McGraw-Hill)
2. Textbook of Gastroenterology. (Yamada et al., Lippincott Williams & Wilkins)
3. Schiff's Diseases of the Liver (Schiff, Lippincott)
4. The Exocrine Pancreas. Biology, Pathobiology, and Diseases (Vay Liang W.Go, et. al, Raven Press)
5. 内科学（朝倉書店）

【消化器外科】

1. 標準外科学（医学書院）
2. 新臨床外科学（医学書院）
3. NEW 外科学（南江堂）
4. Textbook of surgery (Saunders)
5. Surgery-Scientific principle and practice (Lippincott-Raven)
6. ワシントンマニュアル（メディカル・サイエンス・インターナショナル）

オフィス・アワー

【病理学】

原田 義規 准教授

オフィスアワー 毎週水曜日 14:00-16:00

メールアドレス yoharada@koto.kpu-m.ac.jp

その他連絡先 細胞分子機能病理学医局 内線 5322

【消化器内科】

吉田 直久 講師

オフィスアワー 毎週月曜日 9:00-12:00

メールアドレス naohisa@koto.kpu-m.ac.jp

その他連絡先 消化器内科学医局 内線 5519

【消化器外科】

小西 博貴 講師

オフィスアワー 毎週木曜日 13:00-17:00

メールアドレス h-koni7@koto.kpu-m.ac.jp

その他連絡先 消化器外科学秘書 内線 5527

学生へのメッセージ

講義を中心とした授業が主になるが、実際の症例検討を用いた授業なども予定しており、それぞれが疾患の病因や検査所見、治療方針などを十分に考察し、意見や疑問点などを発言・質問できるように積極的に講義に取り組んでもらいたい。

授業日程 1限 8:50-9:50, 2限 10:00-11:00, 3限 12:50-13:50, 4限 14:00-15:00, 5限 15:10-16:10

消化器ユニット

第3学年前期

(講義)

日程	時限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
9月8日(月)	1	消化器疾患 総論	消・内	山口准教授/吉田講師
9月8日(月)	2	消化管腫瘍学 内科的診断・治療	消・内	井上講師(学内)
9月8日(月)	3	肝硬変 診断・内科的治療	消・内	山口准教授
9月8日(月)	4	肝腫瘍 診断・内科的治療	消・内	森口講師
9月8日(月)	5	食道・胃の外科①	消・外	藤原准教授
9月9日(火)	1	下部消化管の病理(講義)	病理	中尾助教
9月9日(火)	2	下部消化管の病理(実習)	病理	病理学教室員
9月9日(火)	3	胃炎 内視鏡診断・治療	消・内	内山講師(併任)
9月9日(火)	4	食道・胃の外科②	消・外	小松特任准教授
9月10日(水)	1	肝臓・胆道の病理Ⅰ(講義)	病理	原田准教授
9月10日(水)	2	肝臓・胆道の病理Ⅰ(実習)	病理	病理学教室員
9月10日(水)	3	食道疾患 診断・内科的治療	消・内	土井 講師(学内)
9月10日(水)	4	炎症性腸疾患 内視鏡診断・治療	消・内	高木准教授(併任)
9月16日(火)	1	口腔・上部消化管の病理(講義)	病理	森永助教
9月16日(火)	2	口腔・上部消化管の病理(実習)	病理	病理学教室員
9月16日(火)	4	腸の外科①	消・外	有田講師(学内)
9月16日(火)	5	膵炎 診断・内科的治療	消・内	十亀講師
9月17日(水)	1	大腸腫瘍 内視鏡診断・治療	消・内	吉田講師
9月17日(水)	3	肝臓・胆道の病理Ⅱ(講義)	病理	原田准教授
9月17日(水)	4	肝臓・胆道の病理Ⅱ(実習)	病理	病理学教室員
9月18日(木)	3	肝炎 診断・内科的治療	消・内	伊藤名誉教授
9月22日(月)	1	膵臓の病理(講義)	病理	中尾助教
9月22日(月)	2	膵臓の病理(実習)	病理	病理学教室員
9月22日(月)	4	内視鏡外科	消・外	清水講師(学内)
9月22日(月)	5	肝臓の外科	消・外	落合准教授
9月24日(水)	3	膵腫瘍 診断・内科的治療	消・内	保田客員講師
9月24日(水)	4	胆道の外科	消・外	山本講師
9月25日(木)	3	胆道疾患 診断・内科的治療	消・内	小西准教授
9月25日(木)	4	外科腫瘍学(Surgical Oncology)	消・外	塩崎教授
9月26日(金)	1	実際の症例を用いた消化器外科疾患の復習(講義形式)	消・外	小西講師
9月26日(金)	2	実際の症例を用いた消化器外科疾患の復習(講義形式)	消・外	小菅講師(学内)
9月26日(金)	3	日常臨床で遭遇する消化器疾患 肝・胆道疾患(講義形式)	消・内	森口講師
9月26日(金)	4	胃腫瘍 内視鏡診断・治療	消・内	土肥講師

日程	時 限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
9月29日(月)	1	食道・胃の外科③	消・外	市川客員教授
9月29日(月)	2	日常臨床で遭遇する消化器疾患 大腸・肝疾患(講義形式)	消・内	山口准教授/吉田講師
9月29日(月)	3	膵臓の外科①	消・外	今村助教
9月29日(月)	4	腸の外科②	消・外	木内助教
9月29日(月)	5	日常臨床で遭遇する消化器疾患 悪性腫瘍(講義形式)	消・内	小西准教授
9月30日(火)	3	膵臓の外科②	消・外	森村講師
9月30日(火)	4	日常臨床で遭遇する消化器疾患 上部消化管・肝疾患(講義形式)	消・内	土肥講師/瀬古講師(学内)
9月30日(火)	5	実際の症例を用いた消化器外科疾患の復習(講義形式)	消・外	名西助教
10月2日(木)		消化器ユニット試験		

科目名	産婦人科学		
科目責任者	森 泰輔		
単位数	2. 2	必修・選択区分	必修
開講時期・学年	前期・3学年	授業形態	講義

教育の目的と方針

1. 産婦人科学の知識と考え方を修得する。

- 女性の一生にわたる生理的变化（性成熟、妊娠・出産・産褥、老化）を体系的に学ぶ。
- 周産期医学、婦人科腫瘍、生殖医学、女性医学の各領域における最新の知見を習得する。

2. 患者の状況に応じた適切な診断法・治療法を選択できる。

- 内科的な診断や治療法や外科的な手術技術について基本的な知識を身につける。
- 内科的および外科的アプローチを駆使して、患者に応じた的確な診断能力を養う。

3. 将来的に国際的に活躍できる医学研究者としての資質を育む。

- 最新の研究手法や成果を把握し、今後の研究の進展について理解を深める。
- 将来独自の研究を推進するための論理的思考力や知的探究心を培う。

到達目標

産婦人科学は分娩を取り扱う周産期医学、婦人科腫瘍学、生殖医学、そして女性の加齢や生涯のライフステージに応じた医療（女性医学）の4分野に分かれることを踏まえ、以下の到達目標を設定する。

1. 周産期医学

- 妊娠・分娩・産褥期の生理・病態を理解し、適切な管理ができる。
- 母体および胎児の異常に対応する診断および治療を選択できる。
- 新生児に対する処置を適切に行える。

2. 婦人科腫瘍学

- 婦人科がん（子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がんなど）の病態生理を説明できる。
- 手術療法・化学療法・放射線療法や免疫療法を適切に選択できる。
- 遺伝学的手法を用いた個別化医療を実践できる。

3. 生殖医学

- 卵胞発育、排卵、受精、胚発生、着床過程の生理・病態を説明できる。
- 卵胞機能評価やホルモン療法や生殖補助医療技術を習得できる。
- 遺伝カウンセリング相談や生殖医療の倫理的課題に対応できる。

4. 女性医学

- 性成熟や加齢に伴うホルモン変化と女性の心身に与える影響を識別できる。

➤ ホルモン補充療法や骨粗鬆症予防を実践できる。 ➤ 女性の健康を生涯にわたりサポートする総合的視野を持つことができる。
成績評価方法および基準
系統講義終了後に定期試験を行う。試験の形式はマークシート方式による筆記試験とする。 定期試験を 90%、講義内に行う小テストや課題を 10%として、総合的に成績評価を行う。 評価基準は合計 60%以上の場合に合格とする。
事前・事後学習について
受講前に配布した資料を熟読し、内容を理解しておく。授業中に疑問点を整理し、次回授業までに解決しておくこと。
教科書・参考文献等
ウィリアムス産科学 Williams Obstetrics 26th Edition (南江堂) 標準産科婦人科学 第 5 版 (医学書院) 参考文献については、授業中に提示する。
オフィス・アワー
毎週木曜日 10～17 時
学生へのメッセージ
産婦人科学は、生命の誕生を支え、次世代を育む重要な役割を担っています。産科学では母体と胎児の 2 つの命を同時に守り、婦人科学では女性特有の健康課題に対応し、生殖医学では新たな生命を育むためのサポートを行います。また、ロボット支援下手術や生殖医療、胎児治療などの新しい医療技術や抗がん剤・ホルモン製剤などの新規治療法の開発に貢献できるチャンスがあります。 産婦人科学の魅力はその奥深さと人々の生きる力を支える力強さにあります。学生 みなさんにとってこの学びが意義深いものになることを心から願っています。

授業日程

産婦人科学

第3学年前期

(講義)

日程	時 限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
4月11日(金)	1	総論Ⅰ（産婦人科学とは）	産婦人科	森教授
4月16日(水)	3	生殖内分泌Ⅰ（性分化と月経のしくみ）	〃	伊藤講師
4月23日(水)	1	周産期Ⅰ（正常妊娠）	〃	田中学内講師
4月24日(木)	3	周産期Ⅱ（正常分娩）	〃	藁谷准教授
4月24日(木)	4	総論Ⅱ（検査・治療法）	〃	松島客員講師
5月7日(水)	4	生殖内分泌Ⅱ（不妊症、不育症、がん生殖）	〃	沖村助教
5月14日(水)	1	婦人科腫瘍Ⅰ（子宮良性疾患）	〃	小芝客員講師
5月21日(水)	3	婦人科腫瘍Ⅱ（卵巣腫瘍・鏡視下手術）	〃	伊藤講師
5月28日(水)	3	婦人科腫瘍Ⅲ（子宮頸がん）	〃	寄木講師
6月4日(水)	1	婦人科腫瘍Ⅳ（子宮体がん、絨毛性疾患）	〃	片岡学内講師
6月4日(水)	4	周産期Ⅲ（異常妊娠 1）	〃	大久保客員講師
6月10日(火)	4	婦人科腫瘍Ⅴ（卵巣がん）	〃	黒星准教授
6月11日(水)	1	女性ヘルスケアⅠ（思春期学）	〃	榎村客員講師
6月11日(水)	5	周産期Ⅳ（異常妊娠 2）	〃	藁谷准教授
6月13日(金)	5	女性ヘルスケアⅡ（遺伝、出生前診断）	〃	前田学内講師
6月16日(月)	4	周産期Ⅴ（合併症妊娠）	〃	藁谷准教授
6月17日(火)	5	婦人科腫瘍Ⅵ（がん薬物療法・悪性腫瘍手術）	〃	古株学内講師
6月18日(水)	1	周産期Ⅵ（異常分娩）	〃	藁谷准教授
6月19日(木)	4	女性ヘルスケアⅢ（更年期）	〃	岩佐客員講師
6月19日(木)	5	女性ヘルスケアⅣ（性感染症ほか）	〃	辰巳客員講師
6月20日(金)	4	生殖内分泌Ⅲ（生殖補助医療）	〃	北宅客員講師
6月20日(金)	5	総論Ⅲ（産婦人科学の未来）	〃	森教授

第4学年後期

(臨床演習)

日程	時 限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
10月23日(木)	4	プラカン形式Ⅰ（子宮良性疾患）	産婦人科	楠木教授（看護学科）
10月24日(金)	4	プラカン形式Ⅱ（異常妊娠）	〃	田中学内講師

科目名	整形外科科学		
科目責任者	高橋 謙治		
単位数	1. 6	必修・選択区分	必修
開講時期・学年	後期・3学年	授業形態	講義

教育の目的と方針

整形外科科学では、日常活動を支える運動器である骨、関節、筋、腱、靱帯、およびこれらを支配する脊髄、末梢神経の解剖、生理、病態、病理、生体力学とともに内科的・外科的治療学を理解することを旨とする。

整形外科の診療対象は多岐にわたる。年齢層は乳幼児から高齢者まで幅広い。疾患の発生状況は災害やスポーツ現場など様々である。疾患は先天性疾患、急性外傷、慢性疾患および骨軟部腫瘍、自己免疫性疾患など多様である。診断については機器の進歩がめざましく、多くの病態が可視化されつつある一方で、徒手的な理学所見は重要であり続けている。これは運動器機能を治療対象とする整形外科大きな特徴である。疫学的な観点と患者情報から適切な検査を選択し、その所見からの的確な診断を下す過程を学ぶ。

ついで治療の選択肢を知り、治療方針を立てる流れを学ぶ。整形外科での治療は手術だけでなく、薬物療法やリハビリテーション、患者教育といった多彩な手法で構成される。EBM は重要であるが、患者の全身状態や目指すゴール、社会背景によって最適な治療方針が異なることを理解する。整形外科診療では治療のみでなく再発予防も含めたトータルケアも重要である。他科の医師を含むメディカルスタッフとのチーム医療の重要性を認識し、自らの役割を果たせることを目指す。

到達目標

1. 運動器疾患の理解
 - ・運動器を構成する要素と健全な機能を説明できる。
 - ・各運動器における代表的な疾患を説明できる。
 - ・各疾患の疫学、病因、病態を判断できる。
2. 診断能力の獲得
 - ・年齢や基礎疾患などの患者背景から代表的な疾患を想起できる。
 - ・理学所見、神経学的所見を的確に取得できる。
 - ・必要な侵襲的検査の取捨選択ができる。
 - ・単純X線、関節造影、超音波画像、CT、MRI、筋電図などの検査結果の意味を説明できる。
 - ・診療情報を統合して確定診断を下すことができる。
3. 治療方針の立案
 - ・各疾患の保存療法（リハビリテーション、患者教育、薬物療法）と手術療法を想起できる。
 - ・各治療の利点と問題点を説明することができる。
 - ・メディカルスタッフ（看護師、理学・作業療法士、薬剤師、栄養士など）とのチーム医療の重要性と、その中心としての医師の役割を説明することができる。

成績評価方法および基準

1. 定期試験：定期試験および追再試験の形式は医師国家試験に準じたマークシート方式で行う。
2. 平常点：各授業では講義内容に即した小テスト（選択式あるいは記述式）を行う。

3. 総合成績評価：定期試験 90%、平常点 10%で評価し、合計で 60%以上の得点を合格とする。

事前・事後学習について

事前学習

解剖学的知識は習得済みの前提で授業が行われるため、講義領域の解剖構造については事前学習が必要である。授業スライドの概要は紙媒体で配布されるので、目を通しておき、疑問点を明確にしておく。限られた時間内で広い範囲の講義を受けるため、末尾に掲げた推薦教科書や各診療ガイドラインを適宜参照する。

事後学習

得た知識を定着させるとともに、「該当する疾患の患者やその家族に対してどのように説明するか」という観点からも整理する。不明点などがあればオフィス・アワー内に教員に質問する。

教科書・参考文献等

授業は各講師が準備したスライドに沿って行われる。特定のテキストは用いないが、以下は代表的な参考資料として有用である。

1. 全部見えるスーパービジュアル整形外科疾患（成美堂出版）
2. 患者がみえる新しい「病気の教科書」かんテキ 整形外科（メディカ出版）
3. 標準整形外科（医学書院）
4. 図解整形外科（金芳堂）
5. 図解整形外科問題集（金芳堂）

オフィス・アワー

石田雅史（いしだ まさし）講師 水曜 16：00-17：00 075-251-5549

学生へのメッセージ

整形外科診療は運動器の機能再建・再獲得を目指すダイナミックなものである。QOL に直結する疾患が多く、その治療効果を患者と医療チームが共感を持って共有しやすいのも特徴である。これらの魅力は机上の学習では伝わりにくいかも知れないが、クリニカルクラークシップで直接患者と触れ合う準備段階として、基礎的な知識を十分に身につけて欲しい。

授業日程

整形外科学

第3学年後期

(講義)

日程	時 限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
10月6日(月)	3	<整形外科総論I>運動器疾患とは 運動器疾患の治療法概論(保存療法と手術療法)	整形外科	高橋教授
10月7日(火)	2	<整形外科総論II> 運動器疾患の病態・診断法	〃	小田准教授
10月8日(水)	2	<運動器の疾患：総論I> 骨と軟骨のバイオロジー/変形性関節症	〃	林講師
10月14日(火)	2	<運動器の疾患：総論II> 運動器の構造とバイオメカニクス	〃	長江准教授
10月15日(水)	2	<運動器の疾患：関節1>股関節疾患	〃	石田講師
10月17日(金)	3	<運動器の疾患：腫瘍>骨腫瘍・軟部腫瘍	〃	寺内准教授
10月20日(月)	3	<運動器の疾患：関節2>膝関節疾患	〃	井上講師
10月21日(火)	2	<運動器の疾患：関節3>足関節疾患	〃	生駒准教授 (特任)
10月22日(水)	3	<運動器の疾患：関節4>肩関節，肘関節関節疾患	〃	木田講師
10月23日(木)	3	<運動器の疾患：関節5> 手関節，手，末梢神経の疾患	〃	土田講師
11月5日(水)	2	<運動器の疾患：外傷1> 骨・関節の外傷の種類，病態，治療	〃	堀江講師
11月5日(水)	4	<運動器の疾患：外傷2> スポーツによる運動器の外傷と障害	〃	石田講師
11月6日(木)	3	<運動器の疾患：脊椎1>頸椎，腰椎疾患	〃	石橋助教
11月7日(金)	3	<運動器の疾患：脊椎2>側弯症，脊椎脊髄損傷	〃	外村講師
11月10日(月)	3	<運動器の疾患：関節リウマチ，骨粗鬆症> 関節リウマチ，骨粗鬆症	〃	徳永准教授(併) 小田准教授 大久保講師
11月20日(木)	3	<運動器の疾患：小児整形>小児整形外科疾患	〃	岡講師

整形外科学

第4学年後期

(臨床演習)

日程	時 限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
10月20日(月)	3	運動器のリハビリテーションの実際(プラカン形式)	整形外科	松浦助教
10月22日(水)	3	運動器疾患の診断・治療(プラカン形式)	〃	祐成講師

科目名	小児科学		
科目責任者	家原 知子		
単位数	1. 8	必修・選択区分	必修
開講時期・学年	前期・3学年、後期・4学年	授業形態	講義、演習

教育の目的と方針

【目的】

小児科学における教育の目的は、子どもの体や心のしくみと異常を、子どもを取り巻く環境も含めて全人的に把握することによって、小児に対する包括的な医療への理解を深めることである。「小児は小さなおとなではない」という言葉は、小児科学の持つ様々な命題を、もっとも端的に表現した名言である。子どもは、「からだ」の構造や機能、「こころ」の発達や機能とも、大人とは異なる存在であり、日々成長し発達する。小児科学では、小児の各専門領域を理解するだけでなく、環境的・社会的要因を含めた視点で、小児を全般的にとらえることができるようになることを目指す。

【方針】

1. 講義

まず総論において、健康な子どもの発育と保健に必要な基礎知識を身につける。その上で各論では、小児における各専門領域で理解すべき、小児ならではの病態や医療について理解する。子どもは誕生してから成人するまで、家庭や社会の中で日々成長と発達を続け絶えず変化するが、その過程で多彩な健康の問題が出現する。これらを熟知し、解決するための知識をもち、子どもの状態を年(月)齢と照らし合わせて正確に評価する能力を養う。また、小児科医が小児医療において、多診療科による集学的医療や多職種により行われるチーム医療のコーディネーターとして、役割を果たしていることを認識する。

2. 臨床演習

担当の学生グループが実際の症例を提示し、授業に参加する学生全員が意見を出し合って、小児の診療の実際を追体験しながら修得する。症例の状態を病歴と診察から評価し、鑑別診断を考え、診断に必要な検査計画を立案し、適切な治療方針を選択できる力を養う。

到達目標

1. 小児の成長・発達、各種疾患について理解し、説明できる。

(1) 小児の成長・発達、栄養、生理など、総論的な事項について理解し、説明できる。

(2) 新生児疾患、代謝・内分泌疾患、免疫・アレルギー疾患、循環器疾患、腎・泌尿器疾患、感染症、血液・腫瘍性疾患、神経・運動器疾患、消化器疾患など、各論的な事項について理解し説明できる。

2. 小児における医療面接の進め方、診察所見のとり方、臨床検査値の診かた、画像所見の診かたなどについて学び、説明できる。

3. 小児において患者の状態をいかに評価し、検査や治療を進めるかについて学習し、説明できる。

成績評価方法および基準

平常点(20%)、定期試験(80%)とし、これらの評価の合計が 60%以上の場合に合格とし、その得点を科目評価とする。

平常点は、授業で提出を求める小テストの合計得点とする。小テストは合計 10 回行う。

定期試験は、到達目標の達成程度を測定するために行う。問題は全て論述式であり、医学的な用語を適切に使用して説明できることを求める。

再試験および追試験は、定期試験と同様の様式で出題する。
事前・事後学習について 事前に配布した資料を授業前に予習して、概要を把握した上で授業に出席する。また、教科書や授業中に紹介する参考文献を用いて、授業後に自ら調べて理解を深める。単なる知識の暗記ではなく、授業の内容を自らの言葉で説明できることが目標である。授業外での予復習に関しては、1回の授業につき1時間程度を必要とする。
教科書・参考文献等 各授業で用いる資料は、授業前に配布する。 授業においては特定の教科書を使用しない。小児科学の教科書として標準的なものを以下に紹介する。 1) 原 寿郎(監修)、高橋孝雄・細井 創・齋藤昭彦(編)、標準小児科学 第9版(2022) 医学書院 ISBN: 978-4-260-04781-4 2) 五十嵐隆(監訳)、ネルソン小児科学 原著第21版(2021) エルゼビアジャパン(電子書籍) 3) Kliegman RM & St Geme JW III (eds.). Nelson Textbook of Pediatrics 22nd edition(2025) Elsevier ISBN: 978-0-323-88305-4
オフィス・アワー 大曾根 眞也(おおそね しんや) メールアドレス: shinn-o@koto.kpu-m.ac.jp 所属・職位: 小児科学教室(河原町キャンパス 臨床医学学舎6階)・講師 曜日・時間帯: 月—金曜日 9:00-17:00
学生へのメッセージ 基礎的、教科書的な事項については、学生自らが学ぶという前提に立って授業を行うので、学生諸君の自主的な学習を期待する。授業の内容で疑問点が出てきた場合は、遠慮なくその場で質問してほしい。学生と教員、あるいは学生同士の議論を通じて、確固たる知識が身につくとともに、ものごとを考える力を養うことができる。 臨床演習については準備期間を考慮し、担当教員と事前に連絡をとって十分な打ち合わせを行うこと。

授業日程

小児科学

第3学年前期

(講義)

日程	時限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
4月9日(水)	2	総論	小児科	家原教授
4月11日(金)	2	消化器疾患	〃	柳生講師
4月16日(水)	4	免疫疾患	〃	秋岡准教授
4月18日(金)	2	神経疾患	〃	戸澤講師(学内)
4月23日(水)	2	新生児	〃	長谷川講師(学内)
4月25日(金)	4	アレルギー	〃	土屋准教授
5月7日(水)	3	血液・造血器疾患(1)	〃	大曾根講師
5月14日(水)	2	腎・泌尿器疾患	〃	大矢助教
5月16日(金)	4	感染症	〃	家原教授
5月21日(水)	4	先天性心疾患(非チアノーゼ性心疾患)・川崎病	〃	池田講師
5月23日(金)	4	血液・造血器疾患(2)	〃	吉田助教
5月28日(水)	4	先天代謝異常	〃	河辺助教
5月30日(金)	4	運動器疾患	〃	千代延准教授
6月4日(水)	2	先天性心疾患(チアノーゼ性心疾患)	〃	池田講師
6月11日(水)	2	内分泌疾患	〃	杉本助教
6月13日(金)	2	腫瘍性疾患(1)	〃	家原教授
6月16日(月)	3	腫瘍性疾患(2)	〃	宮地講師(学内)
6月18日(水)	2	総括	〃	秋岡准教授

第4学年後期

(臨床演習)

日程	時限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
10月21日(火)	2	新生児	小児科	瑞木助教
10月21日(火)	3	腫瘍	〃	富田助教
10月21日(火)	4	血液	〃	大曾根講師
10月22日(水)	4	内分泌・代謝	〃	杉本助教

科目名	眼科学		
科目責任者	外園 千恵		
単位数	1	必修・選択区分	必修
開講時期・学年	後期・3 学年	授業形態	講義

教育の目的と方針

眼は小さな臓器であるが、ヒトは必要な情報の 80% を視覚から得ている。眼科診療における検査、診察、治療は専門性・特殊性が高く、手術は主にマイクロサージェリーである。眼科学講義では、繊細かつ高度に分化した眼球の構造と視覚のしくみについて説明できること、頻度が高い眼疾患や重要な眼疾患についての知識を整理すること、視覚障害を有する人に対し配慮ができるようになることが目的である。またさまざまな全身疾患と眼疾患の関連についても説明できるようにする。

到達目標

1. 眼球の構造と視覚の仕組みを説明できる。
2. 基本的な眼科検査の方法と検査所見の読み方について説明できる
3. 疾患や症状に合わせて必要な眼科検査を選択できる。
4. 各眼疾患の特徴と診断方法について説明できる。
5. 各眼疾患の治療法（内科的・外科的）について説明できる。
6. 視覚障害を有する人の見え方（見えにくさ）、ロービジョンケアについて説明できる。

成績評価方法および基準

成績は定期試験により到達目標の達成度の評価を行う。合格最低基準は 60% 以上とする。
定期試験では、筆記試験（マークシート方式）および口頭試問（グループ面接方式）を実施する。
試験範囲は系統講義の内容および眼科全般で、試験の配点は、筆記試験 7 割、口頭試問 3 割とする。

事前・事後学習について

授業で扱っている内容は眼科学のごく一端に過ぎません。授業内で初めて知った内容やより詳しく知りたいと考えたことについて、授業後に自分で教科書等を調べて復習し、理解を深めてください。1 回の講義について復習に 30 分程度を要すると考えます。

教科書・参考文献等

- 1 眼科学第 3 版（編集：大鹿哲郎ほか、文光堂、84,700 円）
- 2 標準眼科学第 15 版（監修：中澤満・村上晶、編集：園田康平・中澤徹、医学書院、7,920 円）

その他、学生用推薦図書として、図書館の蔵書に以下の図書を置いていただきますので、ぜひ活用してください。

- 現代の眼科学 改訂第 13 版（所敬、吉田晃敏 編集、金原出版）
- 眼科診察クローズアップ（山田昌和 編集、メジカルビュー社）
- 眼科診療の基本 細隙灯顕微鏡スキルアップ（外園千恵、辻川明孝 編集、メジカルビュー社）

- カラーアトラス眼底図譜 第7版 (湯澤美都子、川村昭之、森隆三郎 編集、日本医事新報社)
- 眼科救急治療 まったなし! 急がば学べ (新篇眼科プラクティス 5) (恩田秀寿、大鹿哲郎 編集、文光堂)
- 眼科薬物療法リファレンス (新篇眼科プラクティス 4) (大鹿哲郎、園田康平、近藤峰生、稲谷大編集、文光堂)
- 網膜診療クローズアップ改訂第2版 (柳 靖雄 編集、メジカルビュー社)
- 蛍光眼底造影ケーススタディ エキスパートはFA・IA・OCTAをこう読み解く (飯田知弘 編集、医学書院)

- 眼科外来処置・小手術クローズアップ (江口秀一郎 編集、メジカルビュー社)
- 角膜疾患 外来でこう診てこう治せ 改訂第2版 (木下茂 編集、メジカルビュー社)
- 眼瞼・結膜腫瘍アトラス (後藤浩 編集、医学書院)
- 眼科レジデントのためのベーシック手術 (谷戸正樹 編集、日本医事新報社)

オフィス・アワー

鎌田さや花 (かまだ さやか)

メールアドレス: snakamur@koto.kpu-m.ac.jp

所属・職位: 眼科学教室・助教

連絡先: 眼科医局 075-251-5578 内線 5578

曜日/時間帯: 月曜日・火曜日; 9:00~13:00

講義を担当している各教員に質問等がある場合は、まず医局秘書に連絡してください。

連絡先: 眼科医局 075-251-5578 内線 5578

曜日/時間帯: 平日; 9:00~17:00

学生へのメッセージ

眼科学は、乳幼児期から老年期まで全ての方の視機能を守るために日々発展している非常に重要な分野です。専門性が高いので、付け焼刃では習得できません。授業では、医師として最低限知っておいてほしい内容について、エッセンスだけでも伝えるようにしています。将来の専門によらず、眼科学に興味を持って取り組まれることを期待しています。

授業日程

眼科学

第3学年後期

(講義)

日程	時限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
10月7日(火)	5	臓器移植、角膜移植とアイバンク	眼科	外園教授
10月14日(火)	5	基本的眼科検査	〃	三重野助教
10月15日(水)	4	眼科救急疾患および全身疾患と眼	〃	駒井病院助教 田中助教
10月23日(木)	4	網膜・ぶどう膜疾患	〃	沼助教
11月4日(火)	5	黄斑疾患、網膜変性疾患	〃	田中助教
11月5日(水)	1	眼付属器・眼窩の疾患	〃	渡辺講師
11月6日(木)	5	緑内障、視神経疾患	〃	上野准教授
11月10日(月)	5	眼感染症	〃	福岡学内講師
11月19日(水)	1	小児眼科、斜視、色覚異常、ロービジョン	〃	鎌田助教
11月21日(金)	3	白内障、屈折異常・屈折矯正手術	〃	稗田講師

第4学年後期

(臨床演習)

日程	時限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
10月16日(木)	3	眼瞼悪性腫瘍の疫学と遺伝子異常(ブラカン形式)	眼科	渡辺講師
10月20日(月)	4	症状から見た眼科疾患	〃	稗田講師

科目名	皮膚科学		
科目責任者	益田 浩司		
単位数	1	必修・選択区分	必修
開講時期・学年	後期・3学年	授業形態	講義

教育の目的と方針

皮膚科学では解剖学・生理学・病理学・分子医科学など、基礎医学で修得した知識を皮膚の場に導入し、皮膚の病変の臨床像と病態を把握することが求められる。全身との関係を皮膚表現像(Dermadrome)として理解し、また、これらに対する治療の大綱について理論と實際を会得することを目標とする。

皮膚科学は形態学的観察を基として出発した臨床医学であるが、医学の進歩に伴って、免疫学・分子生物学などの新しい研究方法の導入により、皮膚の細胞レベル・分子レベルにおける形態と機能の有機的な統合が結晶しつつある。かつ、皮膚はひとつの重要な器官として、他科領域に対する関連においても興味ある位置を占め、さらに皮膚病変とその経過は直接肉眼で観察でき、また、試験切除による皮膚病理組織学が確立されている。したがって、皮膚科学は医学的思考と臨床像把握の手段として適切な学問である。

1 皮膚科学総論

皮膚科学の理解に必要な、皮膚の形態と機能、発疹学、病理学、治療学について、歴史的背景をふまえつつ、最新の情報を理解する。

2 皮膚科学各論

(1) 炎症性皮膚疾患

日常の診療で遭遇する頻度が高い、湿疹・皮膚炎群、蕁麻疹、紅斑症、薬剤アレルギー、水疱症、炎症性角化症、血管炎、膠原病などの炎症性皮膚疾患の病態と治療法について、臨床医として必要となる知識を習得する。

(2) 皮膚感染症

細菌、真菌、ウイルスなどによる皮膚感染症、性感染症について、理解する。

(3) 母斑性・腫瘍性皮膚疾患

皮膚の母斑・母斑症について、頻度の高いものを中心に、患者数の増加がみられる腫瘍性皮膚疾患の診断と治療について、理解する。

(4) 物理的障害による皮膚疾患

熱傷、褥瘡等の皮膚障害について、実際の臨床をふまえて、必要な知識を習得する。

到達目標
1 皮膚の構造と機能 表皮、真皮、脂肪組織のほか、毛包、脂腺、汗腺などの付属器に存在している細胞や、体表を覆う皮膚のバリア機能、感覚器としての機能、体温調節機能などについて説明できる。 2 皮膚疾患の検査法と治療法 皮膚疾患の診断のための検査法、皮膚を介した反応を観察する全身性疾患の検査法の意義、実施法、結果の解釈等を理解し、皮膚疾患の治療のための外用療法のほか、理学療法の理論と実際について説明できる。 3 皮膚疾患 皮膚疾患には、炎症性疾患、代謝性疾患、遺伝性疾患、腫瘍性疾患、付属器疾患など非常に多岐におよぶ疾患があり、これらの疾患の概要や診断と治療を説明できる。
成績評価方法および基準
平常点（授業内に行う小テスト）（20%）、定期試験（80%）とし、これらの評価の合計が 60% 以上の場合に合格とし、その得点をこの科目の評価とする。
事前・事後学習について
以下に指定する教科書の該当範囲を次回の講義までに熟読し、概要を把握しておくこと。講義後にも改めて熟読し、更なる理解を深めること。1 回の講義につき予習・復習それぞれ最低 30 分程度は必要である。
教科書・参考文献等
1 あたらしい皮膚科学（第 3 版）（清水宏著 中山書店） 2 標準皮膚科学（第 11 版）（岩月啓氏監修、医学書院）
オフィス・アワー
オフィスアワー ・益田浩司准教授 水曜日 14:30-16:30 皮膚科医局 ・その他連絡先 皮膚科秘書 内線 5586
学生へのメッセージ
「皮膚は全身の鏡」と言われる通り、皮膚は全身の様々な変化を反映し、皮膚から様々な疾患を読み解くことができる。扱う疾患も、アレルギー・免疫疾患、膠原病、腫瘍、遺伝病、感染症など幅広く、診断と治療の効果が目で見ることができる点が特徴である。授業を通して、これらの理解を目指して学んでほしい。

授業日程

皮膚科学

第3学年後期

(講義)

日程	時 限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
10月6日(月)	1	皮膚の形態と機能	皮 膚	加藤教授(兼任)
10月7日(火)	1	皮膚科診断学・皮膚病理学	〃	益田准教授
10月14日(火)	1	皮膚疾患の外用療法、湿疹・皮膚炎	〃	峠岡講師
10月20日(月)	1	皮膚細菌・真菌感染症	〃	峠岡講師
10月21日(火)	1	水疱症、炎症性角化症、皮膚付属器疾患	〃	益田准教授
11月4日(火)	2	蕁麻疹、紅斑症、薬剤アレルギー	〃	荒川講師(学内・兼任)
11月10日(月)	1	皮膚の血流障害、膠原病	〃	浅井講師
11月11日(火)	1	熱傷・褥瘡・創傷治癒	〃	永田客員講師
11月13日(木)	3	ウイルス性皮膚疾患、性感染症	〃	荒川講師(学内・兼任)
11月17日(月)	1	母斑、母斑症、皮膚腫瘍	〃	浅井講師

皮膚科学

第4学年後期

(臨床演習)

日程	時 限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
10月23日(木)	3	皮膚疾患の治療(1) (プラカン形式)	皮 膚	丸山助教
10月24日(金)	2	皮膚疾患の治療(2) (プラカン形式)	〃	井岡助教

科目名	泌尿器科学		
科目責任者	浮村 理		
単位数	1	必修・選択区分	必修
開講時期・学年	後期・3学年	授業形態	講義

教育の目的と方針

(教育の目的)

泌尿生殖器(腎・尿路・後腹膜臓器および生殖器)の病態、疾患を理解するため、それらの解剖学的、生理学的知識を身につけるとともに、診断から治療に至るまでのすべての過程に関わる様々な知識を総合的に習得する。

(教育の方針)

泌尿生殖器疾患は非常に広い範囲の分野に渡るため、各分野のスペシャリストより最新の情報を学ぶ。また、排泄、性機能など人間の尊厳に関わる機能異常を対象にしている領域であることを十分に理解し、超高齢化社会において、泌尿生殖器疾患を正確に診断し治療に結びつけることの重要性を理解する。

到達目標

1. 泌尿生殖器(腎・尿路・後腹膜臓器および生殖器)の構造と機能を説明できる。
2. 泌尿生殖器の主要疾患である悪性腫瘍(腎癌、腎盂癌、尿管癌、膀胱癌、前立腺癌、精巣癌)、排尿障害(前立腺肥大症、神経因性膀胱、過活動膀胱)、尿失禁、女性泌尿器科、小児泌尿器科、腎移植術の疫学、病態生理を理解し、診断法を説明できる。
3. 泌尿生殖器の主要疾患である悪性腫瘍、排尿障害、尿失禁、女性泌尿器科、小児泌尿器科、腎移植術の疫学、病態生理を理解し、治療法を説明できる。
4. 泌尿生殖器疾患の外科的治療(泌尿器内視鏡手術、腹腔鏡・ロボット支援手術、開放手術)について、その適応と合併症を説明できる。
5. 泌尿生殖器疾患の内科的治療(薬物療法、抗癌化学療法、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬など)について、その適応と副作用を説明できる。
6. 泌尿生殖器悪性疾患の放射線治療について、その適応と副作用を説明できる。

成績評価方法および基準

定期試験(選択式および記述式)の得点が60点に満たない者を不可とする。

事前・事後学習について

事前学習

これまでに学習した、泌尿器科領域に関わる解剖学、生理学、薬理学、免疫学などの知識を整理しておくことを推奨する。

事後学習

講義前もしくは講義時に配布した資料を再度見直して復習すること。

教科書・参考文献等

特定の文献を教科書としては使用しない。各授業で用いるスライド資料は、授業前もしくは授業時に配布する。

参考文献

1. TEXT 泌尿器科学（南山堂、7,140 円）
2. ベッドサイド泌尿器科学（南江堂、47,250 円）
3. 講義スライド資料および配布プリント

オフィス・アワー

平日 9:00～17:00 は講座秘書と連絡が可能であり、各授業担当者への質問・相談の際には事前に予約してください。

泌尿器科学教室

E-mail : uro@koto.kpu-m.ac.jp

内線 : 5595

* 非常勤講師への質問・相談は原則「授業終了時」となります。

学生へのメッセージ

超高齢化社会において医師を目指すみなさんにとって、排泄・性功能など人間の尊厳に関わる泌尿生殖器疾患の知識を身につけておくことは、医師として必要不可欠な素養の一つです。そのため、講義形式の本授業の時点での努力を怠らないことが、今後の臨床実習を有意義なものにするために大変重要です。

授業日程

泌尿器科学

第3学年後期

(講義)

日程	時 限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
10月8日(水)	3	泌尿器科化学療法	泌尿器科	上田講師(学内)
10月10日(金)	3	精巣腫瘍(精巣腫瘍患者会の方との対話機会含む)	〃	中村客員教授
10月15日(水)	3	泌尿器科概論	〃	浮村 教授
10月16日(木)	3	腎移植・腎不全	〃	奥見准教授
10月17日(金)	4	小児泌尿器科	〃	内藤講師
10月22日(水)	2	腎癌	〃	本郷准教授
11月5日(水)	3	排尿障害	〃	藤原講師
11月12日(水)	3	尿路結石	〃	齋藤助教
11月12日(水)	4	尿路上皮癌	〃	多賀 助 教
11月26日(水)	2	前立腺癌	〃	白石講師(学内)

泌尿器科学

第4学年後期

(臨床演習)

日程	時 限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
10月9日(木)	4	アンドロロジー	泌尿器科	邵 客員教授
10月14日(火)	4	尿路感染症・性感染症・救急疾患	〃	小島客員教授

科目名	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学		
科目責任者	平野 滋		
単位数	1	必修・選択区分	必修
開講時期・学年	後期・3学年	授業形態	講義

教育の目的と方針

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学では、頭頸部が持つさまざまな機能や頭頸部に生じる疾患について幅広い知識を身につけることが目的である。耳鼻咽喉科・頭頸部外科学は、頭頸部という部位に耳、鼻、口腔・咽頭、喉頭、頸部、唾液腺・甲状腺などさまざまな器官が存在しており、各器官が有する聴覚、平衡覚、嗅覚、味覚などの感覚機能や、音声、嚥下、顔面運動などの運動機能といった生活上極めて重要な機能をまとめて扱っている。また耳鼻咽喉科・頭頸部外科疾患は男女問わず全年齢層に及び多岐にわたるため、日常的に遭遇しやすく、救急疾患やプライマリケアの観点からも学習することが重要である。

各講義では、器官ごとに基本的な解剖や機能、そしてそれらが障害される病態や治療法を示す。学生は講義で得た知識をもとに、将来実習で医療行為を実施できるよう修得する。

到達目標

1. 頭頸部にある各器官の正常解剖について具体的に説明できる。
2. 頭頸部にある各器官の機能について具体的に説明できる。
3. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科に関わる各種検査方法とその結果について記述できる。
4. 関連する疾患の病態と機能に及ぼす影響を説明できる。
5. 関連する疾患に対する治療法を選択できる。

成績評価方法および基準

定期試験 100%

得点が 60% 以上の場合に合格とし、その得点を科目評価とする。

事前・事後学習について

授業前に配布した資料に目を通し、概要を把握しておくこと。

授業中に初めて出会った知識、病態、用語などについては、授業後に以下に指定する教科書等で調べて理解すること。

1 回の講義につき予習・復習それぞれ最低 15 分程度は必要とする。

教科書・参考文献等

プライマリケアで一生使える耳鼻咽喉科診療（高橋優二著 日本医事新報社 ￥4,500）

標準耳鼻咽喉科・頭頸部外科学（大森孝一編集 医学書院 ￥7,000）

新耳鼻咽喉科学（切替一郎原著 南山堂 ￥16,000）

オフィス・アワー

平野 滋 教授 水曜日 14:00～17:00 hirano@koto.kpu-m.ac.jp

岡本 翔太 助教 水曜日 14:00～17:00 okmt721@koto.kpu-m.ac.jp

その他連絡先 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学秘書（内線 5603） jibisec@koto.kpu-m.ac.jp

学生へのメッセージ

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学では、講義ごとに扱う器官が異なります。そのため、講義内容が重複することがほとんどなく、すべての講義に出席することで耳鼻咽喉科・頭頸部外科学の総合的な知識を得られるようになっていきます。

授業日程

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学

第3学年後期

(講義)

日程	時限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
10月8日(水)	1	発声の仕組みとその障害 (喉頭の解剖と機能、音声障害の診断、喉頭の炎症、声帯ポリープ)	耳鼻咽喉科	平野教授
10月8日(水)	4	鼻副鼻腔炎・腫瘍の病態と治療	〃	岡本助教
10月9日(木)	3	鼻アレルギー (鼻アレルギーの疫学・発生機序・診断と治療)	〃	濱客員講師
10月10日(金)	2	外耳・中耳疾患の診断と治療	〃	内田客員講師
10月24日(金)	2	聴覚基礎と聴覚検査 (聴覚器の解剖と機能、聴覚検査)	〃	中村講師(学内)
11月4日(火)	1	口腔・咽頭・頸部疾患 (解剖と生理、炎症性疾患・腫瘍の診断と治療)	〃	辻川講師(学内)
11月7日(金)	2	耳下腺・甲状腺腫瘍の診断と治療	〃	森客員講師
11月14日(金)	3	声帯麻痺(反回神経の走行、声帯麻痺の病態・原因、診断法、外科的治療)、嚥下障害の診断と治療	〃	椋代講師(学内)
11月25日(火)	1	内耳疾患 (感音難聴・めまい) の診断と治療	〃	瀧准教授
11月27日(木)	1	口腔咽頭悪性腫瘍の診断と治療	〃	栢野客員講師

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学

第4学年後期

(臨床演習)

日程	時限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
10月23日(木)	2	頭頸部腫瘍の診断と治療 (プラカン形式)	耳鼻咽喉科	永尾講師 (学内)
10月24日(金)	3	喉頭疾患の診断と治療 (プラカン形式)	〃	布施助教

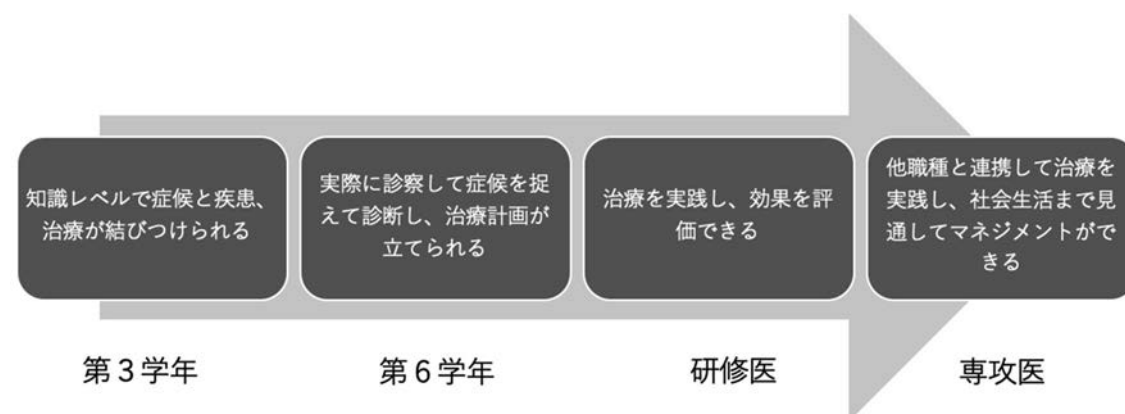
科目名	精神医学		
科目責任者	成 本 迅		
単位数	1	必修・選択区分	必修
開講時期・学年	前期・3 学年	授業形態	講義

教育の目的と方針

厚生労働省が実施した 2008 年の患者調査によると、本邦における精神疾患の患者数は約 323 万人であり、4 大疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病）で最も患者数が多い糖尿病（約 237 万人）を大きく上回り、がん（約 152 万人）の 2 倍以上になる。また、年間 3 万人に上る自殺者（1998～2011 年）の多くが何らかの精神疾患に罹患していた可能性が推定されており、2013 年の医療計画では、従来の 4 疾病に精神疾患を加えた「5 疾病」として位置づけられた。こうした精神科医療の重要性を鑑み、2020 年度からの臨床研修では精神科の研修が必修化され、精神疾患について症状の評価や的確な診断、治療が行える能力を身に付けることが求められている。

本学のディプロマポリシー（学位授与方針）においても、患者の心の状態に配慮しながら適切な態度で診療できる能力の獲得がひとつの要件として掲げられており、下記のロードマップに示したように、第 3 学年では、系統講義（10 回）を通じて、知識レベルで精神症状と疾患、治療を結び付けられるようになることを目的とする。また、第 4 学年では、各分野におけるトップランナーである客員教授の臨床演習（2 回）を通じて、精神医学を探究する意義、喜びを学び、リサーチマインドを身につけることを目的とする。

ロードマップ：各段階で習得すべき内容



到達目標

1. 精神医学の重要性について、具体的に 3 つ以上説明することができる。
2. 代表的な精神症状について、医学用語を用いて説明することができる。
3. 代表的な精神疾患の病因、症状、検査、診断、治療を説明することができる。
4. 代表的な精神症状から、鑑別すべき疾患を列举し、鑑別する方法を説明できる。

成績評価方法および基準

平常点（10%）、定期試験（90%）とし、これらの評価の合計得点が 60 点に満たない者を不可とする。

平常点は、下記のリンクまたは右の QR コードから Google Forms にアクセスして提出したレポー

トの内容によって評価する。提出期限は 2025 年 6 月 30 日とする。

<https://forms.gle/8sYT1iiLRXg9UWNf8>



定期試験は、到達目標の達成度を測定するために、医師国家試験に準じた多肢選択式・マークシート方式の問題を 30～35 問出題する。

事前・事後学習について

幻聴や抑うつ気分といった精神症状は目に見えないため、実際に症状を経験した患者さんから話を聞かなければ、症状を具体的にイメージしたり、その苦しみについて理解したりすることが難しい。そのため、事前・事後学習として患者さんの体験談やインタビュー動画、精神疾患をテーマにした映画・書籍などに多く触れることで、精神症状のイメージを膨らませて欲しい。

教科書・参考文献等

標準的な精神医学・行動医学の教科書として以下を紹介する。

1. 尾崎紀夫（編）（2024）．標準精神医学 第 9 版 医学書院
ISBN 978-4-260-05334-1
1986 年初版の精神医学の代表的な教科書。2024 年 2 月に第 9 版が出版され、最新の診断基準（DSM-5）にも対応している。全 604 ページと分量があるが、これ一冊で初期臨床研修にも対応できる内容となっている。
2. 日本行動医学会（編）（2023）．行動医学テキスト 第 2 版 中外医学社
ISBN-10:4498048296 ISBN-13:978-4498048294

履修生の興味を深めるための関連図書として以下を紹介する。

1. 杉山尚子（2005）．行動分析学入門－ヒトの行動の思いがけない理由 集英社新書
ISBN-10:4087203077 ISBN-13:978-4087203073
行動分析学についての一般向けの書籍。精神医学の教科書ではカバーしていない、行動随伴性や強化などについてわかりやすく解説されている。
2. サトウタツヤ・渡邊芳之（2019）．心理学・入門 心理学はこんなに面白い 改訂版 有斐閣アルマ
ISBN-10:4641221383 ISBN-13:978-4641221383
臨床心理学、性格と個人差の心理学、社会的行動の心理学、発達心理学、心理学的アセスメントなどについてわかりやすい文体で説明しており、興味も持ちやすい内容となっている。医療心理学の講義に合わせて読んでもらいたい。

オフィス・アワー

成本 迅（なるもと じん）

メールアドレス：jnaru@koto.kpu-m.ac.jp

所属・職位：精神医学教室（河原町キャンパス臨床医学学者 2 階）・教授

曜日・時間帯：水曜日 14:00～15:00

備考：個別指導または相談の際には事前にメールで予約してください。

富永敏行（とみなが としゆき）

メールアドレス：totomi@koto.kpu-m.ac.jp

所属・職位：精神医学教室（河原町キャンパス臨床医学学者 2 階）・准教授

曜日・時間帯：木曜日 15:00～17:00

備考：個別指導または相談の際には事前にメールで予約してください。

中前 貴（なかまえ たかし）

メールアドレス：nakamae@koto.kpu-m.ac.jp

所属・職位：精神医学教室（河原町キャンパス臨床医学学者 2 階）・講師

曜日・時間帯：金曜日 15:30～16:30

備考：上記の時間帯は概ね空いていますので、予約なしで来ていただいても大丈夫です。

学生へのメッセージ

精神医学は、脳から人の行動、対人関係までを扱う幅広い学問である。精神症状の評価は、問診のみから可能で、検査機器なしにどこでも実施可能なスキルであり、どの診療科の診察にも応用できる。そこから出発して、患者治療者関係の評価や環境と行動の相互作用などまで、精神医学のさらに深い知識とスキルの獲得を目指して欲しい。

授業日程

精神医学

第3学年前期

(講義)

日程	時 限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
4月7日(月)	2	精神医学総論	精神	成本教授
4月14日(月)	4	精神医学各論1：コンサルテーション・リエゾン精神医学	〃	綾仁講師
4月18日(金)	1	精神医学各論2：気分障害	〃	西村客員講師
4月21日(月)	4	精神医学各論3：統合失調症	〃	北林客員講師
5月12日(月)	2	行動分析学総論 精神医学各論4：強迫症	〃	中前講師
5月19日(月)	4	精神医学総論（ストレス） 精神医学各論5：神経症性障害	〃	富永准教授
5月26日(月)	4	精神医学各論6：器質性精神障害・認知症	〃	松岡客員講師
6月2日(月)	2	精神医学各論7：物質関連障害 精神医学各論8：摂食障害・心身症	〃	崔客員講師
6月9日(月)	2	医療心理学総論	〃	正木客員講師
6月16日(月)	2	精神医学各論9：児童思春期精神医学 精神医学各論10：パーソナリティ障害	〃	飯田学内講師

精神医学

第4学年後期

(臨床演習)

日程	時 限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
10月6日(月)	2	Meet the expert 1: サイコオンコロジー	精神	保坂客員教授
10月16日(木)	4	Meet the expert 2: 見えないものを見る	〃	三村客員教授

科目名	放射線医学		
科目責任者	山田 恵		
単位数	1. 1	必修・選択区分	必修
開講時期・学年	前期・3 学年	授業形態	講義

教育の目的と方針

放射線医学は画像診断学と放射線腫瘍学から成り立っており、臨床医学における放射線医学の役割を明らかにし、放射線医学の基本と実際を理解することを目的とする。進歩の著しい画像診断においては、正確な読影力を身につけるのみでなく、各種医用画像情報を総合的に解釈できる能力を養うことを目標とする。また、患者と接する姿勢および患者の QOL を考慮した治療の在り方（低侵襲的治療・疼痛緩和）を理解し他者と協働して医療の質を向上させる姿勢を培うことを目指す。

放射線医学総論・画像診断学・放射線腫瘍学（放射線生物学を含む）・IVR・核医学を順次講義する。放射線医学総論では放射線医学の成り立ち、放射線の基本原理及びその画像診断への応用を概説する。画像診断学では、単純X線フィルム読影法から CT、MRI 等による診断までを総合画像診断の一環として理解させることに重点を置く。核医学では人体の生理学的／生化学的な機能画像より疾患の質的診断がなされることを概説する。

治療では、悪性腫瘍の治療における放射線治療の位置付け、悪性腫瘍および脈管系疾患の低侵襲的治療法としての IVR の意義を解説し、QOL を考慮した治療の重要性の理解に努める。

到達目標

- 1 全般
 - (1) 放射線物理学、生物学の基礎知識を説明することができる。
 - (2) 放射線被曝防護に関する基本的知識を説明することができる。
- 2 画像診断
 - (1) 単純X線、CT、MRI、核医学（PET/SPECT）の基本原理を説明することができる。
 - (2) 画像診断における正常解剖、アーチファクト、造影剤の禁忌などを説明することができる。
 - (3) 頻度の多い疾病の画像所見について、各種画像診断の適応を理解し、検査目的を個々の症例について明確に説明できる。
- 3 IVR (Interventional Radiology)
 - (1) IVR の基本原理を説明することができる。
 - (2) IVR の適応と限界を説明することができる。
 - (3) IVR の一連の手技を説明することができる。
- 4 放射線治療
 - (1) 放射線治療の基本原理を説明することができる。
 - (2) 放射線治療の適応と限界（有害事象）を説明することができる。
 - (3) 放射線治療に必要な基礎知識（腫瘍の臨床病期他）と治療の手技を説明することができる。
- 5 核医学
 - (1) 核医学検査および核医学治療（内用療法）の基本原理を説明することができる。
 - (2) 核医学検査および PET 検査の特徴、その適用と限界を説明することができる。
 - (3) 核医学治療（内用療法）の特徴、その適用と限界を説明することができる。

成績評価方法および基準

定期試験（80%）、日常点（20%）とし、これらの評価の合計得点が 60 点に満たないものを不可とする。

成績評価基準

定期試験（80％）、日常点（20％）

- 1 日常点
講義における出席と適宜行なわれる小テスト、レポートを日常点とする。
- 2 試験
講義後の定期試験（記述方式）を行なう。追再試も記述方式。
- 3 総合成績評価
日常点と試験の点数を総合的に勘案して可否を判定する。

事前・事後学習について

受講前に配布した資料、あるいは指定した教科書がある場合は該当範囲を熟読し、内容を理解しておく必要がある。講義後にも熟読しさらなる理解を深める事。

教科書・参考文献等

ホームページに順次参考資料を掲載致します：

https://radiol.kpu-m.jp/training_guide/education/index.html

オフィス・アワー

山崎 秀哉 メールアドレス:yamahi@koto.kpu-m.ac.jp

所属・職位：放射線科・准教授

曜日・時間帯：金曜日・9時～13時

備考：個別指導または相談の際には事前にメールで予約してください。

その他連絡先 放射線医学教室秘書（平日 9～17時）

内線：5620／e-mail：radhisyo@koto.kpu-m.ac.jp

学生へのメッセージ

講義中心の授業を行うが、アクティブ・ラーニングやグループ・ディスカッションを取り入れることがある。授業への積極的参加として、質問・議論することを推奨する。画像診断や、放射線治療の考え方の道筋：臨床推論を理解しようとする姿勢を持ってほしい。

授業日程

放射線医学

第3学年前期

(講義)

日程	時 限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
4月8日(火)	2	放射線診断学総論	放射線	山田教授
4月15日(火)	2	臨床AIの現在	〃	酒井准教授(特任)
4月22日(火)	2	胸部放射線医学(腫瘍・乳腺)	〃	後藤准教授(特任)
4月23日(水)	5	I V R 総論	〃	吉川助教
5月20日(火)	4	腹部放射線医学	〃	高畑助教
5月21日(水)	5	I V R 各論	〃	廣田講師(学内)
5月27日(火)	2	脳神経放射線医学	〃	山田教授
6月3日(火)	2	放射線腫瘍学総論・放射線生物学	〃	山崎准教授
6月10日(火)	2	放射線腫瘍学(各論1)	〃	鈴木准教授
6月17日(火)	2	放射線腫瘍学(各論2)	〃	長澤助教
6月17日(火)	3	核医学	〃	玉木客員教授

放射線医学

第4学年後期

(臨床演習)

日程	時 限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
10月10日(金)	2	画像診断の読影の仕方(講義形式)	放射線	山田教授
10月17日(金)	3	放射線治療・核医学の実際(講義形式)	〃	山崎准教授 玉木客員教授

科目名	麻酔科学		
科目責任者	天谷 文昌		
単位数	1. 3	必修・選択区分	必修
開講時期・学年	後期・3 学年	授業形態	講義

教育の目的と方針

麻酔科学は、生理学および生化学、薬理学をその基礎に置いた臨床生理学および臨床薬理学が結合した応用医学であるとともに、高度の技術を必要とする臨床医学でもある。麻酔科医の現代医療の中における役割と歴史を知り、次いで麻酔薬、麻酔・術前の管理、麻酔に関係の深い呼吸・循環生理、痛みのメカニズム等について学習し、それぞれの患者の病態生理をよく理解した上で最適な麻酔や管理・治療ができるようになることを目的とする。

講義においてはその基礎理論と、麻酔薬・麻酔法等に関する各論を学習する。また臨床面では臨床に即した各種麻酔法や生体管理、集中治療室（ICU）での重症患者の集中治療管理のシステムとその実際、周術期の疼痛管理やペインクリニックでの疼痛治療の基本と神経ブロックを始めとした各手技、生命に関わる疾患に罹患した患者の苦痛を和らげる緩和ケアについて理解を深める。

到達目標

- 1 麻酔科学基礎
 - 1 麻酔科学に関連する生理学について説明できる（特に呼吸生理、循環生理、疼痛の病態生理）。
 - 2 麻酔科学に関連する薬理学について説明できる（特に麻酔に用いる薬剤の作用機序）。
 - 3 麻酔科学に関連する解剖学について説明できる。
- 2 麻酔科学各論
 - 1 各麻酔法、特殊麻酔（心臓麻酔、産科麻酔、小児麻酔、緊急手術の麻酔等）、人工呼吸管理、バイタルサインの意義、さらに麻酔科領域で使用する特殊薬物として鎮静薬、麻薬、筋弛緩薬、局所麻酔薬などの作用機序や特徴を説明できる。
 - 2 集中治療における全身管理の重要性を理解し、ショック・急性呼吸窮迫症候群などの診断と治療について説明できる。
 - 3 がん診療に関するターミナルケア、早期緩和医療の重要性について説明できる。
 - 4 疼痛の診断と病理学的背景を理解し、鎮痛薬や神経ブロック、放射線治療、理学療法などによる管理や、呼吸困難・嘔気など多様な症状への対応について説明できる。

成績評価方法および基準

- 1 平常点

各系統講義終了後に小テストもしくは小課題を行う。各 3 点（初回のみ 4 点）、合計 40 点とする。小課題の場合、詳細は授業内で紹介する。
- 2 試験

系統講義終了後に定期試験を行う。定期試験に関しては 60 点満点とする。

なお、定期試験、卒業試験、追再試験ともに筆記試験とする。 3 総合評価 平常点（40%）、定期試験（60%）とし、これらの評価の合計得点が 60 点に満たない者を不可とする。
事前・事後学習について 授業内で紹介する内容を効率よく身につけるためにも、受講前に配布した資料を熟読することを推奨する。講義後も改めて熟読し、更なる理解を深めること。
教科書・参考文献等 ● 「麻酔科プラクティス」 1～9 文光堂 12,100～14,300 円 ● 「がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン」 金原出版株式会社 2,600 円 ● 「WHO ガイドライン 成人・青年における薬物療法・放射線治療によるがん疼痛マネジメント」 金原出版株式会社 2,640 円 ● 「疼痛医学」 医学書院 6,600 円 ● 「ペインクリニック診断・治療ガイド」 日本医事新報社 8,000 円 ● 「トワイクロス先生の緩和ケア」 医学書院 3,740 円 ● 「慢性痛のサイエンス」 医学書院 3,740 円
オフィス・アワー 教員に連絡を撮る場合、メールまたは電話（下記連絡先）にて要件を伝え、アポイントをとること。 連絡先 麻酔科学教室（内線 5633） 天谷教授 ama@koto.kpu-m.ac.jp 石井講師 sachi94@koto.kpu-m.ac.jp
学生へのメッセージ 麻酔科医が携わる、周術期医学・集中治療学・疼痛・緩和医学について理解を深め、興味を持って授業に参加してもらいたい。 なお、授業内のアンプロフェッショナル行為については、厳しく対応するので注意されたい（退席を命じる場合もある）。

授業日程

麻酔科学

第3学年後期

(講義)

日程	時限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
10月6日(月)	2	麻酔科学とは	麻酔科学	天谷教授
10月9日(木)	4	集中治療医学総論	〃	小尾口准教授
10月16日(木)	4	集中治療医学各論	〃	細川客員講師
10月20日(月)	2	術前評価と麻酔法の選択	〃	石井講師
10月22日(水)	1	臨床麻酔とモニタリング	〃	阪口客員講師
11月6日(木)	4	循環管理 (心臓血管手術の麻酔を含む)	〃	秋山客員講師
11月10日(月)	2	呼吸管理 (胸部外科手術の麻酔を含む)	〃	法里客員講師
11月11日(火)	2	特殊領域の麻酔 (小児の麻酔、帝王切開術の麻酔、脳神経外科手術の麻酔)	〃	飯田学内講師
11月13日(木)	4	緊急手術の麻酔	〃	平田客員講師
11月17日(月)	2	緩和医療概論	〃	天谷教授
11月19日(水)	2	痛みの概論	〃	小川講師
11月20日(木)	4	局所麻酔薬と神経ブロック (脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔、末梢神経ブロック)	〃	上野准教授
11月27日(木)	2	がん性疼痛、非がん性慢性疼痛の治療	〃	上野准教授

麻酔科学

第4学年後期

(臨床演習)

日程	時限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
10月15日(水)	2	麻酔の実践 (講義形式)	麻酔科学	内 藤 講 師
10月17日(金)	2	集中治療の実践 (講義形式)	〃	加藤客員講師

科目名	感染症学・臨床検査医学（人体病理学）		
科目責任者	貫井 陽子、小嶋 基寛		
単位数	1. 1	必修・選択区分	必修
開講時期・学年	前期・3 学年	授業形態	講義

教育の目的と方針

COVID-19 パンデミックを契機に全世界的に新興・再興感染症に対する関心が高まっている。将来どのような道に進んでも感染症患者の診療や感染症関連の研究に接することは多く、その理論・実践を学生時代に身に付けておくことは極めて重要である。「感染症学」では感染症診療・感染制御の系統的な考え方を学び、4 学年以降の臨床実習に役立てることを目的とする。

また、現代では医師の臨床判断に必要な医学的情報の約 70%は検査結果に基づくとされており、臨床検査は患者さんの病態把握や診断のみならず、治療効果判定や予後予測に不可欠である。臨床検査は多くの分野に分かれており、その方法論に至っては迅速簡易検査から次世代シーケンス (NGS) まで日進月歩の状態である。一方、医療の効率性、経済性が叫ばれる現状にあっては、費用対効果の優れた検査の選択と解釈を常に念頭に置かねばならない。このような社会的背景に鑑みて「臨床検査医学」では代表的病態の診断と治療に必要な不可欠な検査をどのように選択するのか、その進め方の方針と方法論、またその検査によって得られた多くの生体情報をどのように判断するかという点について学習する。

「人体病理学」では手術、生検及び細胞診断で病変から直接採取される試料を適切に扱い、標準的な診断を行う方針と方法論とその重要性について学び、検査情報の解釈や NGS 等最近の進歩に関しても学習する。

到達目標

感染症学・臨床検査医学：

1. 感染症患者の診断的アプローチを説明できる。
感染症が疑われる患者さんに対する適切な診察手技・検査項目が何であるかを判断できる。
2. 医療機関内における感染制御の理論と実践を判断できる。
医療者自身が感染しないこと、患者さんに感染を媒介しないことの重要性を理解し、医療機関内における感染制御の理論と実践に基づき、適切な感染対策を実行できる。
3. 臨床検査の目的・適応を判断できる。
「必要な検査を実施し、無駄な検査を避ける」べく、今日の医療現場で実施されている様々な臨床検査の目的・適応を正しく説明できる。
4. 基本的な臨床検査の測定原理を説明できる。
高度に専門細分化した昨今の臨床検査領域の中でも、最低限必要な基本的検査項目の測定原理を説明できる。
5. 臨床検査の結果を正しく判断できる
個々の検査項目における検査特性（感度、特異度等）や検査結果の変動要因・検査過誤について説明できる。
6. 臨床検査の結果をもとに患者の病態を適切に判断できる。
臨床検査を有用なツールとして個々の患者さんの診療に生かすことができる。

人体病理学：

1. 病理検査のプロセスとその管理の必要性を理解し、適切な手法を選択できる。
2. 検体採取後の preanalytical phase の重要性を理解し、適切な検体処理法を選択できる。
3. 病理検査の評価法の重要性を理解し、適切な基準で正しく判断できる。
4. NGS など新しい検査における検体管理の重要性を説明出来る。

成績評価方法および基準

成績評価は感染症学・臨床検査医学と人体病理学の両部門が独立して行うが、単位認定は合同で行う。いずれの部門も、平常点（30%）、定期試験（70%）とし、これらの評価の合計得点が各部門で 60 点に満たない者を不可とする。

平常点は、授業終了時に提出を求める小テスト（多肢選択式あるいは簡単な記述式：10 点）の合計得点とする。ただし、毎回の授業で小テストを実施するとは限らない。

定期試験は、到達目標の達成度を測定するために 40 から 50 問を出題する。問題は全て多肢選択式とする。

追試験および再試験は基本的に同じ日程で、定期試験と同様の多肢選択式で出題する。基本的に平常点と追・再試験の合計得点が 60 点以上であれば合格とするが、平常点が 20 点以上であれば再試験で 30 点以上であることをもって合格とする。

事前・事後学習について

授業内で初めて知った疾患や検査、専門用語などについては、授業後に自分で調べて意味や内容を確認すること。これは、授業内での学修を促進するためだけでなく、復習による理解の深化を促すためのものである。授業内容を十分に理解してから次の授業に出席されることを推奨する。また、授業中に十分な説明時間を持てなかった項目については、次項に示す参考図書等を利用して、自らの理解・興味を深めることが望ましい。

授業外での予復習に関しては、各々 1 回の授業につき約 30 分、約 1 時間を必要とする。

教科書・参考文献等

特定の文献等を教科書としては使用しない。各授業で用いるスライド資料は授業前に配布する。各回の授業において参考文献として推奨できるものがあれば、授業の中で紹介する。なお、教科書ではなく、履修生の興味を深めるための感染症学・臨床検査医学に関連する図書として以下を紹介する。

- 1) 臨床検査法提要（金井泉原著、金原出版）
- 2) 最新臨床検査の ABC （日本医師会編、医学書院）
- 3) 基準値と異常値の間－その判定と対策－（河合忠編、中外医学社）
- 4) レジデントのための感染症マニュアル（青木眞著、医学書院）
- 5) 考える臨床検査－スクリーニング検査で異常値をみたら？（松尾収二編、文光堂）
- 6) 図解心電図テキスト 原著第 6 版（Dale Dubin 著、村川 裕二訳、文光堂）

オフィス・アワー

感染症学・臨床検査医学：

貫井 陽子

メールアドレス：y-nukui@koto.kpu-m.ac.jp

所属・職位：感染制御・検査医学（河原町キャンパス 臨床医学学舎 2 階）・教授

曜日・時間帯：平日（月・水・金）16 時～17 時

稲葉 亨

メールアドレス：inaba178@koto.kpu-m.ac.jp

所属・職位：感染制御・検査医学（河原町キャンパス 臨床医学学舎 2 階）・病院教授

曜日・時間帯：平日（月曜～金曜）15 時～17 時

山野 哲弘

メールアドレス：tyamano@koto.kpu-m.ac.jp

所属・職位：感染制御・検査医学（河原町キャンパス 臨床医学学舎 2 階）・講師

曜日・時間帯：未定

備考：いずれも、個別指導または相談の際には事前にメールで予約してください。

人体病理学：

小嶋 基寛

メールアドレス：mokojima@koto.kpu-m.ac.jp

所属・職位：臨床病理学（河原町キャンパス 病院病理部・病理診断科（病院 4 階）・教授

曜日・時間帯：メールにて問い合わせしてください

学生へのメッセージ

感染症学・臨床検査医学に関する知識は全ての医療従事者に不可欠です。系統講義終了後 4 学年時に実施される医学生共用試験実習前 OSCE においても、「基本的臨床手技」や「感染対策」の課題で、その技能や態度が評価されますので、今の段階（3 学年）からしっかりと基本的知識の習得を心がけて下さい。

授業日程

感染症学・臨床検査医学

第3学年前期

(講義)

日程	時 限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
4月15日(火)	1	臨床検査総論	感染・検査	稲葉病院教授
4月22日(火)	1	血液検査1 (末梢血・骨髓)	〃	〃
5月13日(火)	3	病理診断学総論1	人体病理	小嶋教授
5月20日(火)	3	病理診断学総論2 (細胞診)	〃	長峯客員講師
5月26日(月)	3	感染症の考え方1	感染・検査	貫井教授
5月27日(火)	1	血液検査2 (凝固・線溶)	〃	稲葉病院教授
6月3日(火)	1	生化学検査	〃	〃
6月10日(火)	1	生理機能検査 (循環器)	〃	山野講師
6月17日(火)	1	感染症の考え方2	〃	古川助教
6月20日(金)	2	感染症の考え方3	〃	濱島助教

感染症学・臨床検査医学

第4学年後期

(臨床演習)

日程	時 限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
10月7日(火)	2	RCPC	感染・検査	稲葉病院教授
10月10日(金)	3	病理組織診断と検体を用いた検査	人体病理	田中助教

科目名	救急医療学		
科目責任者	山畑 佳篤		
単位数	1	必修・選択区分	必修
開講時期・学年	後期・3学年	授業形態	講義

教育の目的と方針

内因性・外因性・老若男女を問わず主訴・症候から病態を把握することを学び、重症度・緊急度を判定して初期の安定化と症候に応じた初期治療を行うための知識を身につけることを目的とする。

到達目標

- (1) 救急医療の特性と求められる対応を説明できる。
- (2) 救急診療における緊急度について説明できる。
- (3) 病院前救護体制について説明できる。
- (4) 救急場面ごとのトリアージの概念を説明できる。
- (5) 一次救命処置を説明できる。
- (6) 二次救命処置を説明できる。
- (7) ショックの定義と分類、代表的な疾患の診断と応急処置を説明できる。
- (8) 救急病態に関する個別症候、特徴的な病態の基本的知識を説明できる。
- (9) 災害医療の特性と求められる対応を説明できる。
- (10) 集中治療の特性と求められる対応を説明できる。
- (11) 救急診療現場での患者・家族とのコミュニケーションの重要性を理解する。

成績評価方法および基準

- 1 出席
講義 60%以上の出席をもって筆記試験受験資格が得られる。
- 2 試験
各講義ごとに小テストを行い、総括的評価として筆記試験を行う。
- 3 合否基準
筆記試験 90%+小テスト 10%で評価し、60%以上の得点を合格基準とする。

事前・事後学習について

以下に示す参考文献等を参照し、授業前に以下の項目について事前学習しておくこと。

- ・一次救命処置の手順 ・二次救命処置の概要 ・ショックの分類と徴候 ・災害時トリアージ
- ・外傷初期診療のうちプライマリ・サーベイの概念と内容

講義後には配布資料を用いて復讐をすると同時に、疑問点があれば積極的に質問を受け付ける。

教科書・参考文献等

- 1 救急診療指針 改訂第6版 上・下巻 日本救急医学会 監修 へるす出版 2024年
救急診療に最低限必要な診療上の知識、技術について、具体的かつ明快に解説。日本救急医学会救急科専門医試験のための公式参考書
上巻 ISBN : 978-4-86719-083-8 / 下巻 ISBN : 978-4-86719-084-5
- 2 研修医当直御法度 第7版 寺沢秀一ら 三輪書店 2022年
マニュアル的な構成だが、救急診療テキストとして必須の内容がおさめられており、陥りやすいピットフォールも明示されている。
ISBN : 978-4-89590-740-8
- 3 JRC 蘇生ガイドライン 2020 日本蘇生協議会 編 医学書院 2021年

国際的な科学的コンセンサスに基づいた、我が国の救急蘇生に関するガイドライン。背景になる科学的根拠が記載されている。書籍版と別に PDF 版が公開されている。

ISBN : 978-4-260-04637-4

PDF 版 : <https://www.jrc-cpr.org/jrc-guideline-2020/>

●具体的な行動マニュアルとしては、改訂 6 版 救急蘇生法の指針 2020・医療従事者用（へるす出版 2022 年 ISBN : 978-4-86719-035-7）も同様に役に立つ。

4 Emergency Medicine. 9th edition. A Comprehensive Study Guide. J.E.Tintinalli et al. McGraw-Hill Professional. 2020 年

最も標準的な救急医学のテキスト。合理的、客観的な新鮮な内容と、簡潔明瞭な記載が特徴。

オフィス・アワー

オフィスアワー		メールアドレス
・山畑佳篤 講師	月曜日 09:00-11:00	yamahata@koto.kpu-m.ac.jp
	木曜日 09:00-11:00	
・救急医療学教室 秘書 内線 5393, e-mail : emerge@koto.kpu-m.ac.jp		
・救急室には 24 時間救急医療科医師が勤務しています 075-251-5645		

学生へのメッセージ

疾病や創傷は時間・場所を問わず発生します。人々が健康面で安心して生活を送るためには、場所、時間を問わず医療へのアクセスが等しく保証されていることが重要です。そのために救急医療の窓口は等しく維持される必要があります。

また救急診療においては、疾患ベースでのアプローチよりも病態の把握と症候からのアプローチが重要であり、病態・症候から多くの鑑別疾患を想起できるようになることを学んでほしいと考えています。

救急医療学の系統講義では、重症度、対象年齢、病態を問わずに対応する救急診療について、その意義と基本的知識を学びます。救急医療学の臨床実習では実際の症例への診療に能動的に参加し、必要な思考回路を身につけ、適切な態度が求められます。近い将来に体験する実習において、求められる技能・態度を身につけるためにも、この系統講義では、重症度、対象年齢、病態を問わずに対応する救急診療について、まずはその意義と基本的知識を学ぶことから始め、理解を深めてください。

授業日程

救急医療学

第3学年後期

(講義)

日程	時 限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
11月11日(火)	3	救急医療学総論	救急医療学	太田教授 (山畑講師)
11月11日(火)	4	小児救急	〃	安客員講師
11月12日(水)	1	ショックの病態：評価とマネジメント	〃	渡邊助教
11月12日(水)	2	院内急変対応／心肺蘇生	〃	山畑講師
11月18日(火)	3	熱傷・環境障害	〃	松山学内講師
11月18日(火)	4	外傷初期診療／創処置	〃	牧野助教
11月19日(水)	4	中毒診療	〃	武部助教
11月21日(金)	1	救急集中治療の基本	広島大学	志馬教授
11月21日(金)	2	災害医療 緊急被ばく医療	京都大学	大鶴教授
11月26日(水)	1	プレホスピタルケア／症例問題	救急医療学	山畑講師

科目名	総合医療・地域医療学			
科目責任者	四方 哲			
単位数	0.9	必修・選択区分	必修	
開講時期・学年	後期・4学年	授業形態	講義	

教育の目的と方針

地域医療とは、保健・医療・福祉の連携の中で医療を行うことである。そして総合診療能力は医師が医師たるべき最も根源的な能力の一つである。

総合医療学・地域医療学の教育を受けることで、総合的視野に立ち、地域・診療所・病院を代表し、各スペシャリストを含めた医療人をたばねる次世代のリーダーとなる総合医、地域診療医へとステップアップするための下地を作る。

講義を通じて、総合診療・家庭医療・地域医療の概論、内科診断学、コミュニケーション法、医療面接、身体診察法、カルテ記載法、文献検索などの知識・技能を身につける。

到達目標

地域医療の定義を記述できる。

総合内科学における症候学、診断学を説明できる。

疾患と症候の違いを説明できる。

症候と発症様式から疑い疾患、除外すべき疾患を列挙できる。

臨床での疑問を定式化し、関連文献を検索できる。

地域医療の実際を説明できる。

総合診療専門医の実際を説明できる。

家庭医医療の実際を説明できる。

病院総合医：ホスピタリストの実際を説明できる。

一般内科が抑えるべき感染症診療を説明できる。

成績評価方法および基準

定期試験（100％）とし、60 点に満たない者を不可とする。

定期試験は論述式問題 1-3 問（40％）と多肢選択問題 30-50 問（60％）から構成される。

再試験および追試験は、論述式問題もしくは口頭試問から構成される。

論述式問題に関しては出題内容について授業内で公開する。

事前・事後学習について

事前学習は必須ではない。事後学習を推奨する。具体的には、授業内で初めて知った現象、理論、用語については、授業後に自身で調べて意味や内容を確認すること。授業内容を十分に理解してから次の授業に出席することを推奨する。

教科書・参考文献等

四方 哲. ビジョンと戦略からはじまる地域医療学のブレイクスルー. 1 版 2 刷. 中外医学社; 2024.

McWhinney IR, Freeman T. *A textbook of family medicine*. 3rd ed. Oxford, UK: Oxford University Press; 2009.

福井 次矢, 奈良 信雄, 松村 正巳. 内科診断学. 第 4 版. 医学書院; 2021.

金城 光代, 金城 紀与史, 岸田 直樹. ジェネラリストのための内科外来マニュアル. 医学書院; 2019.

松村 理司, 酒見 英太. 診断力強化トレーニング. 医学書院; 2020.

生坂 政臣. めざせ！外来診療の達人. 日本医事新報社; 2018.

Fletcher RH, Fletcher SW, Fletcher GS. *Clinical Epidemiology: The Essentials*. 5th ed. Lippincott Williams & Wilkins; 2014.

日本漢方医学教育協議会, 編. 基本がわかる漢方医学講義. 羊土社; 2016.

京都府立医科大学附属図書館 情報・文献検索 UpToDate

京都府立医科大学附属図書館 情報・文献検索 DynaMed Plus

京都府立医科大学附属図書館 情報・文献検索 PubMed

一般財団法人 日本漢方医学教育振興財団 漢方医学教育教材

オフィス・アワー

随時ご質問はお受けする。

総合医療・地域医療学教室

内線：5875 外線：075-251-5875

メール：mededs@koto.kpu-m.ac.jp

学生へのメッセージ

患者さんは自身の疾患名を知らずに症状を訴えて受診します。

症状や背景にこだわらず、どんな人にも「今日はどうされましたか？」と優しく聞ける医師、患者さんの人生を診る医師の存在を知ってほしいです。

授業日程

総合医療・地域医療学

第4年前期

(講義)

日程	時 限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
11月10日(月)	2	地域医療学	総合医療・ 地域医療学	四方教授
11月10日(月)	3	地域医療の実際	〃	石野臨床教授
11月10日(月)	4	総合内科診断学	〃	松原講師
11月12日(水)	2	総合診療専門医のキャリアパス	〃	斉藤助教
11月12日(水)	3	臨床現場に臨む心得／医療者コミュニケーション	〃	丹羽准教授
11月12日(水)	4	Evidence Based Medicine 情報検索について	〃	丹羽准教授 他
11月13日(木)	2	一般内科医が抑えるべき感染症診療	〃	関西客員講師
11月13日(木)	3	家庭医療学のエッセンス	〃	稲葉客員講師
11月13日(木)	4	これからの日本を支えるホスピタリスト	〃	堀田客員講師
11月14日(金)	3	総合医療・地域医療学 試験	〃	教室員

科目名	臨床実習前 OSCE 前講座		
科目責任者	天谷 文昌（教育センター長）		
単位数	2. 6	必修・選択区分	必修
開講時期・学年	後期・4 学年	授業形態	講義・実習

教育の目的と方針

第4学年の医学科学生が12月より行う臨床実習（クリニカルクラークシップ）の準備教育として、講義・実習を通じ、以下の項目について、臨床実習前に必須の知識・技能を身につけることを目的とする。

①頭頸部診察 ②胸部診察 ③腹部診察 ④神経診察 ⑤バイタルサインの取り方 ⑥神経診察 ⑦四肢と脊柱の診察 ⑧カルテ記載 ⑨医療面接 ⑩小児科の診察 産婦人科の診察 救急の診察 外科の診察（基本的臨床手技）皮膚の診察

到達目標

医師としてとるべき対応や姿勢など基本的臨床技能習得のための訓練を行い、将来医師として患者に接する能力、すなわち医療面接や身体診察などの基本的な臨床技能の修得を目標とする。

上記の評価として、第4学年の10月に共用試験実施評価機構により実施される「客観的臨床能力試験 Objective Structured Clinical Examination OSCE（オスキー）」の合格を診療参加型臨床実習への参加要件とする。

成績評価方法および基準

全国のすべての医学部が参加する共用試験臨床実習前 OSCE の合格

事前・事後学習について

事前に学習・評価項目（通称、学評）をしっかりと読み込んでおくこと。

実習後にスキルスラボを開放する期間を設けるので、各自復習に取り組むこと。

教科書・参考文献等

- 共用試験実施評価機構からの実習書
診療参加型臨床実習に必要なとされる技能と態度についての学修・評価項目
- 共用試験実施評価機構からの教育・学習用動画
- 各講座、実習で配布される資料

オフィス・アワー

適宜教育支援課、教育センターへ相談のこと。

学生へのメッセージ

- ・全実習出席を OSCE 受験の受験資格とします。
- ・病気等によるやむを得ない欠席の場合は、必ず教育支援課に連絡し、欠席届と診断書等の必要書類を提出してください。再実習は行われないこともあります。
- ・シミュレーターは大学、病院所有の貴重な共有資源です。丁寧に扱い、片付けなどもきちんと行うように心がけてください。

授業日程

臨床実習前OSCE講座

第4学年前期～後期

(講義)

日程	時 限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
9月9日(火)	2	臨床実習前OSCEに関するオリエンテーション／ 診療録について	教育センター 総診	教育センター教員 丹羽准教授
9月9日(火)	3	皮膚の診察	皮膚	益田准教授
9月10日(水)	3	頭頸部の診察	耳鼻	瀧講師
9月10日(水)	4	神経の診察	神内	能登講師
9月10日(水)	5	基本的臨床手技	消外	森村講師
9月11日(木)	2	救急の診察 蘇生対応	救急	山畑講師
9月11日(木)	3	全身状態とバイタルサイン／ 胸部の診察	循内 呼内	星野講師 徳田講師
9月11日(木)	4	四肢と脊柱	整形	堀江講師
9月11日(木)	5	小児科の診察	小児	池田講師
9月12日(金)	3	産婦人科の診察	産婦	伊藤講師
9月12日(金)	4	腹部の診察	消内	十亀講師
9月12日(金)	5	医療面接	内免	河野講師

診療実習前OSCE実習

第4学年前期～後期

(実習)

日程	時 限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
9月17日(水)	1～4	医療面接のロールプレイ、カルテの書き方、各 診療（頭頸部、胸部、腹部、神経）の実際、眼 底所見の取り方、心肺蘇生の実際、女性と小児 における診察法を学ぶ。手術室での清潔操作、 手洗い法を学ぶ。点滴、注射などの基本的臨床 技能を実習する。	全科	別 途 連 絡
9月18日(木)	1～4			
9月19日(金)	1～4			
9月22日(月)	1～4			
9月24日(水)	1～4			
9月25日(木)	1～4			
9月26日(金)	1～4			

科目名	リハビリテーション医学		
科目責任者	三上 靖夫		
単位数	0.8	必修・選択区分	必修
開講時期・学年	後期・3学年	授業形態	講義

教育の目的と方針

リハビリテーション医学の教育では、リハビリテーション医学・医療に関する基本的な知識を幅広く学修することを目的とする。リハビリテーション医学・医療は活動を育む医学・医療である。活動とは ICF（国際生活機能分類）では、生活上の目的を持った具体的な行動を指す。疾患や年齢を問わず、すべての人は生活の中にあり、活動を行っている。リハビリテーション医学・医療、活動という視点を知ることは、医師としていかなる分野に関わるとしても価値があるだろう。

講義の方針は以下のとおりである。総論としてリハビリテーション医学・医療の概念について理解する。活動に視点を置いたリハビリテーション診断、評価について学ぶ。各論として運動器障害、脳血管障害、循環器障害、脊髄損傷とそれに対するリハビリテーション医療を学ぶ。移動や摂食嚥下といった活動を切り口とした講義、小児や高齢者のライフステージにフォーカスした講義で理解を深める。また全人的な医学的アプローチであり様々な職種が協力して行うチーム医療としてのリハビリテーション医療を学ぶ。さらに関連する社会制度について基本的な知識を身につける。

到達目標

1. リハビリテーション医学・医療の概念に関する記述の正誤を判断できる。
2. さまざまな障害のリハビリテーション医療についての基礎知識に関する記述の正誤を判断できる。
3. リハビリテーションチーム医療に関する記述の正誤を判断できる。
4. リハビリテーション医療に関わる社会制度についての基本的な内容に関する記述の正誤を判断できる。

成績評価方法および基準

平常点（16%）、定期試験（84%）とし、これらの評価の合計得点が 60 点に満たない者を不可とする。

平常点は、授業で提出を求める小課題（2 点）の合計得点とする。小課題は記述方式とする。

定期試験は、マークシート方式とする。

追再試験は記述方式またはマークシート方式とする。追再試験で 60%以上の得点に達することを到達目標達成とみなし、可とする。

事前・事後学習について

事前学習の目標は、講義の流れや概要を受講前に把握することで、理解を促進することである。受講前に事前配布資料などで予習しておくこと。

事後学習の目標は、復習することで理解を深め自らの知識になり言葉で説明できる水準に達することである。授業内で初めて知った用語については、下に記載した教科書などで授業後に自分で調べて意味や内容を確認すること。

事前・事後学習は講義につき、それぞれ 30 分程度を想定する。

教科書・参考文献等

- 1 リハビリテーション医学・医療コアテキスト第2版
(日本リハビリテーション医学会監修、医学書院、3,500 円)
- 2 脳血管障害のリハビリテーション医学・医療テキスト
(日本リハビリテーション医学会監修、医学書院、5,500 円)
- 3 運動器疾患・外傷のリハビリテーション医学・医療テキスト
(日本リハビリテーション医学会監修、医学書院、5,500 円)
- 4 総合力がつくりハビリテーション医学・医療テキスト
(日本リハビリテーション医学教育推進機構監修、5,600 円)
- 5 ベッドサイドの神経の診かた 第18版
(田崎義昭／斉藤佳雄 著、南山堂、7,200 円)

オフィス・アワー

各教員へのコンタクトは医局秘書を通じてメールまたは電話で行なってください。

リハビリテーション医学秘書 e-mail : reha@koto.kpu-m.ac.jp TEL : 075-251-5234

学生へのメッセージ

皆さんが将来医師になって向き合う患者さんや地域の人々には、疾患があるなしに関わらずその人らしい「生活」があります。生活を構成する活動を豊かにすることは、疾病の治療や発症・進行予防につながるとともに QOL の向上に不可欠です。そのためには「活動を育む」ためのリハビリテーション医学・医療の基本を理解し、自ら考える力、多職種とつながる力を身につけてほしい。受講において配慮を希望するものは事前に申し出てください。

授業日程

リハビリテーション医学

第3学年後期

(講義)

日程	時 限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
11月18日(火)	1	総論，診断・評価	リハビリテーション医学	三上教授
11月19日(水)	3	運動器障害	〃	大橋准教授
11月25日(火)	3	脊髄損傷	〃	三上教授
11月25日(火)	4	移動の障害（義肢・装具，福祉機器）	〃	沢田准教授
11月26日(水)	3	脳血管障害	〃	前田臨床准教授
11月26日(水)	4	小児のリハビリテーション医学・医療，循環器障害	〃	鈴木客員講師，白石講師
11月27日(木)	3	摂食嚥下障害，高齢者のリハビリテーション医学・医療	〃	櫻井助教，菱川学内講師
11月27日(木)	4	チーム医療，社会制度	〃	小寺助教，垣田学内講師

科目名	生物統計学		
科目責任者	手良向 聡		
単位数	0.8	必修・選択区分	必修
開講時期・学年	後期・3学年	授業形態	講義

教育の目的と方針

生物統計学は、臨床・疫学研究の方法論の基礎となる学問である。臨床・疫学研究の計画・デザインの段階から統計解析・報告の段階まで、生物統計学の知識とその活用が必須となる。本講義では、数学的な厳密性を保ちつつ、実践における有用性を重視して、生物統計学に基づく科学（ヘルスデータサイエンス）の考え方を理解することを目的とする。

本講義は以下の内容を含む。

1 総論

医学・医療と技術評価、臨床・疫学研究における生物統計学の役割、臨床研究に関する法規・倫理指針、およびデータの質管理・質保証について理解する。

2 データ解析と結果の解釈

(1) データの記述

データを要約して記述する方法について理解する。

(2) 統計的推測

データ(標本)から集団に対して合理的な推測をする方法について理解する。

(3) 頻度流統計学

仮説検定の原理、割合の差の検定(カイ二乗検定、フィッシャーの正確検定)、推定(信頼区間)の原理について理解する。

(4) ベイズ流統計学

ベイズ流統計学の基本的考え方、頻度流統計学との相違点について理解する。

(5) 2群比較、分散分析、一般線形モデル

2群の比較(t検定、ウィルコクソン検定)、分散分析、一般線形モデルについて理解する。

(6) 生存時間解析

生存時間の特徴、生存曲線の推定(カプラン・マイヤー法)、生存曲線の比較(ログランク検定)について理解する。

(7) 交絡バイアスとその調整

交絡の定義、交絡バイアスの調整(研究デザインによる調整、統計解析による調整)、交絡と交互作用の違いについて理解する。

(8) 多変量解析手法

代表的な多変量解析手法であるロジスティック回帰分析とコックス回帰分析について、結果の解釈を中心に理解する。

到達目標

- 1 学生は、データの適切な要約と視覚化の手法について説明できる。
- 2 学生は、頻度流の推測統計における検定と推定について説明できる。
- 3 学生は、頻度流統計学とベイズ流統計学の違いについて説明できる。

4 学生は、データに応じた検定手法(t検定、ウィルコクソン検定、分散分析、カイ二乗検定)を選択できる。																		
5 学生は、生存時間解析の基本的手法(カプラン・マイヤー法、ログランク検定)について説明できる。																		
6 学生は、一般線形回帰モデルならびに一般化線形回帰モデル(ロジスティック回帰、コックス回帰)の概要について説明できる。																		
7 学生は、交絡の定義とその調整方法について説明できる。																		
成績評価方法および基準																		
定期試験 80%、各講義中に実施する小テスト 20%																		
各項目の合計が 60%以上の場合に合格とし、その得点を科目評価とする。																		
事前・事後学習について																		
事前:これまでの受講内容の復習。																		
事後:配布資料を見直し、疑問点があればメール、オフィス・アワー等で解決する。																		
教科書・参考文献等																		
毎回、講義資料を配布する。 ・大橋靖雄編著. 医師のための臨床統計学 基礎編. 医歯薬出版株式会社(4,000 円). ・宮原英夫、折笠秀樹監訳. 実践医学統計学. 朝倉書店(4,600 円). ・手良向聡. なぜベイズを使わないのか!? 臨床試験デザインのために. 金芳堂(3,200 円).																		
オフィス・アワー																		
<table><tr><td></td><td>オフィス・アワー</td><td>メールアドレス</td></tr><tr><td>手良向聡</td><td>月曜日 14:00～17:30</td><td>steramu@koto.kpu-m.ac.jp</td></tr><tr><td>中田美津子</td><td>水曜日 14:00～17:30</td><td>mnakata@koto.kpu-m.ac.jp</td></tr><tr><td>堀口剛</td><td>月曜日 14:00～17:30</td><td>go-h@koto.kpu-m.ac.jp</td></tr><tr><td>内藤あかり</td><td>火曜日 14:00～17:30</td><td>a-naito@koto.kpu-m.ac.jp</td></tr><tr><td colspan="3">その他連絡先 生物統計学秘書 内線 5966</td></tr></table>		オフィス・アワー	メールアドレス	手良向聡	月曜日 14:00～17:30	steramu@koto.kpu-m.ac.jp	中田美津子	水曜日 14:00～17:30	mnakata@koto.kpu-m.ac.jp	堀口剛	月曜日 14:00～17:30	go-h@koto.kpu-m.ac.jp	内藤あかり	火曜日 14:00～17:30	a-naito@koto.kpu-m.ac.jp	その他連絡先 生物統計学秘書 内線 5966		
	オフィス・アワー	メールアドレス																
手良向聡	月曜日 14:00～17:30	steramu@koto.kpu-m.ac.jp																
中田美津子	水曜日 14:00～17:30	mnakata@koto.kpu-m.ac.jp																
堀口剛	月曜日 14:00～17:30	go-h@koto.kpu-m.ac.jp																
内藤あかり	火曜日 14:00～17:30	a-naito@koto.kpu-m.ac.jp																
その他連絡先 生物統計学秘書 内線 5966																		
学生へのメッセージ																		
生物統計学の知識は、臨床研究を行う際のみならず、医学文献を正しく読み解くために必須である。本講義を通じて、学部生の段階で正しい統計学の知識を身につけることにより、将来臨床現場において、証拠に基づく医療を構成する証拠はどのような研究結果からもたらされたのか、批判的吟味が行えるようになることを目指す。																		

授業日程

生物統計学

第3学年後期

(講義)

日程	時 限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
10月7日(火)	3	臨床研究と生物統計学	生物統計学	手良向教授
10月7日(火)	4	データの記述と推測	〃	中田講師
10月14日(火)	3	頻度流統計学とベイズ流統計学	〃	堀口助教
10月14日(火)	4	2群の比較	〃	内藤助教
10月21日(火)	3	分散分析と一般線形モデル	〃	中田講師
10月21日(火)	4	交絡バイアスとその調整	〃	松山教授(非常勤講師)
11月4日(火)	3	生存時間解析	〃	内藤助教
11月4日(火)	4	ロジスティック回帰分析とコックス回帰分析	〃	手良向教授

科目名	国際医学英語		
科目責任者	押味 貴之（国際医療福祉大学医学教育統括センター 教授） 的場 聖明（循環器・腎臓内科学 教授） 天谷 文昌（教育センター長）		
単位数	1. 2	必修・選択区分	必修
開講時期・学年	前期・4 学年	授業形態	講義

教育の目的と方針

医療の国際化にふさわしい英語力を身につけるため、英語による医療面接に関する知識と技術を学修する。授業は少人数グループ学習を基本とする。グループ別にアドバンスコースとスタンダードコースを設置し、それぞれの到達目標をふまえ、学生がコースを選択できる。ただし、コースに偏りが生じた場合、授業成績などをふまえ選択コースの調整を行う場合がある。

授業はアドバンスコースについては「英語のみ」で、スタンダードコースについては「英語と日本語」で実施する。

到達目標

1. アドバンスコース

英語による医療面接を高い水準（英語医療面接評価において 80%以上）で行うことができる

2. スタンダードコース

英語による医療面接を最低限の水準（英語医療面接評価において 60%以上）で行うことができる

<各講義の到達目標>

	講義内容	到達目標（各講義終了後に望まれる到達目標）
Lesson 1	オリエンテーション	コース全体の概要、評価基準について理解し、英語医療面接の基本的な流れを説明できる。
Lesson 2	現病歴	英語で現病歴（HPI）を問診できる。少なくとも主訴、発症時期、経過、随伴症状を英語で聞き取ることができる。
Lesson 3	既往歴・手術歴・薬・アレルギー・家族歴・社会歴	各項目について、英語で基本的な質問ができ、患者から情報を引き出すことができる。
Lesson 4	英語医療面接演習Ⅰ	指導を受けながら、患者への自己紹介、患者情報（氏名・生年月日）の確認、同意取得を含む基本的な医療面接を英語で行うことができる。
Lesson 5	英語医療面接演習Ⅱ	基本的な医療面接に加え、現病歴をより詳細に聴取し、適切なフォローアップ質問を英語で行うことができる。
Lesson 6	英語医療面接演習Ⅲ	一通りの医療面接を通して行い、英語で患者の安全を確保しつつ、包括的な病歴聴取を行うことができる。

成績評価方法および基準

英語医療面接評価：30 点（上記参照）

授業内活動：30 点

各班のチューターが、積極性や各講義における目標到達度などの評価をする。

最終レポート：40 点 全部で日本語 2000 字以内

自分の今後のキャリア形成において、この授業を受けて最も重要だと思ったポイントを 3 つ選ぶ
その 3 つのポイントは何か？具体的に書く

なぜその 3 つのポイントが自分にとって重要なのか？具体的に書く

その 3 つのポイントを今後の学生生活にどのように反映させていくのか？具体的に書く

事前・事後学習について

事前に配布する授業資料を用いて事前学習し、事前課題がある場合には授業までに取り組んでおくこと

教科書・参考文献等

授業資料

外国人患者さんとの会話の始め方

<https://www.icrip.jp/eigocafe/2019/04/01/menu01/>

英語での医療面接のコツ

https://www.icrip.jp/eigocafe/2020/07/01/menu_16/

英語で現病歴を上手く尋ねるコツ

<https://www.icrip.jp/eigocafe/2019/07/01/menu04/>

既往歴・手術歴・家族歴に関する英語表現

https://www.icrip.jp/eigocafe/2021/04/01/menu_25/

薬に関する英語表現

https://www.icrip.jp/eigocafe/2021/05/06/menu_26/

アレルギーと食事に関する英語表現

https://www.icrip.jp/eigocafe/2021/08/02/menu_29/

社会歴に関する英語表現

<https://www.icrip.jp/eigocafe/2020/09/01/menu-18/>

胸痛に関する英語表現

<https://www.icrip.jp/eigocafe/2020/03/02/menu12/>

参考資料

The Patient History: Evidence-Based Approach

ISBN10: 0071624945

ISBN13: 9780071624947

コミュニケーションのための医学英語—Medical English for Communication

ヴェラスコ, ダニエル著 朝倉書店, ISBN:9784254301281

オフィス・アワー

質問などあれば、以下のメールアドレスに連絡をしてください。

- ・教育センター educate@koto.kpu-m.ac.jp
- ・押味貴之 oshimi@iuhw.ac.jp

学生へのメッセージ

医学英語教育において、「英語での医療面接」は基本的な学修項目であり、現在多くの医学部で取り入れられています。本コースでは、国際化する医療現場に対応できる英語力を身につけるために、英語での医療面接の基本から実践的なスキルまで段階的に学んでいきます。

英語医療面接の習得には、まず基本表現を暗記し、スムーズに口から出せるようにすることが重要です。特に「現病歴（HPI）」では、最初に開放型質問を使って、患者さんに「発症」「発症前」

「発症後」の様子を詳細に語ってもらいながら、必要に応じて適切な質問を加え、話の流れを整理しながら要約するスキルが求められます。

また英語での医療面接は単なる英会話ではなく、医療者として患者さんの気持ちに寄り添い、安全で信頼される診療を行うための重要なスキルです。このコースでは、実践的な練習を通して英語力だけでなく、患者さんに対する思いやりやプロフェッショナリズムも養います。

失敗を恐れず、積極的に発言し、仲間とともに学び合うことで、確実に力がついていきます。皆さんが安心して挑戦できる環境を整えていますので、ぜひ前向きに取り組んでください。

一緒に楽しみながら英語医療面接を学びましょう！

科目名	地域医療実習		
科目責任者	天谷 文昌（教育センター長） 四方 哲（総合医療・地域医療学）		
単位数	1	必修・選択区分	必修
開講時期・学年	後期・5学年	授業形態	実習

教育の目的と方針

本学医学科・看護学科学生が、地域の医療を支える基幹病院等において、臨床現場における実習を合同で体験し、地域医療の仕組及び各地域の保健・医療・福祉等の実情を学ぶとともに、医師、看護師等がチーム医療の一員として行動する重要性等を理解することにより、地域医療に貢献する医療人・指導者を養成することを目的とした実習である。以下に具体的な実習目的を示す。

- 1 京都府北部地域における地域医療の現状を理解し、問題と課題を発見する。
- 2 上記の問題と課題について、地域住民の視点と医療者の視点から解決策を議論し、医療者としての意識・使命感を養う。
- 3 地域医療におけるチーム医療の実際を理解し、チームワークの重要性と方法を学ぶ。

<実習概要>

1. 対象学年：医学科第5学年、看護学科第3学年
2. オリエンテーション及び事前学習

実習にあたっては、事前にオリエンテーションを実施するので、必ず出席すること。

オリエンテーションの日程は別途掲示により連絡する。

3. 実習

参加型実習及び見学型実習で施行する。本学教員、各教育指定病院における臨床教授及び他の医療スタッフ、地域の保健・医療施設等におけるスタッフ等の指導のもと行う。各病院で独自のプログラムを作成している。実習では身だしなみを整え、挨拶をわすれず、積極的に実習に参加すること。実習期間中は京都府立医科大学学生としてふさわしい行動をとること。

4. 日程

実習日程は夏休み明けを予定。日程は別途通知する。この他、実習の一貫として、事前学習会・オリエンテーション（7月下旬頃）、実習報告会（実習最終日に大学で実施）、実習発表会（11月中旬頃）があるので、必ず出席すること。 それぞれの日程は別途通知する。 5. 実習場所 本学教育指定病院のうち府北部域（南丹市、綾部市、福知山市、舞鶴市、与謝野町、京丹後市）に所在する病院を中心に、当該病院の診療体制等の特色や、保健・医療等に関する地域の特性を活かしたプログラムを、地域滞在型の実習として実施する。
到達目標 (1) 地域中核病院の外来・救急実習を通して、病院における地域医療の実際と地域の特徴を説明できる。 (2) 地域住民(患者)の視点からみた地域医療のニーズと医療者の姿勢・役割を説明できる。 (3) 地域連携実習を通して、地域の保健・医療体制を説明できる。 (4) チーム医療の実際を知り、チームワークの重要性と方法を説明できる。 (5) プロフェッショナルとしての基本的態度を習得し、患者中心の医療が実践できる。
成績評価方法および基準 以下の評価項目の合計が 60 点以上である場合に合格とする。 （１）実習態度評価 30 点 （実習先での評価に加え、実習最終日の報告会、11 月頃に予定する実習発表会においての評価も含む） （２）レポート課題 50 点 （３）実習最終日報告会での発表内容を班ごとに評価する 20 点
事前・事後学習について 事前に行う実習概要オリエンテーションにて事前学習テーマを提示する。各施設でのオリエンテーションで発表の時間があるため、班員で協力、分担し、発表準備を進めること。 また、事前に実習要項をよく読み、服装、持ち物、事前準備、集合時間、宿泊施設に関して確認しておくこと。

教科書・参考文献等
特にありません。
オフィス・アワー
教育支援課、教育センターにて適宜質問や相談に応じます。
学生へのメッセージ
京都府北部の中核的医療施設での貴重な臨地実習です。 地域での医療を学ぶことに加え、メディカルスタッフや地域ボランティア・介護に携わる方々、行政の方々との多職種連携の実際を学ぶこともできる内容となっています。 多くのご施設、職種の方にご協力いただいている実習です。みなさんの思いに応えるような態度、意識で取り組むことを期待しています。

総 合 講 義

I 概 説

令和7年度の総合講義は、専門教育課程で80回（2学年8回、3学年22回、4学年15回、5学年28回）実施する。

総合講義は、既存の系統講義の実習ではカバーできない、現在の医学・医療を見渡した時に必要な内容について、複数の教室が連携をとりながら各専門分野の講師が横断的講義を行うものである。

II 講義の運営

学生の理解を深めるため、各項目の最初の講義で項目全体のイントロダクションを行うこととしている。

また、一方通行的な講義にならないよう、討論などの時間を設けるようにする場合もある。

III 単位の認定

- 1 学年ごとに単位認定を行う。
- 2 単位認定については、各講義で実施される小テストに合格することを必須とし、当該年次に実施する各項目を下表の基準により単位認定を行う。

総合講義Ⅰ	第2学年	先端生命科学の項目が合格であること。
総合講義Ⅱ	第3学年	医用工学、再生医学、ゲノム医学、腫瘍学のうち3項目以上合格であること。
総合講義Ⅲ	第4学年	臨床倫理学、感染症、放射線基礎医学のうち2項目以上合格であること。
総合講義Ⅳ	第5学年	医事法及び医療と安全管理、腫瘍の化学療法、移植・再生医学、東洋医学、地域医療学のうち3項目以上合格であること。

- 3 上記2による単位認定の基準を満たさない場合には、進級又は卒業をできない。

令和7年度 総合講義授業日程

2学年後期

項 目 責任講師	日 程	時 限	内 容	担当講師	参加講師
先端生命科学 八木田教授 (統合生理学) 	1月30日(金)	1	時間生物学と時間医学	八木田教授 (統合生理学)	
	1月30日(金)	2	老化と疾患の基礎研究	渡邊講師 (基礎老化学)	
	1月30日(金)	3	閉じるためにプログラムされた動脈管の魅力ー臨床から基礎医学研究へ	横山詩子客員教授 (東京医科大学)	
	1月30日(金)	4	エピジェネティックスと発がん・老化	山田泰広教授 (東京大学医学系研究科)	
	2月6日(金)	1	発生学研究の新展開	八代教授 (生体機能形態科学)	
	2月6日(金)	2	化学感覚	樽野教授 (細胞生理学)	
	2月6日(金)	3	MRIによる神経解剖学	山田教授 (放射線診断治療学)	
	2月6日(金)	4	生殖細胞を用いた発生工学と臨床応用での課題	篠原隆司教授 (京都大学医学系研究科)	

令和7年度 総合講義授業日程

3学年後期

項 目 責任講師	日程	時 限	内 容	担当講師	参加講師
医用工学 高橋教授 (整形外科学)	1月22日(木)	3	光イメージングと医療	原田准教授 (病理学)	
	1月22日(木)	4	先端放射線治療機器	鈴木准教授 (放射線医学)	
	1月23日(金)	2	ロボット手術を中心とした講義(1)	井上講師 (整形外科学)	
	1月23日(金)	3	医療情報システム	猪飼 宏 部長/准教授 (医療情報部)	
	1月23日(金)	4	ロボット手術を中心とした講義(2)	本郷准教授 (泌尿器科学)	
再生医学 田代教授 (ゲノム医科学)	1月22日(木)	5	ダイレクトリプログラミングによる再生医療の可能性	北澤助教 (眼科学)	
	1月26日(月)	4	生体組織工学をベースとした再生医療	田畑教授 (京都大学)	
	2月5日(木)	3	難治性眼疾患と再生医療	外園教授(眼科学) 木村先生(臨床研究推進 センターURA部門長)	
	2月5日(木)	4	重症心不全や重症下肢虚血に対する心血管再生医療	的場教授 (循環器内科学)	
	2月5日(木)	5	角膜内皮の再生医療	上野准教授(眼科学) 今井講師(フロンティア展開 学)	
腫瘍学 高山教授 (内科学)	2月2日(月)	3	がん化学療法による皮膚障害とマネージメント	浅井講師 (皮膚科学)	
	2月2日(月)	4	がん緩和ケア各論	天谷教授 (麻酔科学)	
	2月2日(月)	5	抗がん薬物による肺障害とマネージメント	徳田助教 (呼吸器内科学)	
	2月3日(火)	2	免疫関連有害事象のマネージメント	西岡助教 (呼吸器内科)	
	2月3日(火)	3	骨転移のマネージメント	高山教授 (呼吸器内科学)	
	2月3日(火)	4	腫瘍循環器病学	山野講師 (循環器内科)	
ゲノム医学 武藤教授 (予防医学)	2月4日(水)	2	クロマチン・リモデリングとヒト疾患	中田教授 (分子医科学)	
	2月4日(水)	3	エピジェネティック作用薬	曾和特任教授 (教育センター)	
	2月4日(水)	4	臨床医学におけるゲノム解析	阪倉客員教授 (消化器外科学)	
	2月6日(金)	2	ゲノム操作による神経変性疾患の解析	辻村講師(学内) (基礎老化学)	
	2月6日(金)	3	固形癌におけるゲノム医学を用いた診断・治療	山田准教授 (呼吸器内科学)	
	2月6日(金)	4	ゲノミクス・プロテオミクス	田代教授 (分子医科学)	

令和7年度 総合講義授業日程

4学年後期

項 目 責任講師	日 程	時 限	内 容	担当講師	参加講師
放射線基礎医学 田代教授 (ゲノム医科学)	11月4日(火)	3	放射線の物理化学	田代教授	
	11月4日(火)	4	確定的影響と確率的影響	田代教授	
	11月4日(火)	5	有事第1日目と第2日目の医療	田代教授	
	11月5日(水)	3	実習	田代教授	ゲノム医科学全員と 中央研究室勝山研究教授
	11月5日(水)	4	実習	田代教授	ゲノム医科学全員と 中央研究室勝山研究教授
感染症 貫井教授 (感染制御・検査医学)	11月6日(木)	4	臨床的に問題となる耐性菌	原田客員講師 (感染制御・検査医学)	
	11月6日(木)	5	日和見感染症	原田客員講師 (感染制御・検査医学)	
	11月7日(金)	3	新興・再興感染症	貫井教授 (感染制御・検査医学)	
	11月7日(金)	4	感染症と神経疾患	吉田客員講師 (感染制御・検査医学)	
	11月7日(金)	5	病院内感染症	古川助教 (感染制御・検査医学)	
臨床倫理学 池谷教授 (法医学) 	11月4日(火)	2	社会における医の倫理	池谷教授 (法医学)	勝又客員教授 (法医学)
	11月5日(水)	5	人生の終末と心の救い	池谷教授 (法医学)	鍋島客員教授 (法医学)
	11月11日(火)	2	自己決定権(化学療法・骨髄移植)	黒田教授 (血液内科学)	谷脇名誉教授 (血液内科学)
	11月11日(火)	3	SNS時代の医療情報発信	小山 真 先生 (相馬病院)	
	11月11日(火)	4	医師のキャリアとワークライフバランス	WLB支援センター みやこ センター員	

令和7年度 総合講義授業日程

5学年後期

項目 責任講師	日程	時 限	内 容	担当講師	参加講師
移植・再生医学 松田教授 (免疫学) 	11月4日(火)	1	移植再生医学(臨床1) 日本の移植医療の問題点と臓器提供	井上教授 (呼吸器外科学)	
	11月4日(火)	2	移植再生医学の基礎	岸田准教授 (免疫学)	
	11月4日(火)	3	移植再生医学(臨床2) 難病のトランスレーションリサーチ	外園教授 (眼科学)	患者会からの参加予定
	11月4日(火)	4	移植再生医学(臨床3) 肝・膵腎、膵島	濱口講師 (内分泌・代謝内科学)	
	11月7日(金)	4	移植再生医学(臨床4) 肝	森口講師 (消化器内科学)	
腫瘍の 化学療法 黒田教授 (内科学)	11月10日(月)	1	癌化学療法の進歩(1)分子標的療法	志村准教授 (血液内科学)	
	11月10日(月)	2	癌化学療法の進歩(2)消化器癌	吉田講師 (消化器内科学)(大腸)	小菅学内講師 (消化器外科学)(胃)
	11月10日(月)	3	癌化学療法の進歩(3)小児血液・腫瘍	家原教授 (小児科学)	大曽根講師 (小児科学)
	11月10日(月)	4	癌化学療法の進歩(4)骨軟部腫瘍	寺内准教授 (整形外科)	宮地講師(学内) (小児科学)
	11月10日(月)	5	癌化学療法の進歩(5)肺癌	高山教授 (呼吸器内科学)	
	11月11日(火)	3	癌化学療法の進歩(6)血液腫瘍	黒田教授 (血液内科学)	
	11月11日(火)	4	癌化学療法の進歩(7)泌尿器癌・生殖器癌/皮膚性悪性腫瘍	白石講師(学内) (泌尿器科学)	浅井講師 (皮膚科学)
	11月11日(火)	5	癌化学療法の進歩(8)脳腫瘍/頸部腫瘍	橋本教授 (脳神経外科学)	平野教授 (耳鼻咽喉科・頭頸部外科学)
	11月12日(水)	2	癌化学療法の進歩(9)婦人科癌/乳癌	黒星准教授 (産婦人科学)	阪口准教授 (内分泌・乳腺外科学)
地域医療学 四方教授 (総合医療・地域医療学)	11月19日(水)	2	総合診療領域の研究 臨床疫学の基本	関本講師 (総合医療・地域医療学)	
	11月19日(水)	3	本当にあった薬剤性疾患	松原講師 (総合医療・地域医療学)	
	11月21日(金)	3	離島の診療所のたった1人の医師	瑞慶覧聡太客員講師 (沖縄県多良間診療所所長)	
	11月21日(金)	4	在宅診療の最前線	松田かがみ客員講師 (まっただ在宅クリニック院長)	
	11月21日(金)	5	地方都市の基幹病院におけるプライマリ・ケア	川島篤志 客員講師 (市立福知山市民病院総合内科科長)	
医事法及び 医療と安全管理 池谷教授 (法医学)	11月17日(月)	3	医薬品の安全管理と安全使用	小阪薬剤部長	
	11月17日(月)	4	医療機関における医療安全管理体制とリスク管理	中村准教授 (循環器内科学)	
	11月18日(火)	1	医療過誤の捜査と刑事裁判	池谷教授 (法医学)	
	11月18日(火)	2	医事紛争における弁護士の役割	廣石客員講師 (法医学)	
	11月18日(火)	3	医師の法律上の義務	池谷教授 (法医学)	
	11月18日(火)	4	医療機器による医療事故	小島客員教授 (法医学)	
	11月18日(火)	5	医師に必要な裁判の知識	池谷教授 (法医学)	
東洋医学 丹羽准教授 (総合医療・ 地域医療学)	11月13日(木)	3	総論	丹羽講師 (総合医療・地域医療学)	
	11月13日(木)	4	漢方医学各論1	〃	
	11月20日(木)	1	漢方医学各論2	〃	
	11月20日(木)	2	漢方医学各論3	〃	

研究配属



I 目的

一般の講義、実習など受動的かつ記憶主体的な医学教育の欠点を補うために、学生が基礎・社会医学分野を中心とした研究領域に積極的に参加する研究配属を行う。

この中で、早期から研究室に出入りすることにより、研究室の雰囲気に触れ、現在どのようなことが研究されているのか、基礎研究を中心とした分野での少人数指導のもと、将来の医学研究者の芽を育て、また、能動的に新しい分野にチャレンジする態度を養うことを目的とする。

II 対象となる学年、期間、実施期間

第4学年1学期 令和7年6月9日から7月18日まで6週間

毎週月曜～金曜 第1時限から第4時限まで終日

III 受入れ教室

次ページ以降参照

IV 学生の割振り等

学生の希望をもとに各教室への配属を決定する。

臨床分野あるいは学外（国内・国外を問わず）での研究を希望する者があれば、配属教室にこれらの臨床教室や施設等を紹介してもらうことができる。

V 内容

- 1 実験的研究
- 2 病理学や法医学の症例報告
- 3 調査的研究
- 4 教室で行う輪読会や研究会への参加
- 5 その他、研究成果の発表

VI 評価基準

出席、レポート、口頭発表などにより、配属教室において評価する。

VII オリエンテーション講座

令和8年度研究配属に向けたオリエンテーション講座を、令和7年度第3学年を対象に令和7年7月18日に実施する。

VIII その他

研究配属第1週に、学術情報の活用講座の授業を教室単位で1回受講することが必須である。

解剖学教室

生体構造科学部門

1 教室の研究

生体構造科学部門は神経系について形態学的手法を軸に用いながら研究を行っている。すなわち、神経細胞同士の連絡やネットワークまた周囲組織との相関を出来るだけ可視化して分析しようと試みている。形態学とは、細胞、組織という基本的な構造を崩さないで、さまざまな物質の局在や動き、さらにはその働きを明らかにし、その知見を生体システムの理解へとつなげる研究分野である。私たちは、形というものを単なる器としてとらえるのではなく、動的な機能発現の場として位置づけている。そのため他の研究手法、例えば分子生物学的、生化学的、または生理・薬理学的な手法と、形態学的手法を融合した研究を展開することになる。現在教室では以下に述べるようなプロジェクトが進行し、標的分子の可視化と共にその他の解析を加えて、細胞レベルから組織、生体にいたるまで広く研究を行っている。これまでの研究成果については教室ホームページ(<http://www.f.kpu-m.ac.jp/k/anatomy1/>)を参照して頂きたい。

1) 情動・ストレスの脳内機構解明についての研究

うつなど、気分・情動障害やアルコール依存・摂食等の大脳辺縁系の機能に関与する分子機構について研究を行っている。側坐核と呼ばれる前脳領域や視床下部において、5-HT_{2c}受容体、NPYなどの神経伝達物質/受容体がどのように個体レベルでの行動調節に関わるのかをウイルスベクターや遺伝子改変マウスを用いて解析を行っている。

2) 生殖に関わるホルモンおよび受容体についての研究

生命体にとって「生殖機能」は最も重要な生存維持機構の一つで、教室では生殖活動に関わるホルモンの脳における作用機序を解明すべく研究を行っている。具体的には、妊娠・出産に伴う脳・神経細胞の形態変化やエストロゲンなどの性ホルモンとその受容体の分子・細胞動態を捉えるべく、形態学的手法を軸に種々の解析方法を加えて研究を進めている。

3) 神経疾患についての基礎的研究

加齢に伴って発症が増加する代表的な神経変性疾患にパーキンソン病がある。教室ではパーキンソン病の細胞病理についての研究を行っており、疾患特有の細胞内の封入体であるレビー小体の主要構成タンパク質である α シヌクレインについて、凝集・伝播機構を調べている。さらに脳血管障害のモデル動物を用いて、高血圧時に微小脳動脈が破綻していくメカニズムを解明しようと、グリア細胞の関与に着目して研究を進めている。

2 研究配属の方針と内容

研究配属期間に研究室とはどのような所であるのかを体験し、基礎医学研究の一端に触れてもらう。具体的には各教員の指導のもと、配属された学生が上に記した教室の研究にもとづく、研究テーマをそれぞれ与えられて実験を行う。短期間に必ずしも面白い結果が出るとは限らないが、講義や実習とは異なる、教室で行われている研究の一部に参加して、その苦勞と醍醐味を少しでも感じて貰えれば生体構造科学へ配属された価値があると考ええる。

生体機能形態科学部門

1 教室の研究

先天性心疾患は、新生児に見られる奇形としては最も頻度が高く、特に新生児から乳児期の死因の主要因である。先天性心疾患患者の長期的予後を改善するためには、診断学と治療学の進歩だけではなく、胎児期に心臓を構成するパーツである各細胞がどのように発生し、かつそれらがどのように相互作用しながら正しい心臓の形を作り上げて行くのかを更に深く知らねばならない。このような知見は、ES/iPS 細胞などの幹細胞を利用した心臓の再生医療にも非常に重要である。本研究室では、モデル動物、ES 細胞・iPS 細胞、そして最新の技術を駆使しながら、心臓の形態形成過程を主要な研究対象とし、胚発生でどのような動作原理が機能して私たちの体が出来上がっていくのか、その理解を目指す研究を展開している。

2 研究配属の方針と内容

実際に研究がどのように進められているかを知るために、研究室内で推進されている研究テーマ（下記一覧）の一部を分担する形で配属期間を過ごしてもらうことを基本とする。発生生物学や幹細胞生物学を中心とした研究を体験することができる。

- (1) 心臓前駆細胞の分化と心臓の形態形成に関わる分子機構
- (2) 臓器錯位症候群における複雑心奇形発症の分子機構
- (3) 先天性腸管閉鎖症に関わる分子機構
- (4) 一次線毛内の機能ドメイン形成と嚢胞腎発症の分子機構
- (5) 中心体の恒常性に関わる分子機構

病理学および臨床医学を学び終え、臨床実習が始まる前にもう一度系統解剖を復習したいと希望する学生も、研究配属として受け入れることが可能である。また、**Problem Based Learning** を通じて、研究論文を精読するためのスキルを身につけるセミナーを実施する用意もあり、このセミナー受講希望者も受け入れることが可能である。

この研究室配属には各自のプロジェクトに対して能動的に取り組み、各々が臨床医学的視点から基礎医学を捉え直し、科学的・論理的に物事を捉え考えるスキルを養って欲しい。

生理学教室

細胞生理学部門

1 教室の研究

味覚などの化学感覚を対象とした感覚の神経機構、およびイオンチャネルが担う生命現象を研究している。分子・細胞から個体までを対象に、電気生理学・光学・分子生物学・分子遺伝学・光遺伝学・行動学などの科学技術を駆使して、以下の研究を行っている。

- (1) イオンチャネルとシナプスの生物物理学
- (2) 味覚と内受容の神経生理科学

(3) 感覚と体内状態が織りなす行動原理の神経回路基盤

2 研究配属の方針と内容

相談をもとに独自のテーマを決定し、研究を遂行する。加えて、研究室内セミナーに参加して最先端のサイエンスについて議論を交わすことを通じて、学術的・社会的に重要な基礎医学研究を遂行するとは如何なることか、その楽しさを経験することを目的とする。

教室 HP : <https://www.tarunolab.com>

統合生理学部門

1 教室の研究

<背景>

ヒトを含む生物は、地球環境への適応と内部環境の恒常性維持によって、生きることができている。概日リズム (Circadian Rhythm) は、昼夜の環境変化への適応による動的恒常性を担う普遍的な生理機能である。従って、概日リズムを制御している概日時計 (体内時計) の不全状態は、睡眠覚醒リズム障害のみならず、様々な疾患との関連が注目されている。シフトワーカーを含む不規則な生活を余儀なくされる人々は、世界の国々で労働者の10～30%を占めると言われており、その20～30%が何らかの健康障害を有している。このように、概日リズム障害は、世界的な喫緊の医学的・社会的課題となっている。

<統合生理学の研究テーマ>

統合生理学では、マウスを用いた「自分の体内時計に従わない生活の影響」の観察、ヒトの概日リズム障害の病態再現、その背景にある恒常性破綻メカニズムの解明をおこなっている。また、そもそも、体内時計とは何か? という問いに答えるための、全身の細胞に備わる体内時計の成立原理解明、24時間周期の謎、といったテーマも教室の柱となる研究である。そして、そこから派生した、体節時計と概日時計による発生過程の制御、形態形成ではなく機能形成に着目した機能発生学、胎児期の各臓器における機能獲得の原理、母体と胎児の情報伝達機構、などのテーマについても臨床科との共同研究を進めている。さらに、ヒトの概日リズム生理学研究を含め、「時間による生命の制御」について体系的な研究を展開している。

<研究配属で期待すること>

研究配属では、これらの実験を通して生命の本質的な現象に触れるとともに、その社会的インパクトも含め広く対話形式で学びながら、「生命の原理」について考えていく。

この中で、未解明の医学的課題に対するアプローチを体験するとともに、優秀かつモチベーションの高い学生については、学生研究として学会発表や論文発表を目指す。

2 研究配属の方針と内容

上記の研究テーマに関連した実験に参加するとともに、一人ひとりが考え意見を述べるができることを目標とする。

分子医科学教室

分子生化学部門

1 教室の研究

- (1) ゲノム編集
- (2) DNA 修復機構
- (3) 発生工学的手法を用いた癌遺伝子・癌抑制遺伝子の機能解析
- (4) 転写因子群による造血発生制御と白血病発症に関する研究
- (5) 新規分子標的治療法の探索と応用

2 研究配属の方針と内容

ゲノム解析技術の急激な発展に伴い、疾患に関わる遺伝的背景が次々と明らかになってきた。単一の遺伝子が原因となる疾患の中には、現時点で治療法が存在しない重篤なものが多数ある。こうした疾患に対する新たな治療法として、ゲノム編集技術が期待されている。

医療への応用には、まだ多くの課題が残されている。それでも、実際にゲノムを書き換える操作を体験することは、将来、研究者や医師として活躍する上で大いに役立つと考えられる。仮説を立て、実験計画を作成し、実験を行い、結果を考察する——この一連のプロセスの中で、実験がうまくいかなかったり、予想とは異なる結果が出たりすることは頻繁に起こる。そうした際に、どのようにトラブルシューティングを行うか、自説を謙虚に見直しながら真実にたどり着くかといった経験は、座学では得られない貴重な学びとなるだろう。

上記のテーマに関連した研究に参加し、その背景、目的、手法、結果、考察をまとめ、資料を作成し、わかりやすく発表することを目標とする。

ゲノム医科学部門

1 教室の研究

- (1) ヒトゲノムと疾患関連遺伝子の研究
- (2) がんの予後を制御する因子に関する研究
- (3) アデノウイルスを用いた遺伝子導入法の開発・応用
- (4) 神経系幹細胞の生物学
- (5) 形態形成とシグナル伝達分子について

2 研究配属の方針と内容

(1) 方針

分子生物学の実験の基礎とその応用について、具体的なテーマを与え、実践する。

GWAS 解析、NGS 解析、ゲノム寄与率算出に関する英文原著論文の精読と発表とレポート作成。

(2) 内容

現在、急速に発展しているこの分野に興味を持ち、かつ熱意のある学生を歓迎する。

テーマは、主に、cDNA クローニングやタンパク質科学の「いろは」で、特に熱意のある学生には、

特化したテーマを与え、アデノウイルスによる遺伝子導入法の実際や、高感度分泌型タンパク質のイムノアッセイなど、遺伝子工学、分析化学、再生医学的研究の一端を体験してもらう予定である。また、ヒトゲノム研究の最新の研究事情を学ぶのに適した環境があるため、たいへん刺激に満ちた研究現場体験も目的である。英文論文は、3回精読すればどんどん読める能力を身につけることができる。英文原著論文精読を教員がマンツーマンで指導して3回のうちの1回を実行する。

感染病態学（微生物・医動物）教室

1 教室の研究

本教室は、微生物学的な基礎研究を行っている。具体的には以下の研究項目が挙げられる。

- (1) インフルエンザウイルスやコロナウイルスをはじめとする各種ウイルスの病原性の分子メカニズムを明らかにするための研究
- (2) ヒト体内（臨床検体）、媒介昆虫(蚊、ダニなど)および病原体（原虫）中に存在するウイルス等を標的とした網羅的な微生物ゲノム探索による微生物感染と各種疾患との関連解明のための研究
- (3) ウイルスだけでなく細菌や真菌、寄生虫の薬剤（消毒薬）の有効性評価、環境安定性（環境中でどの程度の期間感染力を維持し続けるか）の評価
- (4) 環境中や空間中に存在するウイルス・細菌・真菌の検出方法の構築

2 研究配属の方針と内容

- ・ 担当教員の指導の下、上記の研究テーマについて実際に研究を行うことにより、実験技術・方法を習得し、サイエンスの面白さに触れることを目指す。
- ・ 配属期間終了後（夏季休暇中、さらにはそれ以降）の継続的な研究参加も積極的に受け入れる。継続的な研究に挑戦する場合、論文の著者となることも可能である。論文執筆や一つの研究の完遂に興味がある場合は、気軽に教官に相談すること（貢献度に応じて筆頭著者となることも可能）
- ・ また希望者がいれば、微生物学、医動物学や感染症に関連する論文抄読コースも準備する。

免疫学教室

1 教室の研究

本教室では、免疫学、再生医学等に関する様々な研究を行っている。具体的には、

- (1) 体細胞リプログラミングの機構解明、移植用細胞の創出と再生医療への応用
- (2) ウイルス感染防御の分子機構とその制御
- (3) アレルギー疾患の病態における免疫応答解析と免疫療法
- (3) 悪性腫瘍の微小環境における免疫応答解析と免疫療法
- (4) サイトカインの機能、シグナル伝達とその免疫応答制御における役割などである。

2 研究配属の方針と内容

少人数のチームに分かれて、上記テーマの研究活動に実際に参加し、実験を体験することにより研究のおもしろさを知ってもらう。

また、希望者がいれば上記研究に関連した論文抄読も行う。

薬理学教室

1 教室の研究

本教室では、細胞や実験動物モデルを用いて、各種癌やストレス反応（酸化的ストレス・活性酸素種など）、細胞内シグナル伝達に関わる多様な生体機構の解明を行い、薬物の効果との関連を検討している。以下が現在の主たる研究テーマである。

- (1) 癌細胞の悪性度ならびに投薬の効果についての評価
- (2) 循環器疾患における活性酸素の役割の解析
- (3) メタボリック症候群ならびに生活習慣病と合併疾患の解析
- (4) DOHaD、胎生期・発達期における栄養不足や環境因子が病気の発症に与える影響の検討

2 研究配属の方針と内容

- (1) 学生と指導教員との協議により上記の研究テーマ或いは臨床薬理学に関する小テーマを決定し、実験研究または調査研究に分かれて取り組む。実験研究はデータの解析と評価を、調査研究については結果をまとめたレポートを作成する。
- (2) 具体的な研究の進め方や研究技法の習得と成果の発表ができるように支援する。希望があれば教室内の抄読会、関連学会や研究会などに出席できるよう配慮する。

病理学教室

細胞分子機能病理学部門

1 教室の研究

病理学（Pathology）は、疾患の発生メカニズム（pathogenesis）を研究する学問である。ヒューマンゲノムプロジェクトの完成を初めとする分子生物学の発達により、疾患遺伝子が次々クローニングされ、多くの単一遺伝子疾患において発生原因は不明であるという記述が過去の遺物となりつつある。すなわち、ある遺伝子の異常がどのように疾患を発生させるか、そのメカニズムを解明する段階に入り、病理学的思考がますます重要となってきた。

本研究室は、細胞内外および細胞間の情報伝達をつかさどる機能分子の異常について、最新の分子細胞生物学的技術やイメージング技術を用いてアプローチし、疾患の発症メカニズムを解明することを目的とする。

主な研究テーマを以下に示す。

- (1) 心筋の機能分子の動態を可視化することにより心筋の形態異常や機能異常の発生メカニズム

を解明する。

(2) 細胞の増殖・分化をコントロールする因子を探る。

(3) 様々なレーザー光を用いて生体の機能を捉える。

2 研究配属の方針と内容

研究配属では、研究グループの一員として、決められた時間に制限されず、実験計画にしたがって、一つのテーマを遣り遂げる必要がある。熱意と実行力がある人（2－3人程度）には、例えば、以下の様な実験テーマを考えている。

細胞培養の基礎と遺伝子トランスフェクション

先端光技術による生体組織の機能的・形態的解析 など

研究配属の期間に実験のおもしろさを知り、その後も研究を継続することを願っている。

分子病態病理学部門

1 教室の研究

本部門では、「基礎と臨床の架け橋となる病理学」を目標に、次に掲げる研究テーマに、形態学的、生化学的、細胞生物学的、分子生物学的手法を駆使して取り組んでいる。

- (1) ゲノム編集マウスを用いた遺伝性神経筋疾患の分子病態研究
- (2) 自己免疫性脳炎・視神経脊髄炎の診断に有用なバイオマテリアルの構築
- (3) 肺腺癌・大腸癌で認められる新規転移様式 STAS の空間オミックス研究
- (4) 肺腺癌の再発リスク低減を目指した術式選択のための術前リキッドバイオプシー診断法の開発
- (5) 病理解剖症例解析、ト脳の神経病理学的解析

2 研究配属の方針と内容

研究配属のめざすところは、基礎研究グループの一員として加わることで、研究の潮流を知るとともに、研究の考え方、進め方を体得することにある。研究手技や知識の単なる習得を目標とはしない。従って、受け入れ人数は数名とする（病理解剖症例の解析を希望する場合も同様に受け入れ人数は数名とする）。配属を希望する学生には、上記研究テーマに関連した小テーマの中から、各自の希望を勘案してテーマを決定し、教室スタッフが指導する。研究期間は配属期間内にとどまることなく、延長が可能である。また、研究成果は論文にまとめるとともに学会で発表できるように指導する。なお希望により、本教室と親交の深い国内外の研究室での研修も視野に入れる。また、研究配属期間中は教室内のセミナー、学内外の研究会などへの参加により、基礎研究の醍醐味を知ってもらいたい。

保健・予防医学教室

予防医学部門

1 教室の研究

がんを始めとする様々な疾患に対する予防法を開発するにあたって、「科学的根拠」に基づくことは必須であり、その「科学的根拠」として、その疾患の発生・進展の分子機序の解明、それら分子の遺伝子レベルでの個人差と疾患発生へのリスク寄与の評価、そしてその分子に作用する化合物（予防薬）の探索、そしてその臨床評価など様々な研究アプローチがある。当教室では、その「科学的根拠」の確立となる研究を幅広いアプローチから実施している。

しかしながら、科学的根拠に基づく予防法が確立され、そのアウトリーチ活動も行政を中心に精力的に実施されてはいるが、健康な人が予防のための行動を起こすことは「世界医学 100 年の課題」と呼ばれるほどに困難であり、その成果も不十分といえる。

疾患予防のアプローチとしてハイリスク・ストラテジーとポピュレーション・ストラテジーが謳われているが、それらの集団に対して効率的に「行動変容」を起こさしめることも、社会医学としての「予防医学」の課題でもある。

2 研究配属の方針と内容

生活習慣の改善を目的とした「行動変容」を効率的に実施するために、スマートフォンアプリをツールとして用いることで、効率的なアウトリーチ活動が可能と考え、予防医学部門の研究配属では、そのアプリのコンテンツの要となる「科学的根拠」を提示するための、最新の臨床研究論文や疫学研究論文の精査および抄録作業を行う。また、アプリ開発チームとのミーティング等も実施する。加えて、社会医学においても細胞等を用いた基礎実験は、上述の「科学的根拠」を確立・検証するだけでなく、予防理論を強化する上でも重要な位置を占める。そこで、希望者にはマンツーマンによる基礎実験を体験するコースも別途用意する。

公衆保健科学部門

1 教室の研究

本教室では健康寿命、循環器疾患やがんなどの非感染性疾患に与える要因の解明を通して、公衆衛生の向上に貢献することを目標に、疫学的な手法を用いて以下のテーマで研究を行っています。

- (1) 健康寿命に影響を与える要因の解明
- (2) 生活習慣病（がん・循環器疾患等）や老年期疾患の発生要因の疫学研究
- (3) 生活習慣病の改善を促す行動科学的指導方法の開発と有効性の評価に関する研究

2 研究配属の方針と内容

疫学的な考え方は、将来の医師という職務の中で基礎医学、臨床医学、社会医学といった専攻に関わらず重要である。研究配属では、疫学研究論文を読むことによって、研究デザインやバイアス、交絡、解析方法などの実際を学ぶとともに、京都市内の中学校での防煙教室などに参加することで健康情報をどのように伝えるかについても実践的に学ぶ。また希望する学生は、厚生労働省や京都府内の保健所等での実習や、学会や論文での発表を目指して、上記テーマに関連した内容で研究を行うことも可能である。

3 評価と単位認定

下記の二つを合わせて総合的に評価し、単位認定を行います。

- (1) 教室内の発表会における個人発表
- (2) 参加態度

法医学教室

1 教室の研究

- (1) 法医病理学
- (2) 法歯学
- (3) 法中毒学
- (4) 異状死の疫学研究
- (5) 個人識別に関する研究(年齢推定、地理的識別など)

2 研究配属の方針と内容

学生は、興味に応じて上記の研究領域からトピックを選択して研究に参加してもらいます。

配属期間中の法医解剖と解剖症例検討会にも参加してもらいます。

京都府警察本部や科学捜査研究所、児童相談所等を訪問する機会があるかもしれません。

臨床医になるために必要な法医学の基本的なスキルと知識を学びます。

脳・血管系老化研究センター

基礎老化学部門

1 部門の研究テーマ

オートファジーは主要な細胞内分解機構の1つで、細胞内に蓄積した異常なタンパク質やオルガネラ(ミトコンドリアや小胞体など)の分解を担っている。老化に伴ったオートファジー機能の低下は様々な神経変性疾患(アルツハイマー病、パーキンソン病、ALS など)の発症と関連づけられている。本教室ではタンパク質分解機構の観点から神経変性疾患の発症機序の解明および治療法開発を目的として下記の研究を行っています。

- 1) オートファジー関連因子 SQSTM1/p62 の変異による ALS 発症機序
- 2) オートファジー関連因子 WDR45 とタウオパチーの解析
- 3) ストレス顆粒と神経変性疾患
- 4) 上記観点からの神経変性疾患の治療法開発

2 研究配属の方針と内容

研究配属では、担当教員の指導で上記研究テーマに関連した実験を体験してもらいます。具体

的には、分子生物学的実験（遺伝子クローニングや遺伝子配列決定など）、生化学実験（タンパク質精製や電気泳動など）や細胞生物学的実験（細胞培養や細胞染色など）を行ってもらいます。そして、実験結果をまとめ発表会で報告してもらいます。

詳しい研究の内容や業績については教室のホームページ（<http://www.f.kpu-m.ac.jp/k/cellbio/>）を参照してください。受け入れ人数は2-4名程度。

科目名	歯科口腔科学		
科目責任者	山本 俊郎		
単位数	0.6	必修・選択区分	選択
開講時期・学年	後期・3学年	授業形態	講義

教育の目的と方針

口腔の機能は、人が生命を維持する上で欠くことのできない重要な要素を持っている。我々は、食べる、話す、呼吸するなどのいずれの口腔機能が障害されても、結果として直接生体が脅かされるため、決して口腔と全身状態とが無縁でないことを容易に認識させられる。今日、医科と歯科を区別して教育されている現況で、将来、我々が医師として歯科医学の概略を知ることは、医学、医療を総合的に捉えて発展させていく上において等閑視すべきでない。この観点から、歯科口腔科学に関する知識を身につける。

なお講義の方針は、以下の通りである。

1. 口腔解剖と口腔生理：歯の発生にはじまり、顎口腔顔面領域の形態・構造や口腔の機能を理解することで、知識を習得する。
2. 歯科保存学：抜歯することなく、いつまでも自身の歯で噛めるように治療を行い、大切な歯を口の中に維持、保存し機能させていくことを目的とした歯科の1分野であり、その病因と診査・診断・治療の概要を理解することで、知識を習得する。
3. 歯科補綴学：歯の大きな実質欠損（う歯など）および1歯から全歯にわたる歯の欠損によって生じる機能障害、審美性を回復することを目的とした歯科の1分野であり、その病因と診査・診断・治療の概要を理解することで、知識を習得する。
4. 歯周病学：歯周組織に発生する疾患である歯周病についての分野である。歯周病の目安となる歯周ポケットが4mm以上存在している割合が50代の人で約半数に達するとともに、高齢者の歯周病患者が増加している。これに加えて、糖尿病などの全身疾患との関与も示唆されている。そこで、本疾患の病因と診査・診断・治療の概要を理解することで、知識を習得する。
5. 口腔外科学：口腔およびその周辺組織の外科であるだけでなく、口腔外科学はその特異性として顎口腔機能を中心として据えているために内科的処置やストレス障害に至るまでその受け持つ範囲は広い。炎症、外傷、腫瘍、アレルギー、神経疾患、感染症にとどまらず、奇形や各種症候群に至るまで口腔内から頭頸部顔面に至るまでの多種多様な疾病に対する病因と診査・診断・治療の概要を理解することで、知識を習得する。
6. 全身疾患と歯科口腔科学：近年、全身疾患と口腔疾患との関連がクローズアップされている。そこで特に、糖尿病、心臓血管系の疾患、肺炎、低体重児出産と口腔疾患との関連、がんや移植医療などの化学療法や放射線治療、さらには周術期における口腔管理の重要性についての知識を習得する。さらに、最新の口腔領域の再生医療についての知識を習得する。

到達目標

1. 歯科口腔科学の概要を理解し、説明できる。
2. 口腔と全身疾患との関係を理解し、説明できる。
3. 様々な口腔疾患の病態を理解し、説明できる。

成績評価方法および基準

各授業後の提出された計 6 本のレポートに対する評価の合計（60%）（以下、課題を参照）ならびに毎回の授業での不定期に行われる小課題（40%）を評点（最大 100 点となるように各レポートの上限を調整）とし、60 点以上である場合に合格とする。 1. 口腔解剖と口腔生理：口腔機能の概要 2. 歯科保存学：病因と診査・診断・治療の概要 3. 歯科補綴学：病因と診査・診断・治療の概要 4. 歯周病学：病因と診査・診断・治療の概要 5. 口腔外科学：病因と診査・診断・治療の概要 6. 全身疾患と歯科口腔科学：周術期における口腔管理の重要性 なお、授業で学んだトピックから 2 つは選ぶこと。 授業での知識を踏まえて自身の考えを示すこと。
事前・事後学習について 以下に指定する教科書の該当範囲を次回の講義までに熟読し、概要を把握しておくこと。講義後にも改めて熟読し、更なる理解を深めること。1 回の講義につき予習・復習で 60 分程度は必要である。
教科書・参考文献等 1) 全国医学部附属病院歯科口腔外科科長会議（監修）（2017）. 口の中がわかる ビジュアル 歯科口腔科学読本・クインテッセンス出版 ISBN：978-4-7812-0548-9
オフィス・アワー 所 属：歯科医局（臨床医学学舎 6 階） 曜日・時間帯：金曜日・15:00-16:00 金村成智 客員教授 kanamura@koto.kpu-m.ac.jp 山本俊郎 病院准教授 yamamoto@koto.kpu-m.ac.jp 大迫文重 講師（学内） foseko@koto.kpu-m.ac.jp 備 考：個別指導または相談の際には、事前にメールで予約して下さい。
学生へのメッセージ 講義中心の授業であるが、積極的に授業に参加することを推奨する。ただし、授業内のアンプロフェッショナル行為については、厳しく対応する（退室を命じる場合もある）ので注意されたい。

授業日程

歯科口腔科学

第3学年後期

(講義)

日程	時 限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
10月10日(金)	1	口腔解剖と口腔生理	歯科	山本病院准教授
10月10日(金)	4	全身疾患と歯科口腔科学	〃	金村客員教授
10月17日(金)	1	歯周病学	〃	大迫講師(学内)
10月24日(金)	1	歯科保存学	〃	山本病院准教授
11月7日(金)	1	口腔外科学	〃	山本病院准教授
11月14日(金)	1	歯科補綴学	〃	大迫講師(学内)

科目名	臨床病理セミナー		
科目責任者	小嶋 基寛（臨床病理学） 原田 義規（細胞分子機能病理学） 分子病態病理学部門		
単位数	1	必修・選択区分	選択
開講時期・学年	後期・3 学年	授業形態	講義・実習

教育の目的と方針

病理解剖は、「医療の反省」である。医療現場では、最善を尽くしても命を救えない場合もある。病理解剖後の臨床病理検討会（clinicopathological conference: CPC）では、臨床経過中の検査値や画像を含むデータと、死後の病理所見を照合し、臨床医と病理医が、該当疾患の病因や病態、治療効果などについて話し合っている。本セミナーでは、学生が実際の病理解剖症例を担当し、自主的に学習する。具体的には、先ず、担当する症例の、臨床経過、検査データ、画像所見などから問題点を列記する。病理解剖における肉眼所見（マクロ所見）と、各臓器の組織所見（ミクロ所見）から、病態と死因を解明する。臨床上の問題点について、死後の病理所見からどんな答えが得られるのか、また不明のまま残されるのか、学生自身の考えを、パワーポイントスライドで発表する。適宜、論文検索も行い、論理的判断の根拠も示す能力も修得する。

到達目標

1. 病理解剖症例について、臨床経過中の検査値や画像を読み、説明することができる。
2. 病理解剖症例について、臨床上の問題点を理解することができる。
3. 病理解剖症例について、各臓器の肉眼所見を説明することができる。
4. 病理解剖症例について、各臓器の組織所見を説明することができる。
5. 病理解剖症例について、臨床データと、死後の病理所見を併せて、病態と死因を説明することができる。またこれを、フローチャートで提示することができる。
6. 病理解剖症例について、臨床・病理関連の視点から、解剖で明らかにできたこと、出来なかったことを、明確に説明することができる。

成績評価方法および基準

担当した病理解剖症例は、パワーポイントでスライド作成し発表する。病理学 3 教室の教員や、本セミナーに参加している他の学生から質問を受ける。説得力のあるプレゼンテーションができ、質疑応答が適切にできた場合に、合格とする。

事前・事後学習について

事前・事後学習の必要はないが、全セミナーに出席すること。欠席の場合は、必ず連絡すること。

教科書・参考文献等

特になし。

オフィス・アワー	
担当教室に、平日 9:00-17:00 に内線電話でアポイントメントをとること。各教室の受付場所と、内線電話の番号は以下の通りである。	
1. 臨床病理学	
2. 細胞分子機能病理学	基礎医学学舎 7 階 710 号室 内線 5322
3. 分子病態病理学	基礎医学学舎 7 階 721 号室 内線
学生へのメッセージ	
本セミナーは、選択科目である。意欲ある学生諸君の参加を期待している。厚生労働省は、臨床研修制度において、CPC 参加とレポート作成を必須項目と定めている。本セミナーに参加すれば、初期研修医になったとき、一歩先取り学習ができてだけでなく、学生時代から包括的に、病理と臨床のデータを比較・相関させる重要性を学ぶことができる。	

授業日程

臨床病理セミナー

第3学年後期

(講義)

日程	時 限	内 容	担 当 者	
			所 属	講師名
10月6日(月)	4	オリエンテーション	病理学	全教室員
10月20日(月)	4	剖検症例の検討	〃	〃
10月24日(金)	3	剖検症例の検討	〃	〃
10月24日(金)	4	剖検症例の検討	〃	〃
11月7日(金)	4	剖検症例の検討	〃	〃
11月10日(月)	4	剖検症例の検討	〃	〃
11月14日(金)	4	剖検症例の検討	〃	〃
11月17日(月)	3	剖検症例の検討	〃	〃
11月17日(月)	4	剖検症例の検討	〃	〃
11月21日(金)	4	剖検症例の発表	〃	〃

Ⅵ 学術情報の活用講座

Ⅰ 目 的

- 第1学年：図書館の存在を知る
：図書の探し方を知る、提携館について知る
第4学年：実習や研究に必要な雑誌論文の調べ方を学ぶ
：研究・臨床で必要な文献検索について学ぶ
：臨床で必要な文献検索について学ぶ

Ⅱ 指 導 者

原則として本学附属図書館職員

Ⅲ 日程・履修内容

1 第1学年

区 分	日 程	時限	内 容
前期	5月9日（金）	15:30～ 16:30	大学図書館活用入門：大学図書館を使い倒そう

2 第4学年 授業協力（保健・予防医学）

区 分	日 程	時限	内 容
前期	4月15日（火）	3限	文献検索入門 PubMed・医中誌Webの使い方

3 第4学年

区 分	日 程	時限	内 容
前期	研究配属 第1週（予定） 6月9日（月）～13日（金）の 期間中に実施	—	学術情報の検索と活用

4 第4学年 授業協力（総合診療学）

区 分	日 程	時限	内 容
後期	11月12日（水）	4限	臨床での文献検索

K P U M学プログラム

医学教育については、日本中の医学部・医科大学がカリキュラムの編成上参考にするものとして、医学モデル・コア・カリキュラムが定められている。この内容がカリキュラム全体の約70%を占めているが、大学毎に工夫することも許されている。

本学では、(1)大学の設立、(2)京都府における大学の果たす役割、(3)基礎医学研究、(4)医師のプロフェッショナルリズム育成、(5)国際交流事業、(6)学際的教育分野等を、本学（K P U M）の特徴を反映したものとして定め、カリキュラム上でK P U M学としてまとめている。

なお、単位認定や試験は各科目のシラバスで定めている。

学 年	講 義 科 目
1 年	生命倫理学、現代正義論、医史学、情報リテラシー、 総合講義、統合授業
2 年	Advanced Presentation & Academic Writing 総合講義（先端生命科学、血管生物学、栄養学総論）
3 年	Basic Medical English、 総合講義（ゲノム医学）
4 年	国際医学英語、総合医療・地域医療学 総合講義（臨床倫理学）、研究配属
5 年	医療倫理学、医療統計学、地域医療実習、総合講義（移植・再生医学）

※ は選択科目、他は必修科目

なお、当該科目は各科目のシラバス冒頭にロゴマーク「」を表示している。

京都府立医科大学医学部医学科授業科目履修規程

平成20年4月1日

京都府立医科大学規程第6号

目次

- 第1章 総則
- 第2章 授業
- 第3章 授業科目の履修
- 第4章 試験
- 第5章 単位未修得者に対する措置
- 第6章 休学期間の算定
- 附則

第1章 総則

(趣旨)

第1条 この規程は、京都府立医科大学学則（平成20年京都府立医科大学規則第1号。以下「学則」という。）第21条第1項及び第2項、第22条、第28条、第30条並びに第32条の規定に基づき、授業科目の履修等について必要な事項を定めるものとする。

第2章 授業

(授業時間)

第2条 授業時間は、別表1のとおりとする。

第3章 授業科目の履修

(授業科目の名称及び単位数)

第3条 学則第21条に規定する授業科目の名称及び単位数並びに第22条に規定する必要単位数は、別表2、3及び4のとおりとする。

(選択科目履修の届出)

第4条 選択科目の履修をしようとするときは、あらかじめ学長に履修届を提出しなければならない。

(授業科目履修状況の調査)

第5条 学生の授業科目の履修については、その都度出席を記録する。

第4章 試験

(試験期日)

第6条 定期試験は、原則として授業修了時に行う。

2 学則第29条第2項に規定する試験は、随時行うことができる。

(定期試験のための試験期間)

第7条 定期試験を行うために、試験期間を設け、この期間中は、原則として通常の授業を行わない。

(受験資格)

第8条 学生は、講義（臨床演習を含む。）時間数の60パーセント以上出席しなければ、当該授業科目について試験を受けることができず、実習（臨床演習を除く演習を含む。）については、全て出席しなければ、当該実習の単位を修得し、当該授業科目について試験を受けることができない。ただし、実習に関しては、病気や忌引き等のやむを得ない理由があると認められる場合には欠席届を以って出席と認める場合がある。

(臨床医学の授業科目の試験)

第9条 臨床医学の授業科目（臨床実習、地域医療実習及び臨床演習を除く）の定期試験は、第1次試験と第2次試験（卒業試験）とに分けて行う。

- 2 第1次試験は、原則として講義終了時に行い、第2次試験は第6学年の後期に行う。
- 3 臨床医学に係る授業科目の単位認定は、第1次試験によって行う。なお、第2次試験は筆答試験として実施し、卒業判定の一部として取り扱う。
- 4 第5学年には総合試験形式の進級試験を行う。

(選択科目の試験)

第10条 選択科目の定期試験は、第6条第1項の規定にかかわらず休業期間中に行うことができる。

- 2 選択科目の試験を受けようとする者は、試験の公示の日から1週間以内に受験届を提出しなければならない。
- 3 選択科目は、試験を実施しないことがある。

(試験の公示)

第11条 定期試験、追試験及び再試験の授業科目及び期日は、原則として年度初めに提示するとともに、各試験の1ヶ月前までに公示する。

(試験成績の評価)

第12条 成績の評価は、評点又は評語をもって表し、次の基準により到達目標の達成度に基づいて行なう。ただし、再試験の評価は60点以下とする。

評点	評語	認定	評価の基準
80点以上	優	合格	優れている。学修した事象や事柄のかなりについて理解し、十分かつ必要な知識を持ち、概念や方法を適切に使って課題を遂行できる。その理解を適切に類似または発展した事象に応用する力がある。
70点以上	良		良好である。学修した事象や事柄を十分理解し、問題・題材を扱うことができる。
60点以上	可		最低限の基準に達している。学修した事象や事柄をかなり限定的に理解し、問題を基本的なレベルで扱うことはできるが、より高度な学修へと進むには更に努力が必要である。
59点以下	不可	不合格	最低限の基準に達していない。学修した事象や事柄の理解が不足している。

- 2 評点をもって表せない特定科目については、合格、不合格をもって表す。
- 3 複数の教室等が担当する授業科目については、教室等ごとに又は合同で試験及び成績の評価を行う。

(試験中の不正行為)

第13条 試験中に不正行為を行った者に対しては、当該学年におけるすべての試験は無効とし、受験資

格を停止するとともに、当該不正行為を行った学年にとどめるものとする。

(試験欠席の手続)

第14条 試験に欠席する学生は、試験欠席願に、病気による場合は医師の診断書を、やむを得ないと認められる事故による場合は理由書を添えて学長に願い出てその許可を受けなければならない。

2 試験欠席願は、原則として、当該授業科目の試験日の前日までに提出するものとし、やむを得ない理由により、前日までに提出することができない場合は、試験日以後1週間以内に提出しなければならない。

3 試験に許可なく欠席した者は、その授業科目の次の試験を受けることができない。

第5章 進級及び卒業要件

(進級及び卒業要件)

第15条 各学年の進級及び卒業の認定を受ける者は、次の各号に定める者とする。なお、進級及び卒業の認定を受けない者は当該学年にとどまり、次年度、原則として単位修得を認定されなかった科目を再履修する。

(1) 第1学年末において別表2に定める必要単位数を修得した者

(2) 第2学年末において、第2学年に行われる基礎医学授業科目(解剖学、生理学、分子医科学、感染病態学(微生物・医動物学)、免疫学、薬理学及び病理学総論)、教養英語及び総合講義Ⅰの全ての科目の単位を修得した者

(3) 第3学年末において、第3学年に行われる臨床医学授業科目(循環器ユニット、呼吸器ユニット、神経ユニット、消化器ユニット、病理学各論、内科学(ユニット科目除く)、外科学(小児外科学、小児心臓血管外科学を含む。ユニット科目除く)、整形外科学、産婦人科学、小児科学、眼科学、皮膚科学、泌尿器科学、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学、精神医学、放射線医学、麻酔科学、感染症学・臨床検査医学(人体病理学を含む)、救急医療学、リハビリテーション医学、生物統計学、総合講義Ⅱ及び医学英語の全ての科目の単位を修得した者

(4) 第4学年末において、社会医学授業科目(保健・予防医学、法医学)、国際医学英語、行動科学応用、臨床演習、総合医療・地域医療学、臨床実習前OSCE講座、研究配属、総合講義Ⅲについて、全ての科目の単位を修得し、共用試験(CBT及び臨床実習前OSCE)に合格した者

(5) 第5学年末において、臨床実習(クリニカル・クラークシップⅠ)を修了し、地域医療実習、医療倫理学、医療統計学及び総合講義Ⅳの全ての科目の単位を修得し、進級試験に合格した者

(6) 第6学年末において、臨床実習(クリニカル・クラークシップⅡ)を修了の上、臨床実習の単位を修得し、共用試験(臨床実習後OSCE)及び卒業試験に合格するとともに、本学医学科ディプロマ・ポリシーを満たした者

2 学則第24条に規定する、他の大学又は短期大学の授業科目の履修に関する単位に関して必要な事項は、別に定める。

第6章 休学期間の算定

(休学期間の算定)

第16条 休学期間の算定については、休学の期間が通算して1年未満の場合は、学則第34条第3項に定める休学期間に算入しない。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この規程は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 この規程の施行の際、現に第5学年及び第6学年に在籍している者については、別表中救急医療学の改正に係る部分については、なお従前の例による。

附 則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成25年5月1日から施行する。

附 則

- 1 この規程は、平成30年4月1日から施行する。
- 2 この規程の施行の際、現に第5学年に在籍している者についての第15条に規定する進級の認定を受ける者は、臨床実習（クリニカル・クラークシップⅠ）、地域医療実習、医療倫理学及び医療統計学の単位を修得し、臨床医学科目の未修得科目の試験に合格した者とし、次年度以降も同様の進級要件とする。
- 3 この規程の施行の際、現に第6学年に在籍している者についての第15条に規定する進級要件のうち、臨床実習（クリニカル・クラークシップⅡ）は臨床実習（クリニカル・クラークシップ）とする。

附 則

- 1 この規程は、平成31年4月1日から施行する。
- 2 この規程の施行の際、現に第5学年及び第6学年に在籍している者についての第15条に規定する進級要件は、当該年度に限り従前の例による。

附 則

- 1 この規程は、令和4年4月1日から施行する。
- 2 この規程の施行前に第4学年、第5学年及び第6学年に在籍し、施行の際においても同じ学年に在籍している者についての第15条に規定する進級要件は、なお従前の例による。

附 則

この規定は、令和5年4月1日から施行する。

附 則

この規定は、令和6年4月1日から施行する。

別表 1

ユニット授業が行われない日	
1 限目	8 時50分から10時20分まで
2 限目	10時30分から12時まで
3 限目	12時50分から14時20分まで
4 限目	14時30分から16時まで
5 限目	16時10分から17時40分まで

終日ユニット授業	
1 限目	8 時50分から 9 時50分まで
2 限目	10時から11時まで
3 限目	12時50分から13時50分まで
4 限目	14時から15時まで
5 限目	15時10分から16時10分まで

午前ユニット外授業・午後ユニット授業	
1 限目	8 時50分から10時20分まで
2 限目	10時30分から12時まで
3 限目	12時50分から13時50分まで
4 限目	14時から15時まで
5 限目	15時10分から16時10分まで

別表Ⅰ

医学基盤教育授業科目一覧表

区分	授業科目	授業期間	必修・ 選択の別	授業回数		単位数	必要単位数			
				週	計		区分別	全体		
人 文 科 学	生命倫理学	前期	必修	1	11	1.4	1.4単位	35.4単位 以上 (注8)		
	行動科学基礎	後期	必修	1	10	1.3	1.3単位			
	医学哲学	前期	必修	1	10	1.3	1.3単位			
	認知心理学(三大学共同化科目)	前期	選択	1	15	2	2.6単位 以上 (注4)			
	医療人類学(三大学共同化科目)	前期	選択	1	15	2				
	現代正義論(三大学共同化科目)	後期	選択	1	15	2				
	共同化科目一覧の別表Ⅲ(人間と文化)から選択　＜科目によって、授業期間、授業回数、単位数が異なるので注意＞									
社 会 科 学	医史学	前期	選択	1	10	1.3				
	医療経済学	前期	選択	1	10	1.3				
	経営学	前期	選択	1	10	1.3				
	医療と法	前期	選択	1	10	1.3				
	医療と社会(三大学共同化科目)	前期	選択	1	15	2				
	現代医療の人間観(三大学共同化科目)	後期	選択	1	15	2				
共同化科目一覧の別表Ⅳ(人間と社会)から選択　＜科目によって、授業期間、授業回数、単位数が異なるので注意＞										
自 然 科 学	数学	通年	必修	1	17	2.2	14.7単位 以上		35.4単位 以上 (注8)	
	物理学	通年	必修	1	16	2.1				
	生体分子化学	通年	必修	1	17	2.2				
	生物科学	通年	必修	1	17	2.2				
	実 習	物理学実習	前期	必修	2	5				1.8 (注2)
		化学実習	前期	必修		5				
		生物学実習	前期	必修		5				
	情報リテラシー	前期	必修	1	4	0.5				
	生命物理化学	前期	必修	1	9	1.2				
	現代生命科学	後期	必修	1	9	1.2				
	応用解析学	後期	選択必修	2	10	1.3	いずれか 1.3単位			
	近代物理学	後期		2	10	1.3				
	医学概論Ⅰ(三大学共同化科目)(注6)	後期(3Q)	選択	1	8	1				
	医学概論Ⅱ(三大学共同化科目)(注6)	後期(4Q)	選択	1	8	1				
共同化科目一覧の別表Ⅴ(人間と自然)から選択　＜科目によって、授業期間、授業回数、単位数が異なるので注意＞										
外 国 語	第1 外国語	英語1	通年	必修	1	20	2.6	5.2単位		
		英語2	通年	必修	1	20	2.6			
	第2 外国語	ドイツ語Ⅰ	前期	選択必修 (注1)	1	10	1.3	2.6単位 以上 (注5)		
		ドイツ語Ⅱ	後期		1	10	1.3			
		フランス語Ⅰ	前期		1	10	1.3			
		フランス語Ⅱ	後期		1	10	1.3			
		スペイン語Ⅰ	前期		1	10	1.3			
		スペイン語Ⅱ	後期		1	10	1.3			
		中国語Ⅰ	前期		1	10	1.3			
		中国語Ⅱ	後期		1	10	1.3			
		朝鮮韓国語Ⅰ	前期		1	10	1.3			
		朝鮮韓国語Ⅱ	後期		1	10	1.3			
		ラテン語(三大学共同化科目)	後期		1	15	2			
そ の 他	体育	通年	必修	1	20	1.3	1.3単位			
	総合講義(早期体験実習Ⅰ)	通年	必修	1	4	2.7 (注3)	2.7単位			
	総合講義(早期体験実習Ⅱ)	通年	必修	1	5					
	総合講義(統合授業)	通年	必修	1	4					
	総合講義(リレー講座)	通年	必修	1	17					
	総合講義(人権教育)	通年	必修	1	3	0.3(注3)	0.3単位			
小　　計							33.4単位 以上 (注7)			

(注1) I と II は同一言語を履修する。

(注2) 3科目とも単位認定されて1.8単位修得とする。ただし、単位認定は各実習毎に行う。したがって、出席数も各実習毎にカウントする。
再履修は、単位認定されなかった実習科目のみ行う。

(注3) 評価及び単位認定は4科目合計で行う。再履修は実習を除く。人権教育は別途評価及び単位認定するので留意すること。

(注4) 共同化科目一覧の別表Ⅲ(人間と文化)群及び別表Ⅳ(人間と社会)群の科目との合算で合計2.6単位以上でもよい。

(注5) ラテン語はⅠに相当し、他の言語Ⅰを修得できなかった場合のみ、その言語Ⅰと読み替える。

(注6) 三大学共同化科目のクォータ制科目として、後期3クォーター(3Q)、4クォーター(4Q)に開講する。

(注7、8) 第1学年修了には、区分別に定める必要単位数合計33.4単位に加え、別途共同化科目を2単位以上修得して全体で35.4単位以上修得しなければならない。

別表 3

医学基盤教育授業科目一覧表（第 2 学年～第 5 学年）

科目名	学年	授業期間	必修・ 選択の別	単位数
教養英語※1	2 年生	通年	必修	2.5
医学英語※2	3 年生	通年	必修	2.5
行動科学応用	4 年生	前期	必修	1
医療倫理学	5 年生	後期	必修	1.5
医療統計学	5 年生	通年	必修	2.5

※1 Advanced Presentation & Academic Writing

※2 Basic Medical English

別表 4

専門教育授業科目一覧表

区分	授 業 科 目	必修・ 選択の 別	回数	単位	備 考
基礎 医 学	解剖学◎	必修	140	9.3	計43.6単位 (実習を含む)
	生理学◎	必修	88	7.8	
	分子医科学◎	必修	90	8.1	
	感染病態学(微生物・医動物学)◎	必修	48	4	
	免疫学◎	必修	40	3.7	
	薬理学◎	必修	51	3.9	
	病理学◎	必修	86	6.8	
社会 医学	保健・予防医学◎	必修	69	5.2	計7.2単位 (実習を含む)
	法医学◎	必修	20	2	
臨 床 医 学	循環器ユニット◎	必修	29	1.9	計36.3単位
	呼吸器ユニット◎	必修	39	2.6	
	神経ユニット◎	必修	64	4.3	
	消化器ユニット◎	必修	41	2.7	
	内科学（ユニット科目除く）◎	必修	25	2.5	
	外科学（ユニット科目除く）◎	必修	21	2.1	
	整形外科◎	必修	16	1.6	
	産婦人科学◎	必修	22	2.2	
	小児科学◎	必修	18	1.8	
	眼科学◎	必修	10	1	
	皮膚科学◎	必修	10	1	
	泌尿器科学◎	必修	10	1	
	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学◎	必修	10	1	
	精神医学◎	必修	10	1	
	放射線医学◎	必修	11	1.1	
	麻酔科学◎	必修	13	1.3	
	感染症学・臨床検査医学◎	必修	11	1.1	
	救急医療学◎	必修	10	1	
	総合医療・地域医療学◎	必修	9	0.9	
	臨床実習前OSCE講座	必修	40	2.6	
	リハビリテーション医学◎	必修	8	0.8	
	生物統計学◎	必修	8	0.8	
	臨床実習◎	必修	1440	72	計73単位
	地域医療実習◎	必修	20	1	
	臨床演習◎	必修	35	3.5	計3.5単位
そ の 他	総合講義Ⅰ◎	必修	8	0.8	計17.4単位
	総合講義Ⅱ◎	必修	22	2.2	
	総合講義Ⅲ◎	必修	15	1.5	
	総合講義Ⅳ◎	必修	29	2.9	
	総合講義Ⅴ◎	必修	28	2.8	
	研究配属◎	必修	120	6	
	国際医学英語(International Medical English)◎	必修	12	1.2	
	歯科口腔科学◎	選択	6	0.6	
	臨床病理セミナー◎	選択	10	1	

(注1) このほか、特別講義及びセミナー等を随時開催することができる。

(注2) ◎印の科目は医師等が自らの実務経験を活かし授業（講義、演習、実習等）を行う実務家教員担当科目である。

医学科学生の皆さんへ

令和7年度からの「態度評価」実施についてのお知らせ

京都府立医科大学医学科では、令和7年度より全学年を対象とした「態度評価」を正式に実施することになりました。この評価制度は、皆さん一人ひとりが医学生としての自覚を持ち、医師としてふさわしい姿勢や行動を身につけることを目的としています。

（１）なぜ「態度評価」を行うのか？

医師は、専門的な知識や技術を持っているだけではなく、患者さんや医療チーム、社会全体に対して誠実で責任ある態度を持つことが求められます。大学での学びの中でも、普段の授業への取り組み方、実習中の態度、チーム活動での協調性、言葉遣いや身だしなみなど、日々の振る舞いはとても大切です。

そこで本学では、「知識や技術と同じように、態度もきちんと評価し、育てていくべきもの」と考え、全学共通の評価制度を導入することにしました。これは皆さんの将来にとって大きな意味を持つだけでなく、今の学修生活をより豊かにするための仕組みでもあります。

（２）どのように評価されるのか？

評価については、次頁掲載の「態度評価表」に沿って、各授業の担当教員が行ないます。評価項目は、学びに対する姿勢、時間やルールの守り方、他者への配慮、協力性、誠実な態度などを身につけることを目的として作成されています。評価結果は、できる限り皆さん自身にもフィードバックされるようにし、振り返りや今後の改善に役立てていきます。

（３）学生の皆さんにお願いしたいこと

この態度評価は、皆さんを一方的に評価するものではありません。むしろ、「自分自身の姿を振り返り、気づきを得るチャンス」として捉えてください。また、分からないことや不安なことがあれば、遠慮なく担任の先生やメンター、教育センター教員に相談してください。評価の基準等は、授業や実習の中で説明される場面もありますので、しっかりと内容を理解して、自分の成長につなげていきましょう。

この取り組みは、皆さんが将来、信頼される医師になるための第一歩です。皆さん一人ひとりが、日々の学びや実習の中で、自分の姿勢と向き合い、自信を持って次のステージへ進んでいけるよう、教職員一同も全力でサポートします。

令和7年4月
教育センター長
天谷 文昌

態度評価表

実習名（ ） 担当教室名（ ） 担当評価者名（ ）
 評価日（ ） 学生氏名・学年（ ）

評価項目		10 点	7.5 点	5 点	2.5 点	0 点
出席状況	適切な身だしなみ (服装規定)	満たしていた	ほぼ満たしていた	/	満たしていないことが 多かった	全く満たして いなかった
	遅刻	遅刻がなかった	事前連絡のある遅刻が 1 回あった	/	事前連絡のある遅刻が 2 回以上あった	連絡のない遅刻が あった
	欠席	欠席がなかった	事前連絡のある欠席が 1 回あった	/	事前連絡のある欠席が 2 回以上あった	連絡のない欠席が あった
提出物の期限*		100%守られていた	75%守られていた	50%守られていた	25%守られていた	全く守られて いなかった
参加の積極性		やる気が見られた	ほぼやる気が見られた	/	あまりやる気が見られなかった	全くやる気が見られなかった
コミュニケーション (あいさつ・適切な言葉遣い)		問題なく できていた	ほぼできていた	/	あまりできて いなかった	全く できていなかった

各評価項目について、当該学生の態度が適応するとみなされる評価スコアのコラムに○を直接記入してください。

* 提出物の提出期限について：全提出物あたり、提出期限内に提出したものの割合を％で算出（提出物が1 つであれば 10 点か 0 点となる）